

山添遺跡（第4次）発掘調査報告

2007. 3

三重県埋蔵文化財センター



調査区全景（西から）



SH101調査状況（東から）



土器実体顕微鏡写真①



土器実体顕微鏡写真②

序

山添遺跡は松阪市山添町から安楽町にかけての範囲に所在しています。西方に広がる丘陵上にはいくつかの小円墳が確認されており、過去の調査からこの丘陵上では、5世紀から7世紀にかけての古墳の築造が行われていたことがわかってきています。

今回報告いたします山添遺跡は、櫛田川の左岸に位置し、平成13年度県営ほ場整備事業に伴って調査を行ったものです。当遺跡での発掘調査は昭和53年度、平成8年度、平成12年度に続いて4度目になります。以前の調査では、主に中世の遺構や遺物が確認されています。今回の調査では中世の溝などの他に、縄文時代前期の竪穴住居の跡や大量の土器や石器が確認されました。縄文時代の人々の確かな生活の痕跡が確認されたことは、今回の調査での大きな成果であり、この地域の歴史を考えていく上で大切な資料になると考えます。

これらの貴重な資料をもとに、三重県の歴史を考えるだけでなく、三重県から見た日本列島の歴史とその意義を発信することで、豊かな地域社会の形成に少しでも寄与できればと思います。

調査にあたっては、地元の方々をはじめ、松阪市教育委員会、三重県農林水産商工部農業基盤整備課、松阪地方県民局農林商工部、櫛田上土地改良区などの関係諸機関から多大なご協力と暖かいご配慮を頂きました。末筆ですが、皆様の誠意あるご対応に、心からの御礼を申し上げます。

2007年3月

三重県埋蔵文化財センター

所長 吉水康夫

例 言

- 1 本書は、三重県松阪市安楽町字南出に所在する山添遺跡の第4次発掘調査にかかる報告書である。
- 2 本遺跡の調査は、平成13年度県営ほ場整備事業（櫛田上地区）に伴い、三重県教育委員会が三重県農林水産商工部から経費の執行委任を受けて実施した（組織の名称は旧称）。
- 3 現地の調査は次の体制により実施した。

調査主体 三重県教育委員会

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査第一課

主 事 小 瀨 学

主 事 宮 田 勝 功

技術補助員 小 林 俊 之

技術補助員 山 岡 奈 美 恵

研修員 山 崎 博 史 （所属は旧称のまま）

土工担当 財三農農林水産支援センター

面 積 560㎡

期 間 平成13年8月23日～同年10月26日

平成14年2月14日～同年3月8日

- 4 当報告書の作成業務は、三重県埋蔵文化財センターが行った。また、当報告書の編集は小瀨が行い、本文の執筆は小瀨・小林・山岡・野島美沙子が行った。執筆の分担は目次および文末に明記した。図版の作成は、小瀨・小林・山岡・伊藤文彦・野島が行い、遺構の写真撮影は小瀨・小林が、遺物の写真撮影は小瀨・酒井巳紀子・野島・小林が行った。なお、剥片石器の実測については、嶺山武考古学研究所に委託している。
- 5 調査に当たっては、地元の方々をはじめ、三重県農林水産商工部農業基盤整備課、松阪地方県民局農林商工部、櫛田上土地改良区、松阪市教育委員会からの協力を得た。
- 6 現地の調査および報告書の作成にあたっては、以下の方々から有益な御教示を受けた。

（五十音順・敬称略）

網谷克彦、伊藤正人、久保勝正、岩瀬彰利、大下明、大塚達朗、大野薫、川合剛、川添和暁、
櫛部正典、工藤俊樹、小島秀彰、小杉康、白石純、菅原章太、鈴木康二、瀬口眞司、田嶋正憲、
田中祐二、谷口康浩、田部剛士、林和範、深井明比古、福田哲也、堀本真美子、柳浦俊一、
矢野健一、山田康弘、山本直人、和田大作

- 7 本書の遺構図面は、日本測地系による国土調査法（旧国土座標）の第VI座標系を基準とする座標を用いた。方位についてはそれを基準とする座標北を用いた。
- 8 挿図と写真図版の遺物番号は、実測図の番号と対応している。なお、写真図版は縮尺不同である。
- 9 本報告書での遺構番号は通番となっている。また、番号の頭には、見た目の性格によって以下の略記号を付けた。

SD：溝 SK：土坑 SH：竪穴住居

SZ：落ち込み・その他 pit：ピット、柱穴

- 10 本書で報告した記録・遺物等は三重県埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

I 前 言	(野嵩美沙子・小林俊之)	1
II 位置と環境	(小林俊之)	5
III 遺 構		7
1 基本層序	(小林俊之)	7
2 中世以降の遺構	(小林俊之・山岡奈美恵)	7
3 古墳時代～古代の遺構	(小林俊之)	11
4 縄文時代前期の遺構	(小濱 学)	16
IV 遺 物		27
1 土製品	(小濱 学・小林俊之・山岡奈美恵)	27
2 石製品	(小濱 学)	76
V 自然科学分析	(小濱 学)	138
VI 結 語	(小濱 学・小林俊之)	141

挿 図 目 次

I 前言

第1図	遺跡地形図	2
第2図	調査区位置図	3

II 位置と環境

第3図	遺跡位置図	6
-----	-------	---

III 遺構

第4図	調査区北壁・東壁土層断面図	8
第5図	遺構平面図〔中世以降〕	9
第6図	SK2・31・45平面図・断面図	10
第7図	SK3平面図・断面見通し図	10
第8図	遺構平面図〔古墳時代～古代〕	12
第9図	SD46平面図・遺物出土状況平面図・立面図	13
第10図	SD47平面図・遺物出土状況平面図・立面図	14
第11図	SD46・47・48土層断面図	15
第12図	SD48平面図・遺物出土状況平面図・立面図	16
第13図	遺物の分布状況	18
第14図	遺構平面図〔縄文時代〕	19
第15図	SH101・SK105・107・122遺物出土状況平面図・断面見通し図	20
第16図	SH101・SK105・107・122平面図・断面図	21
第17図	SH102・113平面図・断面図	22
第18図	SK112・120・121平面図・断面図	23

IV 遺物

第19図	出土土製品実測図①	28
第20図	出土土製品実測図②	29
第21図	出土土製品実測図③	30
第22図	出土土製品実測図④	31
第23図	SH101出土土製品実測図①	33
第24図	SH101出土土製品実測図②	34
第25図	SH101出土土製品実測図③	35
第26図	SH101出土土製品実測図④	36
第27図	SH101出土土製品実測図⑤	37
第28図	SH101出土土製品実測図⑥	38
第29図	SH101出土土製品実測図⑦	39
第30図	SH101出土土製品実測図⑧	40
第31図	SH101出土土製品実測図⑨	41
第32図	SH102出土土製品実測図①	42
第33図	SH102出土土製品実測図②	43
第34図	SH113出土土製品実測図	44
第35図	SK103出土土製品実測図	45
第36図	SK105出土土製品実測図	45
第37図	SK106・107・108・112・114・115・119・121・122出土土製品実測図	46
第38図	SK120出土土製品実測図	47
第39図	SK13・SD38・40・46・47出土土製品実測図	48
第40図	SD48・50・52出土土製品実測図	49
第41図	下層包含層出土土製品実測図①	50
第42図	下層包含層出土土製品実測図②	51
第43図	下層包含層出土土製品実測図③	53
第44図	下層包含層出土土製品実測図④	54
第45図	下層包含層出土土製品実測図⑤	55
第46図	下層包含層出土土製品実測図⑥	56

第47図	SH101出土土製品実測図①	57
第48図	SH101出土土製品実測図②	58
第49図	SH101出土土製品実測図③	59
第50図	SH101出土土製品実測図④	60
第51図	SH101出土土製品実測図⑤	61
第52図	SH101出土土製品実測図⑥	62
第53図	SH101出土土製品実測図⑦	63
第54図	SH101出土土製品実測図⑧	64
第55図	SH101出土土製品実測図⑨	65
第56図	SH102出土土製品実測図①	66
第57図	SH102出土土製品実測図②	67
第58図	SH113出土土製品実測図	68
第59図	SK103・105・108・110出土土製品実測図	69
第60図	SK112出土土製品実測図	70
第61図	SK115・119・122出土土製品実測図	71
第62図	SK120出土土製品実測図	73
第63図	SK121・SD111出土土製品実測図	74
第64図	SD38・40出土土製品実測図	75
第65図	SD46出土土製品実測図①	76
第66図	SD46出土土製品実測図②	77
第67図	SD47・48出土土製品実測図	78
第68図	柱穴・上層包含層出土土製品実測図	79
第69図	柱穴・下層包含層出土土製品実測図	80
第70図	下層包含層出土土製品実測図①	81
第71図	下層包含層出土土製品実測図②	82
第72図	下層包含層出土土製品実測図③	83
第73図	下層包含層出土土製品実測図④	84
第74図	下層包含層出土土製品実測図⑤	85
第75図	下層包含層出土土製品実測図⑥	86
第76図	下層包含層出土土製品実測図⑦	88
第77図	下層包含層出土土製品実測図⑧	89
第78図	下層包含層出土土製品実測図⑨	90
第79図	下層包含層出土土製品実測図⑩	91
第80図	下層包含層出土土製品実測図⑪	92

V 自然科学分析

第81図	彦崎貝塚出土土器の在産と搬入品の比較 (K-Ca)	139
第82図	彦崎貝塚出土土器の在産と搬入品の比較 (Ti-Fe)	139
第83図	彦崎貝塚出土土器の在産と搬入品の比較 (Si-Al)	140

VI 結語

第84図	山添遺跡と野中垣内廃寺の出土土	142
第85図	器種分類 (案)	142
第86図	縄文時代前期土器型式の併行関係模式図	142
第87図	三重県における縄文集落遺跡数の変遷	144
第88図	縄文時代土器の併行関係	144
第89図	縄文前期土器群の傾向	144
第90図	器種別出土数量	146
第91図	剥片石器の器種別使用石材	147
第92図	礫石器の器種別使用石材①	148
第93図	礫石器の器種別使用石材②	150
第94図	遺構別出土石器	152
第95図	SH101出土石器	153

写真図版目次

巻頭写真1	調査区全景、SH101	
巻頭写真2	土器実体顕微鏡写真①②	
写真図版1	調査前風景、中世調査区全景	155
写真図版2	SK3遺物出土状況、SK3完掘状況	156
写真図版3	SK2・31・45、古墳時代～ 古代調査区全景	157
写真図版4	SD46土器1 出土状況、SD46 土器2 出土状況	158
写真図版5	SD47土器1 出土状況、SD47 土器2 出土状況	159
写真図版6	SD47土器3 出土状況、SD47 土器4 出土状況	160
写真図版7	SD47土器5 出土状況、SD48 土器出土状況	161
写真図版8	下層調査区全景、SH101完掘状況	162
写真図版9	SH101完掘状況、SH101出土状況	163
写真図版10	作業風景	164
写真図版11	SH102完掘状況、SK113完掘状況	165
写真図版12	SK113・120・121完掘状況、 SK112完掘状況	166
写真図版13	SK112石斧出土状況、SK120 完掘状況	167
写真図版14	SK120完掘状況、SK115完掘状況	168
写真図版15	SK121完掘状況、SK109・110 ・116完掘状況	169

写真図版16	e3地区遺物出土状況、石斧 出土状況	170
写真図版17	出土遺物写真①	171
写真図版18	出土遺物写真②	172
写真図版19	出土遺物写真③	173
写真図版20	出土遺物写真④	174
写真図版21	出土遺物写真⑤	175
写真図版22	出土遺物写真⑥	176
写真図版23	出土遺物写真⑦	177
写真図版24	出土遺物写真⑧	178
写真図版25	出土遺物写真⑨	179
写真図版26	出土遺物写真⑩	180
写真図版27	出土遺物写真⑪	181
写真図版28	出土遺物写真⑫	182
写真図版29	出土遺物写真⑬	183
写真図版30	出土遺物写真⑭	184
写真図版31	出土遺物写真⑮	185
写真図版32	出土遺物写真⑯	186
写真図版33	出土遺物写真⑰	187
写真図版34	出土遺物写真⑱	188
写真図版35	出土遺物写真⑲	189
写真図版36	出土遺物写真⑳	190
写真図版37	出土遺物写真㉑	191
写真図版38	胎土分析試料	192

表 目 次

III 遺 構		
第1表	遺構一覽表①	25
第2表	遺構一覽表②	26
IV 遺 物		
第3表	出土土製品観察表①	94
第4表	出土土製品観察表②	95
第5表	出土土製品観察表③	96
第6表	出土土製品観察表④	97
第7表	出土土製品観察表⑤	98
第8表	出土土製品観察表⑥	99
第9表	出土土製品観察表⑦	100
第10表	出土土製品観察表⑧	101
第11表	出土土製品観察表⑨	102
第12表	出土土製品観察表⑩	103
第13表	出土土製品観察表⑪	104
第14表	出土土製品観察表⑫	105
第15表	出土土製品観察表⑬	106
第16表	出土土製品観察表⑭	107
第17表	出土土製品観察表⑮	108
第18表	出土土製品観察表⑯	109
第19表	出土土製品観察表⑰	110
第20表	出土土製品観察表⑱	111
第21表	出土土製品観察表⑲	112
第22表	出土土製品観察表㉑	113
第23表	出土土製品観察表㉒	114

第24表	出土土製品観察表㉓	115
第25表	出土土製品観察表㉔	116
第26表	出土土製品観察表㉕	117
第27表	出土土製品観察表㉖	118
第28表	出土土製品観察表㉗	119
第29表	出土土製品観察表㉘	120
第30表	出土土製品観察表㉙	121
第31表	出土土製品観察表㉚	122
第32表	出土土製品観察表㉛	123
第33表	出土土製品観察表㉜	124
第34表	出土土製品観察表㉝	125
第35表	出土土製品観察表㉞	126
第36表	出土土製品観察表㉟	127
第37表	出土土製品観察表㊱	128
第38表	出土土製品観察表㊲	129
第39表	出土土製品観察表㊳	130
第40表	出土土製品観察表㊴	131
第41表	出土土製品観察表㊵	132
第42表	出土土製品観察表㊶	133
第43表	出土土製品観察表㊷	134
第44表	出土土製品観察表㊸	135
第45表	出土土製品観察表㊹	136
第46表	出土土製品観察表㊺	137
V 自然科学分析		
第47表	胎土分析結果一覽	138

I 前 言

1 調査に至る契機

今回の発掘調査は、平成13年度県営ほ場整備事業（藤田上地区）に伴い実施した。山添遺跡は、松阪市遺跡番号a352の周知の遺跡である。当遺跡では、昭和53年度に県道豊原御麻生園線改良工事に伴い、発掘調査が行われた。また、平成8年度にはふるさと農道整備事業（上川地区）に伴い、発掘調査が行われている。

調査に先立ち平成11年度に範囲確認調査を実施した。その結果、事業予定地の51,850㎡については遺構の存在が確認された。これを受けて、関係部局と調整を重ねた結果、工法を変更することにより遺跡の保存に努め、農業用水路部分1,700㎡については平成12年度に本調査が実施された（第3次調査）。これに引き続き、平成13年度は削平を受ける560㎡について本調査を実施することになった。今回の調査で当遺跡の第4次調査となる。

なお、今回の事業対象地には、当遺跡とともに琵琶垣内遺跡も含まれている。琵琶垣内遺跡については『琵琶垣内遺跡（第3次）発掘調査報告』を参照されたいⁱⁱ⁾。

2 調査経過

(1) 調査経過概要

調査はまず山添遺跡から開始したが、縄文時代の良好な遺跡が含まれることが判明したことと、琵琶垣内遺跡部分で早急な工事着工の必要が生じたため、山添遺跡の中世・古墳時代～古代の遺構を調査した後、琵琶垣内遺跡の調査へ移行した。琵琶垣内遺跡の調査終了後、再び山添遺跡の調査を行った。したがって、当遺跡の調査期間は平成13年8月23日から平成13年10月26日、平成14年2月14日から平成14年3月8日となった。

調査区の現況は畑地で、耕作土と床土等の遺構面までを重機（バックホー）で除去した。遺構の検出と掘削は人力で行った。その際の現地作業では、地

元の以下の方々大変お世話になりました。ここに御芳名を記して感謝の意を表します。

井坂しげ子、井坂もと子、太田千枝、太田はまえ、久保功、関岡たき、関岡昌子、中谷君子、中西紀美子、中西敏夫、中西博久、橋本道孝、藤田雅司、脇田昭子、脇田実、脇田よし子（五十音順・敬称略）

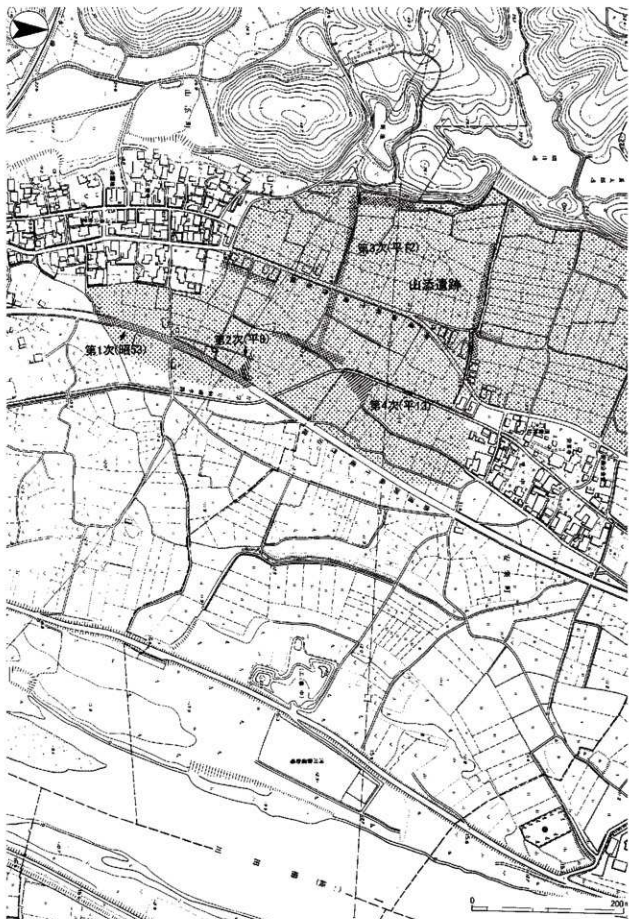
(2) 調査日誌（抄）

2001年

- 8月2日 調査前状況写真撮影。
- 8月17日 昨年度ほ場整備時の耕作土盛部分の除去。
- 8月23日 重機による表土除去作業終了。
- 8月27日 作業員投入。
- 8月28日 遺構検出開始。
- 8月30日 縄文土器多数出土。
- 9月4日 SK3より土師器鍋など出土。
- 9月14日 SK3遺物出土状況図作成。
- 9月26日 中世以降の調査区全景写真撮影。
- 9月27日 遺構実測図作成開始。
- 10月3日 古墳時代～古代の遺構掘削開始。
- 10月25日 遺構完掘。
- 10月26日 山添遺跡の調査を中断。琵琶垣内遺跡へ移行。

2002年

- 2月14日 山添遺跡の調査を再開。古墳時代～古代の遺構を写真撮影のため、清掃開始。
- 2月15日 写真撮影。
- 2月18日 古墳時代～古代の遺構平面図作成。
- 2月20日 縄文時代の遺構の調査を開始。
- 2月21日 石器・縄文土器が多数出土。
- 2月22日 遺物出土状況を平板実測。
- 2月26日 縄文時代前期の竪穴住居跡（SH101など）を検出。
- 2月27日 SH101など遺構掘削開始。
- 3月8日 SH101において土器・石器が大量に出土。遺構埋土のふりいかけを始める。遺構実測平面図作成。



第1図 遺跡地形図 (1 : 50,000) (松阪市都市計画図 (1 : 2,500) より)



第2図 調査区位置図 (1 : 2,000) (■は範囲確認調査坑)

SH101・SK121完掘。

全景写真撮影。

撮収。

(3) 文化財保護法等にかかる諸通知

当遺跡発掘調査にかかる関係法令の諸通知は、以下により行っている（条文等は当時のまま）。

- ・三重県文化財保護条例第48条第1項（県教育長あて）

平成13年8月6日付け教生第689号

- ・文化財保護法第58条の2第1項（文化庁長官あて）

平成13年8月20日付け教生第157号

- ・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（松阪警察署長あて）

平成14年4月16日付け教委第12-6-1号

3 調査の方法

(1) 地区割

調査区内における地区割は4m方眼で設定し、西から東へアルファベットを、北から南へ数字を与え、各北西角をグリッド名称とした。なお、この地区設定は任意のものであり、国土座標とは合致しない。

(2) 遺構カード・遺構略測図

三重県では遺構カードを作成している。これは前述の地区毎に作成するもので、遺構検出後、掘削するまでに記入し、遺構の重複関係、埋土の色調・状態などを明示している。遺構番号については、竪穴住居・土坑・溝などについては遺跡全体の通し番号とし、柱穴については、地区毎の通し番号を付けた。また、この遺構カードを基にして縮尺100分の1の略測図を作成した。

(3) 遺構カード・遺構略測図

遺構の写真撮影は、原則として6×7版（モノクロ、カラーポジ）を、補助的に35ミリカメラを使用した。使用したカメラはアサヒペンタックス6×7II、ニコンFM2である。使用したフィルムはフジNEOPANACROSI20・135、フジPROVIA120・135である。

遺物の写真は4×5版、6×9版（ともにモノクロ）を使用した。使用したカメラはTOYO-VIEW45GIIである。使用したフィルムはフジNEOPANACROSI100・120である。

(4) 遺構実測

遺構実測図・土層断面図については縮尺20分の1手書き実測を行った。遺構実測図の基準点は国土座標に基づいている。なお、国土座標は日本測地系による国土調査法（旧国土座標）であり、世界測地系（ITRF、GRS-80）には対応していない。

また、各遺構の詳細な遺構実測図が必要なものについては縮尺10分の1手書き実測を行った。このほか、縄文土器や石器の分布など必要に応じて縮尺100分の1平板実測も行った。

（野島美沙子・小林俊之）

〔註〕

- ① 河北秀実『琵琶垣内遺跡（第3次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2007年）。

II 位置と環境

1 位置と地理的環境

山添遺跡(1)は三重県松阪市山添町・安楽町に広がる遺跡で、三重県のほぼ中央を流れる榑田川の中流域左岸の段丘上に立地している。中流域ではあるが下流域にほど近い場所で、ここが榑田川下流の平野の起点となる地域である。今回の調査区は安楽町字南出である。

2 山添遺跡のこれまでの成果

山添遺跡では、発掘調査は、昭和53(1978)・平成8(1995)・平成12(2000)・平成13(2001)年度の4次にわたって行われている。

第1次では、中世後期の区画溝や掘立柱建物、石組遺構などを確認した¹⁾。第2次調査では、中世前期の溝等を確認した²⁾。第3次調査では、縄文時代後期の竪穴住居や古墳時代の溝、中世後期の土坑などを確認した³⁾。

過去の調査成果によると、山添遺跡は様々な時代にわたる遺跡であるが、これまでは中世の遺構が多かった。縄文時代の遺構・遺物を確認したのは、第3・4次調査においてであり、大量に縄文土器が出土したのは第4次が初めてである。

3 周辺の歴史的環境

山添遺跡の近辺では、近年発掘調査が盛んである。したがって、この近辺の遺跡の状況はそれらの遺跡の報告書で触れられているので、詳しくはそれを参照されたい⁴⁾。ここでは、山添遺跡を理解するための最小限のみ見ることとしよう。

(1) 縄文時代

山添遺跡は、榑田川流域における縄文遺跡としては最下流にあたる。約2km上流には、縄文時代早期の竪穴住居跡・竪穴を検出した松阪市鴻ノ木遺跡(4)⁵⁾、早期・後期の土器が出土した射原垣内遺跡

(6)⁶⁾、右岸には縄文時代早期の竪穴を多数検出した多気町坂倉遺跡(27)⁷⁾、縄文時代後期の小集落を確認した新徳寺遺跡(28)⁸⁾がある。更に上流には、縄文時代後期の最古級と考えられる朱彩土器や掘立柱建物・陥し穴が検出された松阪市王子広遺跡⁹⁾、土器棺や浮線文系の土器が多く検出された縄文時代晩期が中心の松阪市大原堀遺跡¹⁰⁾がある。

(2) 古墳時代

山添遺跡の周辺は、古墳時代の遺跡が意外に多い。代表的なものは、蛇行剣が出土した天王山古墳群(5世紀後半～6世紀前葉)(10)¹¹⁾や馬具・振り環頭大刀らしきものが出土している山添2号墳(6世紀後半)(16)¹²⁾がある。

また、集落では琵琶垣内遺跡(29)¹³⁾、天王山遺跡(10)¹⁴⁾がある。古墳通りB遺跡(30)¹⁵⁾では、前期の大型掘立柱建物や井戸が見つまっている。

(3) 古代

山添遺跡の近隣で、この時期最も有名な遺跡が斎宮跡(17)¹⁶⁾である。このほか土師器焼成坑がある北野遺跡¹⁷⁾なども著名な遺跡である。いずれも榑田川の対岸である。

さらに近くでは、大雷寺廃寺(18)や貴田寺廃寺(19)¹⁸⁾といった古代寺院がある。いずれも奈良時代のもので、瓦は大量に出土しているものの、寺院等ははっきりしたことはわかっていない。

また、琵琶垣内遺跡では奈良時代の掘立柱建物等が見つまっている。大川上遺跡(24)¹⁹⁾では、「神宮寺」の墨書土器が見つかっており、平安時代中期頃の神宮寺の存在を示唆している。

(4) 中世前期

この時期の遺跡・遺構は多いが、良好なものには恵まれていない。良好な集落跡としては、斎宮跡の鎌倉期の遺構群²⁰⁾が挙げられよう。(小林俊之)

〔註〕

- ① 新田洋『山添遺跡発掘調査報告』（三重県教育委員会、1979年）。
- ② 坂倉一光『山添遺跡（第2次）』『山添遺跡（第2次）・里中遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター、1997年）。
- ③ 柴山圭子・小濱学『山添遺跡（第3次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2002年）。
- ④ 柴山圭子・小濱学『山添遺跡（第3次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2002年）。中川明・新名強・浅生卓司『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2006年）。伊藤裕偉・奥義次・新名強『琵琶垣内遺跡（第1・4次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2006年）。など。
- ⑤ 田村陽一・山田猛ら『鴻ノ木遺跡（下層編）』（三重県埋蔵文化財センター、1998年）。
- ⑥ 下村登良男『射原垣内遺跡発掘調査概報』（松阪市教育委員会、1980年）。
- ⑦ 小濱学「三重県における縄文時代早期埋没跡の諸相—多気町坂倉遺跡発掘例を中心に—」（『斎宮歴史博物館研究紀要』12、斎宮歴史博物館、2003年）。
- ⑧ 小濱学ら『新徳寺遺跡』（三重県埋蔵文化財センター、1997年）。
- ⑨ 『松阪市史 第二巻 資料編 考古』（松阪市、1978年）。
- ⑩ 『近畿自動車道（久居～勢和）埋蔵文化財発掘調査報告—第1分冊 1』（三重県教育委員会、1989年）。『平成14年度三重県埋蔵文化財年報』（三重県埋蔵文化財センター、2003年）。
- ⑪ 中川明・新名強・浅生卓司『天王山遺跡・天王山古墳群発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2006年）。
- ⑫ 『山添2号墳発掘調査報告書』（松阪市教育委員会、1998年）。
- ⑬ 伊藤裕偉・奥義次・新名強『琵琶垣内遺跡（第1・4次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2006年）。河北秀実『琵琶垣内遺跡（第3次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2007年）。
- ⑭ 前掲①文献。
- ⑮ 奥野実・田上悠ほか『古槽通りB遺跡・古槽通り古墳群発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、2000年）。
- ⑯ 『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ 内院地区の調査』（斎宮歴史博物館、2001年）。
- ⑰ 上村安生・竹田憲治ほか『北野遺跡（第2・3・4次）発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、1995年）。
- ⑱ 前掲①文献。
- ⑲ 柴山圭子『大川上遺跡発掘調査報告』（三重県埋蔵文化財センター、1999年）。
- ⑳ 『斎宮の衰退と中世的展開』（『明和町史 斎宮編』明和町、2005年）。



第3図 遺跡位置図（1：50,000）〔国土地理院『松阪』（1：25,000）より〕

III 遺 構

今回の調査では、大きく3時期の遺構を確認した。ここでは基本的な層序について触れたあと、時期ごとに上の層から順に触れていきたい。

1 基本層序

調査前現況は耕作地で、表土には耕作土がある。この耕作土を除去すると、ふい黄色土（第4図中13）や褐色土（第4図中17）が見られる。これも除去すると、黄色系のシルト（第4図中31・46等）と黒色系の土が見られる。この時点で遺構を検出することができたため、まずこの面で遺構検出を行った（中世以降の遺構）。しかし、黄色系のシルトには古墳時代～古代の遺物が、黒色系の土には縄文時代の遺物が含まれており、黄色系のシルトを溝という認識で掘削した（古墳時代～古代の遺構）。黒色系の土が残った時点で再検出を行い、竅穴住居等を確認した（縄文時代の遺構）。しかし、これらの遺構は黒色系の土をベースに黒色土の遺構埋土となり、非常に判別しにくい。なお、この黒色土いわゆる黒ボクについては、自然科学的分野での分析を行っている。その結果については、同事業で発掘調査をした『琵琶垣内遺跡（第3次）発掘調査報告』を参照されたい⁶。黒色系の土の下は赤褐色系の土となり、遺物を完全に含まなくなり、地山と判断した。

（小林俊之）

2 中世以降の遺構

(1) 中世前期の遺構

<土坑>

SK2 調査区北東部のf2～3区で検出された遺構である。東西2.4m南北3.5m、深さ15cmの非常に浅い土坑である。南側はやや幅広い平面形を呈する。SK31・45との間に切り合いが認められ、SK31・45の両方に先行する。

遺物には土師器皿等があり、12～13世紀代の遺構と考えられる。

SK3 調査区北東部のe2～f2区で検出された遺構である。東西2.7m南北1.7m、深さ20cmの土坑である。

土坑の西側には、土師器鍋が4点正位置で出土した。そのうち2点は、やや大形の鍋の中に入れ子状に小形の鍋があった。これらの鍋は、肩部～底部の部分しかなく、ある程度の削平を受けている。周辺には、削平を受けた際の口縁部等が散在している。なお、散在した遺物の中には土師器皿や山茶碗も見られた。また、南西部には焼土が見られた（第7図中のトーンの範囲）。この焼土は南側の鍋の周辺にあり、なんらかの関係があるだろう。

出土遺物には、前述のように土師器鍋のほか土師器皿や山茶碗があり、13世紀前半くらいの年代の遺構と考えられる⁷。遺構の性格としては、墓やカマド状のもの等が想定できるが、断定はできない。

SK12 調査区南部のc5区で検出した遺構である。東西40cm南北60cm、深さ15cmの非常に小規模な遺構である。

出土遺物には、土師器皿の小片が見られたのみで、時期を確定できないが、13世紀代の可能性がある。

SK19 調査区南部のc5～6区で検出された遺構である。東西90cm南北70cm、深さ10cmの小規模な方形の土坑である。

出土遺物には、土師器皿の小片が見られたのみで、時期を確定できないが、13世紀代の可能性がある。

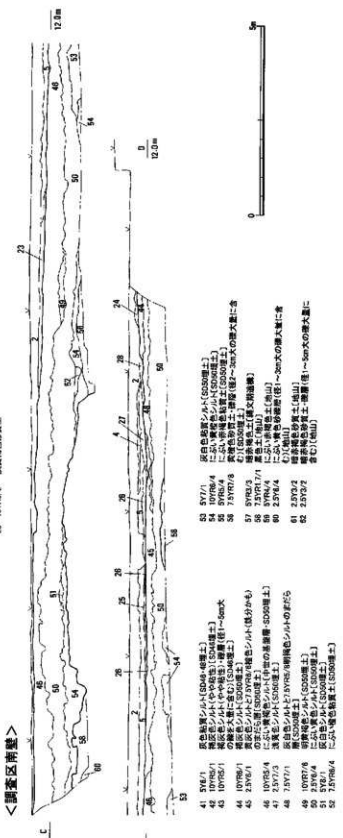
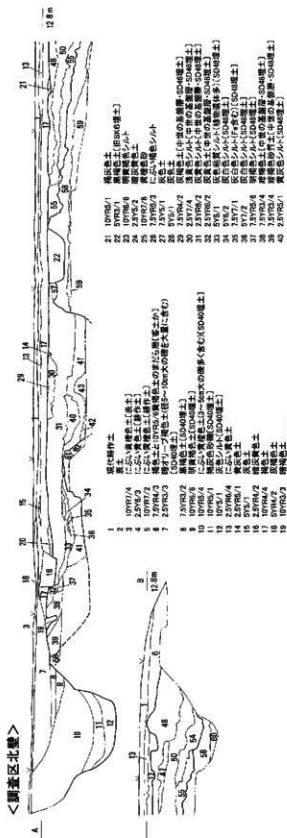
SK20 調査区南部のc6区で検出された遺構である。東西60cm南北70cm、深さ20cmの小規模な方形の土坑である。

出土遺物には、土師器皿の小片が見られたのみで、時期を確定できないが、13世紀代の可能性がある。

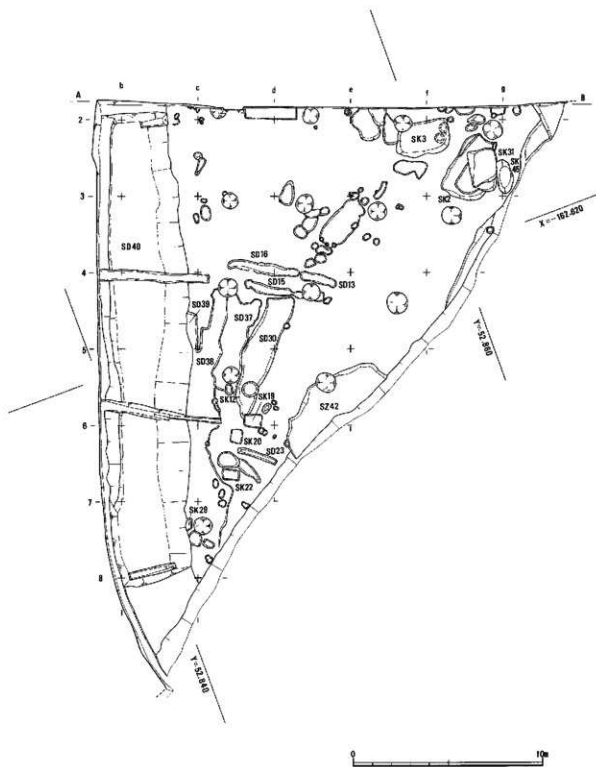
SK22 調査区南部のc6区で検出された遺構である。東西90cm南北60cm、深さ10cmの小規模な方形の土坑である。

出土遺物には、土師器皿の小片が見られたのみで、時期を確定できないが、13世紀代の可能性がある。

SK31 調査区北東部のf2区で検出された遺構である。東西1.4m南北1.8m、深さ60cmの土坑である。



第4図 調査区北壁・東壁土層断面図(1:100)



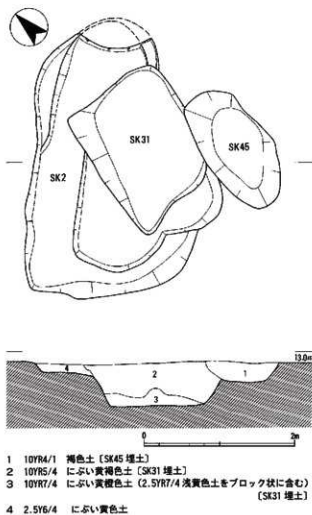
第5図 遺構平面図(1:200)〔中世以降〕

SK2・45との切り合いがあり、SK2に後行し、SK45に先行する。遺構の埋土は2層にわかれ、下の層には基盤となる層のブロックが混じる。遺物は主に上の層から出土している。

出土遺物は土師器皿が大半を占め、土師器鍋や山茶碗も見られる。これらの年代から13世紀代の遺構と考えられる。

SK45 調査区北東部のf2～g2区で検出された遺構である。東西0.8m南北1.7m、深さは25cmの楕円形の土坑である。SK31との切り合いがあり、SK31に後行する。

出土遺物は土師器皿の小片が多く、他に山茶碗片や山皿がある。これらの年代から13世紀代の遺構と考えられる。



第6図 SK2・31・45平面図・断面図 (1:50)

(2) 時期不明・その他の遺構

<土坑>

SK29 調査区南部のb7区で検出された遺構である。東西30cm以上南北60cm、深さ10cmの土坑である。

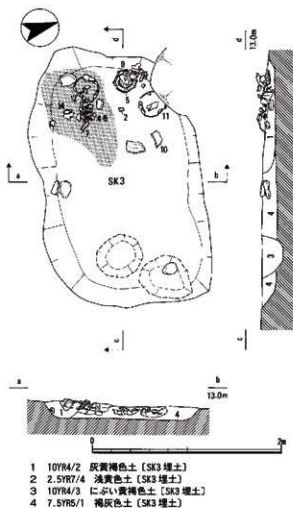
出土遺物は土師器の小片しかなく、遺構の時期も不明である。

<溝>

SD13 調査区中央部のd4区で検出した遺構である。幅50cmで深さ10cmの溝状のものである。おそらくSD16とは一連の遺構であろう。素掘溝である可能性が高い。

出土遺物には土師器小片等があるが、時期を確定できない。

SD15 調査区中央部のc4～d4区で検出した遺構である。幅50cmで深さ10cmの溝状のものである。



第7図 SK3平面図・断面見通し図 (1:40)

SD13と同様に素掘溝である可能性が高い。

出土遺物には土師器小片等があるが、SD13と同様に時期を確定できない。

SD16 調査区中央部のc3～4、d3～4区で検出した遺構である。幅50cmで深さ10cmの溝状のものである。おそらくSD13とは一連の遺構であろう。素掘溝である可能性が高い。

出土遺物には土師器小片等があるが、時期を確定できない。

SD23 調査区南部のc6区で検出した遺構である。幅30cmで深さ15cmの溝状のものである。SD13等と同様に素掘溝である可能性が高い。

出土遺物には土師器小片等があるが、SD13と同様に時期を確定できない。

SD30 調査区中央部のc4～5、d4区で検出された遺構である。最大幅は1.6mで、深さは10cmほどで非常に浅い。溝状と捉えたが、どちらかいうと落ち込みであるのかもしれない。

出土遺物は土師器の小片で、時期を確定できない。後述するSD37・38等と一連であった可能性もある。

SD37 調査区中央部のc4～5区で検出された遺構である。最大幅は1.5m以上で、深さは5cmである。SD30と同様に、溝状と捉えたが、どちらかいうと落ち込みであるのかもしれない。SD30・38との切り合いを確認したが、非常に不明瞭なもので、一連の遺構であった可能性もある。

出土遺物は土師器の小片で、SD30と同様、時期を確定できない。

SD38 調査区中央部のc4～7区で検出された遺構である。最大幅は2.0m以上で、深さは10cmほどである。SD30・37と同様に、溝状と捉えたが、どちらかいうと落ち込みであるのかもしれない。SD37との切り合いを確認したが、前述のとおり非常に不明瞭なもので、一連の遺構であった可能性もある。

出土遺物には、土師器片、山茶碗片があったが、SD30・37と同様、時期を確定するには不十分である。

SD40 調査区西部のa1～8、b1～9区で検出された遺構である。幅は4.7m以上で、深さは2.0mで非常に大きな遺構である。埋土の下の方は、砂礫層やシルトを確認できる。

出土遺物には、古代や中世前期を中心とするものがあるが、層位から埋没年代は非常に新しい時期のものだと判断できる。

<落ち込み・その他>

SZ42 調査区南部のd5～6、e5区で検出された遺構である。東西6.2m南北2.0m以上のもので、調査区東方へ落ち込んでいくものである。

出土遺物はわずかしかなく、時期を確定することができない。(小林俊之・山岡奈美恵)

3 古墳時代～古代の遺構

<溝>

SD46 調査区北部～中央東部のd1～3、e2～4区で検出された遺構である。最大幅は3.2mで、深さは1.1mである。底では、北西から南東への傾斜が認められる。

埋土は主に黄色系のシルトである。一部に砂礫層が見られる。このシルト層は何層かに分けられるものの、大きな差があるとは捉え難く、埋没は非常に短期間であったものと考えている。遺構の断面形状もややいびつなもので、小さな谷状にあったものが埋没したものであろうか。なお、SD48や50との間に切り合いは認められなかったが、便宜上、呼称をわけた。

出土遺物には土師器壺や甕等があった。なお、遺物の大半はシルト層から出土している。出土状況を表したものは残りの良かったものであるが、いずれも底に接地しているわけではなく、流れ込んできている様子が窺える。しかし、摩滅はそれほど激しくない。比較的近辺から流れ込んできているものと思われる。

時期については、古墳時代の壺等が中心に出土しているものの、最新のものは7世紀代の甕片であるため、7世紀代に埋没したものと考えておく。

SD47 調査区南部のc5～6、d5～6区で検出された遺構である。最大幅は8.5mで、深さは1.1mである。底では、西から東への傾斜が認められる。

埋土はSD46と同様、主に黄色系のシルトである。ただし、底には砂質土層が見られる。また基盤層である黒色土からの流れ込みの層も確認できた。この



第 8 図 遺構平面図 (1 : 200) [古墳時代~古代]

様子からは、SD46と同様に、短期間で埋没が想定できる。なお、SD50との間には切り合いを認めることができなかった。

出土遺物には土師器の壺・甕類が見られたが、SD46と同様、底に接地していない。

時期については、古墳時代の遺物があるが、前述の切り合いの点から、SD46との間の時期差はないものと考えたい。

SD48 調査区北部のb2～3、c1～3区で検出された遺構である。最大幅は5.0mで、深さは1.2mである。底では、北東から南西への傾斜が認められる。

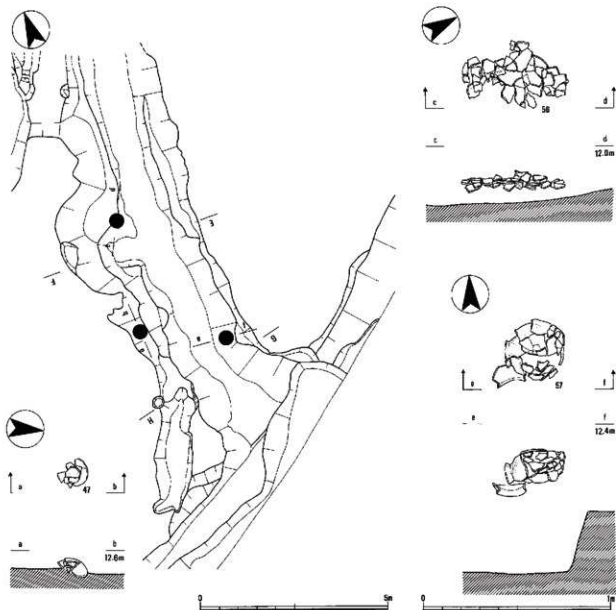
埋土は主に黄色系のシルトで、SD46・47と同様

である。底の方では、粘質シルト層や砂礫層が見られた。なお、前述のとおり、SD46との間の切り合いは認められなかった。

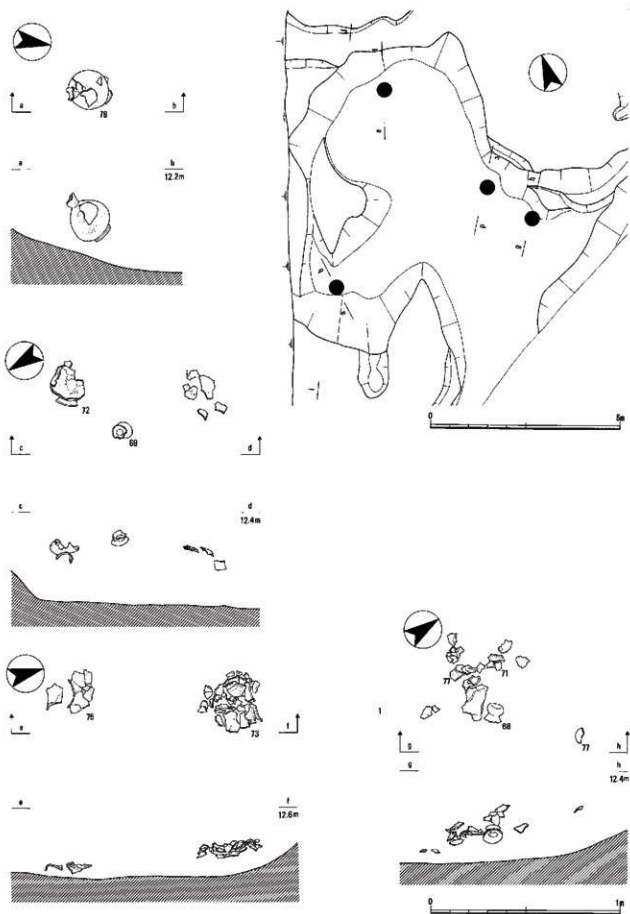
出土遺物には土師器壺や甕があった。壺は底に接地していたが、甕片は接地していなかった。いずれも粘質シルト層からの出土である。

時期については、切り合いの点から、SD46や47と同じと考えておきたい。

SD50 調査区東部のb8、c6～7、d5～6、f1～4、e1～2区で検出された遺構である。最大幅は3.7m以上で、深さは0.8mである。調査区端であったため、底まで掘り切ることができず、傾斜につい

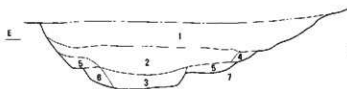


第9図 SD46平面図（左上1：100）、遺物出土状況平面図・立面図（1：20）



第10図 SD47平面図（右上1：100）、遺物出土状況平面図・立面図（1：20）

<SD46>

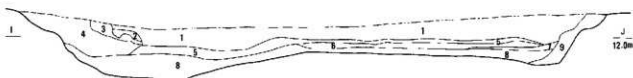


- 1 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト【SD46埋土】
- 2 10YR7/8 明黄褐色粘質シルトに2.5Y7/1灰白色粘質シルト混じる【SD46埋土】
- 3 10YR7/1 灰白色粘質シルト【SD46埋土】
- 4 10YR3/4 にぶい黄褐色砂質土【SD46埋土】
- 5 7.5YR7/2 明褐色砂礫層(4~5cm次の層層に混じる)【SD46埋土】
- 6 7.5YR8/2 灰褐色砂質シルト【SD46埋土】
- 7 10YR8/6 黄褐色細砂(地山)



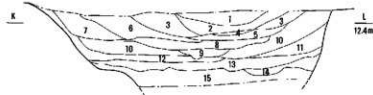
- 1 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト【SD46埋土】
- 2 10YR7/6 明黄褐色粘質シルトに2.5Y7/1灰白色粘質シルト混じる【SD46埋土】
- 3 10YR4/4 褐色土【SD52埋土】
- 4 10YR2/2 黒褐色土【SD52埋土】

<SD47>



- 1 2.5Y6/3 にぶい黄色土に5Y5/1灰色土混じる【SD47埋土】
- 2 2.5Y5/4 黄褐色土【SD47埋土】
- 3 7.5Y3/2 黒褐色土【SD47埋土】
- 4 2.5Y3/1 黒褐色土【SD47埋土】
- 5 5Y5/2 灰オリーブ色粘質土【SD47埋土】
- 6 5Y4/1 灰色砂質土【SD47埋土】
- 7 7.5Y4/1 灰色砂質土に2.5Y3/2黒褐色砂質土ブロック入る【SD47埋土】
- 8 10YR4/2 灰黄褐色砂質土【SD47埋土】
- 9 2.5Y4/3 オリーブ褐色土に10YR3/1黒褐色土ブロック入る【SD47埋土】

<SD48>



- 1 10YR8/6 黄褐色シルト【SD48埋土】
- 2 10YR8/3 淡黄褐色シルト【SD48埋土】
- 3 7.5YR7/3 にぶい褐色シルト【SD48埋土】
- 4 7.5YR7/1 明褐色粘質シルト【SD48埋土】
- 5 7.5YR8/2 灰白色シルト【SD48埋土】
- 6 10YR7/4 にぶい黄褐色シルト【SD48埋土】
- 7 10YR8/4 にぶい黄褐色粘質シルト【SD48埋土】
- 8 2.5Y7/1 灰白色粘質シルト【SD48埋土】
- 9 7.5YR8/3 にぶい褐色砂質土(土層片含む)【SD48埋土】
- 10 10YR7/8 明黄褐色シルト【SD48埋土】
- 11 10YR5/6 黄褐色シルトに7.5YR3/1黒褐色砂質土が混じる【SD48埋土】
- 12 10YR5/4 にぶい黄褐色シルトに7.5YR7/1黒褐色砂質土が混じる【SD48埋土】
- 13 7.5YR8/6 明褐色粘質シルトに黒褐色砂【SD48埋土】
- 14 7.5YR5/3 にぶい褐色砂質シルトに10YR7/1灰白色粘質シルト混じる【SD48埋土】
- 15 7.5YR5/2 灰褐色砂礫層【SD48埋土】



- 1 2.5Y6/2 灰黄色シルト【SD48埋土】
- 2 2.5Y8/2 灰黄色シルトに7.5YR3/1黒褐色土混じる【SD48埋土】
- 3 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト【SD48埋土】
- 4 2.5Y7/2 灰黄色粘質シルト【SD48埋土】
- 5 7.5YR7/1 明褐色粘質シルト【SD48埋土】
- 6 2.5Y7/1 灰白色粘質シルト【SD48埋土】
- 7 7.5YR3/2 灰褐色粘質シルト【SD48埋土】



第11図 SD46・47・48土層断面図 (1:50)

ては不明である。

埋土は主に黄色系のシルトであり、SD46・47・48と同様の遺構と把握できる。なお、SD46・47との切り合いは不明であった。おそらく、SD46・47とは連結しているのだろう。

出土遺物は古墳時代のものを中心としているが、切り合いの点から、SD46と同時期として捉えておきたい。

SD52 調査区中央東部のe4～5区で検出された遺構である。最大幅は1.0mで、深さは40cmである。SD46との間に切り合いが認められ、SD46に先行する。

出土遺物はほとんどなく、土師器小片があるのみである。時期については、SD46以前とすることができ。 (小林俊之)

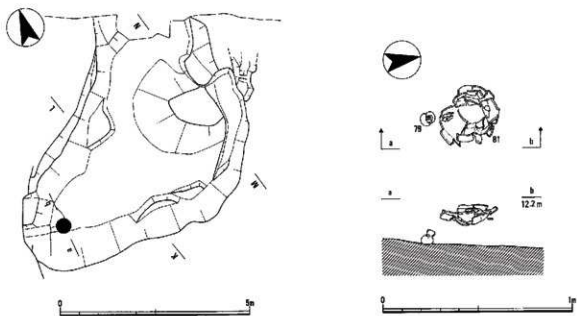
4 縄文時代前期の遺構

縄文時代前期より遺構の調査については、先述のとおりである。その調査中から縄文時代前期の遺物が数多く出土していることから、遺構の検出ができる可能性があると考えられた。表土直下約30cm下で、黒褐色土を確認できた。同系統色の土層であるが何層か存在したようである。これらは分層できるものと考えられる。現地調査時には、断面観察や遺

構検出を慎重に行ったものの、遺構検出面と遺構埋土が同系統色の土であったため、遺構検出には多くの困難が付きまとった。そのため、遺物の散布状況を第13図のように記録し、遺物の集中地点を重点的に精査した結果、堅穴住居、土坑を複数確認することができた。

縄文時代前期と想定した遺構検出面の調査を行うにあたり、2点のことを注意しながら進めた。1つは、微細な剥片石器、剥片や有機物の出土を想定し、遺構埋土の篩かけと水洗を全ての遺構で実施すること、2つめは、礫石器の存在を踏まえて須らく取り上げ水洗の後、遺物かそうでないかを判断することである。その結果、本報告掲載の微細な剥片石器のほり割は篩かけと水洗の成果であり、炭化物(材・種子)や骨片も検出することができた。礫石器についても同様に多量のものを確認することができた。これは、鴻ノ木遺跡(第5次調査)での調査の経験が大きく生きた結果である。このような調査の姿勢に対して、当時においては、現地を確認することもせず理解が示されない状況が現出した。埋蔵文化財の保護と記録保存に携わるものとして、残念としかいいようがなかったことを覚えている。

いわゆる遺物包含層については、縄文時代のものそれより以後のものが存在している。遺物の帰属



第12図 SD48平面図(左1:100)、遺物出土状況平面図・立面図(1:20)

は、縄文時代前期より以後のものつまり、縄文時代前期より以後の遺構検出面から上に確認したものと、縄文時代前期の遺構検出面から上に確認したものに厳密に分別し、報告することとした。

<竪穴住居>

SH101 平面形は隅丸方形を呈している。遺構埋土は、黒褐色粘質土・7.5YR 2/1の1層であった。この土層からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・打製石斧・石皿・磨石・敲石・石匙・石錐・楔形石器・石核・磨製石斧・块状耳飾・垂飾といった石器類、剥片類、炭化物（材・種子）や獣骨片が数多く出土している。出土の状況としては、床面等に何らかの意図をもって据えたという状況とは考え難い。竪穴住居跡の廃絶時に投棄されたものと考えられる。埋土の堆積状況からもそのような判断ができるのではないだろうか。住居跡の施設としての焼土や灰跡は確認することはできなかったが、遺構の平面プラン確認時に、遺構の内ではなく、遺構検出面上に複数の焼土の存在を確認した。屋外炉の存在を否定できない状況でもある。壁周溝についても確認することができなかった。また、主柱穴と考えられる柱穴群を4ヶ所確認した。それらの柱穴においては、各々で柱痕跡と考えられるものがあつた。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期³、諸磯b式期⁴と考えられる。県下では、当該期の竪穴住居跡の検出については主柱穴まで確認された例がなく、平面形が隅丸方形であることもあまり例もない。当該期における県下の例としては、いなべ市北野遺跡⁵、可能性のあるものとしては多気町アカリ遺跡⁶があげられよう。当該跡のような明確な例は、近隣では岐阜県御堂遺跡⁷である。

SH102 平面形は隅丸方形を呈していると考えられる。SD46・50に切られていて、遺構の全容を確認することはできなかった。遺構埋土は、上から黄褐色砂質土・10YR 8/6、黒色土・7.5YR 2/2に灰黄色土・2Y 6/2が混入する土層の2層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・台石・磨石・敲石・目切石錐・石匙・石錐・磨製石斧・块状耳飾といった石器類、剥片類、炭化物（材・種子）や獣骨片が数多く出土している。土器、石器、

剥片類、炭化物（材・種子）、獣骨片が数多く出土している。竪穴住居跡の廃絶時に投棄されたものと考えられる。埋土の堆積状況からもそのような判断ができよう。灰跡は確認することはできなかったが、遺構の平面プラン確認時に、遺構検出面上に複数の焼土集中地点を確認している。壁周溝についても確認することができなかった。また、主柱穴と考えられる柱穴群を2ヶ所確認することができた。それらの柱穴においては、各々で柱痕跡と考えられるものがあつた。

SH113 平面形については隅丸方形を呈している。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・打製石斧・石皿・磨石・目切石錐・楔形石器といった石器類、剥片類や獣骨片が数多く出土している。出土の状況としては、何らかの意図をもって据えたという状況ではなく、竪穴住居跡の廃絶時に投棄されたものであろう。灰跡は確認することはできなかった。遺構検出時に、遺構検出面上に複数の焼土集中地点を確認した。壁周溝についても確認することができなかった。また、主柱穴と考えられる柱穴群を4ヶ所確認した。先に述べた竪穴住居跡よりも小さい規模のものである。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期、諸磯b式期と考えられる。

<土坑>

SK103 SH102と重複し、SD47・50に切られているため、全容は窺えない。平面形は円形であろうか。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・磨石といった石器類、剥片類、炭化物（材・種子）や獣骨片が数多く出土している。出土の状況は、土坑の廃絶時に遺物が投棄されたものであろう。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期、諸磯b式期と考えられる。

SK104 SH101に隣接する円形の土坑である。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは縄文土器が少量出土した。遺物出土の状況は、何らかの意図をもって据えたというのではなく、土坑廃絶時に投棄されたものと思われる。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と

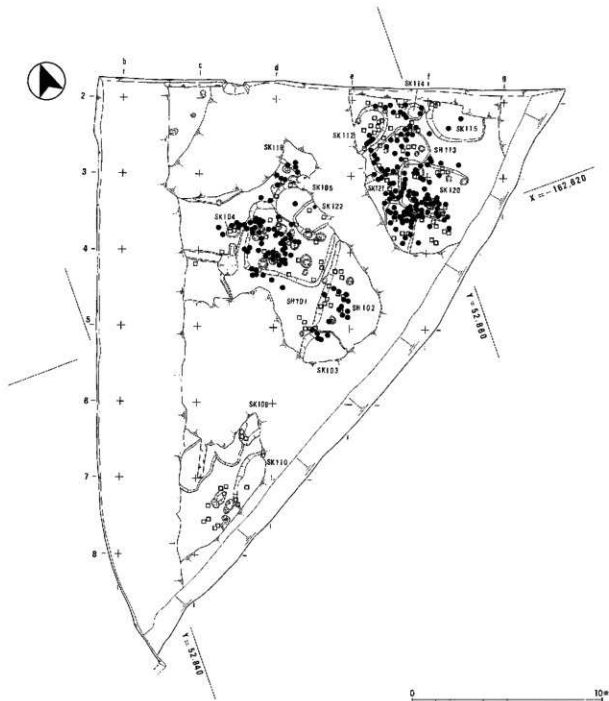
考えられる。

SK105 SH101を切り、SD46に切られているため、全体の様相を捉えることが難しい。平面形は楕円状のものであろうか。遺構埋土は、黒褐色土上の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・磨石・打欠石錘・楔形石器・石核といった石器類、剥片類や獣骨片が数多く出土している。出土の状況は、土坑の廃絶時に遺物が投棄されたも

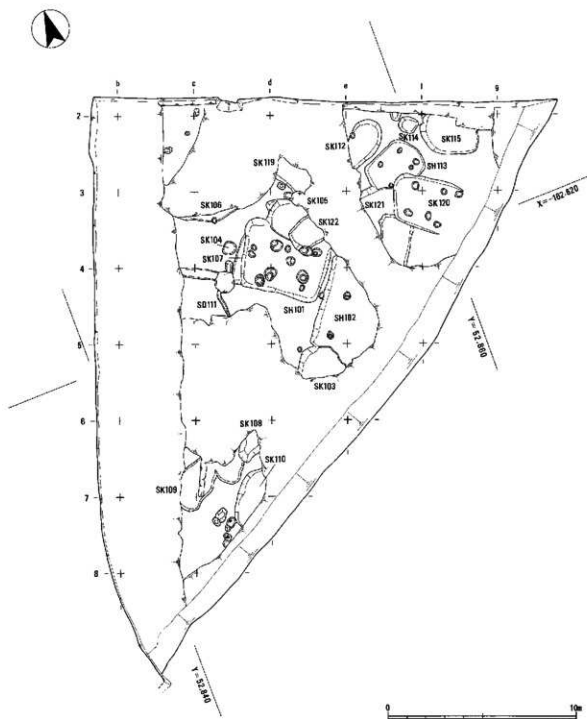
のであろう。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と考えられる。

SK107 SH101や攪乱と重複している。平面形は隅丸方形を呈しているものであろうか。遺構埋土は、黒褐色土上の1層であった。その埋土からは土器、剥片類等が出土した。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と考えられる。

SK108 平面形は不整形な楕円状を呈している。



第13図 遺物の分布状況（1：200）※遺構がわかるものと重ねさせている。●は土器 □は石器。



第14図 遺構平面図 (1 : 200) [縄文時代]

SD47に切られている。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・楔形石器・石核といった石器類、剥片類、炭化物(材・種子)や獣骨片が数多く出土している。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅲ式期と考えられる。

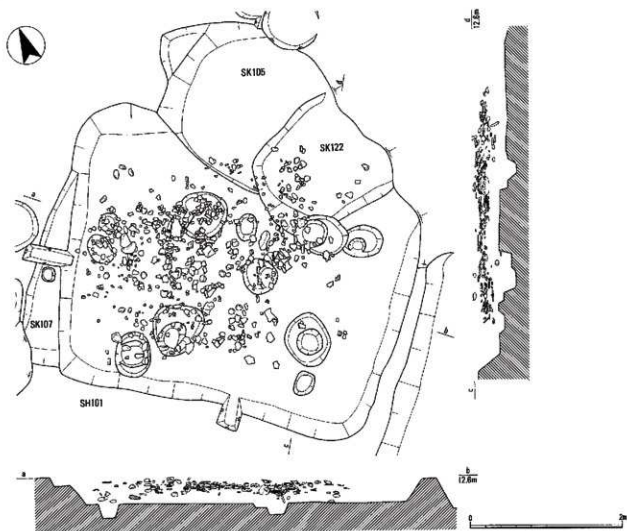
SK109 平面形は楕円形を呈しているのであろうか。SD40にきられているため、全容を捉えることができない。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、土器、剥片類等の出土が確認された。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と考えられる。

SK110 平面形は楕円形であろうか。SD47に大きく切られているため、全容を窺えない。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢

といった縄文土器、石鏃といった石器類、剥片類等の出土が確認された。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅲ式期⁹と考えられる。

SK112 平面形は楕円形を呈しているものか。SD47に大きく切られているため全容を窺えない。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、土器、大形の磨製石斧、剥片類等の出土が確認された。大形の磨製石斧1233が出土しており、単なる土坑としてではなく、墓的あるいは祭祀に関わるものを想定しなければならないのかもしれない。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱ式期と考えられる。

SK114 平面形は円形を呈している。SH113、SK112やSK115に囲まれている。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、土器、剥片類



第15図 SH101・SK105・107・122遺物出土状況平面図・断面見通し図(1:50)

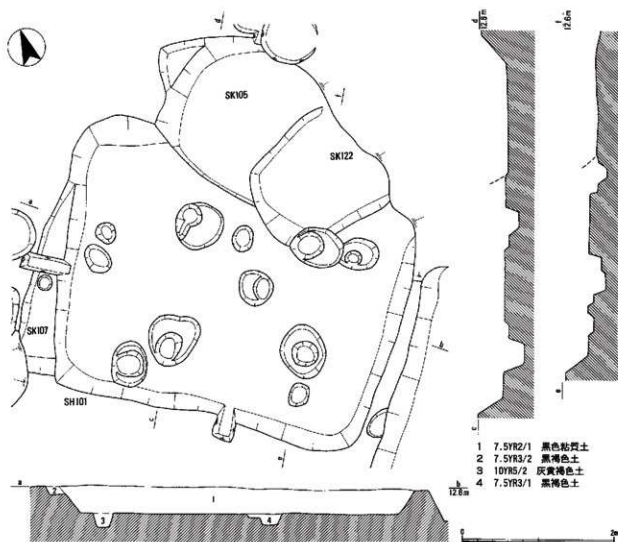
等の出土が確認された。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱ式期と考えられる。
SK115 平面形は隅丸方形を呈しているものか。調査区の北側に延びているため全容を窺うことができない。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・楔形石器といった石器類、剥片類等が出土していることを確認した。平面形から、単なる土坑としてではなく、住居跡の可能性も否定はできない。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と考えられる。

SK119 平面形は隅丸方形を呈しているものか。
SD46・48に大きく切られていて、全体を捉えることが難しい。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石

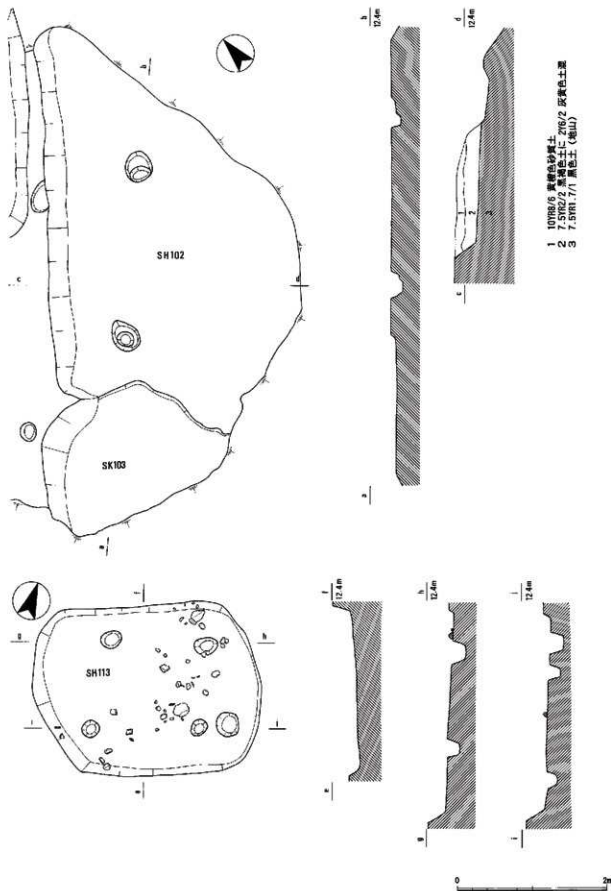
鏃・楔形石器・削器といった石器類、剥片類等が出土している。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と考えられる。

SK120 平面形は隅丸方形を呈しているものか。調査区自体が南東方向に緩斜面となっているために、遺構の南東辺を確認することができなかった。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石鏃・磨石・石錐といった石器類、剥片類、炭化物(材・種子)や獣骨片が数多く出土している。平面形や遺構内側の柱穴の存在を考え合わせると、住居跡の可能性も否定はできないが、ここでは土坑として報告する。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期、諸磯b式期と考えられる。

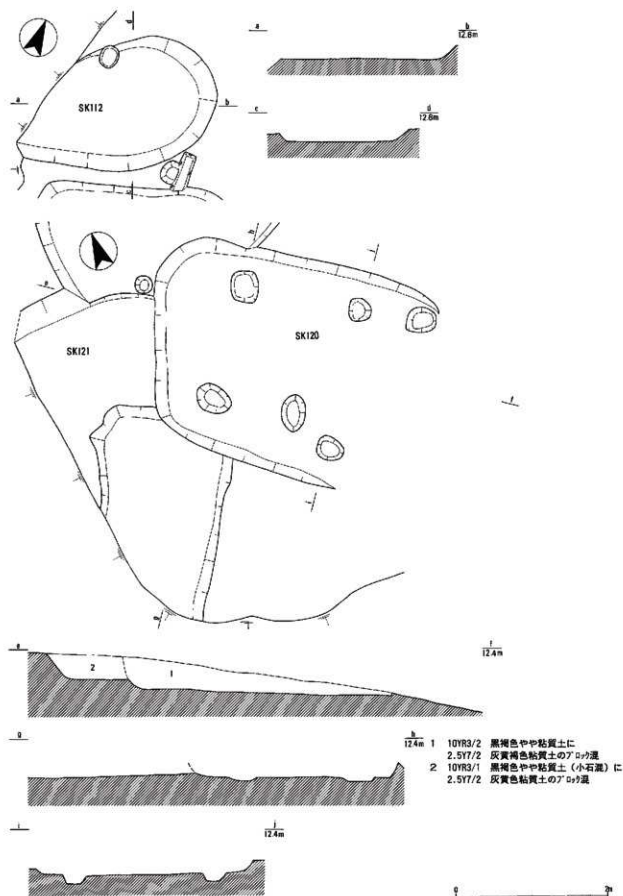
SK121 平面形は隅丸方形を呈しているものか。



第16図 SH101・SK105・107・122平面図・断面図(1:50)



第17图 SH102·113平面图·断面图 (1:50)



第18図 SK112・120・121平面図・断面図（1：50）

SD46に切られ、SH113やSK120と重複するため、全体を捉えることが困難である。住居跡の可能性もあるが、ここでは土坑として報告する。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、深鉢・浅鉢といった縄文土器、石畿・打製石斧・台石・磨石・石錐・削器といった石器類、剥片類、炭化物(材・種子)や獣骨片が数多く出土している。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期、諸磯b式期と考えられる。

SK122 平面形はSD46に大きく切られているために、全容を窺うことが難しい。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、土器、石畿といった石器類、剥片類、炭化物(材・種子)、獣骨片等の出土が確認された。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱc式期と考えられる。

<溝>

SD111 平面形はSD48や掘乱に切られているために、全容を窺うことが難しい。調査区のほぼ中央付近で確認した。少し東への屈曲が窺えた。竪穴住居跡の壁周溝である可能性もあるが、住居跡の平面プランを周辺で検出することができなかった。後世の掘乱等を受け、削平されていることも考えられる。遺構埋土は、黒褐色土の1層であった。その埋土からは、土器、石畿といった石器類、剥片類等の出土

が確認された。出土した遺物の所属時期から、縄文時代前期、北白川下層Ⅱ式期と考えられる。

(小濱 学)

[註]

- ① 河北秀実『琵琶垣内遺跡(第3次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2007年)。
- ② 土師器編については下記の文献に拠った。伊藤裕偉「中世南伊勢系の土師器に関する一試論」(『Mie history』vol.1、三重歴史文化研究会、1990年)。伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」(『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム、1996年)。
- ③ 網谷克彦「北白川下層式土器様式」(『縄文土器大観』1、1989年)に詳細が述べられている。また、拙稿「縄文時代前期の土器編年～山添遺跡・鳥浜貝塚・彦崎貝塚出土資料からみえるもの～」(『富宮歴史博物館 研究紀要15』、富宮歴史博物館、2006年)においても、土器の変遷について述べている。
- ④ 谷口康浩「諸磯式土器様式」(『縄文土器大観』1、1989年)に詳しい。
- ⑤ 藤山誠一「北野遺跡第2次発掘調査報告」(員弁町教育委員会、1994年)に、4棟の竪穴住居跡を確認したとある。
- ⑥ 松葉和也「線通庵遺跡・アカリ遺跡発掘調査報告」(三重県埋蔵文化財センター、1999年)によれば、土坑SK1として報告されている。竪穴住居跡としては取り上げられていない。
- ⑦ 内堀信雄ほか『御望遺跡 一市道西郷1号線建設に係る緊急発掘調査の記録-』(岐阜市教育委員会、1994年)に、方形の竪穴住居跡を確認したとある。
- ⑧ 網谷克彦「北白川下層式土器様式」(『縄文土器大観』1、1989年)に詳しい。

報告 遺構番号	調査時 遺構番号	グリッド	性 格	規 模 (東西×南北、幅、深さ)	時 期	備 考
—	SZ1	b2~	礎石		—	コンクリートブロック風じる
SK2	SK2	f2・f3	土坑	2.4m×3.5m 深さ 0.15m	12~13c	
SK3	SK3	e2~f2	土坑	2.7m×1.7m 深さ 0.2m	13c前	土線画 or カマドの可能性あり
—	SK4	d3	礎石痕		—	
—	SK5	e3	欠番		—	
—	SK6	e2	欠番		—	下層の一部が見えていたもので、遺構ではない
—	SK7	e2	欠番		—	下層の一部が見えていたもので、遺構ではない
—	SK8	e3	礎石痕		—	
—	SK9	f3	礎石痕		—	
—	SK10	e3	礎石痕		—	
—	SK11		欠番		—	下層の一部が見えていたもので、遺構ではない
SK12	SK12	e5	土坑	0.4m×0.6m 深さ 0.14m	13cか	
SD13	SD13	d4	溝	幅 0.5m 深さ 0.1m	不明	素掘溝か SD16 と一連
—	SK14	d4	礎石痕		—	
SD15	SD15	e4~d4	溝	幅 0.5m 深さ 0.1m	不明	素掘溝か
SD16	SD16	e・d3~4	溝	幅 0.5m 深さ 0.1m	不明	素掘溝か SD13 と一連
—	SK17	e4	礎石痕		—	
—	SK18	e4	礎石痕		—	
SK19	SK19	e5・e6	土坑	0.9m×0.7m 深さ 0.1m	13cか	
SK20	SK20	e6	土坑	0.6m×0.7m 深さ 0.2m	13cか	
—	SK21	e6	礎石痕		—	
SK22	SK22	e6	土坑	0.9m×0.6m 深さ 0.1m	13cか	
SD23	SD23	e6	溝	幅 0.3m 深さ 0.15m	不明	素掘溝か
—	SK24	e7	欠番		—	
—	SD25	b6・b7	礎石		—	
—	SD26	b5~b8			—	
—	SK27	e5	礎石痕		—	
—	SK28	d5	礎石痕		—	
SK29	SK29	b7	土坑	0.3m 以上×0.6m 深さ 0.1m	不明	
SD30	SD30	e4・e5 d4	溝か	最大幅 1.6m 深さ 0.1m	不明	浅い、落ち込み状?
SK31	SK31	f2	土坑	1.4m×1.8m 深さ 0.6m	13c	SK2 と切り合いで後行
—	SD32	b6	礎石		—	
—	SD33	b7	礎石		—	
—	SK34	b4	礎石		—	SD40 埋土
—	SD35	b6	礎石		—	SD40 埋土
—	SD36	b4	礎石		—	SD40 埋土
SD37	SD37	e4・e5	溝か	幅 1.5m 以上 深さ 0.05m	不明	浅い、落ち込み状?
SD38	SD38	e4~e7	溝か	幅 2.0m 以上 深さ 0.1m	13c 以降	浅い、落ち込み状?
SD39	SD39	b4	溝か	幅 0.6m 以上 深さ 0.1m	不明	浅い、落ち込み状?
SD40	SD40	a1~b9		幅 4.7m 以上 深さ 2.0m	江戸~近代	
—	SZ41	b9	礎石		—	SD40 埋土
SZ42	SZ42	d5・d6 e5	落ち込み	6.2m×2.0m 以上 深さ 0.1m	不明	
—	SK43	b6	礎石		—	SD40 に伴う落ち込み
—	SK44	b7	礎石		—	SD40 に伴う落ち込み

第 1 表 遺構一覧表①

報告 遺構番号	調査時 遺構番号	グリッド	性 格	規 模 (東西×南北、幅、深さ)	時 期	備 考
SK45	SK45	f2・g2	土坑	0.8m×1.7m 深さ 0.25m	13c	SK2・31と切合で両方に發行
SD46	SD46	d1~e4	谷状のものか	幅 3.2m 深さ 1.1m	7c代	
SD47	SD47	e5~d6	谷状のものか	幅 0.5m 深さ 1.1m	7c代か	
SD48	SD48	b2~c3	谷状のものか	幅 5.0m 深さ 1.2m	7c代か	
—	SD49	e5・e6	—		—	SD47と同一 (SD47のアゼより西の部分)
SD60	SD60	b8 e6~c7 d5~d6 f1~f4 e1~e2	谷状のものか	幅 3.7m 以上 深さ 0.8m	7c代か	
—	SD61	(d6)	—		—	SD60と同一 (調査時は切り合い不明のため番号をわけていた)
SD62	SD62	e4・e5	谷状のものか	幅 1.0m 深さ 0.4m	不明	
—	SD63		谷状のものか		—	SD60と同一 (調査時は切り合い不明のため番号をわけていた)
SH101	SH101	c3~d4	壁穴住居	4.6m×3.7m 深さ 0.35m		黒褐色土+黄褐色土
SH102	SH102	d4・e4	壁穴住居	3.3m 以上×4.9m 以上 深さ 0.27m		黒褐色土
SK103	SK103	d5	土坑	2.6m 以上×1.6m 以上 深さ 0.38m		
SK104	SK104	e3	土坑	0.75m×0.7m 深さ 0.30m		
SK105	SK105	d3	土坑	1.4m 以上×1.9m 以上 深さ 0.25m		黒褐色土+赤褐色土
SK106	SK106	e3	土坑	3.3m 以上×0.4m 以上 深さ 0.14m		
SK107	SK107	e3・e4	土坑	0.4m 以上×2.6m 以上 深さ 0.10m		
SK108	SK108	e6	土坑	1m 以上×1.7m 以上 深さ 0.39m		
SK109	SK109	b6~c7	土坑	1.8m 以上×3.0 以上 深さ 0.09m		
SK110	SK110	e6・e7	土坑	1.3m 以上×3.3m 以上 深さ 0.26m		
SD111	SD111	e4	溝	長さ 1.5m 以上 幅 0.2m 深さ 0.13m		
SK112	SK112	e2	土坑	1.6m 以上×2.7m 深さ 0.20m		
SH113	SH113	e2	壁穴住居	3m×2.2m 深さ 0.27m		
SK114	SK114	e2	土坑	0.9m×0.8m 深さ 0.30m		
SK115	SK115	f2	土坑	3m×2m 以上 深さ 0.20m		
—	SK116	e3・f3	—			
—	SK117	e3・f3	—			
—	SK118	f2・f3	—			
SK119	SK119	d2	土坑	1.3m 以上×2m 以上 深さ 0.15m		
SK120	SK120	e2~f3	土坑	3.7m 以上×2.9m 深さ 0.16m		
SK121	SK121	e3	土坑	1.9m 以上×1.7m 以上 深さ 0.32m		
SK122	SK122	d3	土坑	1.7m 以上×1.6m 深さ 0.16m		

第 2 表 遺構一覧表②

IV 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、整理箱（コンテナバット）にして112箱である。縄文時代の遺物が最も多い。以下、土製品・石製品の順に記述する。土製品については、Ⅲ章の遺構の記述順に触れていきたい。

1 土製品

(1) 弥生時代以降

SK2 (1) 1は土師器皿である。口径は7.6cmの小形のもので、胎土は浅黄褐色を呈する。なお、体部外面には粘土紐の痕跡が見られる。12～13世紀代のものである¹⁾。

SK3 (2～14) 2～3は土師器皿である。2は口径8.7cmと小形、3は口径15.6cmと大形のものである。2・3ともに浅黄褐色の色調を呈する。3は伊藤裕俣氏による南伊勢1期に位置付けられ、12世紀代のものである。

4～12は土師器鍋で、南伊勢系のものである。5は口径18.3cmと小形のもので、6～12はいずれも口径が22cm前後の近似値のものである。この中でも6は4と同一個体の可能性がある。これらの鍋はいずれも伊藤裕俣氏による編年の第1段階a型式のものと言える²⁾。13世紀前葉のものである。

13～14は山茶碗である。いずれも口縁部は外反し、高台はしっかりとしたものである。藤澤良祐氏による編年の渥美型第5型式くらいのもので、12世紀後葉～13世紀初頭のものである³⁾。

SK31 (15～24) 15～22は土師器皿である。16～21はいずれも口径8cm前後の小形のもので、22のみ口径9cmとなる。なお、22のみ外面に黒斑のようなものが見られる。いずれも年代的には12世紀～13世紀代のものである。

23は南伊勢系土師器鍋の口縁部で、第1段階のものと思われる。12世紀後葉～13世紀前葉のものである。24は山茶碗の口縁部で、尾張型第4型式と思われる。12世紀前葉～中葉のものである。

SD38 (25) 25は山茶碗の底部で、13や14と比較

して高台が低い。渥美型第6型式と考えられ、13世紀前葉のものである。

SD40 (26～39) 26は土師器皿である。口径は9.6cmで、胎土はにぶい橙色等を呈している。おおむね12～13世紀代のものである。27は土師器高杯の脚部で、斎宮第1期の第3～4段階あたりかと思われる⁴⁾。8世紀中～後葉のもの。28は土師器鍋の口縁部で、南伊勢系第1段階であろうか。29～32は土師器の甕で、29は仮a段階くらいのもので、12世紀前～中葉のもの。30～32は斎宮第2期あたりのものに近く、9世紀代くらいのものだと思われる。

33～37は山茶碗である。33のように高台が比較的高い段階のものから、37のように高台が低い段階のものまで出土している。第5～7型式までのものである。

38は軒丸瓦の瓦当片である。外区には複線鋸歯文が左下がり・右下がり交互に施されている。内区の花弁はわずかに確認でき、複弁であることが確認できる。この瓦当文様は、野中垣内廃寺（大雷寺、松阪市節田町所在）出土資料に類似したものがあり⁵⁾、山添遺跡第3次調査でも確認されている⁶⁾。8世紀初頭～前半くらいの年代のものと考えられる。なお、この瓦の瓦当の接合方法については、Ⅵ章で触れたい。39は丸瓦で、布目痕や縄目が確認できる。おそらく38の軒丸瓦と同年代のものと考えられる。

なお、この遺構からは、上記のように主に古代～中世の遺物が出土しているが、層位的にはそれより新しい遺構である。

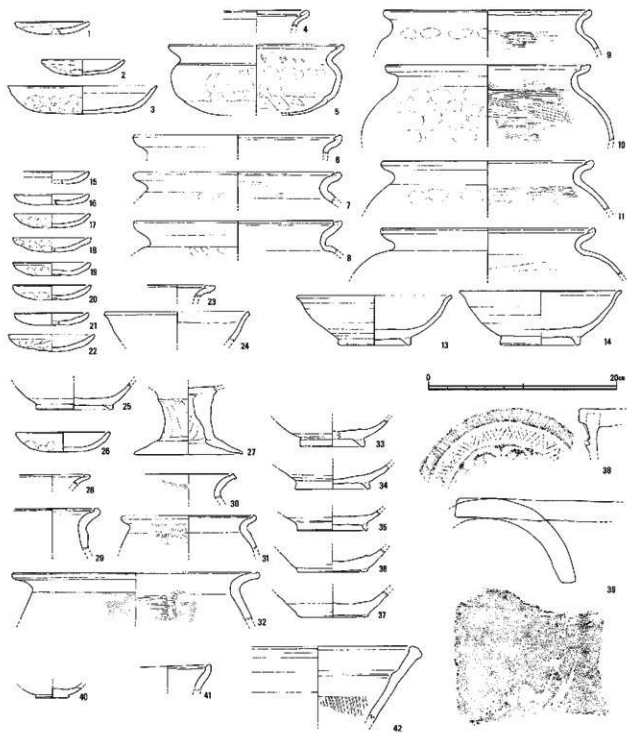
SK45 (40) 40は山皿の底部である。第5か6型式かと思われる。

d3区P5 (41) 41は土師器甕の口縁部である。10世紀代くらいのものである。

c7区P2 (42) 42は陶器の摺鉢である。鉄釉により赤紫系の色を呈している。藤澤良祐氏・岡本直久氏による編年の連房期10小期であろう⁷⁾。

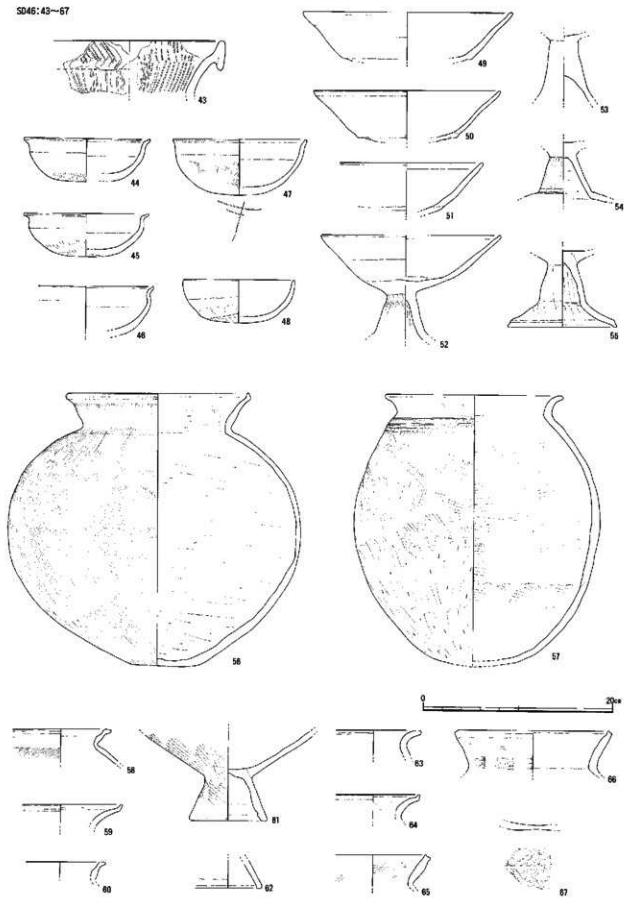
（小林俊之・山岡奈美恵）

SD46 (43～67) 43は弥生土器壺の口縁部である。内外面共、刺突による文様が見られ、外面は羽根状に施される。上村安生氏による編年の伊勢第V—5

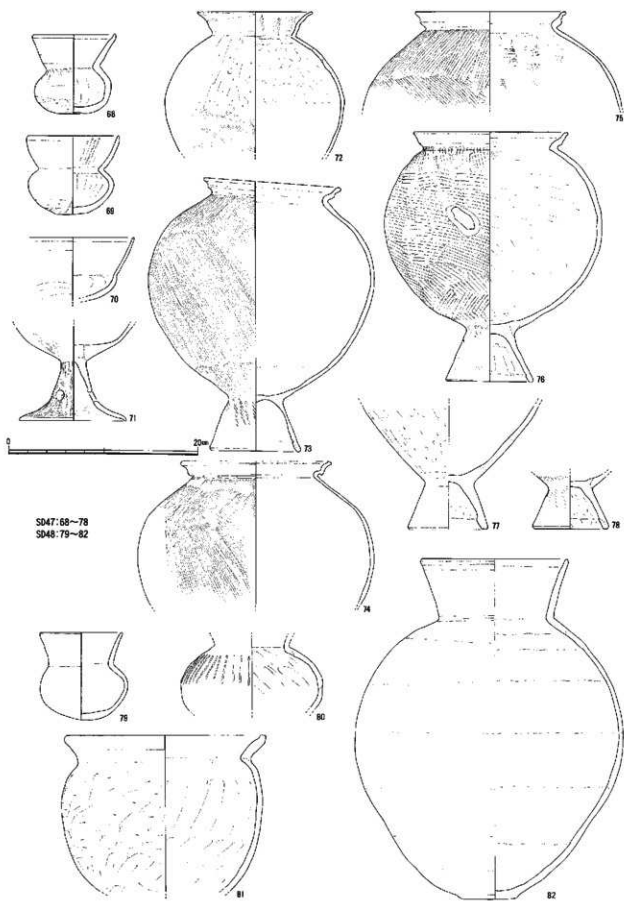


SK2: 1	S038: 25	d3区P5: 41
SK3: 2~14	S040: 26~39	c7区P2: 42
SK31: 15~24	SK45: 40	

第19図 出土土製品実測図① (1:4)



第20图 出土土製品実測图②(1:4)



第21图 出土土製品実測図③ (1:4)

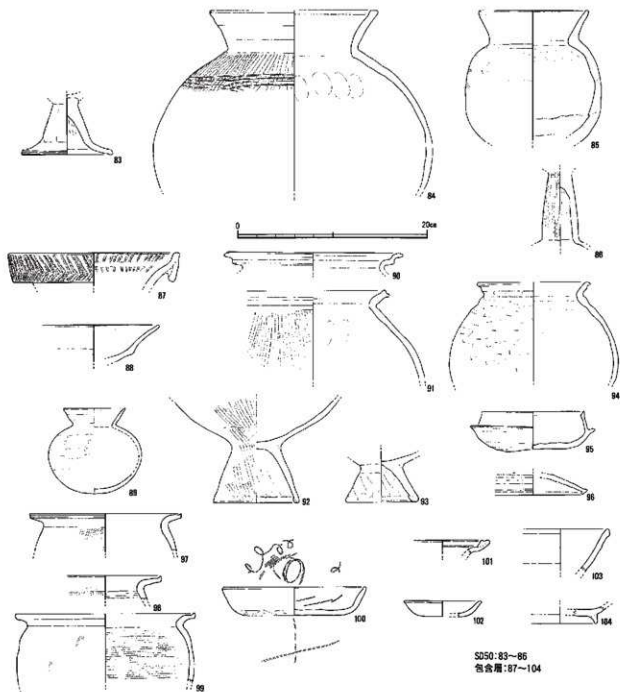
様式で相当であろうか。

44～48は土師器の小形鉢である。特に44～46は口縁端部が大きく外反するものである。47には外面底部にへら記号の可能性ある刻みが確認できる。いずれも雲出鳥貫遺跡での鳥貫D期にあたり、5世紀代のものである。

49～55は土師器高杯である。49～51は体部に明瞭な屈曲が見られ、52はそれが見られない。

56は土師器壺で、外面はハケ、内面はケズリを施す。口縁部は外反しながら端部を内側へ曲げている。体部には黒斑が認められる。57は土師器甕で、胴部がやや長い。口縁部は頸部から屈折し、ゆるく外反する。底部は欠損があるが、丸底のものである。肩部にへら描き沈線が見られる。

58～66は土師器甕である。58は口縁部で、S字状口縁の屈曲が不明瞭になっており、いわゆる宇田型甕



第22図 出土土製品実測図④(1:4)

である⁹。59は口縁端部が直立するもので、60は口縁端部が面をもつものである。61～62は台部で、字田型のものである。63～66も甕の口縁部だが、65・66はやや新しく、7世紀代の様相を呈している。67は器種等については不明だが、木の葉の痕跡が見られる。

これらの遺物からは、5世紀代のもを中心に7世紀代までのものが見られる。

SD47 (68～78) 68～70は土師器の小形壺である。70は破片だが、おそらく口縁部が大きく広がるものである。71は土師器高杯の台部で、黒色油断が顔料らしきものの付着が確認できる。72は土師器壺である。口縁部はく字形に屈曲し、やや開きぎみになる。73～78は土師器甕で、いわゆるS字状口縁台付甕のD類である。なお、78には内部に炭化物の付着が見られた。

SD48 (79～82) 79は土師器の小形壺である。80も小形の壺かと思われ、肩部にタテにヘラ描き沈線が見られる。81は土師器甕で、体部外面にはケズリが見られる。82は土師器壺である。頸部はく字形に屈曲し、口縁部はそのまままっすぐに広がる。体部等の調整については、磨滅が激しく不明である。

SD50 (83～86) 83は土師器高杯の脚部である。84は土師器壺の口縁部である。体部上方にはS字甕と同様の文様が見られる。鳥貫D1期になろう。85は土師器甕で、外面に工具ナデが見られる。86は土師器高杯の脚部で、外面にはミガキが見られる。

包含層 (87～104) 87は弥生土師器の口縁部である。内外面共、刺突文があり、外面は羽根状に施される。43と同一個体の可能性がある。89は土師器の小形壺である。体部外面はケズリの後ナデ調整を施す。90～93は土師器甕で、90はS字甕のC類、91は字田型、92～93は字田型の底部であろうか。94も土師器甕だが、口縁部には強いナデ(工具か)による屈曲が見られ、体部外面はケズリが見られるものである。95は須恵器杯身で、田辺昭三氏によるTK23型式のものである⁹。96も須恵器で、杯蓋である。

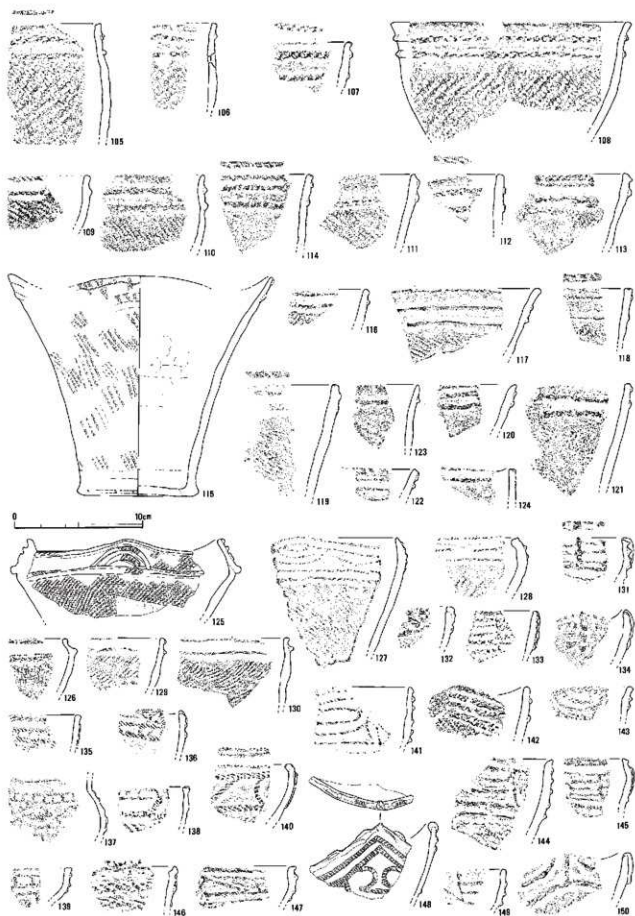
97～99は土師器甕である。いずれも斎宮第II期あたりのものに近く、9世紀代くらいのものだと思われる。100は土師器杯で、内面見込みには暗文が、外面底部には「×」と思われるヘラ記号が確認できる。斎宮第I期4段階～第II期1段階(8世紀後半

～9世紀初頭)のものである。101は土師器鍋の口縁部で、第2段階b型式か。102は土師器の皿で、103～104は山茶碗である。第5型式のものである。

(小林俊之)

(2) 縄文時代前期

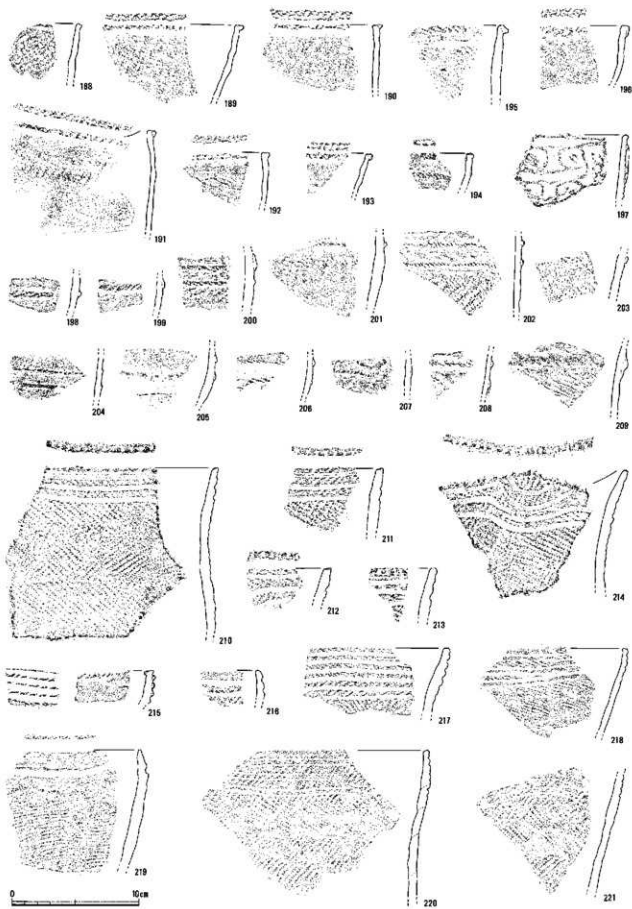
SH101出土土製品 (105～444) 105～275、282～411は深鉢、276～281は浅鉢である。105～110は口縁部に縄文が施された2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。器形については、平縁で口縁端部付近が外反し、隆帯部分では括れ体部上半から若干影れる。111～113は平縁で口縁部に縄文が施された2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。器形については、口縁端部付近から体部上半にかけて直線的である。114は口縁部に抱状工具による刻みが施された2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。器形については、口縁端部付近が外反する。115は、口縁部に縄文が施された2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。器形については、波状口縁で口縁部が大きく外反し、底部が平底である。116～122は口縁部に2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。器形については、口縁部が直線的に外反する。123・124は口縁部に1条の隆帯があり、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。器形については、口縁部が直線的に外反する。123は平縁、124は波状口縁になると考えられる。125は波状の口縁部が大きく内側に屈曲し、その部分を隆帯で画している。その範囲に隆帯により幾何学的な文様が施されている。なお、隆帯には縄文が、屈曲部下にも縄文が施されている。126は口縁部が大きく内側に屈曲し、その部分を隆帯で画している。隆帯には縄文が、また屈曲部下にも縄文が施されている。127は波状の口縁部が内湾気味となり、その内湾した部分の上方に隆帯による幾何学的な文様が施されている。隆帯下には縄文がみられる。128は口縁部が内湾気味となり、その内湾した部分の上方に細い隆帯が3条施されている。隆帯下には縄文がみられる。129・130は口縁端部付近とその直下に細い隆帯が施され、その下には縄文が施さ



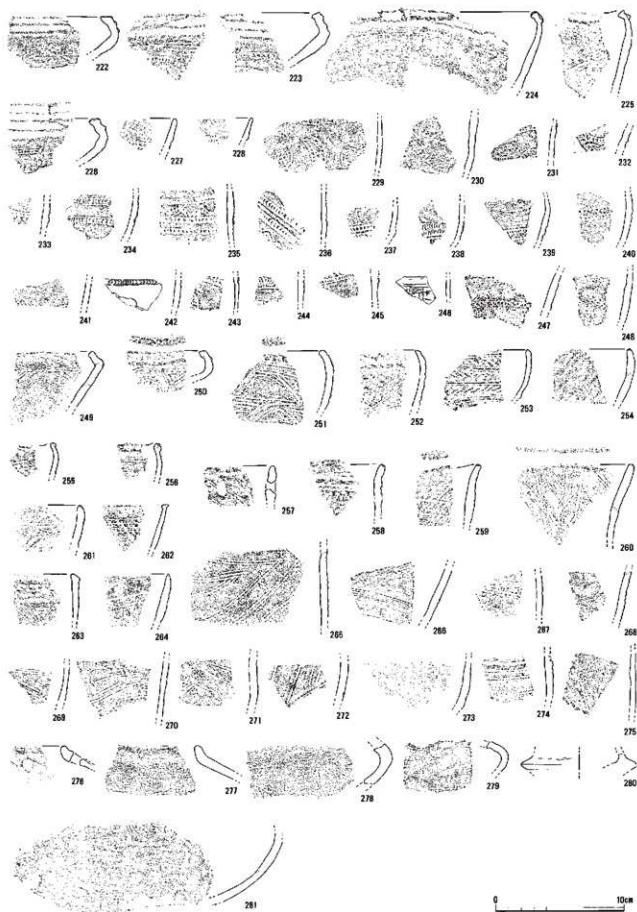
第23图 SH101出土土製品実測图①(1:3)



第24图 SH101出土土製品実測图② (1:3)



第25图 SH101出土土製品実測图③(1:3)



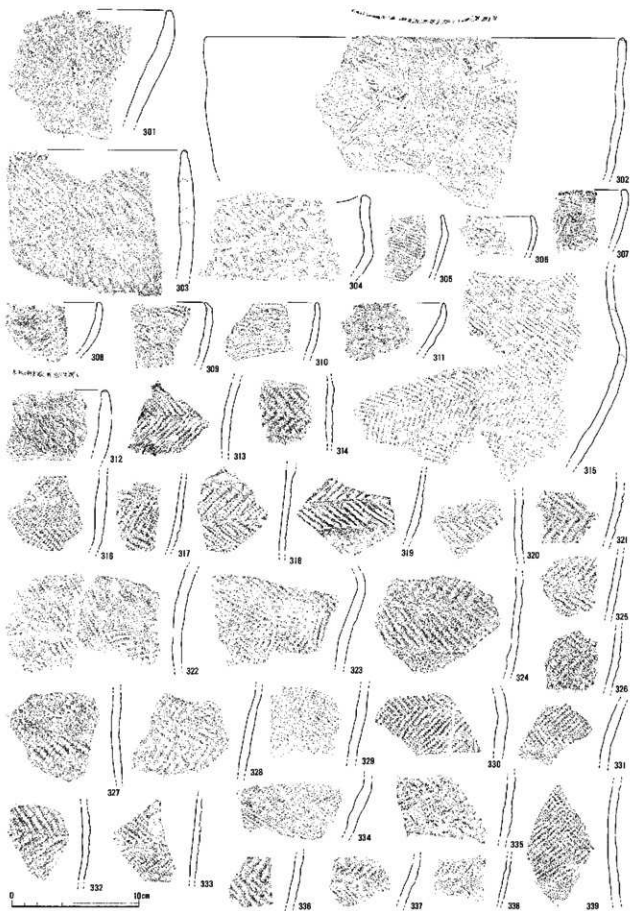
第26图 SH101出土土製品実測图④(1:3)

れている。131～134は横位に施された隆帯を画する
ように縦位にも隆帯が施されているものである。131
～133は隆帯に縄文がみられ、134には刻みが施され
ている。135～139は細めの縄文が施された隆帯によ
り杵状の文様帯を構成しているものである。137に

ついては、体部片である。140～148は縄文あるいは
刻みが施された細めの隆帯により口縁部に文様帯が
集中するものである。142・148については波状口縁
と思われる。149・150は細めの隆帯により口縁部に
文様帯が集中するものである。151～170は少し内弯



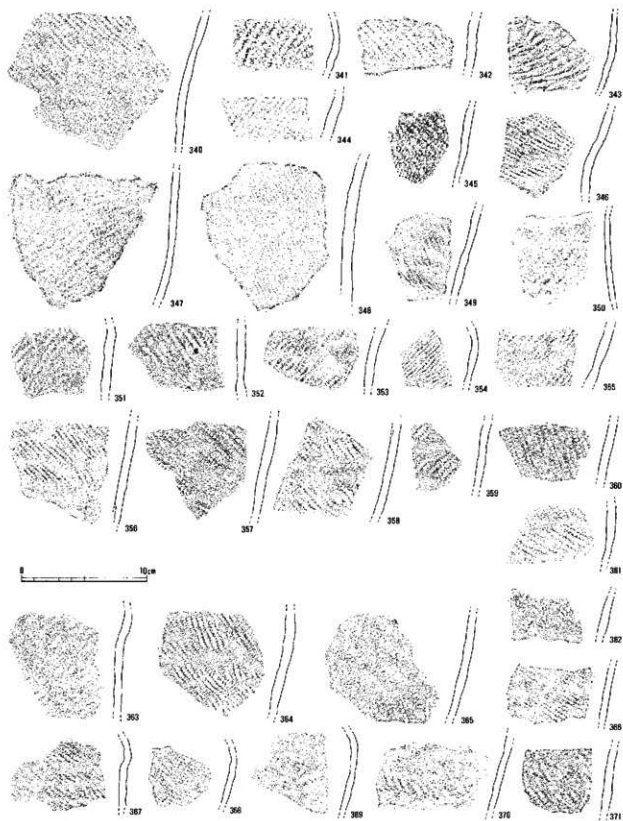
第27図 SH101出土土製品実測図⑤ (1 : 3)



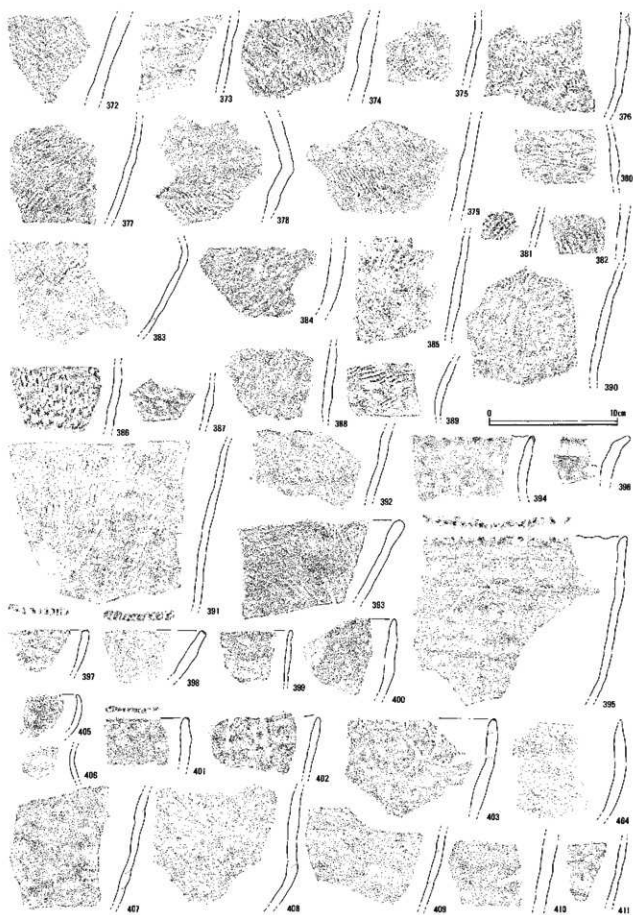
第28图 SH101出土土製品実測图⑥(1:3)

する口縁部に縄文が施された2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。167については隆帯が1条である。171～173は少し内弯

する口縁部に1条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。174・175は少し内弯する口縁部に篋状工具により刻みが施された2条



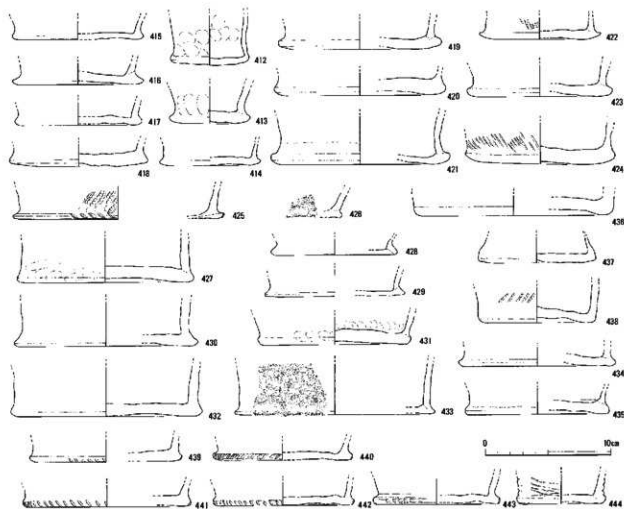
第29図 SH101出土土製品実測図㉠(1:3)



第30图 SH101出土土製品実測图⑧(1:3)

の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。176は刻みが施された口縁端部が少し外側の下気味につまみ出されたような隆帯がみられ、その下にもう1条の隆帯が施されているものである。2条の隆帯上には縄文がみられる。177～179は口縁端部が少し外側の下気味につまみ出されたような隆帯がみられ、その下にもう1条の隆帯が施されているものである。これらの2条の隆帯上には縄文がみられる。180は口縁端部が少し外側につまみ出され、その直下に縄文が施された隆帯が2条施されている。181～186は口縁端部が内側に屈曲し、少し外側の水平方向につまみ出されたような隆帯がみられ、その下にもう1条ないし2条の隆帯が施されているものである。これらの隆帯上には縄文がみられる。186については波状口縁となるものである。187は内湾する口縁

部の端部に縄文がみられ、少し無文様の部分があり、その下に縄文が施されている。188～193は口縁端部を外側につまみ出したかのような断面形で、その部分に隆帯が1条施されている。その隆帯上と口縁端部には縄文が施されている。191については波状口縁となるようである。194は口縁端部を外側の水平方向につまみ出したかのような断面形を呈し、その部分の直下に低く細い隆帯が1条施されている。その隆帯上には刻みであろうか。195は口縁端部を外側下方につまみ出したかのような断面形で、その部分に隆帯が1条施されている。その隆帯上と隆帯下には縄文が施されている。196は口縁部が外側に肥厚したかのような隆帯が1条施されている。その隆帯上と口縁端部には縄文が施されている。197は細い隆帯が曲線を描く文様構成である。体部片であろうか。198～209は横位に展開する隆帯が残存する体



第31図 SH101出土土製品実測図⑨(1:3)

部片である。198、200～203は隆帯上に縄文が、
199・206～208は隆帯上に刻みが、204・205は細い

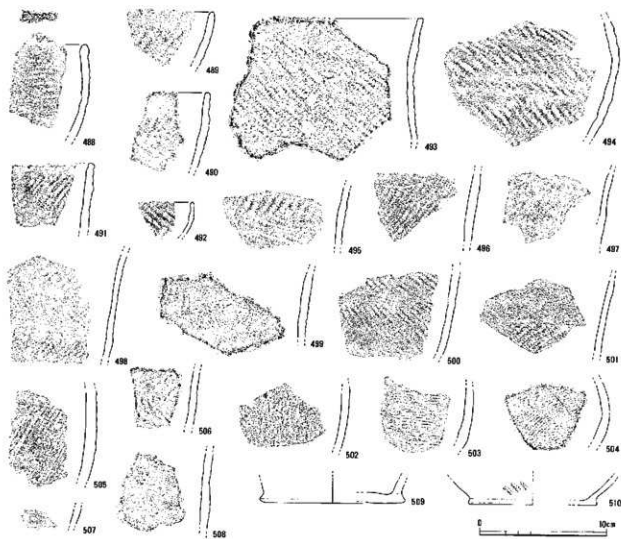
隆帯が2条みられる。209は低い隆帯が残存するも
のであろうか。210～214は口縁部が外反する器形で



第32図 SH102出土土製品実測図①(1:3)

ある。羽状縄文を土器外面に施し口縁部に沈線状の文様帯が横位に展開するものである。棒状工具による施文であろうか。また、口縁端部には刻みが施されている。214については波状口縁となるものである。215は口縁端部が土器内面につまみ出されたような形態を呈している。口縁端部直下部分から沈線が横位に展開している。沈線間には刻みが施されている。216～218は内湾し外傾する口縁部に口縁部直下から沈線が横位に展開している。沈線間には縄文が施されている。219は内湾し外傾する口縁部に口縁部直下から太い沈線が横位に展開している。その沈線の下に縄文が施されている。施文方法が他のものとは差違を感じる。220・221は内湾し外傾する口縁部に口縁部直下から半截竹管による沈線が横位に展開する。直線・曲線で表現がなされている。222

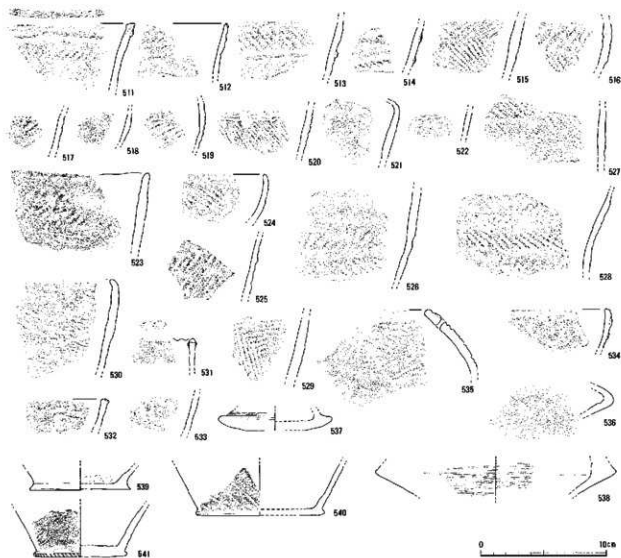
～226は口縁部が大きく内湾し、口縁部から屈曲する部分に横位に展開する隆帯による文様帯が施され、屈曲部分から下には半截竹管による押し引きと刺突による連続する直線的な文様帯が展開する。227・228は外半する口縁部直下に半截竹管による押し引きと刺突による連続する直線的な文様帯がみられる。229～232は半截竹管による押し引きと刺突による曲線を描く文様帯が施されている体部片である。233～248は半截竹管による押し引きと刺突による連続する直線的な文様帯が横位あるいは縦位に展開する体部片である。249・250は口縁部が大きく屈曲し、屈曲部分から下には半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様が施されている。251は内湾する口縁部に半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様が施されているものである。252～254は内湾する



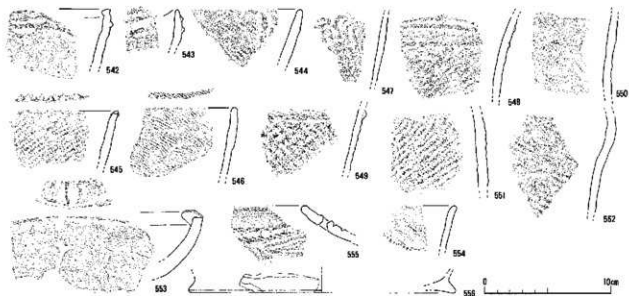
第33図 SH102出土土製品実測図② (1:3)

口縁部に縄文を施文した後に半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様が施されているものである。255・256は内湾する口縁部に半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様がみられ、口縁端部付近が隆帯状になっている。257は貫孔がみられる。258は口縁端部付近が外反し、半截竹管による文様が施されている。259は口縁端部付近が外反し、篋状工具による斜格子状の文様がみられる。260～263は外傾する口縁部を持つ。半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様がみられる。264は外傾する口縁部を持ち、篋状工具による条線状の文様ともいえよう。265～268は半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様がみられる体部片である。269・270は半截竹管による直線と曲線を組み合わせた文様で、文様端

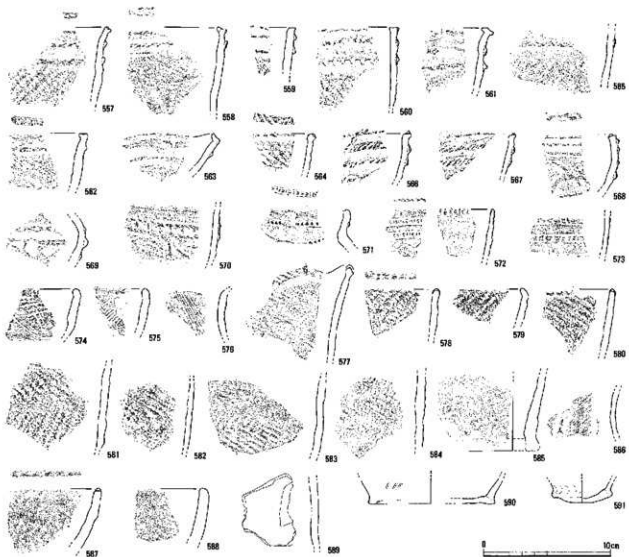
を半截竹管による押圧により文様を終息させている。271は半截竹管による斜格子状の文様が施された体部片である。272～275は半截竹管による直線敵な文様がみられる体部片である。276～281は口縁部から大きく膨らむ器形である。いわゆる縁孔土器²と呼ばれるものと考えられる。276・277は口縁部、278～280は屈曲部分、281は屈曲部から下の部分である。282・283は口縁部が少し外傾し体部中央で若干膨らむ器形で小波状口縁となる。外面には縄文が全体的に施されている。284～287は口縁部が少し外傾し内湾する器形で小波状口縁を形成し、外面には縄文が全体的に施されている。288は内湾する口縁で、外面には羽状縄文が施されているものである。289は口縁部が少し外傾する器形で、口縁端部には



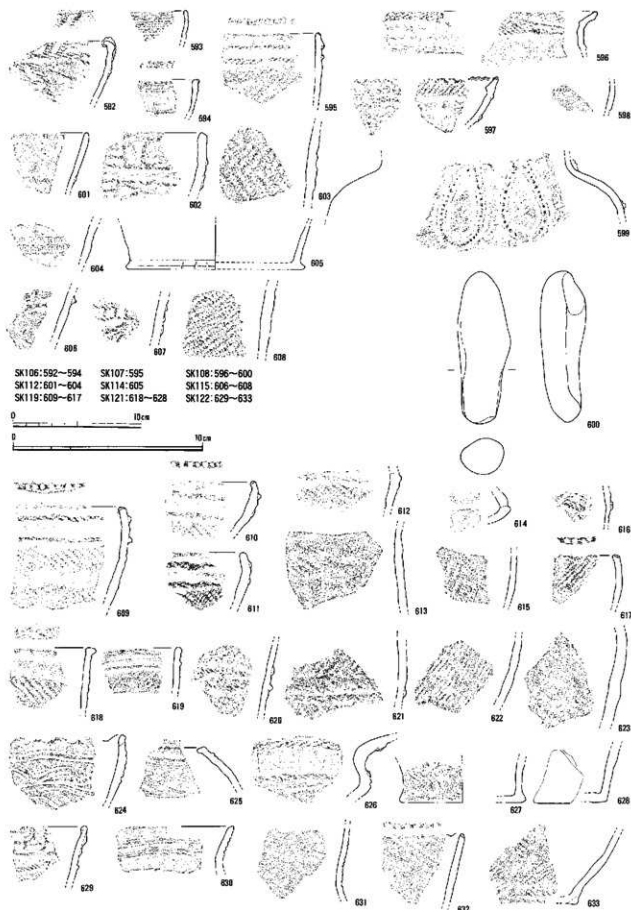
第34図 SH113出土土製品実測図 (1:3)



第35图 SK103出土土製品実測図(1:3)



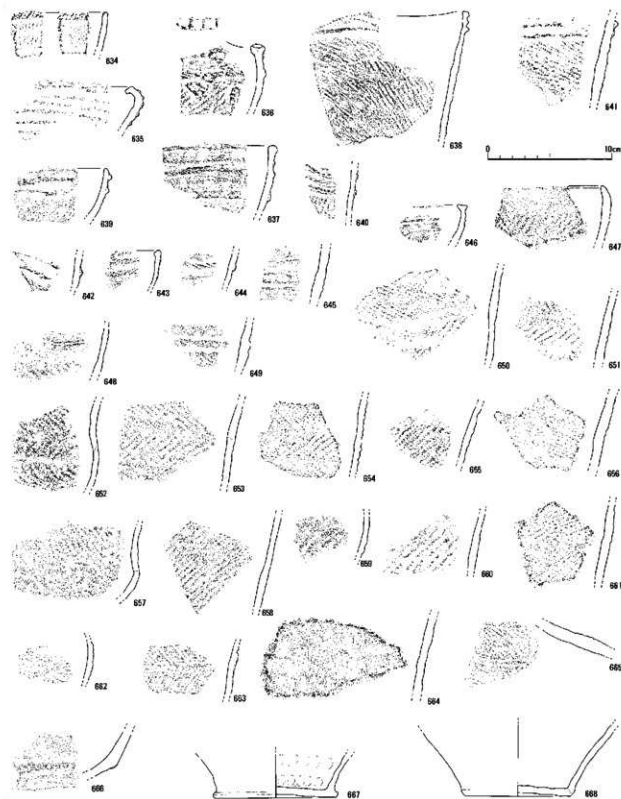
第36图 SK105出土土製品実測図(1:3)



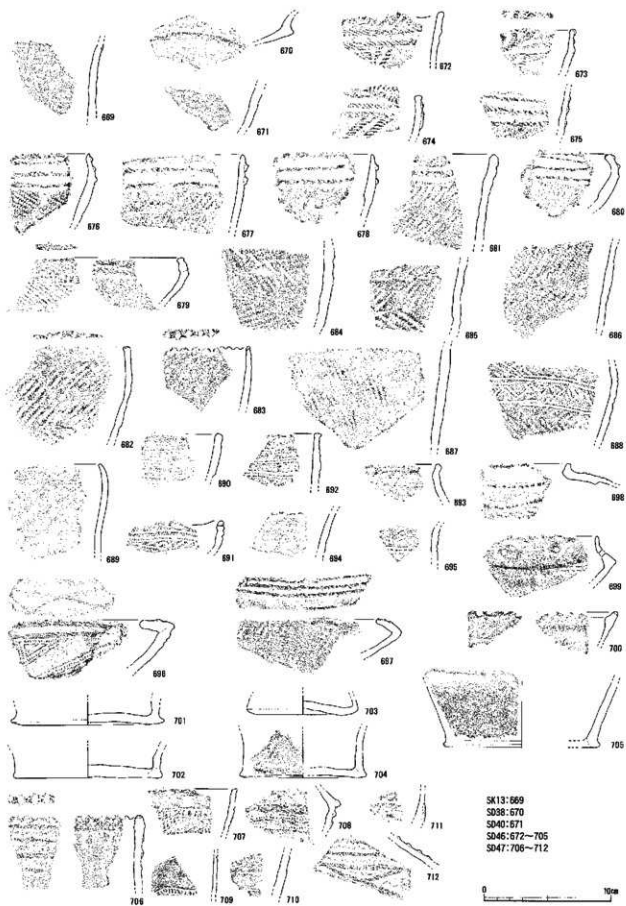
第37図 SK106・107・108・112・114・115・119・121・122出土土製品実測図(1:3)、報600は(1:2)

縄文、外面には羽状縄文がみられる。290は口縁部が少し外反する器形で、口縁部から外面には羽状縄文が施されている。291～293は口縁部が少し外反し、口縁部から縄文がみられる。294・295は口縁部が少

し内側に内傾し、口縁部から縄文がみられる。296は口縁部が少し外傾する器形で、口縁部と土器外面には全体に縄文が施されている。297は口縁部が少し外傾する器形で、外面には縄文が施され、貫孔



第38図 SK120出土土製品実測図(1:3)

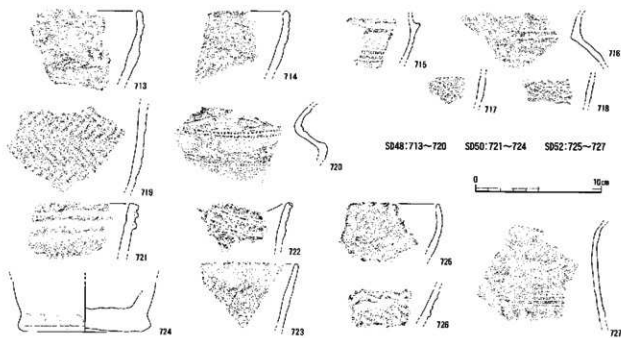


第39図 SK13・SD38・40・46・47出土土製品実測図(1:3)

がみられる。298は口縁部が少し外反し、無文部分の直下から縄文が施されている。299は口縁端部が内側につまみだされたような断面形である。口縁端部と外面に縄文がみられる。300は内湾する口縁部に縄文が施されている。301は内湾する器形で口縁端部と外面に縄文が施されている。302・303は直線的に外傾する器形で、口縁端部は刻みが、外面には縄文が施されている。304・305は口縁部が内折し直線的に外傾する器形で、外面には縄文が施されている。306～312は内湾する口縁部をもち、外面には縄文が施されている。313～339は外面に羽状縄文が全体に施された体部片である。340～391は外面全体に縄文が施された体部片である。縄文施文の疎密の差がみられる。同じ体部でも位置の違いや何らかの意味があるのだろうか。392は外面に刺突状の文様が確認できる体部片である。393～411は土器の器面に文様等の加飾がない無文系土器⁹⁾である。393は口縁端部が玉縁状になり、外面には板状工具による条痕がみられる。394は外反する小波状の口縁部をもつもので、395は内湾しつつ外傾する小波状の口縁部をもつ。396は外反する口縁部をもつものである。397・398は直線的に外傾する口縁部の端部に刻みが施されている。399・400は直線的に外傾する口縁部で、外面には板状工具による条痕がみられる。401

は直線的に外傾する口縁部片で、口縁端部には刻みがみられる。402は直線的に外傾する口縁部片で、外面には板状工具による条痕がみられる。403～405は内湾する口縁部をもつものである。406～411は体部片である。412～444は底部片である。412～435は底部の接地面端が外側に突出している。436～438は底部の接地面から上方に伸びていくものである。439～443は底部の接地面端外側に突出している部分に、刻みが施されている。444は底部の接地面から上方に伸びていく部分に沈線状の曲線がみられる。125・127・128・141・144・145・149・150などは諸磯式にみられる浮線文を意識しているのではないだろうか⁹⁾。250・251にみられる半截竹管による文様については、先に述べた諸磯式期の浮線文の置換型である可能性がある⁹⁾。265・269～271は模倣土器という指摘もある⁹⁾。276～281は諸磯式中段階⁹⁾に併行するものと思われる。これら以外については、北白川下層Ⅱc式⁹⁾に併行するものと考えられる。

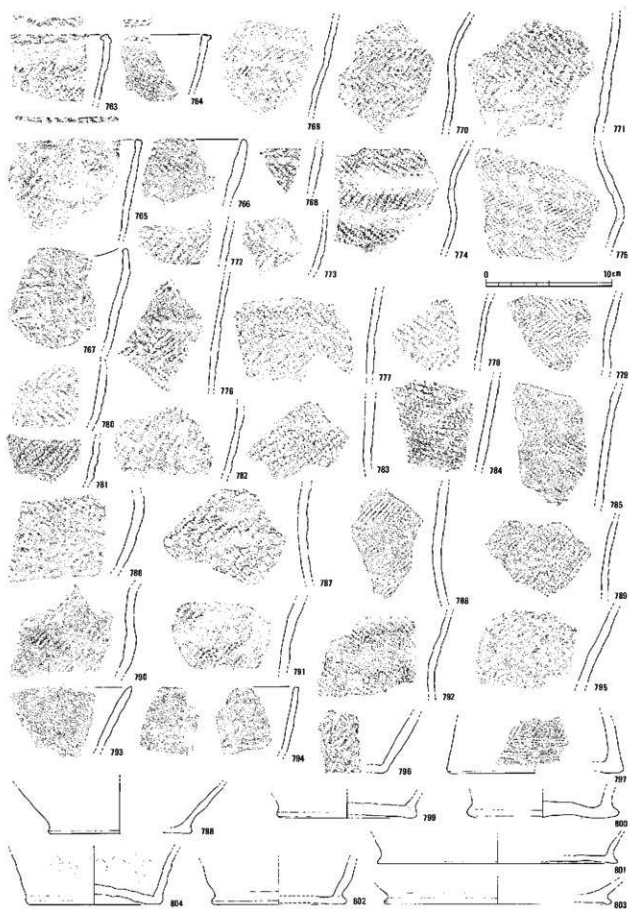
SH102出土土製品(445～510) 445～479、485～508は深鉢、480～484は浅鉢とした。445は波頂部からループ状に伸びた隆帯が文様帯を区画している。口縁部直下には棒状工具による連続する刺突がみられ、その下には口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が展開している。その文様帯の下には縄文



第40図 SD48・50・52出土土製品実測図(1:3)



第41图 下層包含層出土土製品実測图①(1:3)



第42图 下層包含層出土土製品実測图②(1:3)

が施されている。446は波頂部からやや下の部分から隆帯がループ状に伸びている。口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が展開している。その文様帯の下には無文の部分があり再び隆帯による文様帯となるようである。447は口縁端部からループ状に伸びた隆帯が文様帯を区画し、口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位に展開している。その文様帯の下には縄文が施されて、再び隆帯による文様帯が展開するようである。448～451は447と同様の文様帯をもつ小破片であろう。452・453は口縁部に2条の隆帯がみられ、その隆帯下の土器外面には縄文が施されている。平縁で口縁端部付近が外反し、隆帯部分では括れ体部上半から若干膨れる器形である。454～456は刻みが施された2条の隆帯がみられ、その隆帯に沿って半截竹管による押し引きが施され、土器外面に縄文が施されている体部片である。457～459は横位に展開する隆帯がみられ、その下に縄文が施されている体部片である。460は内外に肥厚した口縁端部に矢羽状の刻みが施されている。その下には半截竹管による押し引きと連続する刺突がみられる。461は半截竹管による押し引きと連続する刺突がみられる口縁部片である。462は口縁端部に刻みが施され、口縁部には半截竹管による直線と曲線の組み合わせの文様がみられる。463は内外に肥厚した口縁端部に矢羽状の刻みが施されている。口縁部から下には半截竹管による直線と曲線の組み合わせの文様がみられる。464・465は口縁部から下にかけて半截竹管による直線と曲線の組み合わせの文様がみられるものであろう。466は斜格子状の文様が施されている。これらは半截竹管により施文されたものと考えられる。467は半截竹管による押し引きと連続する刺突がみられる体部片である。468～474は羽状の縄文が施された体部片である。475～479は半截竹管による直線と曲線の組み合わせの文様がみられる体部片である。480～484は口縁部から大きく膨らむ器形である。いわゆる緑孔土器と呼称されているものと考えられる。480・481は口縁部下に円孔列がみられ、482は口縁部付近であろうか。沈線と刻みの文様帯が確認できる。483・484は屈曲部分と考えられる。485は小波状の口縁部をもち、外面には隆帯による文様帯がみられる。486は隆帯

による文様帯が施されている。487は平行する3条の隆帯による幾何学的な文様がみられる。隆帯上には刻みが施されている。488～493は外面に縄文が施されている口縁部片である。488は口縁端部に刻みが施されている。494～504は外面に縄文が施されている体部片である。505～508は無文系土器の体部片である。505・506は外面には篋状工具による条痕がみられる。507は板状工具による条痕が施されている。509・510は底部片で、底部の接地面端が外側に突出している。480～484については、諸磯b式に併行するものと思われる。482については時期が若干遡る可能性がある。487は十三菩提式の範疇のものであろうか。これら以外は、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SH113出土土製品 (511～541) 511～534は深鉢、535～538は浅鉢である。511は口縁端部に縄文が施されていて、口縁部に隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。512は口縁端部には刻みが施されていて、その直下から隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。513は羽状縄文の屈曲する部分に、区画するかのように隆帯が横位に伸びている体部片である。514は刻みが施された隆帯が横位に展開している体部片である。515・516は羽状縄文が外面に施された体部片である。517・518は半截竹管による押し引きと連続する刺突がみられる体部片である。519は半截竹管による押し引きと連続する刺突と縄文が施された体部片である。520～522は半截竹管の押し引きによる直線と曲線の組み合わせの文様がみられる体部片である。523・524は外面に縄文が施された口縁部片である。525～529は外面に縄文が施されている体部片である。530～533は無文系土器である。531は小波状の口縁で、532は口縁端部に刻みが施されている。533は体部片である。534は半截竹管による直線と曲線の組み合わせの文様がみられる口縁部片である。535～537は口縁部から大きく膨らむ器形である。いわゆる緑孔土器と呼称されているものである。535は口縁部直下に円孔列がみられ、三角状の文様がみられる。536～538は屈曲する部分と考えられる。539～541は底部片である。541は底部の接地面端が外側に突出している部分に刻みが施されている。535～538については諸磯b式

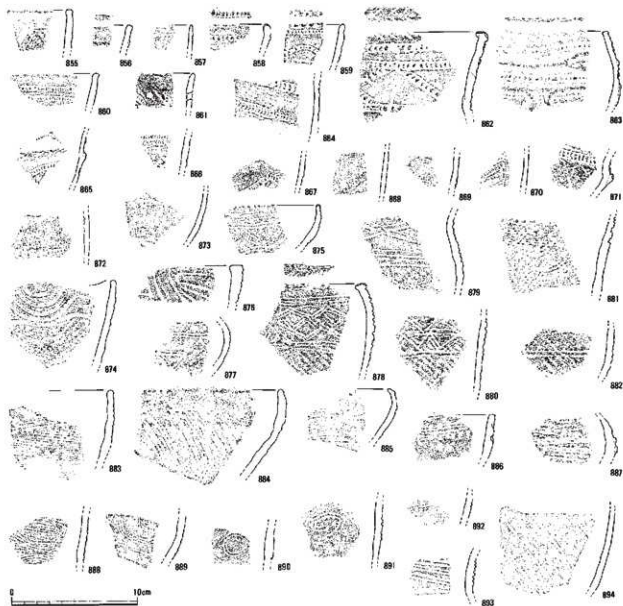


第43图 下層包含層出土土製品実測图③(1:3)

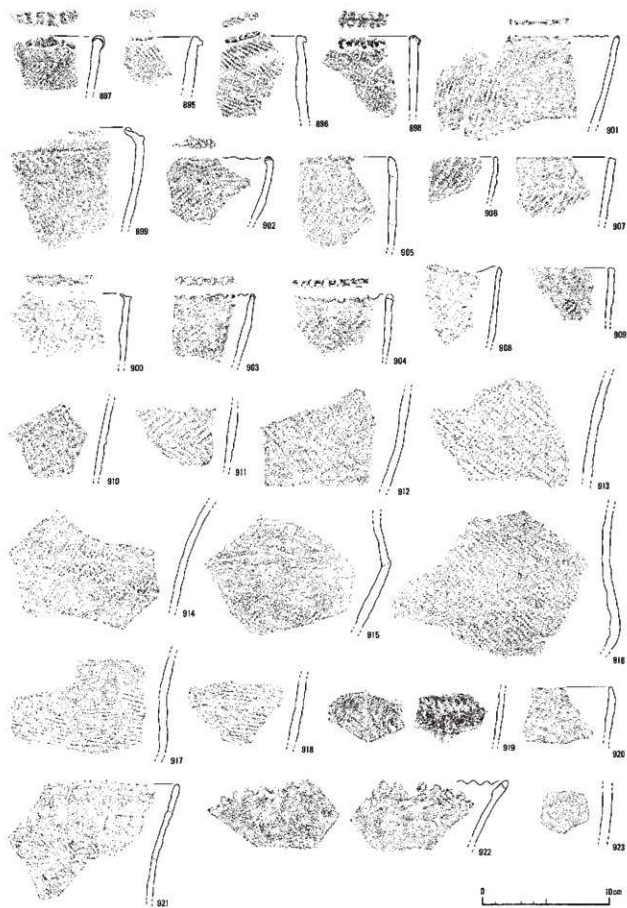
に併行するものと思われる。これら以外は、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SK103出土土製品(542~556) 542~544は深鉢、555は浅鉢である。542は内折する口縁部に刻みが施された隆帯がみられる。543は少し内弯する口縁部に2条の隆帯が施されている。544は外面全体に縄文がみられ、縦位に隆帯が施されている。545は口縁端部には刻みが施されていて、外面には縄文が施されている口縁部片である。546は口縁端部と外面には縄文が施されている口縁部片である。547は半截竹管による連続する刺突と縄文がみられる体部片である。548・549は横位に展開する隆帯と隆帯下に

は縄文が施された体部片である。550~552は外面に縄文が施された体部片である。553は大きく屈曲する口縁部に低い隆帯が口縁部と垂直になるように施されている。器形としては緑孔土器のようになると考えられる。554は半截竹管による押し引きと連続する刺突により曲線的な文様が施された口縁部片である。555は口縁部から大きく影らむ器形である。いわゆる緑孔土器と呼ばれているもので、円孔列がみられ三角状の文様が展開する入組木葉文と考えられる。556は底部片であろうか。555と同様のものになる可能性もある。553~555については、諸磯b式に併行のするものであろう。これら以外は、概ね



第44図 下層包含層出土土製品実測図④(1:3)

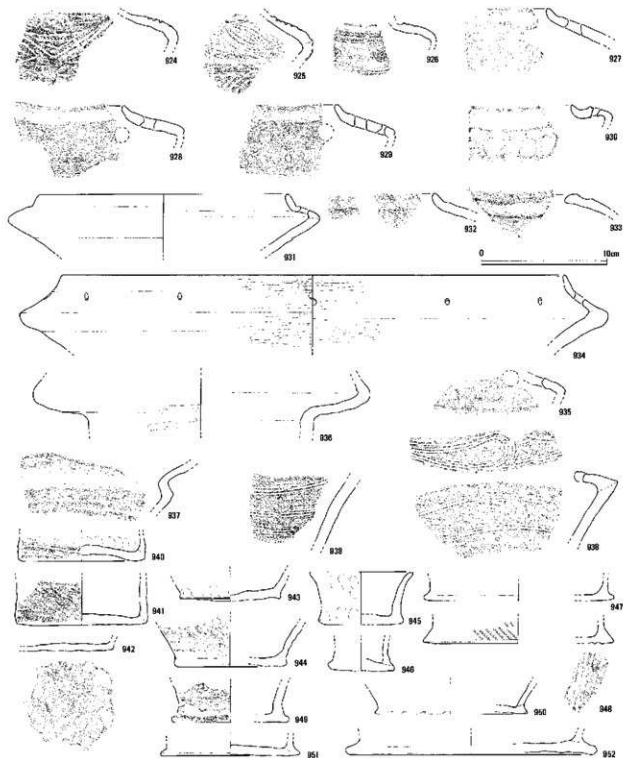


第45图 下層包含層出土土製品実測图⑤(1:3)

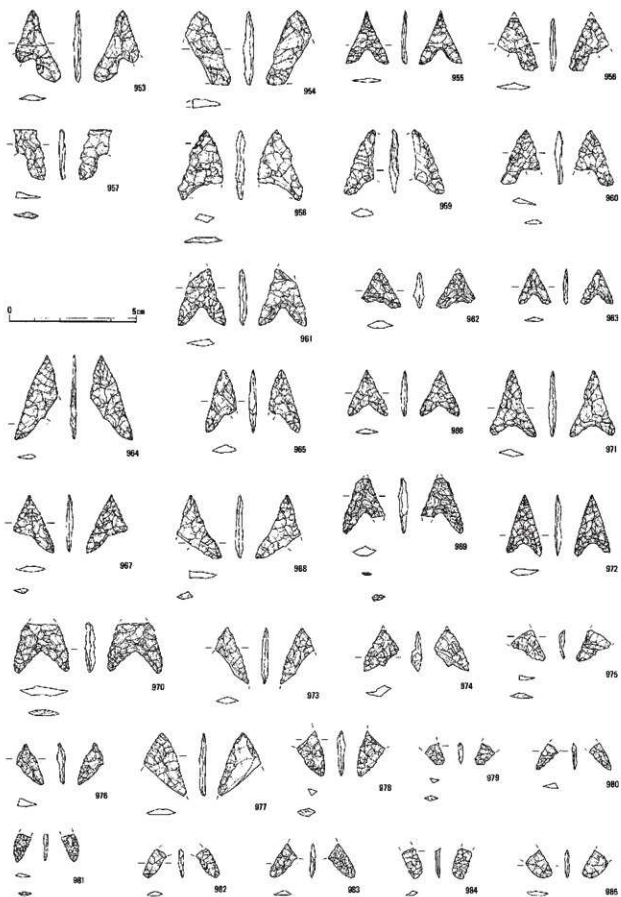
北白川下層Ⅱc式に併行するものであろう。

SK105出土土製品(557~591) 557~589は深鉢である。557・558は口縁端部に刺突が施されていて、口縁部に隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。559は口縁部には隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。560は口縁部には刻みが

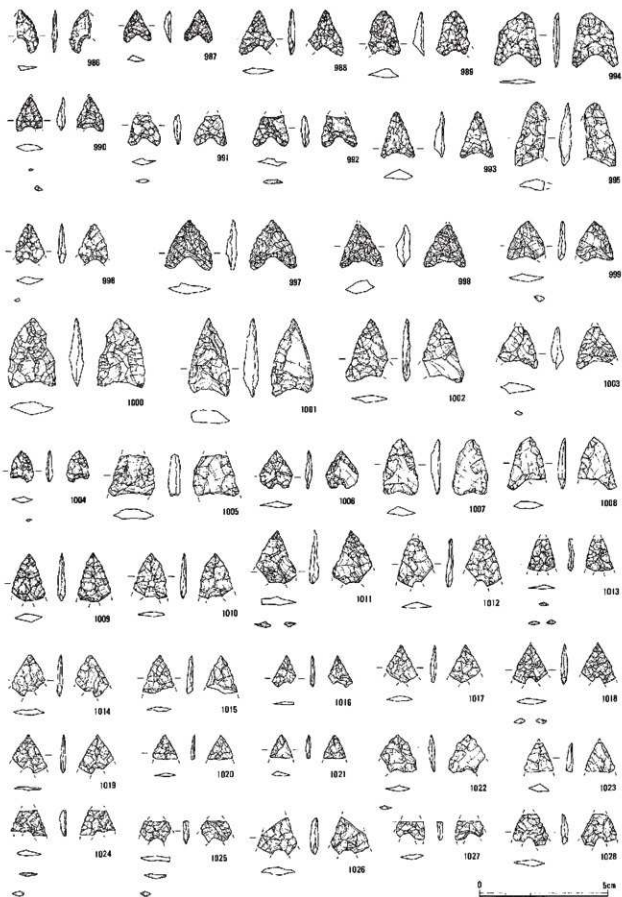
施された隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。561は口縁端部が内外に肥厚し、口縁部には刻みが施された隆帯がみられその直下には縄文が施されている。562は口縁端部に刺突が施されていて、口縁部に1条の隆帯がみられる。563は内折する口縁部に1条の隆帯がみられる。564は口縁端部



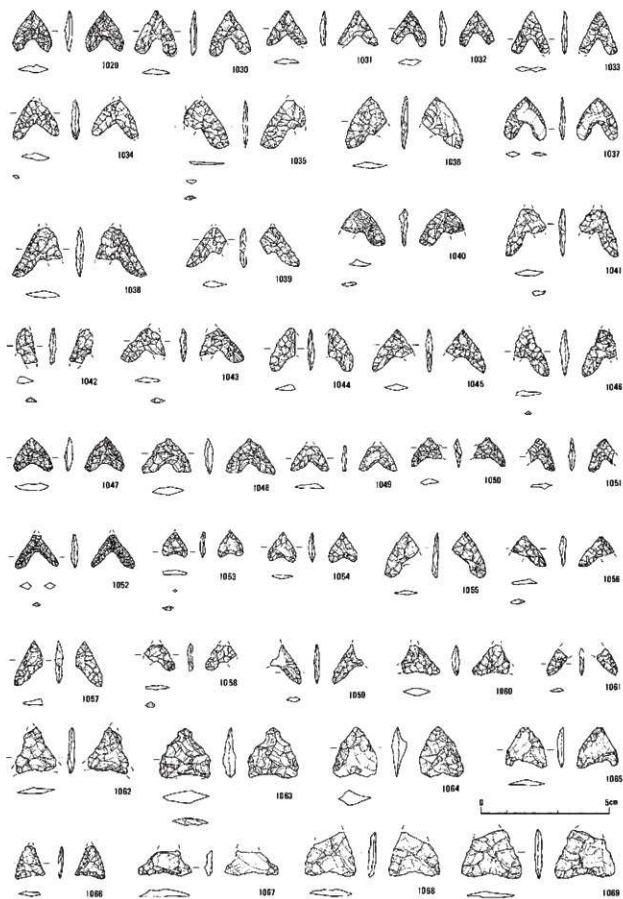
第46図 下層包含層出土土製品実測図⑥(1:3)



第47图 SH101出土石製品実測图①(2:3)



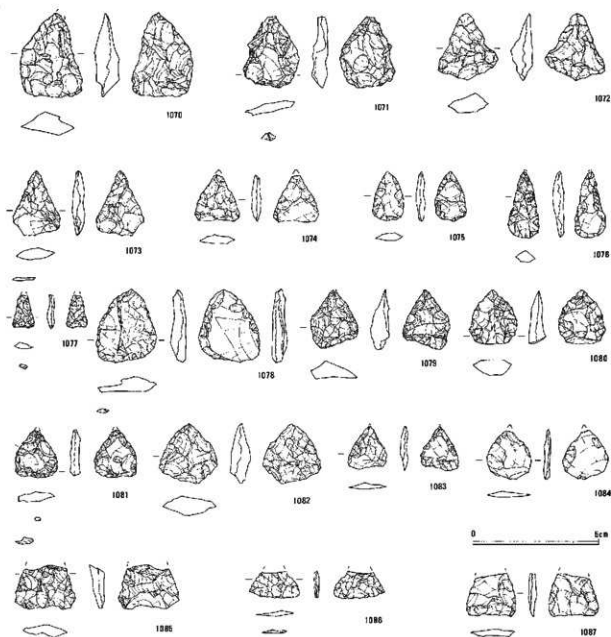
第48图 SH101出土石製品実測图②(2:3)



第49图 SH101出土石製品実測图③(2:3)

に刺突が施されていて、口縁部には縄文が施されている。565は刻みが施された隆帯が横位に展開し、その下には縄文がみられる体部片である。566は口縁部からループ状に伸びた隆帯が文様帯を区画し、口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位に展開している。567は口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位に展開している。568は内弯する口縁部には細い隆帯が2条横位に展開し、その直下には隆帯と半截竹管による文様帯が施されている。569・570は隆帯による杵状の文様帯がみられる体部片である。571・572は半截竹管による押し引

きと連続する刺突が施された口縁部片である。573は半截竹管による押し引きと連続する刺突が施された体部片である。574は半截竹管による押し引きによる文様が施された口縁部片である。575は平行する沈線状の文様が確認できる口縁部片である。576は半截竹管による押し引きによる文様が施された体部片である。577は波状口縁となる。口縁部部に縄文が施されていて、口縁部にも縄文が施されている。578は口縁部部に刻みが施されていて、口縁部には縄文が施されている。579は口縁部に縄文が施されている。580は小波状の口縁をもち、口縁部には縄



第50図 SH101出土石製品実測図④(2:3)

文が施されている。

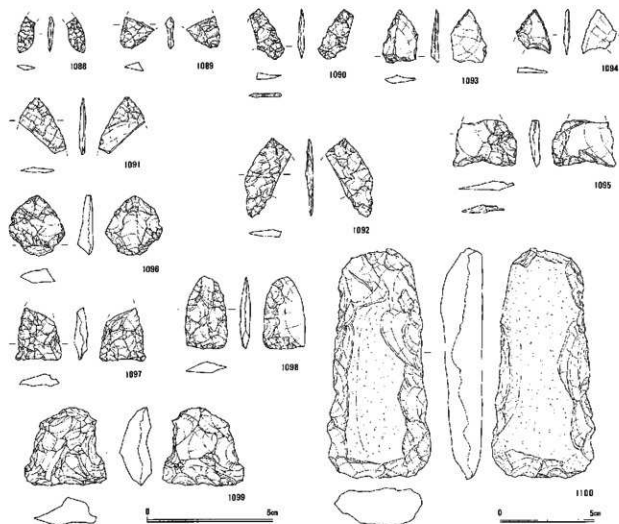
581～583は外面に羽状網文が施された体部片である。584・585は外面に縄文が施された体部片である。586は縦位の隆帯と縄文がみられる体部片である。587～589は無文系土器である。587は口縁端部に刻みが施されている。590・591は底部片である。591は小形品の底部と考えられる。これらについては、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられるが、571～573は若干新しい様相を示しているのではないだろうか。

SK106出土土製品 (592～594) 592～594は深鉢である。592は内折する口縁部とその下に刻みが施された隆帯がみられる。593・594は半截竹管による押し引きによる文様帯がみられる。これらは、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

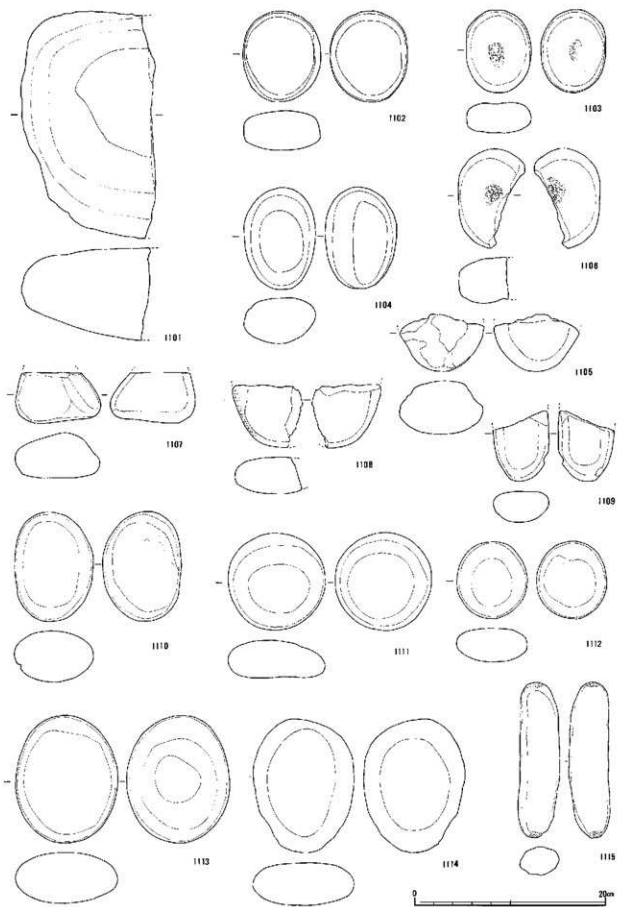
SK107出土土製品 (595) 595は口縁端部に刻みが

施され、口縁部下には刻みが施された隆帯が2条みられ、隆帯下には縄文が施された深鉢である。これらは、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

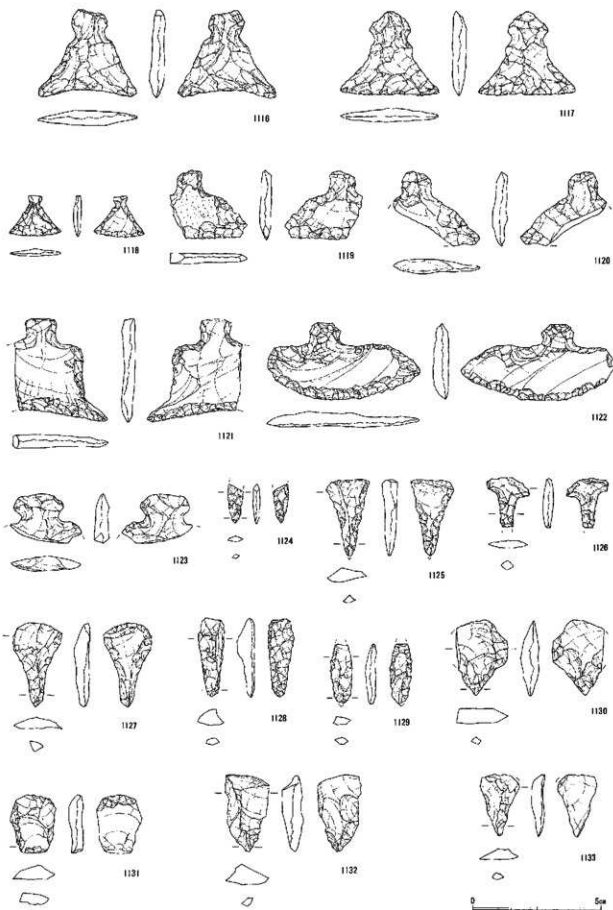
SK108出土土製品 (596～600) 596～599は深鉢である。596は大きく外反する口縁部の内外には縄文が施されている。597は内弯し外傾する口縁部の内外に縄文がみられる。外面には細く低い隆帯が2条施されている。598は半截竹管による押し引きによる文様帯がみられる口縁部片である。599は零状の隆帯が2単位みられ、その隆帯上には半截竹管による押し引きと連続する刺突が施された体部片である。600は柱状の土製品である。下端が少し曲がり、上端は何かに貼付されていた痕跡がみられる。土偶の腕部分であることが考えられる。これらは、北白川下層Ⅲ式～大歳山式²⁾に併行するものと考えられる。



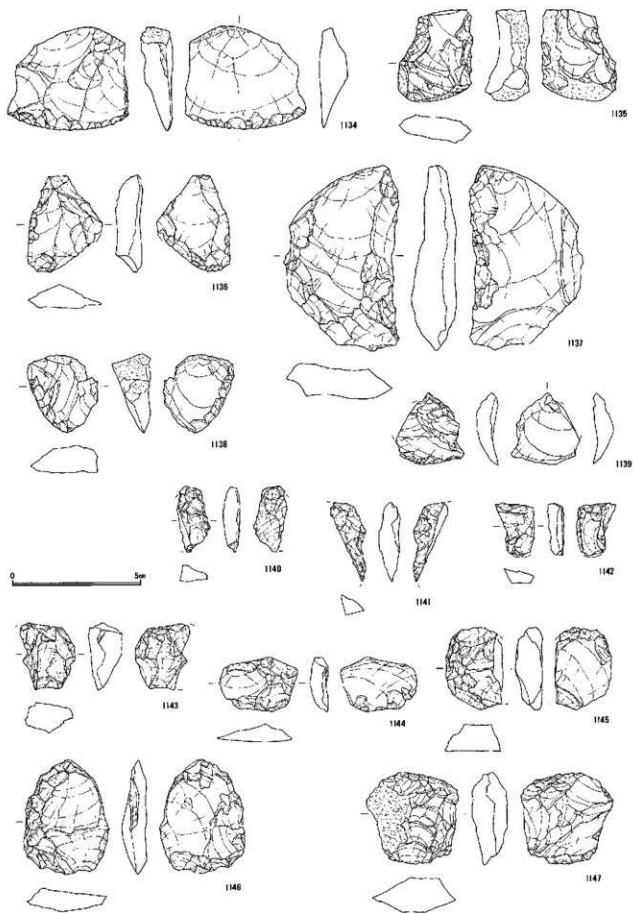
第51図 SH101出土土製品実測図⑤ (2:3、1100は1:2)



第52图 SH101出土石製品実測图⑥(1:4)



第53图 SH101出土石製品実測图(2:3)



第54图 SH101出土石製品実測图⑧(2:3)

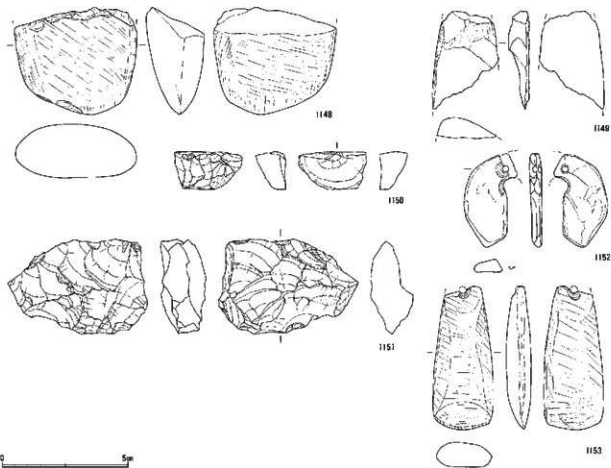
SK112出土土製品 (601~604) 601~604は深鉢である。601は半截竹管による押し引きと連続する刺突が施された口縁部片である。602は隆帯による直線と曲線の文様帯が口縁部から下に展開しているようである。603は羽状縄文が施された体部片である。604は半截竹管による押し引きと連続する刺突が施された体部片である。大きく外反する口縁部の内外には縄文が施されている。これらは、北白川下層Ⅱ式期に属するものと考えられる。

SK114出土土製品 (605) 605は底部片で、底部の接地面端が外側に突出し刻みが施されている。この土器については、北白川下層Ⅱ式期に併行するものと考えられる。

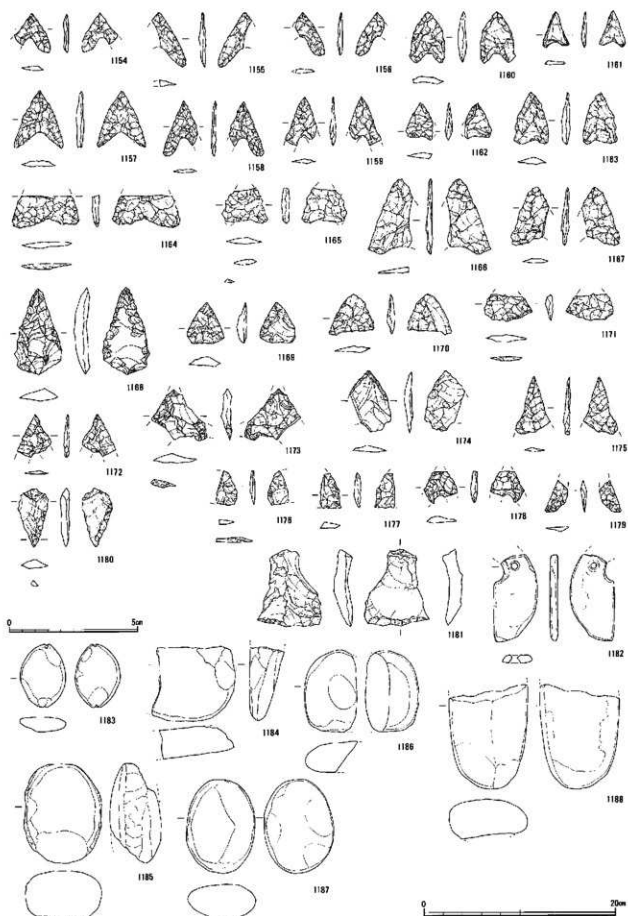
SK115出土土製品 (606~608) 606~608は深鉢である。606は刻みが施された隆帯がみられる体部片である。607は刻みが施された隆帯により棒状の文様帯がみられる体部片である。608は全体に縄文が施された体部片である。これらは、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SK119出土土製品 (609~617) 609~613・615~617は深鉢、615は浅鉢である。609・610は口縁端部に刺突が施されていて、口縁部に縄文が施された2条の隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。611は口縁部には縄文が施された2条の隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている。612は縄文が施された隆帯がみられ、その直下には縄文が施されている体部片である。613は外面に縄文が施された体部片である。614は沈線が施された屈曲部分である。615は半截竹管による押し引きと連続する刺突と縄文が施された体部片である。616は隆帯と縄文が施された体部片である。617は口縁端部に刺突が施されていて、内弯気味の口縁部には縄文が施されている。614は諸磯b式に併行するものであろう。これ以外は、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SK121出土土製品 (618~628) 618~624は深鉢、625・626は浅鉢である。618は口縁端部に刻みが施され、口縁下半には縄文がみられる。619は口縁部に



第56図 SH101出土土製品実測図⑨(2:3)



第56图 SH102出土石製品実測图①(2:3、1:4)

2条の隆帯が施され、その下に縄文がみられる。620は外面全体に縄文がみられ、刻みが施された隆帯が曲線を描いている。621は外面全体に縄文がみられ、刻みが施された隆帯が施されている。622・623は外面には縄文が施されている体部片である。624は半載竹管による直線と曲線の組み合わせの文様帯がみられる。625は半載竹管による直線と曲線の組み合わせの文様帯がみられる緑孔土器である。626は大きく屈曲する器形で、区画するように横位に展開する刻みが施された隆帯が2条みられる。半載竹管による三角状の文様がみられるようである。627・628は底部片である。625・626については諸磯b式期に属するものと思われる。これら以外のものについては、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SK122出土土製品 (629~633) 629~632は深鉢とした。629は口縁端部からループ状に伸びた隆帯が文様帯を区画し、口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位に展開しているようである。630は半載竹管による押し引きによる文様が施された口縁部片である。631は半載竹管による押し引きによる文様が施された体部片である。632は口縁端部に刺突がみられ、外面全体に縄文が施されている。633は底部片である。これらは、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

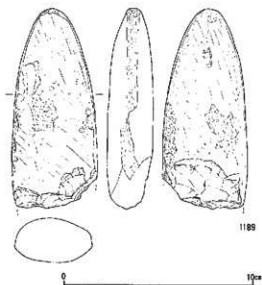
SK120出土土製品 (634~668) 634~664は深鉢、665~666は浅鉢である。634は口縁端部に刺突が施され、外面には半載竹管の押し引きによる連続する刺突がみられる。635は大きく内湾する口縁部に多条の隆帯が施されている。636は口縁端部には刺突が施され、口縁部には縄文がみられる。637は内湾する口縁部に4条の隆帯がみられる。上の3条の隆帯上には刻みが施されている。下の隆帯には斜線の沈線がみられる。638は直線的に外傾する口縁部に細い隆帯が施され、隆帯下には縄文がみられる。639は口縁部に隆帯が施され、隆帯下には縄文がみられる。640は隆帯を施し半載竹管を押し引かれたようである。隆帯下には縄文が施された体部片である。641は2条の隆帯の下に縄文が施された体部片である。642~644は隆帯上に刻みが施された体部片である。645は縄文や半載竹管による文様帯が施されている。646は口縁端部が内外に肥厚し、半載竹管による

文様帯がみられる。647は内湾する口縁部に縄文が施されたものである。648は外面に縄文が施されている体部片である。649は隆帯と隆帯に平行する沈線2条がみられ、縄文が外面全体に施されている体部片である。650~654は羽状縄文がみられる体部片である。655~661は外面に縄文が施された体部片である。662・663は半載竹管による文様帯が施された体部片である。665・666は緑孔土器と考えられる。665は口縁部付近で、縄文と半載竹管による文様帯が施されている。666は屈曲部分とよばれる。屈曲部分に刻みがみられる。667・668は底部片である。667は底部接地面が外に伸びている。634は北白川下層Ⅱb式、635については諸磯式にみられる浮線文であろうか。665・666は諸磯b式に属するものであろう。これら以外については、概ね北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SK13出土土製品 (669) 669は半載竹管による押し引きによる文様帯が施された深鉢体部片である。この土器については、北白川下層Ⅱ式期に属するものであろうか。

SD38出土土製品 (670) 670は浅鉢。いわゆる緑孔土器の屈曲部分と考えられる。この土器は諸磯b式に併行するものであろうか。

SD40出土土製品 (671) 671は無文系土器の深鉢体部片と思われる。これらは北白川下層Ⅱ式期に併行するものであろうか。

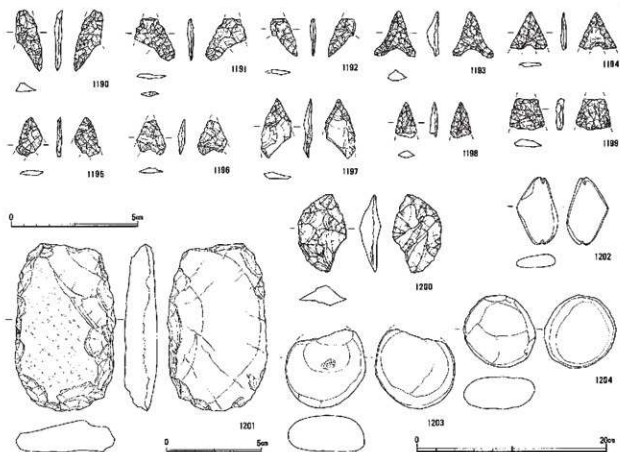


第57図 SH102出土土製品実測図②(1:2)

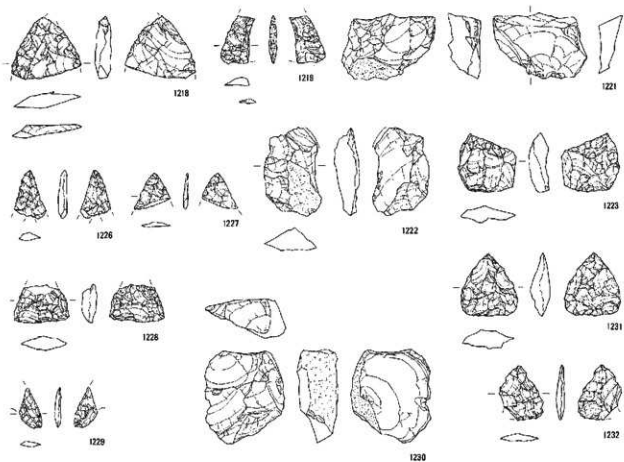
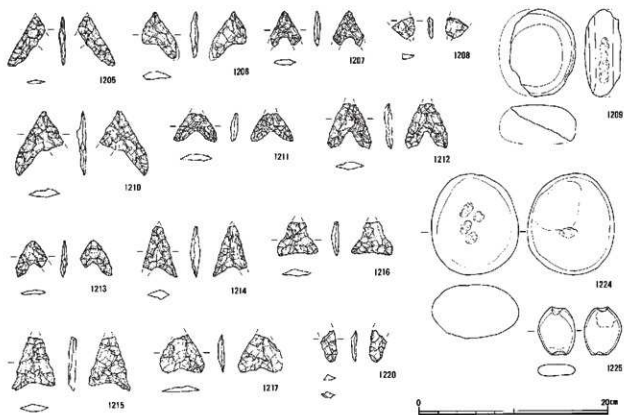
SD46出土土製品 (672~705) 672~697・700は深鉢、698・699は浅鉢とした。672~674は口縁端部からループ状に伸びた隆帯が文様帯を区画し、口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位あるいは縦位に展開している。675は刻みが施された隆帯が横位に展開している体部片である。676は内折した口縁部に縄文が施された3条の隆帯がみられ、その直下には縄文がみられる。677は口縁部に刻みが施された2条の隆帯がみられ、その直下には縄文がみられる。678は口縁部に刻みが施された2条の隆帯が施されている。679は口縁端部に刺突が施されて、内折した口縁部の屈曲部分に刻みがみられ、その下には縄文が施されている。680は内折した口縁部に隆帯が施されている。681は口縁部に沈線が2条横位に展開し、その下に縄文が施されている。682は口縁端部に刺突が施され、内湾する口縁部に縄文がみられる。683は口縁端部に刺突が施され、その下に縄文がみられる。684~687は縄文が施された体部片である。688は半截竹管による幾何学的な文様がみられ、その下に縄文が施されてい

る。689~693は半截竹管による文様帯が施されている口縁部片である。694・695は半截竹管による文様帯が施されている体部片である。696は大きく内折する口縁部をもち、半截竹管による押し引きと連続する刺突と三角の文様が施されている。697は大きく内折する口縁部をもち、縄文が施されている。698は大きく膨らむ器形で、緑孔土器であろうか。隆帯に半截竹管による押し引きと連続する刺突が施されている。699は大きく膨らむ器形で、緑孔土器と考えられる。700は口縁端部に刺突が施されている。701~705は底部の接地面が突出している底部片である。696~699は諸磯b式に併行するものであろう。これら以外は、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SD47出土土製品 (706~712) 706~712は深鉢とした。706は口縁端部に刺突が施され、その下に細い隆帯が4条みられる。707は半截竹管による押し引きと連続する刺突が施されている口縁部片である。708・709は半截竹管による押し引きと連続する刺突が施されている体部片である。710・711は半截竹管



第58図 SH113出土土製品実測図 (2:3, 1201は1:2, 1202~1204は1:4)



SK103:1205~1209 SK105:1210~1225 SK108:1226~1230 SK110:1231~1232

第59図 SK103・105・108・110出土石製品実測図(2:3、1209・1224・1225は1:4)

による文様帯が施されている体部片である。712は細い隆帯が施されている体部片である。諸磯も式期縁孔土器の一部分の可能性もある。これらについては、北白川下層Ⅲ式～大蔵山式に併行するものと考えられる。

SD48出土土製品 (713～720) 713～719は深鉢。720は浅鉢であろうか。713・714は口縁部に刺突列が施されている。瀬戸内地方の彦崎Ⅱ式の影響を受けたものと考えられる⁹⁾。715は半載竹管による押し引きと連続する刺突が施されている体部片である。716は半載竹管による連続する刺突文が施されている体部片である。717・718は半載竹管による文様帯が施されている体部片である。719は羽状縄文がみられる体部片である。720は半載竹管による連続する刺突文が施されている体部片である。これらは北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

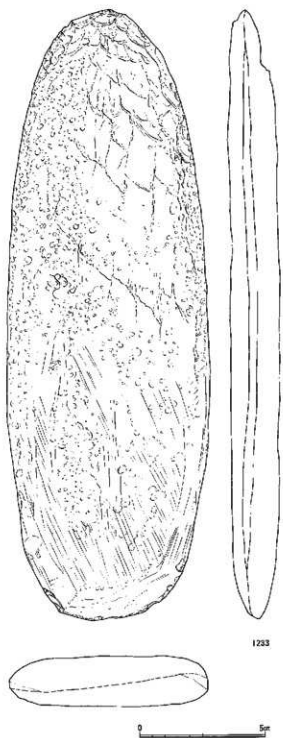
SD50出土土製品 (721～724) 721～723は深鉢である。721は口縁部に2条の隆帯がみられ、隆帯下に縄文が施されている。722は半載竹管による文様帯が施されている口縁部片である。723は縄文が施されている口縁部片である。724は底部片である。これらは、概ね北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

SD52出土土製品 (725～727) 725～727は深鉢。725は内湾する口縁部をもつ無文系土器である。726は波状の沈線と縄文が施されている。727は半載竹管によるものと直線と曲線の組み合わせの文様帯が施されている体部片である。これらは北白川下層Ⅱ式期に属するものと考えられる。

包含層出土土製品 (728～952) 728～952は縄文時代前期以降の包含層から出土したものを一括した。若干深めに掘削を行っているので遺構検出面を一部掘削している可能性がある。なお、調査を進めていく過程で、平板によるドットマッピングを行っている部分がある。728～804はその調査時に確認したもので、805～952はドットマッピングを行わず、地区杭単位で取り上げたものである。

728～759・763～794は深鉢、760～762は浅鉢と考える。728は外傾する口縁部に平行するように縄文が施された2条の隆帯が展開している。その文様帯の下には縄文が施されている。729は内湾する口縁

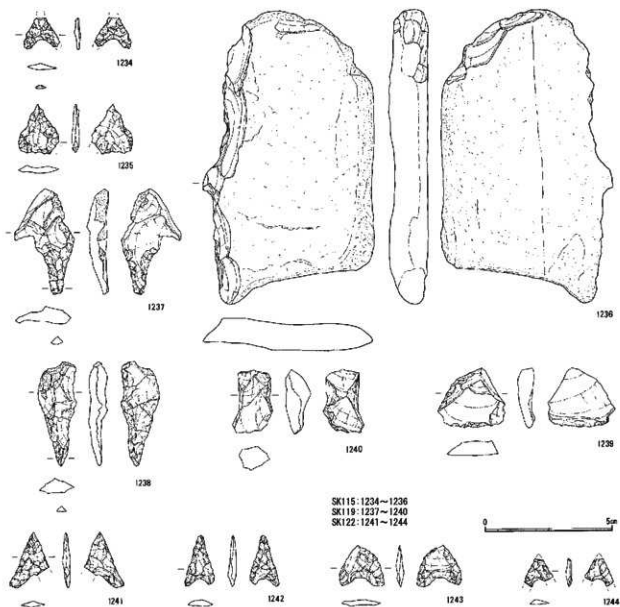
部に平行するように刻みが施された3条の隆帯が展開している。その文様帯の下には縄文が施されている。730は外傾する口縁部に平行するように刻みが施された2条の隆帯が展開している。その文様帯の下には縄文が施されている。731は外傾する口縁部に平行するように刻みが施された1条の隆帯が展開



第60図 SK112出土土製品実測図(2:3)

している。その文様帯の下には縄文が施されている。732は内湾する口縁部に平行するように刻みが施された2条の隆帯が展開している。その文様帯の下には縄文が施されている。733は口縁部に平行するように刻みが施された2条の隆帯が展開している。その文様帯の下には縄文が施されている。734は内外面の縄文が施されていて、口縁端部には刺突、波頂部から縦位に伸びる隆帯と横位に展開する隆帯がみられる。735は内湾する口縁部に平行するように刻みが施された2条の隆帯が展開している。736は口縁端部に刻み、口縁部に平行するように刻みが施された1条の隆帯がみられ、その文様帯の下には縄文

が施されている。737~742は内折する口縁部に、屈曲部分から下にかけてまで、細い刻みが施された隆帯が区画をしつつ、幾何学的な文様帯が横位に展開する。743・744は外傾する口縁部に、細い刻みが施された隆帯が区画をしつつ、幾何学的な文様帯が横位に展開する。745は内湾する口縁部に、細い刻みが施された隆帯が区画をしつつ、幾何学的な文様帯がみられる。文様帯下には縄文が施されている。746~748は口縁部に平行するように刻みが施された細い隆帯が3条以上みられるものである。749は刻みが施された2条の隆帯と縄文がみられる体部片である。750は波状口縁に沿うように曲線を描く刻みが

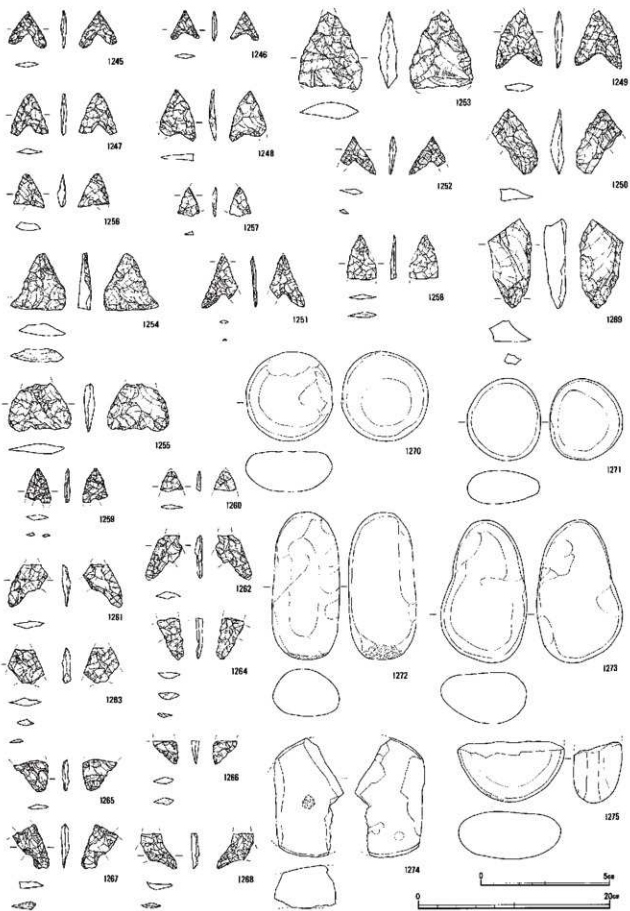


第61図 SK115・119・122出土石製品実測図(2:3)

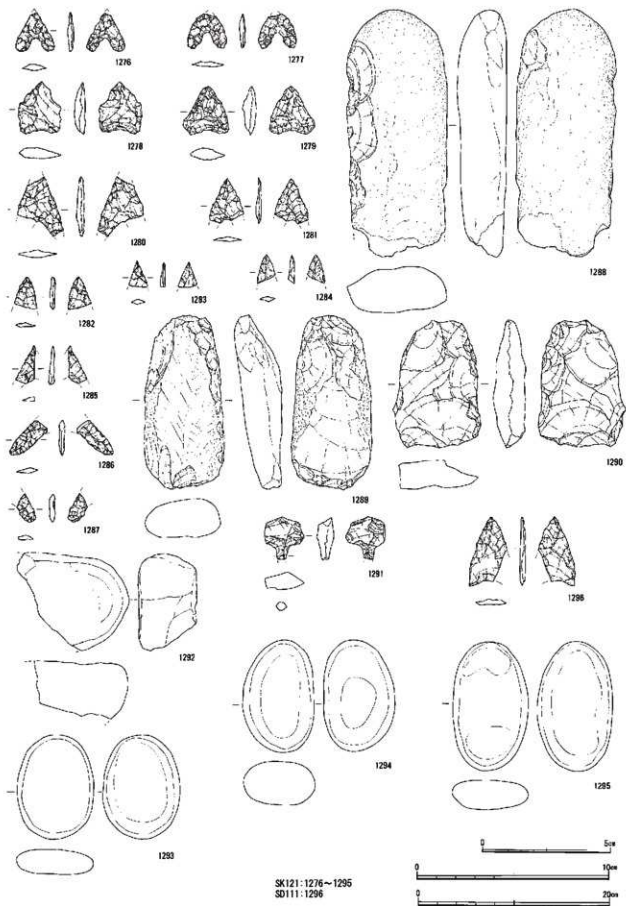
施された隆帯がみられる。751は内接する口縁部に刻みが施された細い隆帯が縦位と横位に展開し、隆帯の下には全体に縄文がみられる。752は内湾気味の器形で、外面には隆帯と縄文が施されている体部片である。753は口縁部に曲線を描く細い隆帯がみられる。754は細い隆帯が曲線を描いている。755は隆帯上半載竹管による押し引きと刺突が認められる口縁部片である。756は半載竹管による押し引きと連続する刺突がみられる口縁部片である。757は半載竹管による押し引きと連続する刺突がみられる体部片である。758は半載竹管による押し引きの文様がみられる体部片である。759は口縁端部に刺突、また外面全体に刺突が施されているようである。760～762は縁孔土器の屈曲部分と考えられる部位であろう。760は沈線と三角状の文様が、761は隆帯による文様帯が、762は沈線間に刻みが施された文様帯が三角状あるいは渦巻状の文様を構成するようである。763・764は口縁端部に縄文が施され、少し無文部があり、その下に縄文がみられる。765は口縁端部に刻みが施され、少し無文部があり、その下に縄文がみられる。766・767は外面に縄文が施された口縁部片である。768は刻みが施された隆帯と羽状縄文がみられる体部片である。769は羽状縄文と刺突が施された体部片である。770は半載竹管による文様帯と羽状縄文が施された体部片である。771～780は外面に羽状縄文が施された体部片である。781～792は外面に縄文が施された体部片である。793～795は無文系土器である。794については、内外面ともに板状工具による条痕が施されている口縁部片である。796～804は底部片である。755は北白川Ⅲ式、760～762は諸磯Ⅱ式に属するものであろう。先の述べたもの以外については、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

805～923・938・939は深鉢、924～937は浅鉢とした。805は口縁部に平行するように縄文が施された隆帯が横位に展開している。その文様帯の下には縄文が施されている。806・807は刻みが施された隆帯が2条みられる隆帯の下には縄文が施される。808・809は内折した口縁部に刻みが施された隆帯がみられる。810・811は内湾する口縁部に刻みが施された隆帯が3条みられる。812・813は縄文が施された隆

帯がみられる口縁部片である。814は刻みが施された隆帯がみられる口縁部片である。815は口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位に展開し、その文様帯の下には縄文が施されている。816は隆帯による杵状の文様帯がみられる口縁部片である。817～820は口縁端部からループ状に伸びた隆帯が文様帯を区画し、口縁部に平行するように刻みが施された隆帯が横位に展開している。その文様帯の下には縄文が施されているようである。821は縄文が施された隆帯と外面に縄文がみられる体部片である。822～824は刻みが施された隆帯と外面に縄文がみられる体部片である。825～828は口縁部に平行する刻みが施された隆帯がみられる。829～833は内折した口縁部に刻みが施された細い隆帯が文様帯を構成している。834は外傾する口縁部に隆帯が幾何学的な文様を構成している。835は内湾する口縁部に隆帯が幾何学的な文様を構成している。836・837は口縁端部に刻みが施され、刻みが施された隆帯が数条みられる。838・839は刻みが施された細い隆帯が多条みられる体部片である。840・841は縄文が施された細い隆帯がみられる体部片である。842・843は刻みが施された細い隆帯により直線と渦巻状の文様帯が認められる口縁部片である。844～848は刻みが施された細い隆帯により直線と渦巻状の文様帯が認められる体部片である。849は口縁端部に刺突が施され、隆帯にも刺突がみられ、その下には縄文が施されている。850は口縁端部に刺突が施され、波頂部から垂下する隆帯にも刺突がみられる。外面全体に縄文が施されて、口縁部に沿うように半載竹管押し引きの文様帯がみられる。851は細い隆帯に沿うように半載竹管による押し引きがみられる口縁部片である。852は細い隆帯に沿うように半載竹管による押し引きがみられる体部片である。853は口縁端部には間隔の狭い刺突がみられ、刻みが施された細い隆帯が3条みられ、内面にも端部付近に縄文が施されている。854は細い隆帯に沿うように半載竹管による押し引きがみられる口縁部片である。隆帯による三角状の文様がみられる。855・856は半載竹管による押し引きの文様が施されている口縁部片である。857～861は半載竹管による押し引きと連続する刺突が施されている口縁部片である。862は口縁端部に矢



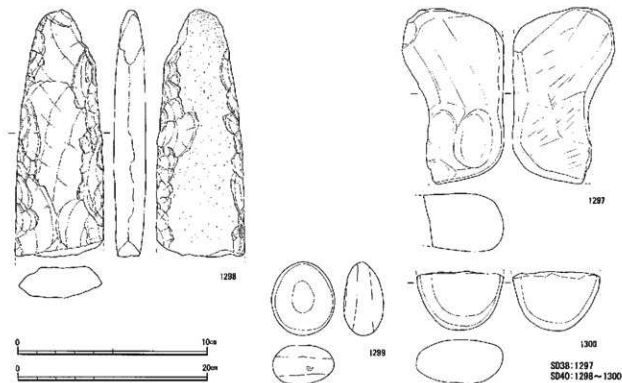
第62図 SK120出土石製品実測図 (2:3、1270~1275は1:4)



第63図 SK121・SD111出土石製品実測図（2：3、1288~1289は1：2、1292~1295は1：4）

羽状の刻みがみられ、外面には太い半截竹管による押し引きと連続する刺突が施されている口縁部片である。863は口縁端部に刻みがみられ、外面には太い半截竹管による押し引きと連続する刺突が施されている口縁部片である。864～873は半截竹管による押し引きと連続する刺突が施されている体部片である。874は波状口縁をもち棒状工具による多条の沈線が施された口縁部片である。875・876は半截竹管押し引きの文様帯がみられる口縁部片である。877は外面に半截竹管の押し引きによる文様帯が施されている体部片である。878は口縁端部に矢羽状の刺突が施され、内湾する口縁部には半截竹管押し引きによる横位の区画の間に菱形状の文様帯が、その下に縄文がみられる。879は半截竹管押し引きによる横位の区画の間に菱形状の文様帯が、その下に縄文がみられる体部片である。880は半截竹管押し引きによる横位の区画の間に人組状の文様帯が、その下に縄文がみられる体部片である。881は連続する刺突が3条みられ、その下には縄文が施されている体部片である。882は縄文が全体に施されていて、半截竹管押し引きによる文様帯がみられる。883・884は内湾する口縁部に半截竹管押し引きによる横位と

斜位の文様帯が施されている。885は内湾する口縁部に半截竹管押し引きによる文様帯が施されている。886は半截竹管押し引きによる文様帯と刺突列が施された口縁部片である。887は半截竹管押し引きによる横位の文様帯が施されている体部片である。888～891は半截竹管押し引きによる渦巻状の文様帯が施されている体部片である。892・893は半截竹管押し引きによる文様帯が施されている体部片である。894は外面に沈線が施された体部片である。895は口縁部に沿うように隆帯がみられ、端部や外面に縄文が施されている。897は肥厚する口縁端部に刺突がみられ、少し無文の部分がありその下に縄文が施されている。898は肥厚する口縁端部に平行に刺突列がみられ、外面の全体に縄文が施されている。899・900は内折する口縁部の屈曲部分より下に縄文がみられる。901～904は口縁端部に刺突がみられ、少し無文の部分があり、その下に縄文が施されている。905～909は上から少し無文の部分がありその下に縄文が施されている口縁部片である。910・911は外面に羽状縄文がみられる体部片である。912～919は外面に縄文が施されている体部片である。920～923は無文系土器である。920・921は口縁部片、922は波



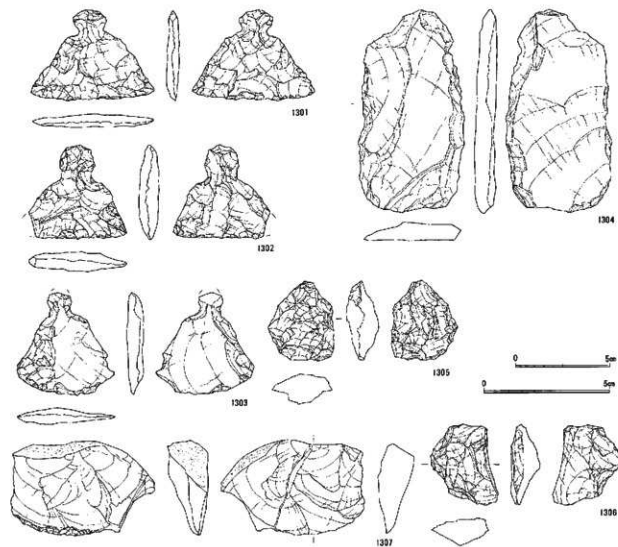
第64図 SD38・40出土石製品実測図(1:4, 1298は1:2)

状口縁をもつもの、923は体部片である。924～937はいわゆる縁孔土器と呼称されているものと考えられる。924～926は三角状や曲線の文様が施されている。927～934は加飾がみられない口縁部片である。貫孔がすべて認められる。935～937は屈曲部分と思われる。938は口縁部が大きく内折し、縄文が外面全体にみられ、半截竹管による直線と曲線の文様帯が施されている。939は縄文が外面全体にみられ、半截竹管による直線と曲線の文様帯が施されている体部片である。940～952は底部片である。944～952は底部接地面の外面が外側に大きく出ている。948は底面に土器製作時において使用した植物性のものを敷いた痕跡である可能性のあるものがみられる。755・851～853は北白川下層Ⅲ式、760～762は諸磯b式に併行するものであろう。877～880については

諸磯a式の模倣土器の可能性⁹⁾がある。924～938は諸磯b式に属するものであろう。926は模倣土器高浜カタログ6類という指摘がある¹⁰⁾。先の述べたもの以外は、北白川下層Ⅱc式に併行するものと考えられる。

2 石製品

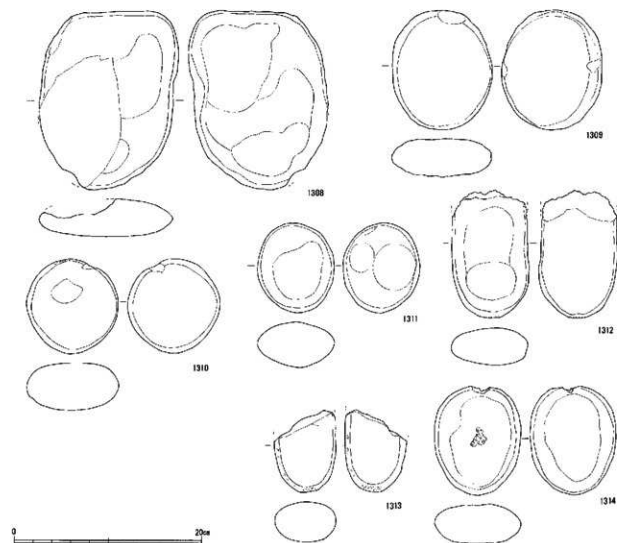
SH101出土石製品 (963～1153) 953～985は縦長の長脚礫で、脚部が外側に突っ張るような形状と考えられる。完形のもの少ないが、955は典型であろう。963や966は突っ張るような感じが薄れ、規模としては短小である。971や972は脚部が短くなるものである。973～985は脚部のみ残存のものである。986～1028は縦長の長脚礫で、脚部が外側に突っ張



第65図 SD46出土石製品実測図① (2:3、1304は1:2)

るような形状であり、脚部自体が短くなるものである。993・1000・1001・1007をみれば脚部の短縮傾向が明確である。また、997～999のように縦長ではあるが、規模の短小化がより進んだものといえよう。1009～1023は先端部から袂りのある部分にかけて残存のものである。1024～1028は袂りのある部分付近が残存している。1029～1046は長脚鎌で、脚部が長大化し外側に開く形状である。1029・1030・1031・1034のようにブーメランに似た形状であることがわかる。1042は先端部分、1043～1046は脚部が残存しているものである。1047～1061は長脚鎌で、脚部が長大化し外側に開く形状で、先述のものより幾分か小形化したものである。1047・1048・1052が典型的なものである。1055～1061は脚部が残存しているものである。1062～1069は若干の袂りがあり、三角鎌

までには至らないものであると考えられる。これまでの記述してきたものと比較すると、石器の製作が粗雑な感を受ける。1070～1087、1093～1099はいわゆる三角鎌である。1070・1072のような大形のものから、1077のような小形のものまでが含まれる。全体的に石器の作成について粗い感を受ける。1088～1092は脚部が残存したものである。1100は打裂石斧である。片面は刃部の加工が丁寧であるが、他の面はあまり意識はしていないような状況が読み取れる。1101は石皿。残存している中央部分の摩滅が激しい。1102～1105は敲石である。1102については側面の使用頻度が高いらしく面を持つほどであることがわかる。1106～1114は磨石である。1111・1112は円形、1109・1110・1113・1114は楕円形、1107は不整形な形状であることが認められよう。1115は棒状で、両

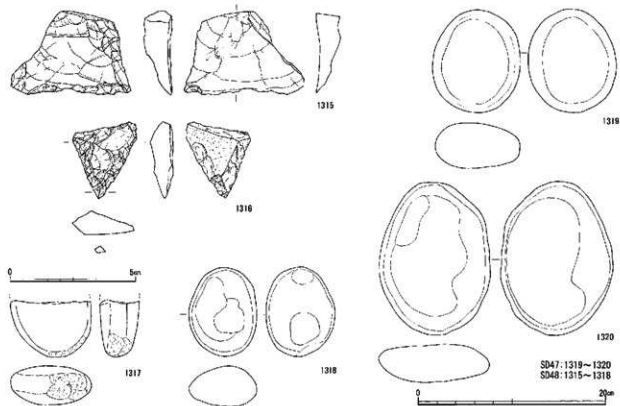


第66図 SD46出土石製品実測図② (1:4)

端は若干の使用痕がみられる。同じ櫛田川流域の鴻ノ木遺跡や新徳寺遺跡などでも、時期は違うものの同形状のものが確認されている⁹。何に使用されていたかは明らかではない。1116～1123は石匙である。1116・1117・1118は台形状、1119・1120は背の低い台形状、1121は台形の底辺部分が棒状に延び開くもの、1122はナイフ状の形状であることが認められる。1118については小形のもので、実用というよりも祭祀等の非日常的な何かに使用されていたのではないだろうか。1124～1133は石錐である。1126のように金錐状の基部をもつものか、1127のように扁平な基部をもつものかに分かれるようである。1134～1137は削器と判断した。1137にみられるように大形のものや、1139のように小形のものが見られ、大小の多様性がみとれる。1140～1147は楔形石器とした。全てのものに共通して、隅の丸い長方形形状であることがわかる。1148・1149は磨製石斧である。1148は刃部、1149は基部付近であろうか。1150・1151は石核である。1152は塊状耳飾である。貫孔に部分から欠失している。1153は垂飾とした。完存とは言い難いが全体の形状がわかるものである。貫孔部分の上

半が欠失している。小形磨製石斧の転用である可能性がある。玉斧と呼ばれているものである。これらについては、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に所属するものと考えられる。

SH102出土土製品 (1154～1189) 1154～1179は石鏃である。1154～1157は縦長で、脚部自体が短くなるものである。1158・1159は縦長で、脚部が外側に突っ張るような形状のものと考えられる。1160～1167は大小の差はあるが、縦長で脚部自体がより短くなるものである。1168は前代の有舌尖頭器の形状と類似している。当該期においても、前代に引き継ぎ、量的には少ないが有舌尖頭器は残る状況である⁹。1169～1171は挟りがないものである。1172～1177は残存の度合いの違いはあるが先端部分である。1178は挟りが入った部分、1179は脚部であろう。1180は石錐の先端部分である。1181は台形状の削器である。石匙に近い形のようなものである。1182は塊状耳飾である。貫孔の部分から欠失している状況がみとれる。1183は切目石錐とした。管見の上で、最も古い時期のものになるのではないだろうか⁹。当該期の漁撈活動を考える上で、大きな成果と考える。1184は台石である。1185～1188は磨石



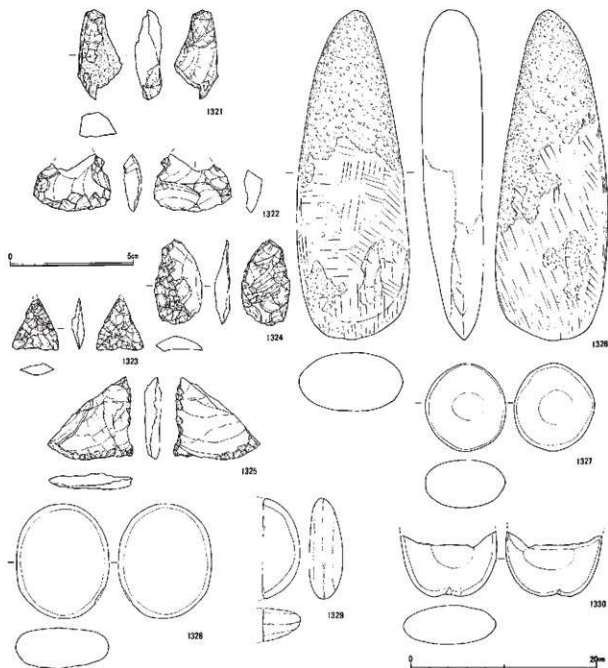
第67図 SD47・48出土土製品実測図(1:4、1315～1316は2:3)

である。楕円形のものほとんどである。1186は磨石でない可能性がある。1189は磨製石斧である。刃部の部分が欠失しているようである。これらは、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯Ⅱ式期に所属するものと考えられるが、出土土器の時期から若干新しくなる可能性がある。

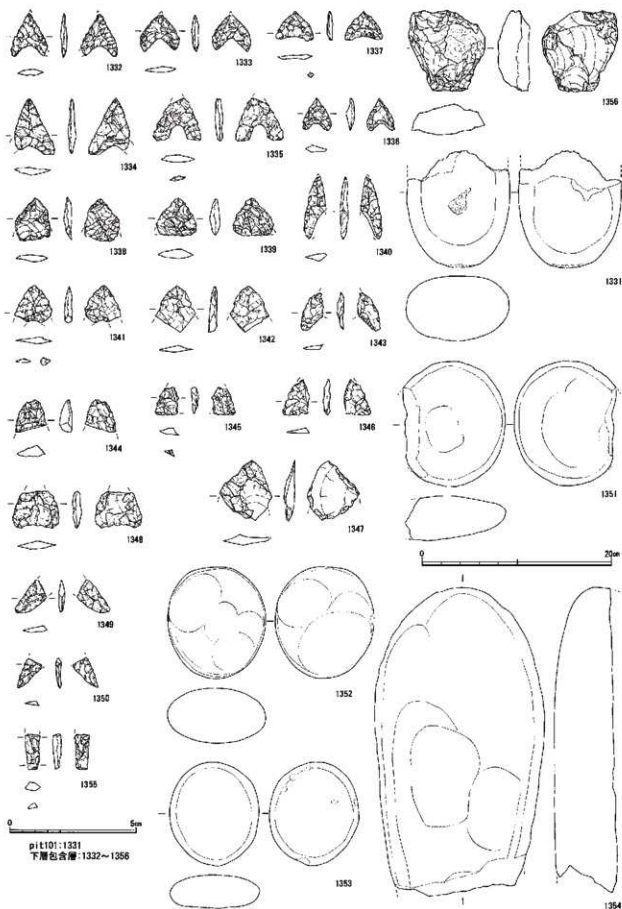
SH113出土石製品 (1190~1204) 1190~1200は石鏃である。1190・1191は縦長で脚部が長くなるものである。1192は残存している部分が少ないがブーメラン状の形状のものであろうか。1193は縦長で、脚

部自体が短くなるものである。1194~1198は残存の度合いの違いはあるが先端部分である。1199・1200は挟りがないものである。1201は打製石斧である。片面において刃部の加工が顕著であることが認められる。1202は切目石鏃である。管見の上で、最も古い時期のものにならう。1203は磨石である。1204については用途不明である。磨石の可能性も否定はできない。これらは、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯Ⅱ式期に所属するものといえよう。

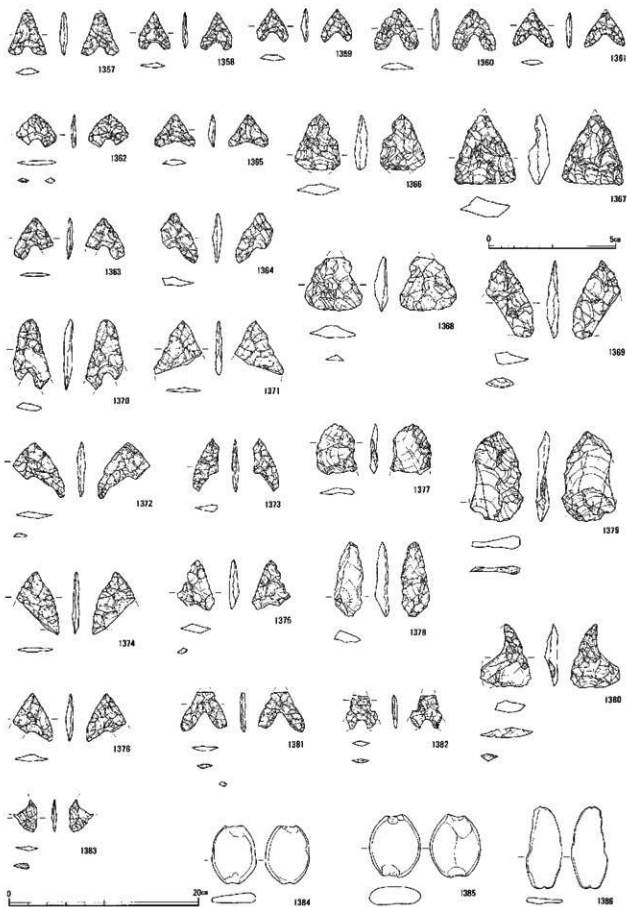
SK103出土石製品 (1205~1209) 1205~1208は石



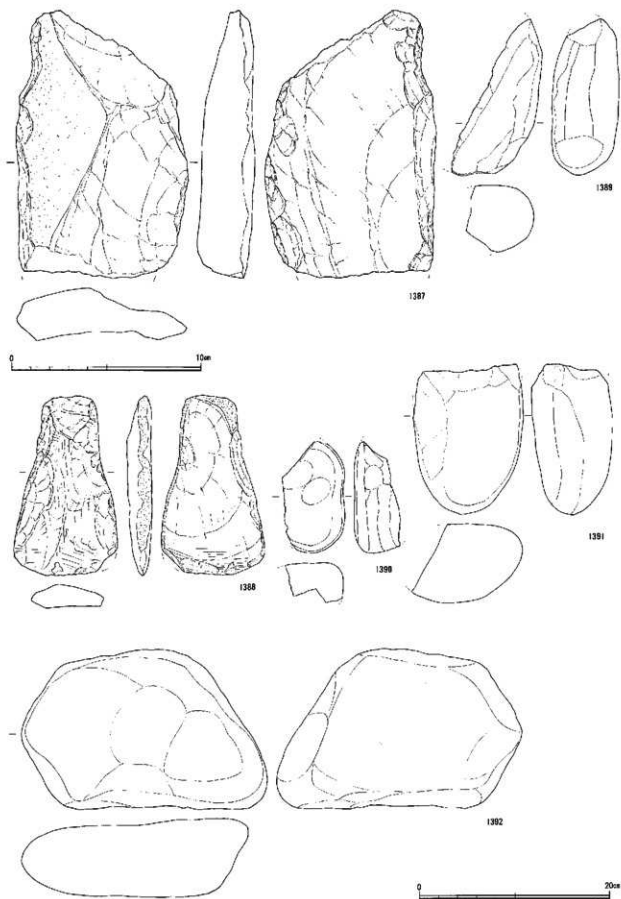
第68図 柱穴・上層包含層出土石製品実測図 (2 : 3、1327~1330は1 : 4)



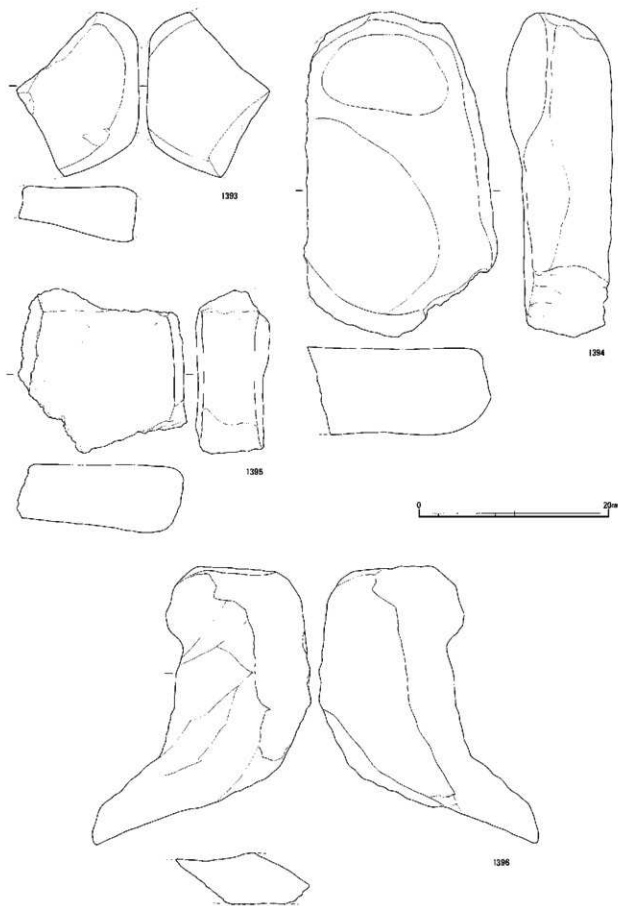
第69図 柱穴・下層包含層出土石製品実測図（2：3、1331・1351～1354は1：4）



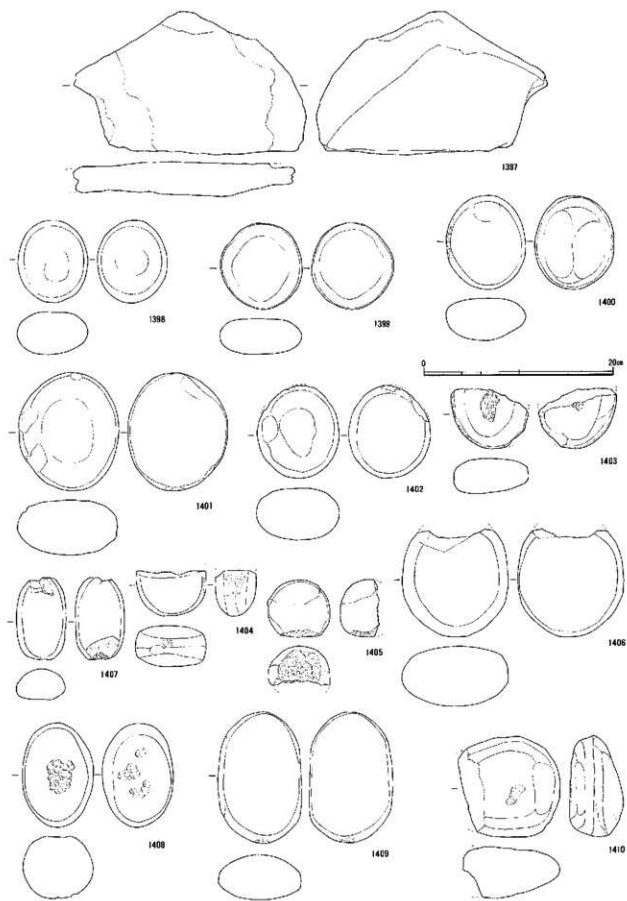
第70図 下層包含層出土石製品実測図①(2:3、1384~1386は1:4)



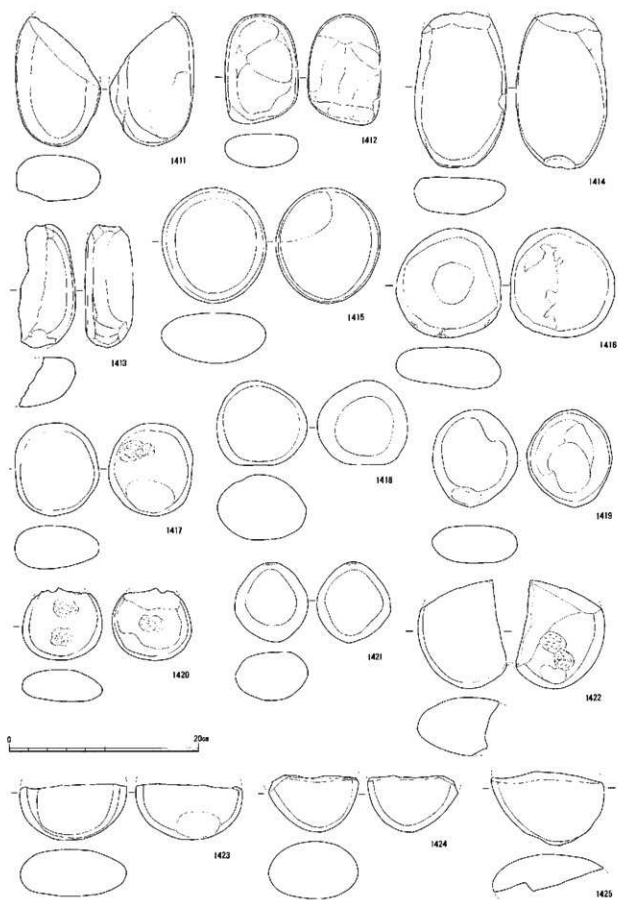
第71図 下層包含層出土石製品実測図② (1:4、1387・1388は1:2)



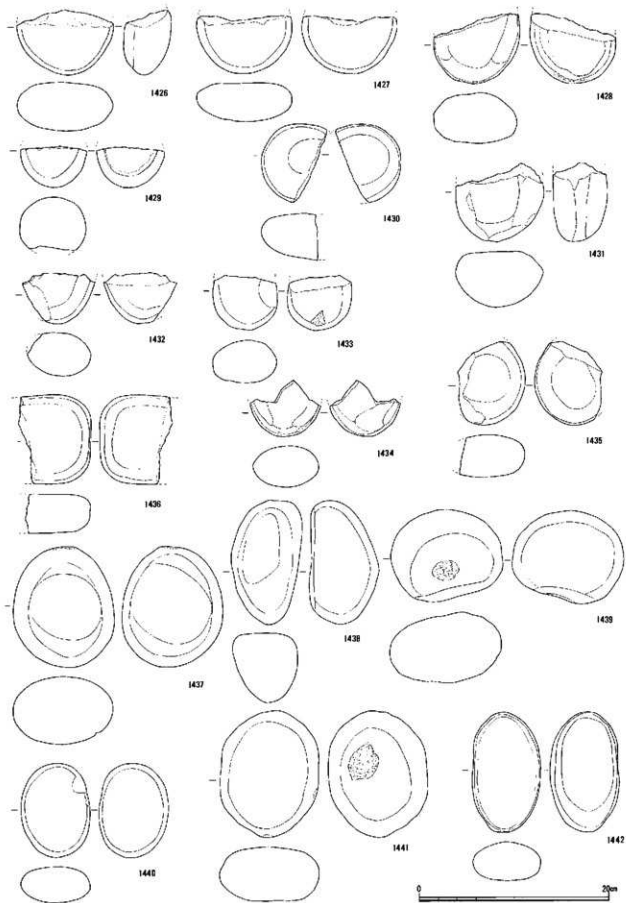
第72図 下層包含層出土石製品実測図③(1:4)



第73图 下層包含層出土石製品実測图④ (1:4)



第74图 下層包含層出土石製品実測图⑤(1:4)



第75図 下層包含層出土石製品実測図⑥ (1:4)

鎌である。1205・1206は縦長で脚部が長くなるものである。1207・1208残存の度合いの違いはあるが先端部分である。1209は円形の磨石であろう。これらは、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に属するものと考えられる。

SK105出土石製品 (1210～1225) 1210～1220は石鎌である。1210は縦長で脚部が長くなるものである。1211～1213は、長軸方向が短くて脚部自体も短くなるものである。1214・1215は縦長で脚部が短いものである。1216・1217は挟りの入れ方が浅いものである。1218・1219は挟りがないものであろうか。1220は脚部である。1221は石核である。1222は削器。隅の丸い長方形を呈している。1223は楔形石器とした。1224は円形の磨石である。1225は打欠石錐である。これらについては、北白川下層Ⅱc式期に所属するものと思われる。

SK108出土石製品 (1226～1230) 1226～1229は石鎌である。1228は挟りがないものであろう。1230は石核である。隅の丸い長方形である。これらは、北白川下層Ⅲ式期に所属するものであろう。

SK110出土石製品 (1231・1232) 1231・1232は石鎌である。挟りがないものであろう。これらは、北白川下層Ⅱ式期に属するものと考えられる。

SK112出土石製品 (1233) 1233は磨製石斧である。大形のもので、先端部分がよく磨れている。実用にはそぐわない大きさであるので、非日常的な場面での使用が想定できよう。これは、北白川下層Ⅱ式期のものであろうか。

SK115出土石製品 (1234～1236) 1234・1235は石鎌である。1234は縦長で脚部自体が短くなるものである。1235は挟りがないものである。1236は大形の削器である。これらについては、北白川下層Ⅱc式期に所属するものと思われる。

SK119出土石製品 (1237～1240) 1237は基部が扁平の石錐である。1238は縦長の削器、1239は三角形の削器である。1240は楔形石器とした。隅の丸い長方形である。これらについては、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に所属するものといえよう。

SK122出土石製品 (1241～1244) 1241～1244は石鎌である。1241は縦長で脚部が長くなるもの、1242

～1244は縦長で、脚部自体が短くなるものである。これらについては、北白川下層Ⅱc式期に属するものと考えられる。

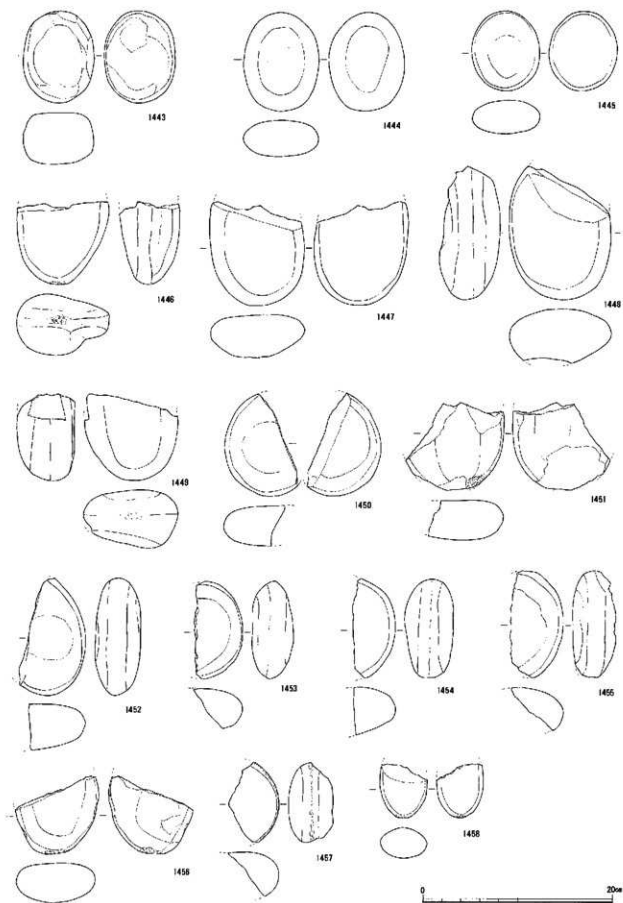
SK120出土石製品 (1245～1275) 1245～1268は石鎌である。1245・1246は、縦長で脚部が長い小形のものである。1247は縦長で脚部が長くなるものである。1248は縦長で脚部自体が短くなるものである。1249～1251は縦長で脚部が長くなる大振りのもの、1252はブーラン状の形状のものである1253～1255は挟りがみられないものである。1256～1260は残存の度合いの違いはあるが先端部分である。1261～1268は残存の度合いの違いはあるが脚部付近のものである。1269は木の葉状の石錐である。1270～1275は磨石である。1270・1271は円形のもの、1272～1275は楕円形のものである。これらについては、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に所属するものと考えられる。

SK121出土石製品 (1276～1295) 1276～1286は石鎌である。1276・1277は縦長で脚部が長い小形のものである。1278・1279は縦長で挟りが小さいものである。1278は全体が五角形に近い形状である。1280・1281は脚部が長くなるものであろうか。1282～1285は残存の度合いの違いはあるが先端部分である。1286・1287は残存の度合いの違いはあるが脚部である。1288・1289は打製石斧である。片面の整形が顕著である。1290は隅の丸い台形状の削器である。1291は石錐の扁平な部分である。1292は台石。楕円形状のものである。1293～1295は楕円形状の磨石である。これらについては、北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に属するものといえよう。

SD111出土石製品 (1296) 1296は石鎌である。縦長で脚部が長くなるものであろうか。北白川下層Ⅱ式期に属するものであろうか。

SD38出土石製品 (1297) 1297は石皿とした。残存する部分が少ないのであるが、隅の丸い長方形のものとなろう。北白川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に属するものと考えられる。

SD40出土石製品 (1298～1300) 1298は打製石斧である。片面の整形が顕著である。1299は円形の磨石である。1300は敲石である。円形のものであろうか。これらについては、北白川下層Ⅱ式期に所属す



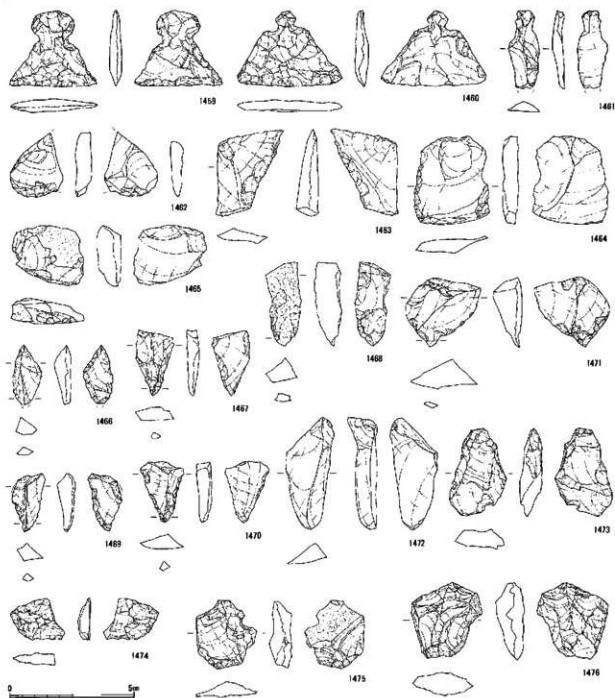
第76図 下層包含層出土石製品実測図⑦(1:4)

るものと思われる。

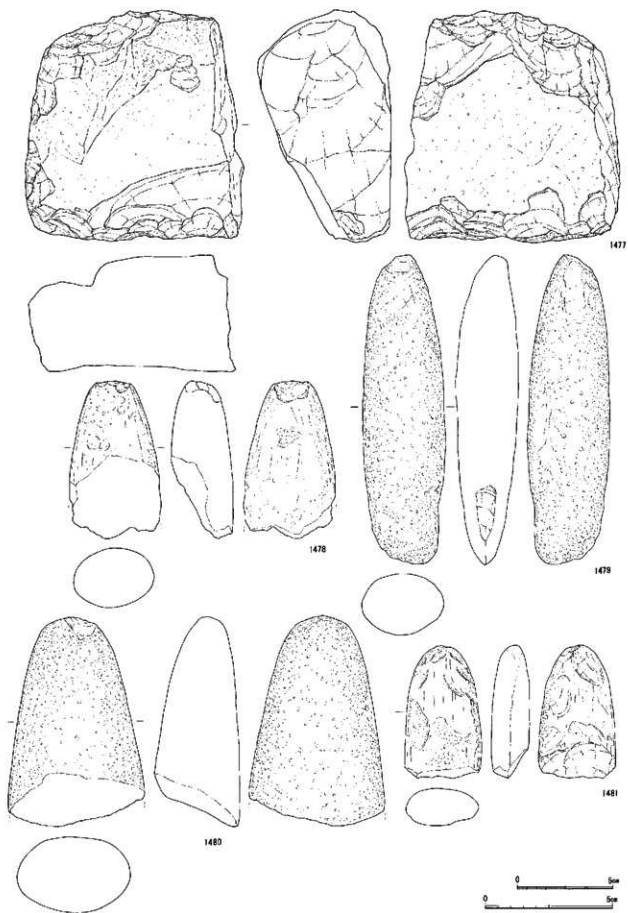
SD46出土石製品 (1301~1314) 1301~1303は台形状の石匙である。1304は打製石斧である。片面の整形が顕著である。1305・1306は楔形石器とした。1307は削器で、長方形形状である。1307は台石とした。断面の状況を見ると扁平な形状であることが分かる。1308~1314は磨石である。1308~1311は円形、1312~1314は楕円形状のものであろう。これらは、北白

川下層Ⅱc式期あるいは諸磯b式期に所属するものと考えられる。

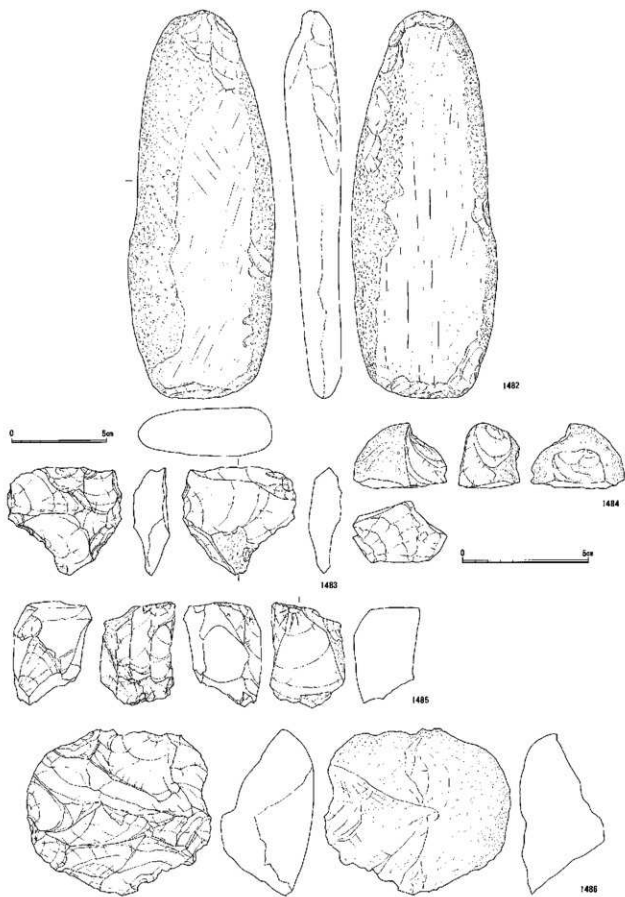
SD48出土石製品 (1315~1318) 1315は台形状の削器である。1316は石錐の先端部分であろうか。1317は、敲石で側面が使い込まれているのか面を形成していることがわかる。1318は磨石である。これらは、北白川下層Ⅱc式期に属するものと考えられる。



第77図 下層包含層出土石製品実測図⑧ (2:3)



第78図 下層包含層出土石製品実測図⑨ (1:2、1477は2:3)



第79図 下層包含層出土石製品実測図⑩ (1 : 2、1483~1486は2 : 3)

SD47出土石製品 (1319~1320) 1319は円形で扁平な敲石である。1320は台石とした。楕円形で扁平な形状である。これらは、北白川下層Ⅲ式期のもと思われる。

古墳時代以降の柱穴・包含層出土石製品

(1321~1330) 1321は楔形石器。d 4区pit 3の出土である。1322は石匙。上半部分が欠失している。f 2区pit 1の出土である。1323~1330は縄文時代より後の包含層からの出土である。1323・1324は石鎌である。1323は挟りがない石鎌である。1324は石鎌とした。1325は石匙で片面の加工が顕著である。1326は磨製石斧である。乳棒状で縄文時代前期の特徴的なものである。1327~1330は磨石である。1327は円形で扁平なもの、1328は楕円形で扁平な形状である。1329・1330は半分以上が失われたものである。これらについては、北白川下層Ⅱ式期あるいは諸磯b式期に所属するものであろう。

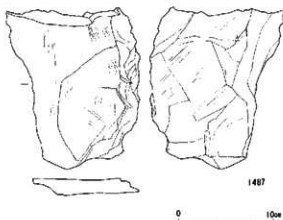
縄文時代前期以降の柱穴・包含層出土石製品

(1332~1355) 1332~1350は石鎌である。1332・1333は縦長で、脚部が弧状に内側に弯曲するものである。1334・1335は縦長で、脚部が外側に突っ張るような形状である。1336は縦長で、脚部が弧状に内側に弯曲する小形のものである。1337は基部の挟りが小さく扁平な感を受けるものである。1338・1339は挟りがなく形状をみて粗雑なつくりに見える。1340は縦長で細身のものである。脚部の一部が欠失している。1341~1347は先端部分のみ残存するものであろうか。1345は小形の挟りがないものであろうか。1347は未製品である可能性もある。1348は挟りが若干認められるものである。1349・1350は脚部のみ残存のものである。1351~1353は磨石である。円形で扁平な形状である。1354は石皿とした。細長い楕円状であったものと考えられる。1355は石錘。基部と先端部の間のものであろうか。1356は台形状の楔形石器である。これらについては、北白川下層Ⅱ式期あるいは諸磯b式期に属するものと考えられる。

縄文時代前期の柱穴・包含層出土石製品

(1357~1487) 1357は縦長で、脚部が外側に突っ張るような形状である。1358~1365は縦長で、脚部が弧状に内側に弯曲するものである。1361~1365は

ブーメラン状に近い形状と思われる。1366~1369は挟りがないもので、他の石鎌と比較しても、大形のものである。1370~1380は先端部分のみ残存するものである。1370は縦長で細身のものであろうか。1372は脚部が長く扁平な感をうける。先にも述べたブーメラン状のものであろうか。1377は形状や加工の状況からみて粗雑な造りをしている。挟りがみられない形状に近い。1378は縦長で細身のものであろうか。造りが粗雑な感を受ける。1379は形状や加工の状況からみて粗雑な造りをしている。挟りがみられない形状に近いものである。未製品である可能性もある。1380はどの部分が基部となるのか判断に苦しむ。脚部ともれなくはない。1381~1383は脚部のみ残存するものである。1384・1385は打欠石錘で円形に近い楕円形である。1386は切目石錘であろうか。1387・1388は片面への加工が顕著な打製石斧である。1387は斧状の形とは捉え難いが、刃部等から判断した。1389~1392は台石とした。1392は台形状の扁平な形状である。局部的に磨痕が認められる。1393~1397は石皿と判断した。ほとんどが破片であるため、本来の形を復元するのは難しいが、隅の丸い長方形であることが推定できよう。1398~1413は敲石である。1398~1406は円形で扁平な形状である。1403・1404・1406は側面に使用による面が認められるものである。1407~1413は楕円形で扁平な形状である。1409・1412は側面に使用による面が認められるものである。1414は礫器と判断した。楕円形で扁平な形状である。1415~1458は磨石である。1415~1435は大きさの違いはあるが、円形で扁平な



第80図 下層包含層出土石製品実測図①(1:4)

形状のものと思われる。1417・1428は側面に使用による面が認められるものである。1436は隅の丸い長方形のものであろう。1437～1458は大きさの違いはあるが楕円形で扁平な形状のものと思われる。1443は側面に使用による面が認められるものである。1459～1461は石匙である。1459・1460は台形状のものである。1461は縦長の形状のものであろうか。1462～1465は削器と判断した。1462・1463は三角形のものである。1464・1465は台形状のものである。1466～1471は石錐である。1466～1470は先端部分が残存したものである。1471は扁平な部分が残存したものである。1472～1477は楔形石器である。1472～1474は三角形のものである。1475・1476は台形状のものであろうか。1477は大形のものである。1478～1482は磨製石斧である。1478～1481は乳棒状を呈している。縄文時代前期の特徴的なものといえる。1482は縦長で扁平な大形のものである。日常的な場面というよりは、非日常の場面での使用が想定できるのではないだろうか。例えば、祭祀的な場面等があげられよう。1483～1486は石核とした。大形のもみられる。1487は破片であるため判断に苦しむが、薄く扁平であることや磨痕が認められることから砥石とした。これらについては、北白川下層Ⅱ式期あるいは諸磯Ⅱ式期に所属するものと考えられる。いわゆる縄文時代前期包含層から出土した土器群の時期を踏まえたとき、時期的に少し下がるものもみられるので注意を要する。(小瀨 学)

[註]

- ① 土器器皿については下記の文献に拠った。
伊藤裕偉「土器の変遷～土器器皿について～」〔岩出地区内遺跡群発掘調査報告書、三重県埋蔵文化財センター、1996年〕。
伊藤裕偉「中世後期における伊勢・志摩地域の土器相」〔関東・東海における中世土器・陶器の最近における研究成果、第1回土器・陶磁器編年研究会、2004年〕。
- ② 土器器皿については下記の文献に拠った。
伊藤裕偉「中世南伊勢系の土器器に関する一試論」〔Mie history vol.1、三重歴史文化研究会、1990年〕。
伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」〔鍋と甕そのデザイン〕第4回東海考古学フォーラム、1996年〕。
- ③ 陶器山茶桶・山皿については下記の文献に拠った。

- 藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」〔研究紀要〕第3号、三重県埋蔵文化財センター、1994年〕。
泉雄二「斎宮跡の土器様相」〔記念シンポジウム 斎宮の土器・みやこの土器、斎宮歴史博物館、2000年〕。
斎宮歴史博物館「斎宮跡の土器」〔斎宮跡発掘調査報告書1 内院地区の調査、斎宮歴史博物館、2001年〕。
- ⑤ 〔松阪市史 第2巻 資料編考古〕(松阪市、1978年)。
 - ⑥ 柴山圭子・小瀨学「山添遺跡(第3次)発掘調査報告」(三重県埋蔵文化財センター、2003年)。
 - ⑦ 藤澤良祐・岡本直久「江戸時代の瀬戸窯業」〔江戸時代の瀬戸窯業、財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター、2002年〕。
 - ⑧ 上村安生「伊勢・伊賀地域」(加納俊介・石黒立人編「弥生土器の様式と編年 東海編」、木耳社、2002年)。
 - ⑨ 伊藤裕偉「雲出島貫遺跡における古墳時代中後期の土器器」(伊藤裕偉・川崎志乃「嶋崎Ⅲ 三重県埋蔵文化財センター、2001年)。
 - ⑩ 赤塚次郎「廻間遺跡」(愛知県埋蔵文化財センター、1990年)。
 - ⑪ 田辺昭三「須恵器大成」(角川書店、1980年)。
 - ⑫ 谷口康浩「諸磯式土器様式」〔縄文土器大観〕1、1989年)を参考とした。
 - ⑬ 拙稿「縄文時代後期前期における無文系土器の製作と変容」〔考古学フォーラム 18〕、考古学フォーラム、2005年)に無文系土器の定義を詳細に述べている。
 - ⑭ 谷口康浩氏のご教示による。
 - ⑮ 谷口康浩氏のご教示による。
 - ⑯ 小杉康氏のご教示による。「文化制度としての模倣製作」〔飛騨と考古学〕、1995年)に詳しい。
 - ⑰ ⑱に詳細が述べられている。
 - ⑲ 網谷克彦「北白川下層式土器様式」〔縄文土器大観〕1、1989年)に詳細が述べられている。また、拙稿「縄文時代前期の土器編年 ～山添遺跡・鳥浜貝塚・彦崎貝塚出土資料からみえるもの～」(斎宮歴史博物館 研究紀要15)、斎宮歴史博物館、2006年)においても、土器の変遷について述べている。
 - ⑳ 田嶋正憲ほか「彦崎貝塚 一範圍確認調査報告書一」(岡山市教育委員会、2006年)に土器型式、広域土器編年等について詳細に述べられている。当遺跡出土資料との比較検討が加えられている。
 - ㉑ 小杉康氏のご教示による。
 - ㉒ 小杉康氏のご教示による。「鳥浜貝塚における搬入土器・模倣土器の研究(1)」〔鳥浜貝塚〕5、福井県教育委員会、1989年)に詳細が述べられている。
 - ㉓ 拙稿「新徳寺遺跡発掘調査報告書」(三重県埋蔵文化財センター、1997年)。
 - ㉔ 拙稿「縄文時代における伊勢湾西岸地域の石器組成からみた社会構造」〔関西縄文論集 2〕、関西縄文文化研究会、2005年)において、詳細を述べている。
 - ㉕ 網谷克彦氏のご教示による。
- *本来ならば、参考文献として掲載すべき、調査報告書等については、割愛させていただいた。御意懇願いた。

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)		調査 技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径						
1	006-02	土師器	小皿	SK1Ⅱ 土器1	7.6	1.3	外:ヨコナデ・ナデ・粘土層積 内:ナデ	やや 中	やや 中	10YR8/4、黒N4/0	口縁 5/12	
2	001-05	土師器	皿	SK3Ⅲ 土器13	8.7	1.65	外:ヨコナデ・オサエ 内:ナデ	やや 中	中	7.5YR7/4	口縁 12/12	
3	007-01	土師器	皿	SK3Ⅲ 土器9	15.6	3.0	外:ヨコナデ・オサエ 内:ナデ	やや 中	中	10YR8/3、内:10YR6/1 (底面)	口縁 6/12	
4	002-04	土師器	鉢	SK3Ⅳ 土器5	不明	1.7 以上	外:ヨコナデ・スス付着 内:ヨコナデ	粗	差	10YR7/4	残少量	外面スス付着 6と同一か
5	002-01	土師器	鉢	SK3Ⅲ 土器10	18.3	7.5 以上	外:ヨコナデ・ナデ 内:オサエ・ナデ・ケズリ	粗	差	外:10YR5/2・4/2 内:10YR8/2	口縁 2/12	外面スス付着 スス厚く 調査不明瞭
6	001-04	土師器	鉢	SK3Ⅳ 土器5	21.9	2.1 以上	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	粗	差	10YR7/3・6/3	口縁 1/12	外面スス付着 4と同一か
7	007-07	土師器	鉢	SK3Ⅳ 土器2	21.4	3.4 以上	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ハケ後ナデ	粗	差	10YR7/3・6/3	口縁 2/12	
8	001-03	土師器	鉢	SK3Ⅲ	21.7	3.6 以上	外:オサエ・ヨコナデ 内:ナデ	粗	差	10YR6/3 10YR5/3・4/3	口縁 2/12	外面スス付着
9	001-02 002-03	土師器	鉢	SK3Ⅲ 土器 9・10	21.6	4.6 以上	外:オサエ・ヨコナデ 内:ハケメ (5本/cm)	粗	差	10YR6/3・7/3	口縁 3/12	実測後接合 外面スス付着
10	001-01	土師器	鉢	SK3Ⅲ 土器1	21.4	8.2 以上	外:オサエ・ヨコナデ 内:ハケメ (4-6本/cm)	粗	差	外:5YR6/4、7.5YR6/4 内:7.5YR7/3・7/4・10YR5/2	口縁 3/12	
11	004-01	土師器	鉢	SK3Ⅲ 土器8	22.0	5.3 以上	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・ハケ	粗	差	外:7.5YR6/4、7.5YR5/3 内:10YR7/3、7.5YR6/4	口縁 1/12	
12	008-01	土師器	鉢	SK3Ⅳ 土器6	22.4	5.0 以上	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	粗	差	10YR7/3・6/3 10YR5/3	口縁 2/12	外面スス付着
13	007-03	陶器	山茶碗	SK3	16.1	高台 径 7.0	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸 切痕・自然釉・磨蝕痕 内:ロクロナデ・使用痕	やや 密	良	N7/0	口縁 2/12 底面 12/12	
14	007-02	陶器	山茶碗	SK3Ⅳ 土器3	17.0	高台 径 7.6	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸 切痕・自然釉・磨蝕痕 内:ロクロナデ・使用痕	やや 密	良	5Y7/1	口縁 1/12 底面 12/12	
15	006-03	土師器	皿	SK31	不明	1.3	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	外:10YR8/4 内:7.5YR8/4	口縁 2/12	
16	006-01	土師器	皿	SK31	7.8	1.1	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	5YR7/6 7.5YR8/4	口縁 3/12	
17	003-02	土師器	皿	SK31	8.0	1.5	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	外:10YR8/2~10YR8/4 内:10YR8/3	口縁 3/12	
18	005-10	土師器	皿	SK31	8.0	1.55	外:オサエ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	2.5YR8/3 10YR8/4	口縁 3/12	摩滅激しく 調査不明瞭
19	005-09	土師器	皿	SK31	8.0	1.4	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや 粗	良	7.5YR7/4	口縁 3/12	
20	005-08	土師器	皿	SK31	8.1	1.55	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや 粗	良	10YR8/4 黒N5/0	口縁 2/12	
21	005-11	土師器	小皿	SK31	7.6	1.25	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	黒7.5YR7/6	口縁 3/12	
22	003-04	土師器	皿	SK31	9.0	1.8	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ・黒 斑か、内:ナデ	やや 粗	良	外:10YR8/2、7.5YR7/4 内:10YR8/2、10YR8/3	口縁 9/12	
23	006-08	土師器	鉢	SK31	不明	1.3	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや 粗	不 良	2.5YR8/2	口縁 1/12	
24	003-05	陶器	山茶碗	SK31	15.0	3.2 以上	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ・自然釉	やや 密	中	外:2.5YR8/2 内:2.5YR7/1 より濃い	口縁 1/12	
25	005-01	陶器	山茶碗	SD38	不明	高台 径 7.9	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸 切痕、内:ロクロナデ・自然釉	やや 粗	中	2.5YR8/1	底面 6/12	
26	005-07	土師器	皿	SD40	9.6	2.1	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや 粗	中	7.5YR7/4、10YR5/2 5YR7/6	口縁 3/12	
27	001-06	土師器	高杯	SD40	不明	底径 11.2	外:ヨコナデ・ハケ後ナデ 内:オサエ・ナデ	やや 粗	差	7.5YR6/6	口縁0 底面0 脚部 完存	
28	006-07	土師器	鉢	SD40 H9F	不明	1.2 以上	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや 粗	中	10YR8/2	口縁 1/12	スス付着
29	006-04	土師器	鉢	SD40	不明	4.5 以上	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	中	10YR8/4	口縁 1/12	
30	006-06	土師器	鉢	SD40 H9F	不明	2.6 以上	外:ハケメ (5本/cm)・ヨコナデ 内:ナデ	やや 粗	中	7.5YR8/4 10YR8/2	口縁 1/12	
31	007-06	土師器	鉢	SD40 H9F	14.0	4.0 以上	外:ハケメ (5本/cm)・ヨコナデ 内:ナデ	やや 粗	差	外:10YR6/2 内:10YR7/3	口縁 2/12	スス付着
32	008-02	土師器	鉢	SD40	25.8	5.0 以上	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや 粗	差	10YR7/4	口縁 2/12	

第3表 出土土製品観察表①

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	寸法 (cm)		調査 技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	器高						
33	005-04	陶器	山茶碗	SD40	不明	高台径 2.8 6.3 以上	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸切痕、内:ロクロナデ・自然釉	やや 黄	黄	N8/0	底部 6/12	
34	005-03	陶器	山茶碗	SD40	不明	高台径 2.6 7.6 以上	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸切痕、内:ロクロナデ・自然釉、使用痕	やや 黄	黄	2.5Y8/1	底部 6/12	
35	005-02	陶器	山茶碗	SD40	不明	高台径 2.1 7.0 以上	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸切痕、内:ロクロナデ・使用痕	やや 黄	黄	2.5Y8/1	底部 11/12	
36	007-04	陶器	山茶碗	SD40	不明	2.5 以上	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸切痕、内:ロクロナデ	やや 黄	黄	N8/0	底部 10/12	
37	007-05	陶器	山茶碗	SD40	不明	2.8 以上	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸切痕、内:ロクロナデ・使用痕	やや 黄	黄	N7/0	底部 4/12	
38	008-03	瓦	軒丸瓦	SD40 1177	瓦当 直径 9.3		外区に龍文、内区に花卉八弁?、裏面刻線	粗	黄	2.5Y6/1・5/L、10YR7/3 5YR6/6	瓦当面 3/12	裏面に刻今日 野中垣内庵寺の 軒丸瓦と同文
39	009-01	瓦	丸瓦	SD40	残長 17.8	背部 幅 2.1 12.5	凸形筒タナキのちナデ 凹形直目瓦・ナデ	やや 黄	黄	N5/0・4/0 10YR7/3	全体の 6/12	右赤タナ8本/cm ヨコ8本/cm
40	003-01	陶器	山皿	SK45	不明	口径 3.3	外:ロクロナデ・糸切痕 内:ロクロナデ・自然釉	やや 黄	やや 黄	10YR6/2	底部 6/12	
41	002-05	土師器	葉	43R p5	不明	2.6 以上	外:ヨコナデ、 内:ヨコナデ	やや 黄	黄	10YR6/2	口縁 1/12	
42	002-02	陶器	盤鉢	e7R p2	不明	8.1 以上	外:ロクロナデ・ロクロナズリ・鉄釉、内:ロクロナデ・盛り目(4本/cm)	やや 黄	黄	5YR4/2 10YR8/3	口縁 1/12	瀬戸原遺跡 遺物期 鉄釉
43	011-01	発土 土器	壺	SD46	不明	5.7 以上	外:ヨコナデ・ミガキ・割突 内:ヨコナデ・ミガキ・割突	やや 黄	やや 黄	2.5YR6/6 5YR6/6 断NS/0	口縁 1/12	
44	010-05	土師器	鉢	SD46	13.1	4.5 以上	外:ヨコナデ・ナデ・ハケメ 内:ナデ	やや 黄	やや 黄	5YR7/6	口縁 1/12	小形鉢
45	025-05	土師器	鉢	SD46 土器2	12.8	4.45	外:ナデ・工具痕?・ヨコナデ 内:工具ナデ・ヨコナデ	やや 黄	やや 黄	5YR7/6 10YR8/4	口縁 1/12	小形鉢
46	011-04	土師器	鉢	SD46	不明	5.3 以上	外・内:ヨコナデ・ナデ	やや 黄	やや 黄	5YR7/6	口縁 1/12	小形鉢
47	010-02	土師器	鉢	SD46 土器1	13.8	5.9	外:ヨコナデ・ナデ・ハケメ 内:ナデ	やや 黄	やや 黄	2.5YR6/6	口縁 8/12	小形鉢 裏面 へラ記号?
48	010-04	土師器	鉢	SD46	11.5	4.55	外:ヨコナデ・ナデ・オキエ 内:ナデ	やや 黄	やや 黄	10YR6/3	口縁 完全	小形鉢 油煙あり
49	012-02	土師器	高杯	SD46	11	5.3 以上	外・内:ナデ・ヨコナデ	粗	黄	外:5YR6/6 内:7.5YR6/6	口縁 1/12	
50	025-04	土師器	高杯	SD46 最下層	19.4	5.4 以上	外:ナデ・胎付ナデ・ヨコナデ 内:ナデ	やや 黄	黄	2.5YR6/6	口縁 2/12	
51	011-02	土師器	高杯	SD46	不明	5.4 以上	外:ヨコナデ・ナデ 内:ヨコナデ・ナデ	やや 黄	黄	10YR6/3、内一部5YR3/1 ・5YR4/6、断NS/0	口縁 1/12	裏面
52	012-01	土師器	高杯	SD46	18.8	10.9 以上	外:ヨコナデ・ナデ・ハケメのちナ デ?、内:ナデ・ケズリ	やや 黄	黄	外:10YR7/4・5YR8/6 内:10YR7/4	口縁 3/12	
53	010-07	土師器	高杯	SD46	不明	7.0 以上	外:ナデ、内:ナデ	やや 黄	黄	5YR8/4 断NS/0		脚部片
54	010-08	土師器	高杯	SD46	不明	6.1 以上	外:ヨコナデ・ナデ 内:ヨコナデ・ケズリ	やや 黄	黄	5YR7/6 2.5YR6/6		脚部片
55	010-03	土師器	高杯	SD46	不明	台高 径 11.3	外:ヨコナデ・工具ナデ 内:ナデ	やや 黄	黄	10YR6/3・5YR5/4 断NA/0	底部 9/12	
56	024-01	土師器	壺	SD46 最下層 土器2	18.7	6.5 28.6	外:ハケメ(8~7本/cm)・ヨコナ デ、内:ナデ・ケズリ	やや 黄	黄	10YR6/3 5YR7/4	口縁 ほぼ 完全	体部に 裏面あり
57	019-01	土師器	葉	SD46 土器2	8.3	14.3 以上	外:ハケメズリ・へら書番・ハケ メ(4本/1cm)、内:ハケメ(4本/ 1cm)・ナデ	やや 黄	黄	10YR6/2 10YR6/3 2.5YR7/4	口縁 10/12	裏面
58	012-04	土師器	葉	SD46 最下層	不明	3.7 以上	外:ハケ(5本/1cm)・ヨコナデ 内:ナデ	やや 黄	黄	10YR7/3	口縁 1/12	
59	013-02	土師器	葉	SD46	不明	2.4 以上	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 黄	黄	外:10YR8/4・7.5YR6/4・2.5 YR4/1、内:10YR8/3・2.5YR 4/1	口縁 1/12	
60	012-03	土師器	葉	SD46 最下層	不明	1.9 以上	外:ヨコナデ 内:ナデ	やや 黄	黄	外:10YR8/3 内:10YR8/4	口縁 1/12	
61	025-02	土師器	葉	SD46 最下層	不明	台高 7.8	外:ハケメ(4本/cm)・ヨコナデ 内:ナデ	やや 黄	黄	10YR7/3・10YR8/3 一部2.5YR7/6、内:7.5YR6/2	胎台 完全	
62	011-08	土師器	葉	SD46	不明	3.0 以上	外・内:ヨコナデ・ナデ	やや 黄	黄	5YR7/6 10YR6/3	胎部 1/12	
63	011-06	土師器	葉	SD46	不明	2.7 以上	外・内:ヨコナデ	やや 黄	黄	10YR6/3 断NS/0	口縁 1/12	

第4表 出土土製品観察表②

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)		調査 技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径						
64	011-07	土師器	甕	SD46	不明	2.5 以上	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ・ハケメ?	やや 密	やや 良	10YR6/3 断:3/3	口縁 1/12	
65	011-05	土師器	甕	SD46	不明	3.3 以上	外・内:ヨコナデ・ハケメ	やや 密	やや 良	10YR6/3	口縁 1/12	
66	010-01	土師器	甕	SD46	15.7	4.6 以上	外:ヨコナデ・ハケメ、内:ナデ	やや 密	やや 良	10YR6/3	口縁 3/12	スス付着
67	011-09	土師器	不明	SD46	不明	不明	外:木炭飯、内:ナデ	やや 密	やや 良	5YR6/4 1.5YR6/3	体部 小片付	木炭飯あり
68	013-03	土師器	甕	SD47 土器2a	8.8	8.4	外:ヨコナデ・ナデ・ケズリ・工 具ナデ、内:ナデ	やや 密	やや 良	外:2.5YR6/6・2.5Y6/6 内:2.5Y6/6・5YR6/6・10YR6/3	ほぼ 完存	
69	012-05	土師器	甕	SD47 土器2b	9.5	8.3	外・内:ヨコナデ・ケズリ・ミガ キ	やや 密	やや 良	10YR6/3 10YR7/2	口縁 6/12	
70	013-04	土師器	高杯	SD47	不明	6.6 以上	外:ヨコナデ・ナデ・工具ナデ 内:オサエ・ナデ	やや 密	やや 良	外:10YR6/3・10YR7/3 内:10YR6/0	口縁 1/12	
71	013-05	土師器	高杯	SD47 土器3a	不明	脚部 径 11.3	外:ミガキ・スカシ・ミガキのち ナデか、内:ハケメ・ナデ	やや 密	やや 良	外:5YR7/3・7.5YR7/6 内:7.5YR7/4 台部:5YR6/6	脚部 5/12	3方溝かし 灰色釉面 原料
72	017-03	土師器	甕	SD47 土器 3a	12.0	15.0 以上	外:ヨコナデ・ハケメ・ハケのち ケズリ、内:オサエ・ナデ・ハケ メ・ケズリ	やや 密	差	7.5YR7/4・6/4 10YR7/4 10YR6/6	口縁 完存	スス付着
73	014-01	土師器	甕	SD47 土器1	14.3	9.2 28.4	外:ヨコナデ・ハケメ (5本/cm) 内:ナデ	密	良	外:5YR6/4・5YR6/6・10YR 7/4、内:5YR6/4 脚部:7.5YR7/3	ほぼ 完存	
74	021-03	土師器	甕	SD47	15.4	15.1 以上	外:ハケメ (6~8本/cm) ・ヨコナ デ・工具飯、内:ナデ	やや 密	良	外:7.5YR7/3・7.5YR5/2・4/2 内:10YR6/3	口縁 3/12	
75	016-01	土師器	甕	SD47 土器4	15.7	10.2 以上	外:ハケメ (15本/3.4cm) ・ヨコナ デ、内:ハケのちオサエ	やや 密	やや 良	外:10YR7/3・10YR6/1 内:10YR7/1	口縁 8/12	
76	020-01	土師器	甕	SD47 最下層 土器5	15.8	台部 径 8.8 26.4	外:ヨコナデ・ハケメ (4本/1cm) 内:ケズリ (タテヨコ)・ハケメ ・ナデ・オサエ	やや 密	良	外:10YR6/2 内:10YR7/2 台部:5YR7/4	口縁 9/12	スス付着 穿孔あり
77	013-01	土師器	甕	SD47 土器2c 土器2g	8.0	13.0 以上	外:ケズリ・ハケ 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 良	外:7.5YR6/4・5YR6/6・7.5 YR6/2、内:2.5YR6/6 台部:5YR6/6	台部 9/12	
78	018-03	土師器	甕	SD47	不明	脚台 径 7.8	外:ハケメ (5本/1.1cm) ・ナデ 内:オサエ・ナデ	粗	差	10YR7/4 7.5YR7/6	脚台 完存	脚内部 炭化物付着
79	023-01	土師器	甕	SD48 最下層 土器1	8.5	9.3	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 良	10YR6/3	口縁 9/12	
80	017-02	土師器	甕か	SD48	不明	脚部 径 7.8	外:オサエ・ナデ・ヨコナデ・ハ ケメ、内:ヨコナデ・ナデあげ	やや 密	差	10YR6/3 10YR6/2	口 縁 完 存	スス付着
81	021-01	土師器	甕	SD48 最下層 土器2	20.7	16.6 以上	外:ヨコナデ・ケズリ 内:オサエ・工具ナデ	やや 密	良	外:5YR4/2・5YR5/3 内:5YR7/4・5YR6/4・5YR 6/6・5YR3/2	口縁 11/12	焼けあり
82	022-01	土師器	甕	SD48	15.4	5.1 36.0	外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ	やや 密	やや 良	10YR6/3	口縁 3/12	摩滅しく 調査不明瞭
83	023-03	土師器	高杯	SD50	不明	脚台 径 9.6	外:工具ナデ・ヨコナデ 内:ナデ・シボリ	やや 密	やや 良	10YR7/3	脚部 3/12	
84	015-01	土師器	甕	SD50	17.5	19.0 以上	外:ヨコナデ・ナデ・磨面き? 内:オサエのちナデ	やや 密	良	10YR6/3	口縁 完存	
85	017-01	土師器	甕	SD50	11.3	13.4 以上	外:ナデ・オサエ・工具ナデ 内:ナデ・オサエ	密	差	5YR6/6・7.5YR6/6・7.5YR 6/4	口縁 8/12	内外面に黒灰
86	016-07	土師器	高杯	SD53	不明	基部 径 2.4 7.8	外:ミガキ、内:ナデ・シボリ	やや 密	差	5YR6/6	脚部片	
87	018-01	弥生 土器	甕	トレン チ	17.7	3.5 以上	外:ヨコナデ・ミガキ・クシ割 突 (13本/2.5cm) 内:割突	やや 密	差	5YR6/6 7.5YR6/6 10YR7/4	口縁 3/12	S1と同一か
88	011-03	土師器	高杯	包	不明	4.0 以上	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや 密	やや 良	5YR5/6	口縁 1/12	
89	018-04	土師器	甕	包	6.5	9.0	外:ヨコナデ・ケズリのちナデ 内:ナデ	粗	差	5YR6/6 5YR6/4	口縁 完存	小形
90	018-02	土師器	甕	包	18.2	2.0 以上	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや 密	差	2.5YR7/3 10YR6/2・5/2	口縁 3/12	スス付着
91	025-01	土師器	甕 東屋 組合中	不明	9.4 以上	9.4	外:ハケメ (4本/cm) ・ヨコナデ 内:ナデ	やや 密	やや 良	2.5YR6/4 断:N4/0	口縁 4/12	
92	020-02	土師器	甕 ラベル なし	不明	脚台 径 8.8	10.8 以上	外:ハケメ・ヨコナデ 内:ケズリ・ナデ	やや 粗	不 良	外:5YR7/4 内:10YR7/3	脚台 3/12	
93	018-05	土師器	甕	包	不明	脚台 径 7.4	外:オサエ・ナデ 内:オサエ・ナデ・シボリ	粗	差	5YR6/6・7/6・10YR7/4 内:2.5YR6/1~6/1 (体部?)	脚台 完存	

第5表 出土土製品観察表③

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)		調査 技法	出土 状況	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径						
94	021-02	土師器	甕	包	11.4	10.5以上	外:ナデ・ケズリ・ヨコナデ・工具痕、内:ナデ	甕	良	外:5YR6/4・7.5YR6/1 内:2.5YR6/2・10YR4/1	口縁 8/12	
95	025-05	須恵器	杯身	東屋 観音寺	10.7	4.3	外:ロクロナデ・ロクロケズリ 内:ロクロナデ	やや 密	やや 良	N6/0	口縁 4/12	
96	018-06	須恵器	杯蓋	不明		2.1以上	外:ロクロナデ・ロクロケズリ 内:ロクロナデ	密	良	7.5Y7/1	小片	
97	004-03	土師器	甕	包	16.0	4.0以上	外:ハケ(網織線しい)・ヨコナデ 内:ナデ	甕	やや 良	外:10YR7/4・7.5YR7/4 内:10YR6/3	口縁 3/12	
98	006-05	土師器	甕	包	不明	2.5以上	外:ハケメ(木/木)・ヨコナデ 内:ナデ	やや 密	やや 良	7.5Y7/4 断:N3/0	口縁 1/12	
99	003-06	土師器	甕	包	19.0	7.5以上	外:ハケ? (網織線しい)・ヨコナデ 内:ナデ・ハケ	やや 密	やや 良	外:7.5YR7/3~7.5YR7/4 内:7.5YR6/4, 7.5YR4/2	口縁 2/12	
100	004-05	土師器	杯	包	15.0	3.0	外:ヨコナデ・ナデ・オサエ・ハ ケナデ、内:建文	やや 密	良	5YR6/8	口縁 4/12	底にヘラ記号
101	006-09	土師器	甕	包	不明	1.5以上	外:ヨコナデ・スス付着 内:ヨコナデ	やや 密	やや 良	7.5YR3/1 7.5YR6/3	口縁 1/12	スス付着
102	003-03	土師器	皿	包	8.0	1.7	外:ナデ、内:ナデ	甕	差	外:10YR6/2, 内:10YR6/2 ~10YR5/1	口縁 3/12	
103	005-06	陶器	山茶碗	包	不明	4.6以上	外:ロクロナデ 内:ロクロナデ	やや 密	やや 良	N8/0	口縁 1/12	
104	005-05	陶器	山茶碗	包	不明	1.8以上	外:ロクロナデ・胎付後ナデ・糸 切痕、内:ロクロナデ	やや 密	やや 良	N8/0	底面 1/12	
105	070-05	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文 内:オサエ・ナデ	やや 密	差	外:10YR5/3 内:7.5YR6/2	口縁 小片	LR
106	043-07	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文・貫孔 内:ナデ	やや 密	良	外:7.5YR3/1 内:10YR8/3・N3/0	口縁 小片	LR
107	044-02	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	良	10YR7/2	口縁 小片	LR
108	040-01	縄文	深鉢 A1	SH101	18.1		外:染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	10YR7/4 10YR4/2	口縁 小片	LR
109	026-01	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	甕	良	7.5YR6/3 7.5YR6/2	口縁 小片	RL
110	068-04	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	甕	差	外:7.5YR6/3・7.5YR3/1 内:10YR7/3・6/3・4/2	口縁 小片	RL
111	083-03	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	甕	やや 良	10YR6/1 10YR6/2	口縁 小片	RL
112	061-03	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・ナデ 内:ナデ	やや 密	やや 良	外:7.5YR4/2 内:5YR6/6	口縁 小片	RL
113	060-06	縄文	深鉢 A1	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	やや 良	7.5YR7/4 7.5YR4/1	口縁 小片	LR
114	077-05	縄文	深鉢 A1	SH101			外:面み・染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:10YR4/3 内:10YR3/1	口縁 小片	RL
115	080-01	縄文	深鉢 A1	SH101	20.4	9.4 17.0	外:染帯・縄文・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 良	外:10YR5/2 内:10YR7/3・2.5YR6/2	4/12	RL
116	053-08	縄文	深鉢 A7	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR4/3 内:7.5YR6/3	口縁 小片	LR
117	050-06	縄文	深鉢 A7	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR5/3 内:7.5YR7/4	口縁 小片	RL
118	071-03	縄文	深鉢 A7	SH101			外:面み・染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR7/3 内:5YR6/3	口縁 小片	
119	054-05	縄文	深鉢 A1	SH101			外:面み・染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR5/1 内:10YR6/2	口縁 小片	
120	052-07	縄文	深鉢 A7	SH101			外:染帯・ナデ 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR5/2 内:10YR6/3	口縁 小片	
121	028-01	縄文	深鉢 A7	SH101			外:面み・染帯・ナデ 内:ナデ	甕	良	10YR6/4 7.5YR5/3	口縁 小片	
122	040-03	縄文	深鉢 A7	SH101			外:染帯・縄文・ナデ 内:ナデ	やや 密	差	5YR5/4	口縁 小片	
123	078-06	縄文	深鉢 A7	SH101			外:面み・染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	7.5YR7/6	口縁 小片	
124	072-06	縄文	深鉢 A7	SH101			外:染帯・ナデ 内:ナデ・オサエ	甕	差	7.5YR4/1	口縁 小片	
125	043-01	縄文	深鉢 A3	SH101	18.0		外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	やや 良	2.5Y7/2・10YR7/2 7.5YR4/1	口縁 小片	LR
126	027-07	縄文	深鉢 A3	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	良	2.5YR1/7-1 2.5Y6/1	口縁 小片	RL
127	046-03	縄文	深鉢 A3	SH101			外:染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR6/2・7.5YR4/1 7.5YR3/1、 内:5YR6/4・5YR6/3	口縁 小片	RL
128	048-02	縄文	深鉢 A3	SH101			外:面み・染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	甕	良	7.5YR5/3・7.5YR3/1 7.5YR5/4	口縁 小片	LR

第 6 表 出土土製品観察表④

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
129	060-08	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 中良	中良	5YR6/6 10YR6/3	口縁 小片	LR
130	074-03	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 中良	中良	5YR6/6・5YR5/6 7.5YR3/2	口縁 小片	LR
131	079-03	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 中良	差	外-10YR5/2 内:10YR7/4	口縁 小片	
132	036-08	縄文	深鉢 A3	SH101				外-刷み・染帯・ナデ 内:ナデ	やや 中良	差	外-7.5YR7/3 内:7.5YR6/1	口縁 小片	
133	033-03	縄文	深鉢 A3	SH101				外-刷み・染帯・ナデ 内:ヨコナデ	やや 中良	中良	外-10YR5/3・10YR4/2 内:10YR6/2	口縁 小片	
134	043-05	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯 内:ナデ	やや 中良	中良	10YR4/1	口縁 小片	
135	030-05	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯(仲状)・縄文 内:ヨコナデ	やや 中良	差	10YR7/3、外面:2.5YR5/4	口縁 小片	外面赤彩
136	044-04	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯(仲状)・縄文 内:ナデ	やや 中良	中良	10YR4/3 10YR4/8	口縁 小片	内外面赤彩
137	062-02	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯(仲状)・縄文 内:ナデ	やや 中良	良	外-10YR3/1 内:10YR5/2	体部 小片	外面赤彩
138	028-04	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯(仲状)・縄文 内:ナデ	やや 中良	良	10YR5/2 10YR8/2	口縁 小片	
139	033-06	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯(仲状)・縄文 内:ナデ	やや 中良	中良	10YR8/2	口縁 小片	
140	077-02	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	密	差	10YR7/3	口縁 小片	
141	044-06	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯・刷み 内:ナデ	やや 中良	中良	10YR4/3 7.5YR3/2	口縁 小片	
142	040-04	縄文	深鉢 A3	SH101				外-刷み・染帯・縄文 内:ナデ	粗	差	7.5YR6/4	口縁 小片	
143	058-04	縄文	深鉢 A3	SH101				外-刷み・染帯・縄文 内:ナデ	やや 中良	中良	7.5YR4/1	口縁 小片	
144	049-02	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 中良	良	5YR6/6	口縁 小片	
145	041-04	縄文	深鉢 A3	SH101				外-染帯・刷み 内:ナデ	粗	差	外-10YR5/1・10YR3/1 内:10YR5/2	口縁 小片	
146	042-03	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯・刷み 内:ナデ	やや 密	差	10YR4/2	口縁 小片	
147	033-05	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯・刷み 内:ヨコナデ	やや 密	中良	10YR5/2・4/2	口縁 小片	
148	062-01	縄文	深鉢 A10	SH101				外-染帯・刷み 内:ナデ	やや 密	良	10YR7/3	口縁 小片	外面赤彩
149	071-06	縄文	深鉢 A5	SH101				外-染帯 内:ナデ	やや 粗	差	外-7.5YR4/2 内:10YR6/3	口縁 小片	
150	070-01	縄文	深鉢 A5	SH101				外-染帯 内:ナデ?	粗	差	10YR6/3	口縁 小片	
151	039-07	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	粗	差	外-2.5YR3/1 内:10YR5/2	口縁 小片	LR
152	067-02	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・刷み・ナデ・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外-10YR7/4 内:7.5YR3/1	口縁 小片	LR
153	058-08	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 粗	差	10YR6/2・5/2	口縁 小片	
154	068-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文・ヨコナデ 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR5/3・4/3	口縁 小片	RL
155	059-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:工具ナデ	やや 粗	中良	外-7.5YR4/1 内:7.5YR7/4	口縁 小片	LR
156	073-06	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	粗	差	外-10YR5/2 内:10YR6/2	口縁 小片	RL
157	043-06	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 粗	中良	10YR6/2	口縁 小片	RL
158	062-08	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ヨコナデ	やや 粗	良	外-10YR4/2 内:10YR5/2	口縁 小片	RL
159	034-05	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文・ナデ 内:磨耗	密	良	外-10YR3/2・10YR5/3 内:10YR4/2・10YR6/3	口縁 小片	
160	059-07	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 粗	中良	10YR6/3	口縁 小片	
161	064-05	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	粗	不良	7.5YR7/4	口縁 小片	
162	048-07	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 粗	良	7.5YR8/3 5YR6/6	口縁 小片	LR
163	034-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや 密	良	外-10YR6/3・5YR7/8 内:10YR8/3	口縁 小片	LR
164	045-01	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外-10YR6/2 内:10YR5/1	口縁 小片	LR

第7表 出土土製品観察表⑤

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	出土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
165	073-01	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	差	10YR6/3	口縁小片	LR
166	065-08	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	差	10YR6/2	口縁小片	RL
167	070-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	差	10YR7/2	口縁小片	LR
168	031-07	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・斜突・縄文 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:7.5YR5/3・5YR6/6 内:7.5YR6/3	口縁小片	LR
169	056-04	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:10YR5/2 内:10YR4/1	口縁小片	RL
170	067-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	密	差	10YR5/3	口縁小片	
171	036-05	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・刻み・ナデ 内:ナデ	粗	良	10YR5/2-4/2	口縁小片	LR
172	046-04	縄文	深鉢 A1	SH101				外-刻み・染帯 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR5/4・7.5YR4/2 内:5YR6/6	口縁小片	LR
173	061-04	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:7.5YR4/2 内:10YR6/2	口縁小片	LR
174	057-06	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・刻み・縄文 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR4/2 内:7.5YR6/3・5/3	口縁小片	LR
175	051-02	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・刻み・縄文 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR4/2 内:7.5YR5/3	口縁小片	LR
176	078-04	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・刻み・縄文 内:ナデ	やや密	差	外:10YR4/1 内:7.5YR5/3	口縁小片	LR
177	038-01	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	差	10YR7/2	口縁小片	LR
178	030-02	縄文	深鉢 A1	SH101				外-刻み・縄文 内:口コナデ・オサエ	粗	差	外:10YR7/4 内:7.5YR5/2-4/2	口縁小片	
179	048-05	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	粗	良	10YR5/2・4/2 10YR4/1	口縁小片	LR
180	057-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-刻み・染帯 内:ナデ	やや粗	やや粗	7.5YR7/4	口縁小片	RL
181	034-07	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや密	やや粗	10YR6/3	口縁小片	LR
182	044-05	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや密	やや粗	10YR6/3	口縁小片	RL
183	054-01	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや密	差	10YR6/3	口縁小片	LR
184	053-07	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR5/2 内:7.5YR6/3	口縁小片	LR
185	063-06	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・縄文 内:オサエ	やや粗	差	7.5YR7/3	口縁小片	LR
186	052-03	縄文	深鉢 A1	SH101				外-染帯・刻み・縄文 内:ナデ	粗	差	外:5YR6/4	口縁小片	LR
187	046-02	縄文	深鉢 A1	SH101				外-刻み・ナデ・縄文 内:染帯	やや密	差	7.5YR7/4	口縁小片	RL
188	077-07	縄文	深鉢 A4	SH101				外-縄文・羽状縄文 内:ナデ・オサエ	密	差	10YR3/2	口縁小片	LR
189	034-02	縄文	深鉢 A4	SH101				外-刻み・縄文 内:ナデ・オサエ	密	良	10YR4/2	口縁小片	LR
190	068-05	縄文	深鉢 A4	SH101				外-縄文・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや粗	差	7.5YR4/2	口縁小片	RL
191	072-07	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・縄文 内:オサエ	粗	差	外:10YR4/1 内:10YR4/2	口縁小片	LR
192	057-07	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・ナデ 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:10YR3/2 内:10YR4/2	口縁小片	LR
193	034-01	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・刻み・ナデ 内:オサエ・ナデ	密	良	外:10YR3/1 内:10YR3/2	口縁小片	LR
194	077-06	縄文	深鉢 A5	SH101				外-染帯・刻み 内:口コナデ	やや密	差	外:5YR5/6 内:2.5YR5/6	口縁小片	外内面 赤色顔料
195	072-03	縄文	深鉢 A4	SH101				外-縄文 内:ナデ	やや粗	差	7.5YR7/4	口縁小片	RL
196	056-05	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・刻み・縄文 内:ナデ・オサエ	やや粗	やや粗	10YR6/2 10YR7/2	口縁小片	LR
197	045-06	縄文	深鉢 A5	SH101				外-染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	差	外:10YR7/3・10YR5/2 内:10YR6/3・10YR2/2	口縁小片	LR
198	075-05	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・刻み・ナデ 内:ナデ	やや粗	やや粗	7.5YR7/4・6/4 5YR6/6	体部小片	
199	035-02	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・刻み 内:ナデ	密	良	外:10YR8/3 内:10YR5/2	体部小片	
200	052-04	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・刻み・縄文 内:ナデ	粗	差	7.5YR4/2	体部小片	
201	043-03	縄文	深鉢 A4	SH101				外-染帯・ナデ・縄文・ケズリ 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:10YR6/3 内:N6/0	体部小片	LR

第 8 表 出土土製品観察表⑥

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
202	057-01	甕文	深鉢	SH101				外:染帯・菊小・甕文 内:ヨコナデ	やや密	やや長	10YR5/2 10YR7/3	体部 小片	LR
203	070-07	甕文	深鉢	SH101				外:染帯・甕文 内:ナデ	粗	差	7.5YR5/4	体部 小片	RL
204	038-04	甕文	深鉢	SH101				外:甕文・染帯・菊小 内:ナデ	やや密	差	外:10YR4/1 内:10YR7/2	体部 小片	
205	048-06	甕文	深鉢	SH101				外:甕文・染帯 内:ナデ	粗	長	5YR6/6 7.5YR6/6	体部 小片	
206	071-04	甕文	深鉢	SH101				外:染帯・ナデ 内:ナデ	やや密	差	5YR7/6	体部 小片	
207	038-06	甕文	深鉢	SH101				外:染帯・菊小・甕文 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR5/2 内:7.5YR7/3	体部 小片	
208	037-06	甕文	深鉢	SH101				外:染帯・菊小 内:ナデ	やや密	差	外:10YR7/2 内:2.5YR5/6	体部 小片	
209	079-02	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:ナデ	密	差	外:10YR6/4 内:10YR5/3	体部 小片	
210	046-01	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・甕文・比羅 内:ナデ・オサエ	やや密	差	外:5YR6/4・7.5YR5/2・4/2 内:7.5YR6/3	口縁 小片	RL
211	074-02	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・甕文 内:ナデ	やや密	やや長	外:7.5YR4/2 内:7.5YR6/4	口縁 小片	RL
212	069-07	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・比羅・甕文 内:ナデ・オサエ	やや密	差	外:7.5YR3/1 内:7.5YR5/3	口縁 小片	LR
213	026-02	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・比羅・甕文 内:ナデ	やや密	長	7.5YR7/4 7.5Y6/2	口縁 小片	LR
214	045-05	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・甕文・比羅 内:ナデ・オサエ	やや密	差	外:7.5YR6/4・7.5YR5/3 内:7.5YR7/4・6/4	口縁 小片	RL
215	061-01	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・染帯・ナデ 内:ヨコナデ	やや密	やや長	10YR6/3 8.5YR3/3	口縁 小片	
216	078-08	甕文	深鉢 B1	SH101				外:比羅・甕文 内:ナデ・オサエ	やや密	差	外:10YR6/3 内:10YR7/3	口縁 小片	RL
217	056-02	甕文	深鉢 B1	SH101				外:比羅・甕文 内:ナデ	やや密	長	外:2.5YR5/1・4/1 内:7.5YR6/3	口縁 小片	RL
218	060-05	甕文	深鉢 B2	SH101				外:比羅・甕文 内:ナデ・オサエ	やや密	長	7.5YR4/2 7.5YR5/3	口縁 小片	RL
219	056-01	甕文	深鉢 B1	SH101				外:菊小・甕文・比羅 内:ナデ	やや密	長	外:7.5YR5/2 内:7.5YR7/4	口縁 小片	LR
220	029-01	甕文	深鉢 B2	SH101				外:比羅・甕文 内:ヨコナデ・オサエ	粗	差	7.5YR6/3・5/3	口縁 小片	LR
221	030-01	甕文	深鉢 B2	SH101				外:比羅・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:7.5YR4/2 内:7.5YR6/4	体部 小片	LR
222	054-03	甕文	深鉢 C1	SH101				外:染帯・比羅 内:ヨコナデ・ナデ	やや密	差	2.5YR6/6	口縁 小片	LR
223	058-01	甕文	深鉢 C1	SH101				外:染帯・比羅 内:ナデ	やや密	長	5YR6/6 2.5YR5/6	口縁 小片	外面赤彩
224	035-04	甕文	深鉢 C1	SH101				外:染帯・菊小・比羅 内:工具ナデ	密	長	外:5YR6/6・10YR6/4 内:5YR6/6・10YR6/4	口縁 小片	外内面に赤彩
225	049-06	甕文	深鉢 C1	SH101				外:染帯・菊小・比羅 内:ナデ	粗	長	5YR4/2 2.5YR4/6	口縁 小片	外面赤彩
226	035-01	甕文	深鉢 C1	SH101				外:染帯・比羅・キザシ 内:ナデ	密	長	外:5YR6/6・2.5YR5/6 内:5YR6/6	口縁 小片	外面赤彩
227	064-07	甕文	深鉢 C2	SH101				外:刺突 内:ヨコナデ	やや密	不長	2.5Y6/1	口縁 小片	
228	058-03	甕文	深鉢 C2	SH101				外:ナデ・刺突(C字状) 内:ナデ	やや密	やや長	外:7.5YR5/3 内:10YR6/3	口縁 小片	
229	062-05	甕文	深鉢	SH101				外:刺突(C字状) 内:ヨコナデ	やや密	不長	10YR7/3	体部 小片	外面赤彩
230	060-02	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突列 内:ナデ	やや密	やや長	10YR6/3・10YR5/1 内:7.5YR7/4	体部 小片	
231	079-05	甕文	深鉢	SH101				外:C字状刺突 内:ナデ	密	差	外:5YR6/6 内:7.5YR7/6	体部 小片	
232	027-03	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列 内:ナデ	やや密	長	2.5YR6/6 7.5YR7/4	体部 小片	
233	055-02	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突(C字状) 内:ナデ	やや密	差	外:2.5YR6/6 内:10YR6/2	体部 小片	外面赤彩
234	041-07	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列・ナデ・甕文 内:ナデ・オサエ	やや密	差	10YR6/2	体部 小片	
235	047-08	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列(C字状)・ナデ 内:ナデ	やや密	長	10YR8/3 7.5YR8/4	体部 小片	
236	055-04	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列(C字状) 内:ナデ	やや密	差	外:10YR4/1 内:10YR5/1	体部 小片	
237	071-08	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列(C字状)・ナデ 内:ナデ	やや密	差	10YR7/2	体部 小片	
238	079-06	甕文	深鉢	SH101				外:刺突(C字状) 内:オサエ	密	差	外:10YR6/3 内:10YR4/2	体部 小片	

第9表 出土土製品観察表⑦

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査 技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
239	060 -04	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突列 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	10YR5/3	体部 小片	外面赤彩
240	058 -05	甕文	深鉢	SH101				外:刺突・刺突列 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外:2.5YR5/4 内:7.5YR5/1	体部 小片	外面赤彩
241	058 -06	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突列 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外:10YR5/0 内:10YR5/2	体部 小片	
242	073 -05	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突列 内:ナデ	やや 粗	差	外:2.5YR5/6 内:10YR2/2	体部 小片	外面赤彩
243	063 -02	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突列 内:ナデ	やや 粗	良	5YR7/4	体部 小片	外面赤彩
244	080 -02	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列(C字状)・ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外:10YR4/4 内:7.5YR5/4	体部 小片	外面赤彩
245	069 -03	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列・ナデ 内:ナデ	やや 粗	差	外:2.5YR5/4 内:10YR5/3	体部 小片	外面赤彩
246	071 -05	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列・ナデ 内:ナデ	密	差	外:7.5YR7/6 内:2.5Y5/1	体部 小片	外面赤彩
247	046 -05	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・刺突列 内:ナデ	やや 粗	差	外:2.5YR5/4 内:7.5YR5/3・7.5YR5/2	体部 小片	外面赤彩
248	036 -06	甕文	深鉢	SH101				外:刺突列・ナデ 内:ナデ	粗	良	5YR5/4・5YR4/2・5YR6/6	体部 小片	
249	062 -03	甕文	深鉢 C4	SH101				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	良	外:2.5YR4/1 内:7.5YR7/4	口縁 小片	外面赤彩
250	069 -05	甕文	深鉢 C4	SH101				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	差	外:7.5YR5/3 内:7.5YR5/2・5/2	口縁 小片	
251	052 -02	甕文	深鉢 C4	SH101				外:溜み・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	差	外:10YR2/4 内:7.5YR7/4	口縁 小片	
252	047 -07	甕文	深鉢 C3	SH101				外:甕文・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	良	10YR5/3 10YR5/2	口縁 小片	RL
253	061 -05	甕文	深鉢 C3	SH101				外:ナデ・沈線・甕文 内:ナデ	やや 粗	良	外:2.5YR1 内:10YR5/3	口縁 小片	LR
254	060 -07	甕文	深鉢 C3	SH101				外:甕文・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	良	N7/0 8N3/0	口縁 小片	
255	036 -08	甕文	深鉢 C4	SH101				外:平行沈線 内:ナデ	やや 粗	良	2.5YR5/6 10YR4/4	口縁 小片	赤彩
256	078 -07	甕文	深鉢 C4	SH101				外:縁帯・平行沈線 内:ナデ・オサエ	密	差	外:7.5YR5/3 内:10YR7/3	口縁 小片	外面赤彩
257	061 -06	甕文	深鉢 C4	SH101				外:ナデ・沈線・貫孔 内:ナデ	やや 粗	良	10YR5/3 7.5YR4/1	口縁 小片	
258	037 -07	甕文	深鉢 C4	SH101				外:溜み・沈線・甕文 内:ナデ	やや 粗	差	外:5YR3/1 内:7.5YR5/4	口縁 小片	
259	083 -05	甕文	深鉢 C4	SH101				外:溜み・沈線 内:ナデ	やや 粗	良	7.5YR5/6	口縁 小片	
260	064 -02	甕文	深鉢 C4	SH101	12.4			外:溜み・糸線 内:ナデ	やや 粗	良	7.5YR7/4 10YR2/1	口縁 小片	
261	073 -02	甕文	深鉢 CS	SH101				外:沈線・ナデ 内:ナデ	粗	差	外:10YR5/2 内:7.5YR4/4	口縁 小片	
262	036 -07	甕文	深鉢 C4	SH101				外:平行沈線 内:ナデ	やや 粗	良	2.5YR1/8/2 2.5Y3/1	口縁 小片	
263	072 -05	甕文	深鉢 C4	SH101				外:キザミ・沈線 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	10YR6/2	口縁 小片	
264	039 -01	甕文	深鉢 C4	SH101				外:田コナデ・沈線 内:ナデ	やや 粗	差	外:7.5YR5/2 内:7.5YR4/1	口縁 小片	
265	051 -04	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・沈線 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR5/6・10YR7/4 内:2.5YR5/6	体部 小片	
266	066 -06	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・沈線 内:ナデ	密	差	外:7.5YR5/6 内:7.5YR5/4	体部 小片	
267	055 -03	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・沈線 内:ナデ	やや 粗	差	外:7.5YR7/4 内:2.5YR5/4	体部 小片	外面赤彩
268	042 -01	甕文	深鉢	SH101				外:沈線・ナデ 内:ナデ	やや 粗	差	外:5YR5/6・7.5YR6/4 内:5YR5/6・7.5YR5/2	体部 小片	
269	039 -05	甕文	深鉢	SH101				外:沈線・ナデ 内:ナデ	やや 粗	差	10YR5/3	体部 小片	
270	077 -04	甕文	深鉢	SH101				外:平行沈線・ナデ 内:ナデ	密	差	10YR5/3	体部 小片	
271	033 -02	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・沈線 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外:7.5YR4/1 内:7.5YR5/4	体部 小片	
272	063 -03	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	やや 不良	2.5YR5/2	体部 小片	
273	038 -07	甕文	深鉢	SH101				外:沈線・ナデ 内:ナデ	やや 粗	差	外:2.5YR5/4 内:7.5YR7/4	体部 小片	外面赤彩
274	063 -01	甕文	深鉢	SH101				外:沈線・ナデ 内:ナデ	やや 粗	不良	外:10YR5/3 内:2.5YR2/2	体部 小片	全体に 薄く赤彩
275	060 -03	甕文	深鉢	SH101				外:沈線・ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	7.5YR5/3	体部 小片	

第10表 出土土製品観察表⑧

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査 技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
276	061-07	甕文	洗鉢 F2	SH101				外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや 中	中 良	7.5YR4/2 5YR6/6	口縁 小片	
277	052-08	甕文	洗鉢 F2	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや 中	中 差	5YR5/4	口縁 小片	
278	059-06	甕文	洗鉢 F2	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや 中	中 良	2.5YR5/6	体部 小片	
279	036-04	甕文	洗鉢 F2	SH101				外:1ガナ 内:ナデ	粗	良	10YR6/2・10YR6/3・ 10YR4/1	体部 小片	
280	054-04	甕文	洗鉢 F2	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや 中	差	5YR5/6	体部 小片	
281	065-06	甕文	洗鉢 F2	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや 密	良	外:5YR4/6 内:7.5YR6/6	体部 小片	
282	081-01	甕文	深鉢 D1	SH101	30.5			外:面み・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR5/2 10YR6/3	4/12 口縁 小片	
283	041-01	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:7.5YR4/2 内:10YR7/3・6/3	口縁 小片	RL
284	029-06	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 中	差	10YR5/3-4/3	口縁 小片	LR
285	069-06	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ	粗	差	外:10YR7/2 内:10YR5/1	口縁 小片	LR
286	033-04	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 中	中 良	10YR6/2 10YR4/2	口縁 小片	RL
287	082-01	甕文	深鉢 D1	SH101	32.3			外:面み・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 中	中 良	外:10YR5/2・4/2 内:10YR7/2	口縁 小片	LR
288	071-02	甕文	深鉢 D3	SH101				外:ヨコナデ・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 中	差	外:10YR8/3 内:10YR6/2	口縁 小片	LR, FRL
289	064-04	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・羽状甕文 内:ナデ	やや 中	良	外:10YR3/2 内:10YR5/2	口縁 小片	LR, FRL
290	063-05	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	やや 密	良	外:7.5YR7/4 内:10YR8/3	口縁 小片	LR, FRL
291	053-03	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR7/2 内:10YR4/1	口縁 小片	RL
292	037-03	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 中	差	10YR7/4	口縁 小片	RL
293	075-03	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ	粗	良	10YR7/3・7/2 10YR4/1	口縁 小片	LR
294	039-05	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ヨコナデ	粗	差	10YR7/3 外面一部2.5YR5/6	口縁 小片	RL
295	082-04	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 密	中 良	外:7.5YR6/4 内:5YR5/3	口縁 小片	LR
296	032-03	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 中	良	外:10YR6/2-4/2 内:10YR5/1	口縁 小片	RL
297	056-03	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文・貫孔 内:ナデ	やや 密	中 良	10YR4/2・5/2	口縁 小片	RL
298	049-03	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 粗	良	10YR4/2・2.5YR8/2 断-N2/0	口縁 小片	RL
299	064-06	甕文	深鉢 D2	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 中	良	10YR4/1	口縁 小片	LR
300	053-05	甕文	深鉢 D2	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 中	差	10YR6/3	口縁 小片	RL
301	030-03	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ヨコナデ・ナデ・オサエ	粗	差	外:7.5YR5/2 内:7.5YR6/4	口縁 小片	RL
302	074-01	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 中	中 良	10YR6/3	口縁 小片	RL
303	065-05	甕文	深鉢 D3	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ	やや 中	差	外:10YR4/2 内:7.5YR6/6	口縁 小片	RL
304	034-04	甕文	深鉢 D3	SH101				外:ナデ・甕文 内:ナデ・オサエ	密	良	外:10YR4/2・2.5Y7/3 内:7.5Y2/1	口縁 小片	LR
305	067-01	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	やや 中	差	10YR4/2	口縁 小片	LR
306	073-08	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR6/3 内:10YR7/3	口縁 小片	RL
307	037-08	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	粗	差	外:10YR7/3 内:7.5YR4/2	口縁 小片	RL
308	055-01	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR7/2 内:10YR8/3	口縁 小片	LR
309	069-01	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	7.5YR6/4	口縁 小片	RL
310	057-02	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや 密	中 良	5YR6/2 5YR6/6	口縁 小片	LR
311	069-08	甕文	深鉢 D3	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR7/4	口縁 小片	RL
312	047-05	甕文	深鉢 D1	SH101				外:面み・甕文 内:ナデ	粗	良	7.5YR7/4 7.5YR5/2・4/2	口縁 小片	RL

第11表 出土土製品観察表⑨

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	量器 (cm)			調査 技法	出土 状況	構成	色 調	残存	備考
					口径	底径	器高						
313	027 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	粗	灰	7.5YR7/4-6/4	体部 小片	ERL, FLR
314	072 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	黄	外：7.5YR7/4 内：10YR7/2	体部 小片	ERL, FLR
315	036 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：工具ナデ	密	灰	外：10YR3/2・10YR5/4 内：7.5YR5/6	体部 小片	ERL, FLR
316	052 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	黄	7.5YR5/3 7.5YR4/2	体部 小片	ELR, FRL
317	037 -02	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	黄	外：10YR6/2 内：10YR5/2	体部 小片	ERL, 中LR, FRL
318	029 -03	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：7.5YR5/2 内：10YR7/3	体部 小片	ELR, FRL
319	028 -02	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	粗	10YR5/2 10YR7/2	体部 小片	ELR, FRL
320	063 -04	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	7.5YR7/4	体部 小片	ELR, FRL
321	064 -03	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：7.5YR7/4 内：10YR8/3	体部 小片	ERL, FLR
322	043 -02	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	粗	外：7.5YR6/4 内：7.5YR6/4・7.5YR5/3	体部 小片	ERL, FLR
323	032 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	密	外：7.5YR5/2・4/2 内：7.5YR7/4	体部 小片	ERL, FLR
324	075 -02	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	粗	10YR4/2 10YR5/3	体部 小片	ELR, FRL
325	070 -06	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：5YR6/6 内：7.5YR7/4	体部 小片	ELR, FRL
326	083 -07	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	7.5YR5/3	体部 小片	ERL, 中LR, FRL
327	059 -05	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	粗	7.5YR6/3 7.5YR7/4	体部 小片	ELR, FRL
328	058 -07	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	10YR6/2・5/2	体部 小片	ERL, FLR
329	034 -06	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：10YR6/4 内：7.5YR3/1	体部 小片	ELR, FRL
330	076 -03	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	粗	外：7.5YR5/3 内：7.5YR6/4	体部 小片	ERL, FLR
331	032 -06	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	粗	黄	外：7.5YR5/3 内：7.5YR6/4	体部 小片	ERL, FLR
332	041 -02	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	密	10YR6/3	体部 小片	ERL, FRL
333	041 -05	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：7.5YR5/2・7.5YR4/1 内：7.5YR7/4	体部 小片	外面スス付着 ERL, FLR
334	033 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	粗	外：10YR6/3 内：10YR3/2	体部 小片	ELR, FRL
335	083 -04	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	粗	外：5YR7/4・6/3 内：5YR4/1	体部 小片	ERL, 中LR, FRL
336	041 -06	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：7.5YR5/6 内：7.5YR6/3	体部 小片	ELR, FRL
337	050 -05	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：10YR5/2・10YR6/3 内：7.5YR6/6	体部 小片	ELR, FRL
338	073 -03	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	10YR4/2	体部 小片	ELR, FRL
339	074 -04	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	粗	7.5YR6/4 7.5YR5/1	体部 小片	ERL, FLR
340	075 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	粗	5YR7/6 10YR7/3	体部 小片	RL
341	037 -01	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：7.5YR3/2 内：7.5YR4/3	体部 小片	LR
342	045 -03	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：7.5YR5/2 内：7.5YR6/4	体部 小片	RL
343	049 -05	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	7.5YR7/4 7.5YR4/2	体部 小片	LR
344	048 -04	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	粗	7.5YR6/3・7.5YR4/2 7.5YR7/6	体部 小片	LR
345	037 -05	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	粗	黄	外：7.5YR5/1 内：10YR8/3	体部 小片	RL
346	027 -05	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	粗	灰	7.5YR5/3-5/4 7.5YR7/4	体部 小片	RL
347	045 -02	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	外：10YR3/2・10YR5/2 内：7.5YR4/2	体部 小片	LR
348	045 -04	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ・オサエ	中 中	密	外：10YR5/2・4/2 内：10YR7/3・6/3	体部 小片	RL
349	048 -03	陶文	深鉢	SH101				外・陶文 内：ナデ	中 中	密	10YR7/3・10YR6/2 10YR5/1	体部 小片	RL

第12表 出土土製品観察表⑩

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査 技法	胎土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
350	049-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	良	7.5YR6/6 7.5YR5/3	体部 小片	LR
361	076-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 粗	やや 良	外-5YR6/6 内:7.5YR3/1	体部 小片	LR
362	076-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 粗	良	5YR6/6	体部 小片	RL
363	047-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	良	5YR7/6 7.5YR7/4	体部 小片	LR
364	053-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	差	7.5YR4/2	体部 小片	LR
365	032-05	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 粗	やや 良	7.5YR6/4	体部 小片	LR
366	032-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	やや 良	外:7.5YR5/3 内:7.5YR6/4	体部 小片	RL
367	051-03	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	差	10YR4/4・10YR5/2 10YR3/2	体部 小片	外面ヌス付着
368	030-06	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	差	外:10YR6/2 内:10YR8/2	体部 小片	RL
369	040-05	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	差	7.5YR5/2	体部 小片	LR
360	083-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 粗	やや 良	外:10YR3/2 内:10YR6/2	体部 小片	RL
361	073-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	10YR6/2	体部 小片	RL
362	030-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR4/2 内:10YR4/1	体部 小片	LR
363	054-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外:10YR5/2 内:10YR7/2	体部 小片	LR
364	043-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 粗	やや 良	外:7.5YR6/4・7.5YR4/2 内:10YR7/4	体部 小片	RL
365	052-05	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:不明	粗	差	10YR7/2・7/3	体部 小片	RL
366	082-05	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 良	外:7.5YR7/6 内:10YR8/3	体部 小片	RL
367	075-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 良	10YR7/3 10YR4/1	体部 小片	RL
368	069-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:7.5YR5/3・7.5YR4/2 内:7.5YR5/2	体部 小片	LR
369	032-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 良	外:10YR4/1 内:7.5YR4/1	体部 小片	LR
370	048-01	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	良	10YR4/2 10YR6/3	体部 小片	RL
371	083-10	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 粗	やや 良	外:10YR6/2 内:10YR7/3	体部 小片	RL
372	066-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:10YR4/3 内:7.5YR6/6	体部 小片	RL
373	049-07	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	良	5YR7/6 10YR8/4	体部 小片	RL
374	083-01	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 良	外:10YR5/2 内:7.5YR6/4	体部 小片	RL
375	073-07	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR7/3 内:7.5YR4/4	体部 小片	LR
376	066-03	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	密	差	外:10YR5/2 内:2.5YR6/3	体部 小片	LR
377	069-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	7.5YR6/6	体部 小片	LR
378	040-06	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR7/3・6/3	体部 小片	RL
379	040-02	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR7/4 内:7.5YR5/3・7.5YR4/2 10YR6/4	体部 小片	LR
380	070-04	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	差	5YR5/6	体部 小片	RL
381	027-06	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	良	5YR4/6・10YR2/3 紫5Y7/1	体部 小片	LR
382	071-07	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR6/3 内:10YR4/1	体部 小片	RL
383	029-02	甗文	深鉢	SH101				外:ナデ・甗文 内:ナデ・オサエ	粗	差	7.5YR5/1 10YR6/2	体部 小片	RL
384	066-01	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:10YR3/2 内:7.5YR6/6	体部 小片	RL
385	049-01	甗文	深鉢	SH101				外-甗文 内:ナデ	粗	良	7.5YR7/4 10YR7/3	体部 小片	LR

第13表 出土土製品観察表①

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
386	060-01	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや中 中	中	7.5YR6/2・7.5YR7/6 10YR8/7	底部 小片	LR
387	078-02	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	密	差	外:7.5YR6/4 内:10YR7/4	底部 小片	外面赤彩
388	076-01	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	やや中 中	中	外:7.5YR7/4 内:2N7/0	底部 小片	LR
389	038-03	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:ナデ	やや中 中	中	10YR6/2・5/2 10YR5/1	底部 小片	LR
390	065-07	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:ナデ・オサエ	やや中 中	差	外:2.5YR5/3 内:2.5YR6/2	底部 小片	LR
391	044-01	甕文	深鉢	SH101				外:甕文 内:工具ナデ・ナデ	やや中 中	中	7.5YR4/2 10YR7/3	底部 小片	
392	068-06	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・絞輪? 内:ナデ	粗	差	5YR6/4	底部 小片	
393	059-04	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	7.5YR5/3 5YR6/4	口縁 小片	
394	041-03	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	粗	差	外:10YR7/3 内:10YR6/3	口縁 小片	
395	051-01	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ・オサエ	粗	差	7.5YR5/3	口縁 小片	
396	030-06	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや中 中	差	外:5YR4/2 内:5YR5/4	口縁 小片	
397	044-03	甕文	深鉢	SH101				外:面み・ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	10YR8/3	口縁 小片	
398	070-02	甕文	深鉢	SH101				外:面み・ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	やや中 中	差	外:7.5YR2/2 内:5YR5/4	口縁 小片	
399	076-05	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	7.5YR7/4 7.5YR4/2	口縁 小片	
400	076-06	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	7.5YR7/3 7.5YR4/2	口縁 小片	
401	066-05	甕文	深鉢	SH101				外:面み・ナデ 内:オサエ	やや中 中	差	外:10YR2/2・10YR5/3 内:10YR4/2	口縁 小片	
402	066-04	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	密	差	外:7.5YR5/3 内:10YR5/3	口縁 小片	
403	035-03	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ・オサエ	やや中 中	中	外:10YR4/2・10YR5/3 内:7.5YR5/4・7.5YR4/2	口縁 小片	内面スチ付着
404	053-01	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	密	差	5YR5/4	口縁 小片	
405	055-07	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	密	7.5YR6/4	口縁 小片	
406	057-04	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	外:10YR4/4 内:10YR7/2	底部 小片	
407	050-03	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:7.5YR6/3 内:10YR6/3・10YR4/1	底部 小片	
408	077-01	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:オサエ	粗	差	外:7.5YR6/4 内:10YR7/4	底部 小片	
409	050-04	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:オサエ	やや中 中	差	7.5YR5/3	底部 小片	
410	050-07	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	粗	差	外:10YR7/4 内:7.5YR6/4	底部 小片	
411	083-06	甕文	深鉢	SH101				外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	10R4/6 10YR7/3	底部 小片	赤彩
412	068-02	甕文	T1	SH101	6.2			外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	やや中 中	中	3.5YR4/3 10YR4/2	底部 欠存	
413	047-01	甕文	T3	SH101	6.4			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	やや中 中	中	7.5YR6/4・10YR5/2 8N-10YR2/1	底部 4/12	
414	035-05	甕文	T3	SH101	8.0			外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	密	中	外:10YR3/1・10YR5/2 内:10YR5/2	底部 欠存	
415	030-08	甕文	T3	SH101	10.0			外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	外:7.5YR5/1 内:7.5YR6/3	底部 3/12	
416	062-06	甕文	T3	SH101	10.4			外:ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	5YR6/6	底部 2/12	
417	047-03	甕文	T3	SH101	9.4			外:ナデ 内:ナデ	粗	中	7.5YR7/2 2.5YR8/2	底部 3/12	
418	031-04	甕文	T3	SH101	11.0			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	やや中 中	中	外:7.5YR4/1 内:10YR6/4	底部 3/12	
419	042-07	甕文	T3	SH101	12.9			外:ナデ 内:ナデ	粗	差	10YR7/3 底面:10YR5/2	底部 2/12	
420	042-05	甕文	T3	SH101	13.6			外:ナデ 内:ナデ	粗	差	5YR6/6 底面:7.5YR6/4・10YR4/1	底部 2/12	
421	068-01	甕文	T3	SH101	14.3			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR5/3 内:10YR4/2	底部 1/12	内面 炭化物付着?
422	047-02	甕文	T3	SH101	9.6			外:甕文・ナデ 内:ナデ	やや中 中	中	2.5Y4/1	底部 1/12	

第14表 出土土製品観察表⑫

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)		調査 技法	出土 状況	色 調	残存	備 考	
					口径	底径						
423	065-02	陶文	T3	SH101		11.0	外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	密	差	外:10YR7/4・10YR4/1 内:10YR3/3	底部 2/12	
424	035-06	陶文	T3	SH101		11.9	外:ナデ 内:ナデ・オサエ	密	良	外:10YR4/2・2.5YR6/3 内:10YR5/2・10YR6/3	底部 完全	底外面スチ付着
425	064-01	陶文	T3	SH101		16.6	外:縄文・刷み・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	良	7.5YR7/4	底部 小片	
426	079-07	陶文	T3	SH101			外:刷文・ナデ 内:ナデ	密	差	外:7.5YR6/6 内:10YR8/3	底部 小片	外面 赤色顔料
427	050-01	陶文	T3	SH101		14.0	外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR7/3	底部 9/12	
428	046-07	陶文	T3	SH101		9.5	外:ナデ 内:ナデ	やや 密	差	外:10R5/6 内:7.5YR7/3	底部 小片	
429	050-02	陶文	T3	SH101		11.1	外:ナデ・オサエ 内:ナデ	やや 密	差	7.5YR6/4	底部 小片	
430	031-02	陶文	T3	SH101		14.5	外:ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 良	7.5YR5/2	底部 3/12	
431	065-01	陶文	T3	SH101		11.7	外:縄文・ナデ 内:ナデ・オサエ	密	差	外:10YR4/2 内:2.5Y7/3	底部 6/12	
432	031-01	陶文	T3	SH101		15.3	外:ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 良	10YR6/2 10YR6/3	底部 3/12	
433	078-03	陶文	T3	SH101		15.8	外:縄文・ナデ・オサエ 内:ナデ	密	差	外:10YR4/2 内:NA/0	底部 2/12	
434	062-07	陶文	T3	SH101		12.4	外:ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 粗	不良	2.5YR/3	底部 3/12	
435	065-04	陶文	T3	SH101		11.0	外:ナデ・オサエ 内:ナデ	密	差	2.5Y/3	底部 3/12	
436	054-06	陶文	T3	SH101		14.4	外:ナデ 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR5/2 内:7.5YR6/4	底部 5/12	
437	059-01	陶文	T3	SH101		7.0	外:ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 良	7.5YR5/3 5YR6/6	底部 小片	
438	031-03	陶文	T3	SH101		9.3	外:縄文・ナデ・オサエ 内:ナデ	やや 粗	やや 良	7.5YR4/3 10YR6/3	底部 6/12	
439	031-05	陶文	T4	SH101		12.0	外:ナデ・刷み 内:ナデ	やや 粗	良	2.5Y/1 10YR7/2	底部 小片	
440	042-06	陶文	T4	SH101		11.0	外:ヨコナデ・刷み・オサエ 内:ナデ・オサエ	密	差	7.5YR6/6 底面:10YR5/2	底部 3/12	
441	082-03	陶文	T4	SH101		13.3	外:刷み・ナデ 内:ナデ	やや 粗	差	7.5YR6/4 10YR6/3	底部 小片	
442	082-02	陶文	T4	SH101		11.2	外:刷み・ナデ 内:ナデ	やや 密	良	2.5Y/2	底部 3/12	
443	059-02	陶文	T4	SH101		9.5	外:ナデ・刷み 内:ナデ	やや 粗	良	7.5YR8/4 10YR4/1	底部 小片	
444	065-03	陶文	T4	SH101		7.0	外:ナデ・オサエ 内:ナデ	密	差	外:7.5YR7/6 内:7.5YR7/4	底部 4/12	
445	096-03	陶文	深鉢 A2	SH102			外:撥帯・刷み・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	10YR7/2 内面一部:10YR6/1	口縁 小片	RL
446	095-04	陶文	深鉢 A2	SH102			外:撥帯・キヅ 内:ナデ	やや 粗	差	10YR8/3	口縁 小片	
447	094-03	陶文	深鉢 A3	SH102			外:刷み・撥帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	10YR6/3	口縁 小片	LR
448	099-07	陶文	深鉢 A1	SH102			外:撥帯・刷み 内:ナデ	やや 密	やや 良	7.5YR6/4 10YR6/3	口縁 小片	
449	102-02	陶文	深鉢 A3	SH102			外:刷み・撥帯 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR6/2 内:10YR7/2	口縁 小片	
450	100-07	陶文	深鉢 A1	SH102			外:撥帯 内:ナデ	やや 密	差	7.5YR4/2	口縁 小片	
451	094-02	陶文	深鉢 A1	SH102			外:撥帯・刷み 内:ナデ	やや 密	差	10YR8/2	口縁 小片	
452	102-05	陶文	深鉢 A1	SH102			外:撥帯・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR8/3 内:10YR7/4	口縁 小片	RL
453	095-01	陶文	深鉢 A1	SH102			外:刷み・撥帯・縄文 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR5/4・7.5YR4/2 内:5YR6/6	口縁 小片	RL
454	101-07	陶文	深鉢	SH102			外:撥帯・比喩・刷み・縄文 内:ナデ	やや 密	差	外:5YR7/6 内:7.5YR8/4	底部 小片	LR
455	100-06	陶文	深鉢	SH102			外:撥帯・刷み・比喩 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR8/4・7.5YR6/2 内:7.5YR8/3・5YR7/4	底部 小片	
456	101-01	陶文	深鉢	SH102			外:撥帯・比喩・刷み 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR7/4・7.5YR7/4 内:7.5YR7/6・7.5YR7/4	底部 小片	
457	094-06	陶文	深鉢	SH102			外:撥帯・刷み・縄文 内:ナデ	やや 密	差	10YR6/2	底部 小片	上LR,FRL
458	095-03	陶文	深鉢	SH102			外:撥帯・刷み・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:10YR5/2・10YR7/3 内:10YR7/3	底部 小片	上LR,FRL
459	101-02	陶文	深鉢	SH102			外:撥帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外:10YR6/3 内:10YR7/3	底部 小片	RL

第15表 出土土製品観察表⑬

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	出土	焼成	色調	残存	備考		
					口径	底径	器高								
460	101-05	甕文	深鉢 C2	SH102				外:黒小・刺突列(C字状)内:ナデ	粗	差	7.5YR6/4	口縁小片			
461	096-01	甕文	深鉢 C3	SH102				外:ナデ・刺突列(C字状)内:ナデ	中	中	差	外:2.5YR6/4、口縁内面:2.5 YR5/4、内:7.5YR7/4	口縁小片	内外面漆彩?	
462	097-07	甕文	深鉢 C4	SH102				外:黒小・沈線内:ナデ	中	中	中	差	2.5YR6/1	口縁小片	
463	097-06	甕文	深鉢 C4	SH102				外:黒小・沈線・ナデ内:ナデ	中	中	中	差	10YR2/1 10YR6/2	口縁小片	
464	093-02	甕文	深鉢 C4	SH102				外:ナデ・沈線内:ナデ	中	中	差	外:10R4/4 内:7.5YR7/4・10R5/6	口縁小片	外面漆彩	
465	093-03	甕文	深鉢 C4	SH102				外:ナデ・沈線内:ナデ	中	中	差	外:10YR8/2 内:7.5YR8/4	口縁小片		
466	098-08	甕文	深鉢 C5	SH102				外:ヨコナデ、2条ヨコ沈線・斜溝子文様、内:ナデ	中	中	中	差	7.5YR7/6 10YR6/2	口縁小片	
467	099-06	甕文	深鉢	SH102				外:ナデ・筋子状沈線内:ナデ	中	中	中	差	外:7.5YR3/2 内:N2/0	体部小片	
468	092-04	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ	中	中	差	外:10YR7/4 内:7.5YR8/4	体部小片	上RL, FLR	
469	092-03	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ	中	中	差	7.5YR7/4	体部小片	上L, R, FRL	
470	101-03	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ・オサエ	中	中	差	外:10YR6/3 内:7.5YR8/4	体部小片	上RL, FLR	
471	095-06	甕文	深鉢	SH102				外:漆彩・黒小・刺突列内:ナデ・オサエ	中	中	差	10YR7/3	体部小片	上L, R, FRL	
472	094-01	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:不明	中	中	差	外:7.5YR6/4 内:7.5YR6/4	体部小片	上RL, FLR	
473	099-02	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ	中	中	中	差	10YR2/2・10YR7/4 断N3/0	体部小片	上RL, FLR
474	098-05	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ・オサエ	中	中	中	差	5YR6/6 7.5YR5/1	体部小片	上L, R, FRL
475	097-04	甕文	深鉢	SH102				外:条線内:ナデ	中	中	中	差	5YR6/6 10YR3/3	体部小片	内面漆彩
476	099-05	甕文	深鉢	SH102				外:沈線内:ナデ・オサエ	中	中	中	差	7.5YR7/4 断N4/0	体部小片	外面漆彩
477	098-06	甕文	深鉢	SH102				外:ナデ・沈線内:ナデ	中	中	中	差	外:7.5YR7/4 内:5YR7/6	体部小片	
478	092-02	甕文	深鉢	SH102				外:ナデ・沈線内:ナデ	中	中	差	外:2.5YR5/6 内:5YR7/6	体部小片	外面漆彩	
479	096-02	甕文	深鉢	SH102				外:沈線内:ナデ	中	中	差	外:10YR7/3 内:7.5YR8/4	体部小片		
480	097-01	甕文	洗鉢 F3	SH102	24.4			外:ナデ・ミガキ・円孔列内:ナデ	中	中	中	差	2.5YR5/6 断N4/0	口縁小片	
481	096-04	甕文	洗鉢 F2	SH102				外:ナデ・円孔列内:未調査	粗	差	7.5YR5/3	口縁小片			
482	093-06	甕文	洗鉢 F1	SH102				外:沈線・ナデ内:ナデ	中	中	差	外:5YR5/4 内:5YR6/3	体部小片		
483	101-06	甕文	洗鉢 F3	SH102				外:ナデ・オサエ内:ナデ	中	中	差	外:5YR7/6 内:10R5/4	体部小片		
484	097-05	甕文	洗鉢 F3	SH102				外:ナデ内:ナデ・オサエ	中	中	中	差	外:7.5YR6/4 内:7.5YR7/4・7.5YR4/1	体部小片	
485	100-01	甕文	深鉢 A5	SH102				外:漆彩・ナデ内:ナデ	中	中	差	外:7.5YR5/2・5YR4/1 内:7.5YR5/2・7.5YR4/2	口縁小片		
486	092-01	甕文	深鉢	SH102				外:漆彩・ナデ内:ナデ	粗	差	2.5YR5/6	体部小片	内外面漆彩		
487	094-05	甕文	深鉢 A9	SH102				外:漆彩・黒小内:ナデ	中	中	差	外:10YR5/3 内:10YR6/3	体部小片		
488	101-04	甕文	深鉢 D1	SH102				外:黒小・甕文内:ナデ・オサエ	中	中	差	外:10YR5/2 内:10YR6/2~5/2	口縁小片	LR	
489	094-04	甕文	深鉢 D3	SH102				外:ナデ・甕文内:ナデ	粗	差	外:5YR6/4 内:5YR5/2	口縁小片	LR		
490	093-05	甕文	深鉢 D3	SH102				外:ナデ・甕文内:ナデ	中	中	差	外:5YR6/6 内:7.5YR6/4・7.5YR5/2	口縁小片	上L, R, FRL	
491	102-07	甕文	深鉢 D3	SH102				外:黒小・ナデ・甕文内:ナデ	中	中	差	10YR5/2	口縁小片	LR	
492	098-07	甕文	深鉢 D3	SH102				外:ナデ・甕文内:ナデ	中	中	中	差	10YR4/1 10YR8/3	口縁小片	RL
493	093-01	甕文	深鉢 D3	SH102				外:甕文内:ナデ	中	中	差	外:7.5YR6/2 内:7.5YR7/4	口縁小片	RL	
494	098-01	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ・オサエ	中	中	中	差	10YR5/2 10YR3/2	体部小片	RL
495	098-03	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ	中	中	中	差	外:10YR5/3 内:10YR7/4	体部小片	LR
496	098-04	甕文	深鉢	SH102				外:甕文内:ナデ	中	中	中	差	5YR6/6 7.5YR6/4	体部小片	LR

第16表 出土土製品観察表⑭

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
497	095-02	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ	密	差	外:2.5YR1/4・7.5YR7/3 内:10YR8/3	体部 小片	外面赤彩か? LR
498	094-07	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR6/3	体部 小片	LR
499	092-06	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ	中 粗	差	7.5YR6/4	体部 小片	LR
500	098-02	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ・オサエ	中 粗	中 差	10YR5/2・10YR8/2 10YR2/1	体部 小片	RL
501	090-01	甕文	深鉢	SH102				外:ナデ・甕文 内:ナデ	中 粗	中 差	外:10YR8/4 内:10YR5/1	体部 小片	LR
502	099-04	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ	中 粗	中 差	10YR7/4 7.5YR7/8	体部 小片	LR
503	095-05	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:オサエ・ナデ	中 粗	差	7.5YR5/3	体部 小片	LR
504	102-03	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ・オサエ	中 粗	差	外:5YR6/8・7.5YR5/2 内:10YR7/3	体部 小片	RL
505	099-03	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ	中 粗	中 差	外:10YR5/2 内:7.5YR5/4	体部 小片	
506	093-04	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ	中 粗	差	7.5YR7/4	体部 小片	
507	116-06	甕文	深鉢	SH102				外:ナデ 内:ナデ	密	差	10YR7/3 5YR5/4	体部 小片	赤彩
508	092-05	甕文	深鉢	SH102				外・甕文 内:ナデ	中 粗	差	外:7.5YR5/2 内:10YR6/2	体部 小片	
509	097-02	甕文	T3	SH102	10.3			外:ナデ 内:ナデ・オサエ	中 粗	中 差	10YR5/2 10YR8/3	底部 2/13	
510	097-03	甕文	T3	SH102	9.8			外・甕文・ナデ 内:ナデ	中 粗	中 差	N3/0 10YR7/3	底部 2/13	
511	107-01	甕文	深鉢	SK113				外・染帯・甕文 内:ナデ	中 粗	差	外:10YR6/2 内:10YR7/2	口縁 小片	LR
512	109-07	甕文	深鉢	SK113				外・花縁・甕文 内:ナデ	中 粗	差	外:10YR5/2 内:10YR6/2	口縁 小片	LR
513	109-01	甕文	深鉢	SK113				外・甕文・染帯・顔み 内:ナデ	中 粗	差	7.5YR7/4	体部 小片	RL
514	109-05	甕文	深鉢	SK113				外・染帯・顔み 内:ナデ	中 粗	差	10YR8/1	体部 小片	
515	107-04	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR7/3	体部 小片	上LR, FRL
516	108-03	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ	中 粗	差	外:5YR6/4 内:7.5YR7/4	体部 小片	上LR, FRL
517	108-07	甕文	深鉢	SK113				外・斜実判(C字状) 内:ナデ	密	差	10YR8/2	体部 小片	赤彩
518	109-04	甕文	深鉢	SK113				外・斜実判(C字状) 内:ナデ	中 粗	差	5YR5/2	体部 小片	
519	094-06	甕文	深鉢	SK113				外・甕文・斜実判(C字状) 内:ナデ	中 粗	良	7.5YR7/4 10YR8/3	体部 小片	LR
520	108-06	甕文	深鉢	SK113				外・平行花縁 内:ナデ・オサエ	中 粗	差	外:10YR6/4 内:10YR7/4	体部 小片	
521	108-02	甕文	深鉢	SK113				外・花縁 内:ナデ・オサエ	中 粗	差	10YR7/3	体部 小片	
522	108-08	甕文	深鉢	SK113				外・花縁 内:ナデ	中 粗	差	外:7.5YR6/3 内:N5/0	体部 小片	赤彩か?
523	095-03	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	良	7.5YR6/8 7.5YR6/4	口縁 小片	LR
524	106-05	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ	粗	差	外:10YR5/2 内:10YR6/2	口縁 小片	RL
525	115-06	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ	密	差	10YR6/4	体部 小片	LR
526	107-06	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ	中 粗	差	外:10YR6/2 内:10YR8/1	体部 小片	上LR, FRL
527	107-02	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ	中 粗	差	外:5YR4/1 内:5YR6/4	体部 小片	上RL, FLR
528	094-05	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ	中 粗	良	7.5YR5/2 7.5YR4/3	体部 小片	RL
529	109-03	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ		差	外:10YR5/2 内:10YR6/2	体部 小片	上LR, FRL
530	107-05	甕文	深鉢	SK113				外・甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	10YR6/2	口縁 小片	
531	107-08	甕文	深鉢	SK113				外・顔み・ナデ 内:ナデ	中 粗	差	7.5YR6/1	口縁 小片	
532	109-06	甕文	深鉢	SK113				外・顔み・ナデ 内:ナデ	粗	差	5YR5/3	口縁 小片	
533	109-02	甕文	深鉢	SK113				外:ナデ 内:ナデ	中 粗	差	外:5YR5/3 内:2.5YR6/4	体部 小片	

第17表 出土土製品観察表⑬

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	出土	構成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
534	106-04	陶文	洗鉢 C1	SK113				外-隆帯・鋺み 内-ナデ・鋺み	やや密	差	外-10YR7/2 内-10YR7/3	口縁 小片	
535	107-03	陶文	洗鉢 F1	SK113				外-鋺み・入組木重文 内-ナデ	やや粗	差	外-10YR4/2 内-10YR5/2	口縁 小片	
536	107-07	陶文	洗鉢 F2	SK113				外-ナデ 内-ナデ	粗	差	5YR6/6	口縁 小片	
537	084-02	陶文	洗鉢 F3	SK113	6.6			外-ナデ 内-ナデ	粗	具	2.5YR5/6 10YR8/2	口縁 小片	
538	084-03	陶文	洗鉢 F2	SK113		体部 径 19.0		外-ιガキ 内-ιガキ	密	具	7.5YR6/4 2.5Y1/1	体部 小片	
539	108-01	陶文	T3	SK113		8.0		外-ナデ 内-オサエ	やや密	差	外-10YR7/2 内-5YR7/6	底部 小片	
540	085-02	陶文	T4	SK113		10.2		外-陶文・ナデ 内-ナデ	やや粗	具	10YR7/4 2.5YR4/1	底部 3/12	RL
541	084-01	陶文	T4	SK113		7.0		外-陶文・ナデ・鋺み 内-ナデ	粗	具	10YR6/4・7/3・10YR6/2 断-10YR4/2	底部 6/12	LR
542	091-01	陶文	深鉢 A3	SK103				外-隆帯・鋺み・ナデ 内-オサエ	やや粗	差	外-5YR6/4 内-10YR6/3	口縁 小片	
543	091-04	陶文	深鉢 A1	SK103				外-隆帯・陶文 内-ナデ	やや粗	差	10YR4/2	口縁 小片	
544	091-03	陶文	深鉢 A2	SK103				外-ナデ・陶文 内-ナデ	やや粗	差	外-10YR5/3 内-7.5YR6/3	口縁 小片	RL
545	090-04	陶文	深鉢 D1	SK103				外-鋺み・陶文 内-ナデ	粗	差	外-7.5YR5/3 内-10YR8/3・10YR6/2	口縁 小片	RL
546	090-05	陶文	深鉢 D2	SK103				外-陶文 内-ナデ	粗	差	10YR5/2	口縁 小片	RL
547	091-07	陶文	深鉢	SK103				外-刺突列(C字状)・陶文 内-不明	粗	差	10YR3/3	体部 小片	
548	090-06	陶文	深鉢	SK103				外-隆帯・鋺み・陶文 内-ナデ・オサエ	やや粗	差	10YR7/2・7/3	体部 小片	LR
549	091-02	陶文	深鉢	SK103				外-隆帯・鋺み・陶文 内-不明	やや密	差	10YR7/3	体部 小片	LR, FRL
550	091-06	陶文	深鉢	SK103				外-陶文 内-ナデ	やや密	差	10YR6/3	体部 小片	RL
551	090-03	陶文	深鉢	SK103				外-陶文 内-ナデ	やや粗	差	外-10YR6/2 内-10YR6/4	体部 小片	LR
552	091-05	陶文	深鉢	SK103				外-陶文 内-オサエ・ナデ	やや密	差	7.5YR6/6	体部 小片	RL
553	090-02	陶文	深鉢 C7	SK103	19.0			外-梯状厚文・ιガキ 内-ナデ	密	差	7.5YR6/4	口縁 小片	
554	090-07	陶文	深鉢 C2	SK103				外-ナデ・刺突列(C字状) 内-ナデ	やや密	差	外-2.5YR5/4 内-7.5YR6/2・10YR4/1	口縁 小片	
555	091-08	陶文	洗鉢 F2	SK103				外-隆帯・鋺み・貫孔 内-ナデ	粗	差	10YR5/3・10YR3/1 7.5YR5/4	口縁 小片	
556	090-01	陶文	T3	SK103		21.0		外-ナデ・オサエ 内-ナデ	密	差	10YR7/3 2.5YR5/4	底部 小片	外面漆部
557	105-01	陶文	深鉢 A1	SK105				外-鋺み・隆帯・陶文 内-口コナデ・オサエ	やや粗	具	外-7.5YR5/4 内-10YR2/1	口縁 小片	LR
558	106-03	陶文	深鉢 A1	SK105				外-隆帯・鋺み・陶文 内-条痕・ナデ	密	具	10YR4/2	口縁 小片	
559	089-03	陶文	深鉢 A1	SK105				外-隆帯・陶文 内-ナデ	やや粗	やや粗	7.5YR6/4	口縁 小片	RL
560	105-06	陶文	深鉢 A1	SK105				外-隆帯・陶文 内-ナデ・オサエ	やや粗	差	7.5YR7/4	口縁 小片	RL
561	106-01	陶文	深鉢 A1	SK105				外-隆帯・陶文 内-ナデ・オサエ	粗	不具	10YR8/3	口縁 小片	RL
562	088-06	陶文	深鉢 A3	SK105				外-隆帯・ナデ 内-ナデ	やや密	やや粗	外-7.5YR5/3 内-7.5YR4/1	口縁 小片	
563	089-02	陶文	深鉢 A3	SK105				外-隆帯・ナデ 内-ナデ	やや密	やや粗	外-7.5YR4/2 内-7.5YR7/4	口縁 小片	
564	089-05	陶文	深鉢 A3	SK105				外-鋺み・陶文 内-ナデ	やや密	やや粗	7.5YR4/2	口縁 小片	RL
565	106-04	陶文	深鉢	SK105				外-隆帯・鋺み・陶文 内-ナデ	やや粗	やや粗	10YR7/4	体部 小片	LR
566	088-05	陶文	深鉢 A3	SK105				外-隆帯・鋺み 内-ナデ	やや密	やや粗	7.5YR7/4・7.5YR8/4 断-3A/3	口縁 小片	
567	088-04	陶文	深鉢 A3	SK105				外-鋺み・隆帯・ナデ 内-ナデ	やや粗	やや粗	7.5YR2/2	口縁 小片	
568	105-03	陶文	深鉢 A5	SK105				外-隆帯・鋺み・比喩・陶文 内-ナデ	やや密	差	7.5YR7/4	口縁 小片	
569	088-09	陶文	深鉢	SK105				外-隆帯・ナデ 内-ナデ	やや粗	具	7.5YR7/6	口縁 小片	

第18表 出土土製品観察表16

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色 調	残存	備考
					口径	底径	器高						
570	088-07	甌文	深鉢 SK105				外-隆帯(仲文)・刷み・ナデ	やや粗	やや粗	10YR8/3 10YR7/4	底部小片		
571	089-04	甌文	深鉢 C2	SK105			外-刷文列・ナデ	やや粗	やや粗	N4/0	底部小片		
572	104-02	甌文	深鉢 C2	SK105			外-刷文列(C字状)内-刷み・ナデ・オサエ	密	差	外-10YR4/2 内-10YR6/3	口縁小片		
573	105-04	甌文	深鉢 SK105				外・ナデ・比喩・刷文列(C字状)内:ヨコナデ	やや粗	粗	外-7.5YR6/3 内-7.5YR6/4	底部小片		
574	087-04	甌文	深鉢 C4	SK105			外・ナデ・比喩	密	やや粗	10YR7/3・2.5YR8/1 10YR5/2	口縁小片		
575	089-07	甌文	深鉢 C4	SK105			外・ナデ・甌文	やや粗	やや粗	外-7.5YR3/1 内-10YR5/2	口縁小片		
576	089-09	甌文	深鉢 SK105				外・ナデ・比喩	やや粗	やや粗	外-7.5YR7/4 内-10YR8/3	底部小片		
577	089-01	甌文	深鉢 D2	SK105			外-線状仲文・刷み・甌文	やや粗	やや粗	5YR4/1	口縁小片	RL	
578	089-06	甌文	深鉢 D1	SK105			外-刷み・甌文	やや粗	やや粗	7.5YR7/4 2.5Y4/1	口縁小片	LR	
579	087-05	甌文	深鉢 D3	SK105			外・ナデ・甌文	やや粗	粗	10YR8/3 N3/0	口縁小片	LR	
580	089-08	甌文	深鉢 D1	SK105			外-刷み・甌文	やや粗	粗	10YR4/1	口縁小片	RL	
581	088-03	甌文	深鉢 SK105				外-甌文	やや粗	やや粗	外-10YR8/2 内-10YR8/1	底部小片	LR, FLR	
582	088-02	甌文	深鉢 SK105				外-甌文	やや粗	やや粗	外-7.5YR7/4 内-10YR7/3・N3/0	底部小片	LR, FLR	
583	088-01	甌文	深鉢 SK105				外-甌文	やや粗	粗	外-5YR7/6 内-10YR7/4	底部小片	RL	
584	105-05	甌文	深鉢 SK105				外-甌文	やや粗	不具	外-10YR7/3・2.5Y6/1 内-10YR8/3	底部小片	RL	
585	106-05	甌文	深鉢 SK105				外-甌文	粗	粗	5YR5/6	底部小片	LR	
586	088-08	甌文	深鉢 SK105				外-甌文	やや粗	粗	7.5YR4/2 10YR7/2	底部小片		
587	106-02	甌文	深鉢 E1	SK105			外-刷み・ナデ	やや粗	不具	外-10YR8/3 内-2.5Y5/2	口縁小片		
588	087-06	甌文	深鉢 E2	SK105			外・ナデ	密	粗	2.5Y8/3	口縁小片		
589	087-03	甌文	深鉢 SK105				外・ナデ	やや粗	粗	10YR4/1 10YR5/2	底部小片	赤影	
590	087-01	甌文	T3 SK105		9.7		外-甌文・刷み・ナデ	やや粗	粗	外-7.5YR7/4 内-10YR6/2	底部小片		
591	105-02	甌文	T1 SK105				外・ナデ	やや粗	不具	10YR8/3	底部	6/12	
592	106-08	甌文	深鉢 A2	SK106			外-隆帯・刷み	密	不具	10YR7/2	口縁小片	外面赤影	
593	106-07	甌文	深鉢 C3	SK106			外・ナデ・比喩	粗	不具	10YR4/3	口縁小片		
594	106-06	甌文	深鉢 C4	SK106			外-刷み・比喩・ナデ	密	差	外-10YR7/3 内-10YR5/2	口縁小片		
595	111-01	甌文	深鉢 A1	SK107			外-隆帯・刷み・甌文	やや粗	やや粗	10YR7/3・6/3	口縁小片	RL	
596	112-03	甌文	深鉢 A3	SK108			外-隆帯・刷み・ヨコナデ	やや粗	粗	外-7.5YR4/1・7.5YR6/2 内-10YR6/3	口縁小片	LR	
597	112-04	甌文	深鉢 A3	SK108			外-刷み・隆帯・甌文	やや粗	粗	外-10YR7/2 内-10YR5/2	口縁小片	LR	
598	112-05	甌文	深鉢 C2	SK108			外-刷文列	やや粗	粗	10YR7/3	底部小片	赤影	
599	110-04	甌文	深鉢 A3	SK108			外-隆帯・刷み・甌文	やや粗	粗	10YR5/1	底部小片		
600	112-06	土製品	土俵 SK108				ナデ?	やや粗	粗	10YR6/3	小片		
601	115-03	甌文	深鉢 C2	SK112			外-ヨコナデ・隆帯・刷文列	やや粗	差	外-7.5YR7/4・2.5YR5/4 内-5YR7/6	口縁小片	外面赤影	
602	115-05	甌文	深鉢 A3	SK112			外-隆帯(仲文)	粗	差	10YR4/2	口縁小片		
603	115-07	甌文	深鉢 SK112				外-甌文	やや粗	差	外-5YR6/6・5/6 内-10YR7/6	底部小片	LR, FRL	
604	115-04	甌文	深鉢 SK112				外・ナデ・刷文列(C字状)	やや粗	差	外-7.5YR6/4・10R5/4 内-10YR5/2	底部小片	外面赤影	
605	086-08	甌文	T3 SK114		13.9		外-甌文・刷み・ナデ	やや粗	粗	10YR7/3・10YR8/2 断-N3/0	底部小片		
606	115-01	甌文	深鉢 SK115				外-隆帯・刷み・オサエ	やや粗	差	外-5YR4/4・4/3 内-2.5YR5/6	底部小片		

第19表 出土土製品観察表①

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	出土	構成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
607	096-06	甕文	深鉢	SK115				外・染帯・甕文 内:ナデ	中 中	瓦	7.5YR7/4	体部 小片	
608	115-02	甕文	深鉢	SK115				外・甕文 内:ヨコナデ	中 中	瓦	7.5YR6/4	体部 小片	LR
609	095-01	甕文	深鉢 A1	SK119				外・刷み・染帯・甕文 内:工具ナデ・ナデ	中 中	瓦	7.5YR5/3・7.5YR5/3 7.5YR8/4	口縁 小片	RL
610	096-04	甕文	深鉢 A1	SK119				外・染帯・甕文 内:ナデ	中 中	瓦	7.5YR6/2 7.5YR8/4	口縁 小片	RL
611	096-05	甕文	深鉢 A1	SK119				外・染帯・甕文 内:ナデ	中 中	瓦	7.5YR8/4・7.5YR7/4 10YR6/2	口縁 小片	RL
612	096-02	甕文	深鉢	SK119				外・染帯・甕文 内:ナデ	中 中	瓦	7.5YR6/2・7.5YR6/4 7.5YR8/2	体部 小片	RL
613	095-04	甕文	深鉢	SK119				外・甕文 内:ナデ	中 中	瓦	10YR4/2 7.5YR6/3	体部 小片	RL
614	096-07	甕文	浅鉢	SK119				外:ナデ 内:ナデ	中 中	瓦	2.5YR5/6 7.5YR5/3	体部 小片	
615	115-09	甕文	深鉢	SK119				外・甕文・刷実列(C字状) 内:ナデ	中 中	瓦	外:7.5YR5/3 内:5YR6/4・5/4	体部 小片	内面赤彩
616	094-06	甕文	深鉢	SK119				外・染帯・甕文・刷み 内:ナデ	中 中	瓦	10YR8/3	体部 小片	
617	096-01	甕文	深鉢 D1	SK119				外・刷み・甕文 内:ナデ	中 中	瓦	10YR7/3 黒:10YR6/1	口縁 小片	
618	111-04	甕文	深鉢 D1	SK121				外:ナデ・甕文 内:ナデ	中 中	中 中	7.5YR6/4 10YR7/4	口縁 小片	RL
619	111-02	甕文	深鉢 A7	SK121				外:ナデ・染帯・刷み 内:ナデ	中 中	中 中	外:10YR5/1・10YR7/3 内:10YR7/3	口縁 小片	LR
620	110-03	甕文	深鉢	SK121				外・甕文・染帯・刷み 内:ナデ	中 中	中 中	外:10YR5/2 内:10YR5/2	体部 小片	上LR, FRL
621	110-02	甕文	深鉢	SK121				外・甕文・染帯・刷み 内:ヨコナデ	中 中	中 中	外:10YR5/1 内:10Y6/2	体部 小片	LR
622	110-06	甕文	深鉢	SK121				外・甕文 内:ナデ・オサエ	中 中	中 中	外:10YR6/3 内:7.5YR6/4	体部 小片	LR
623	111-03	甕文	深鉢	SK121				外・甕文 内:ナデ・オサエ	中 中	中 中	外:10YR5/2 内:10YR6/3	体部 小片	RL
624	110-01	甕文	深鉢 C4	SK121				外:ナデ・甕文・平行沈線 内:ナデ	中 中	中 中	外:10YR4/1 内:10YR6/2	口縁 小片	
625	111-05	甕文	深鉢 C4	SK121				外・染帯・ナデ・沈線 内:ナデ	中 中	中 中	10YR7/3	口縁 小片	
626	111-06	甕文	深鉢 F1	SK121				外・染帯・沈線・ナデ 内:ナデ	中 中	中 中	外:5YR5/4・5YR5/2 内:10YR5/2	体部 小片	
627	112-01	甕文	T3	SK121	9.9			外・甕文・ナデ 内:ナデ	中 中	中 中	外:7.5YR6/3 内:10YR6/2	底部 小片	
628	112-02	甕文	T1	SK121				外:ナデ 内:ナデ・オサエ	中 中	中 中	外:2.5Y5/4・2.5Y5/1 内:10YR4/1	底部 小片	外面赤彩
629	116-05	甕文	深鉢 A5	SK122				外・染帯・刷み・ナデ 内:ナデ	中 中	中 中	外:7.5YR4/2 内:7.5YR5/4	口縁 小片	
630	116-02	甕文	深鉢 C4	SK122				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ	中 中	中 中	10YR6/3 7.5YR6/4	口縁 小片	外面赤彩
631	116-03	甕文	深鉢	SK122				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ	中 中	中 中	外:10YR5/2 内:10YR4/1	体部 小片	
632	115-10	甕文	深鉢 D1	SK122				外・刷み・甕文 内:ナデ・オサエ	中 中	中 中	外:10YR6/4 内:10YR6/3・7.5YR8/3	口縁 小片	
633	116-04	甕文	T3	SK122				外・甕文・ナデ 内:ナデ	中 中	中 中	7.5YR7/4・6/4	底部 小片	
634	100-06	甕文	深鉢 C5	SK116				外・刷実列(C字状) 内:ナデ	中 中	中 中	外:10YR7/3 内:10YR7/1	口縁 小片	
635	113-08	甕文	深鉢 A3	SK120				外:ナデ・染帯・刷み 内:ヨコナデ・オサエ	中 中	中 中	10YR7/3 10YR8/3	口縁 小片	
636	095-06	甕文	深鉢 A1	SK120				外・染帯・甕文 内:ナデ	中 中	中 中	5YR7/6 黒:2.5Y4/1	口縁 小片	LR
637	102-04	甕文	深鉢 A1	SK116				外:ナデ・染帯・刷み 内:ナデ	中 中	中 中	外:7.5YR6/4・10YR7/3 内:5YR7/6	口縁 小片	
638	102-01	甕文	深鉢 A3	SK116				外:ナデ・染帯・甕文 内:ナデ・オサエ	中 中	中 中	外:10YR6/3・7.5YR7/4 内:5YR5/1	口縁 小片	LR
639	104-01	甕文	深鉢 A1	SK117				外・染帯・刷み・甕文 内:オサエ	中 中	中 中	外:10YR5/3 内:2.5Y6/2	口縁 小片	LR
640	103-03	甕文	深鉢	SK117				外・染帯・甕文 内:オサエ	中 中	中 中	外:10YR5/3 内:2.5YR3/1	体部 小片	RL
641	114-03	甕文	深鉢	SK120				外・染帯・甕文 内:ヨコナデ	中 中	中 中	7.5YR6/6・10YR6/2 10YR3/1	体部 小片	RL
642	094-04	甕文	深鉢	SK120				外・染帯・刷み・甕文 内:ナデ	中 中	中 中	7.5YR7/3・7/4	体部 小片	
643	114-07	甕文	深鉢 A1	SK116				外:ナデ・染帯・刷み 内:ヨコナデ	中 中	中 中	2.5YR/2 7.5YR6/4	口縁 小片	

第20表 出土土製品観察表⑬

報告書 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
644	114-08	甌文	深鉢	SK116				外-漆部・ナデ 内-ナデ	やや 密	良	5YR7/6	体部 小片	
645	114-05	甌文	深鉢	SK116				外-甌文 内-ナデ	やや 密	良	10YR6/3・5/3・5/2	体部 小片	
646	113-05	甌文	深鉢 C4	SK116				外-ナデ・化粧 内-ナデ	やや 密	良	7.5YR8/4	口縁 小片	
647	100-04	甌文	深鉢 D1	SK116				外-ナデ・甌文 内-ナデ・オサエ	やや 密	差	7.5YR7/4	口縁 小片	LR
648	114-02	甌文	深鉢	SK120				外-化粧・甌文 内-ナデ	粗	良	10YR4/2・10YR4/3 10YR3/3・10YR7/3	体部 小片	RL
649	114-06	甌文	深鉢	SK120				外-甌文・刺突列 内-ナデ	粗	良	7.5YR7/3 10YR6/2	体部 小片	LR
650	114-01	甌文	深鉢	SK120				外-甌文 内-ナデ・オサエ	やや 密	良	7.5YR7/4・10YR8/3 黒N2/0	体部 小片	上RL, FLR
651	114-04	甌文	深鉢	SK120				外-甌文 内-ナデ	粗	良	7.5YR7/4 7.5YR4/2 7.5YR6/3	体部 小片	上RL, FLR
652	094-07	甌文	深鉢	SK120				外-甌文 内-ナデ	粗	良	7.5YR5/2・7.5YR5/3 7.5YR7/4	体部 小片	上RL, 中LR, FRL
653	103-06	甌文	深鉢	SK117				外-甌文 内-ナデ	密	差	外-10YR5/3 内-10YR7/4	体部 小片	上LR, FRL
654	100-05	甌文	深鉢	SK116				外-甌文 内-ナデ・オサエ	やや 粗	差	外-7.5YR6/2 内-5YR6/4	体部 小片	上RL, FLR
655	113-03	甌文	深鉢	SK116				外-甌文・ナデ 内-ナデ	やや 粗	良	10YR5/3	体部 小片	LR
656	100-03	甌文	深鉢	SK116				外-甌文 内-ナデ	やや 粗	差	外-5YR6/4 内-5YR5/4	体部 小片	
657	103-04	甌文	深鉢	SK117				外-甌文 内-ナデ	密	差	外-2.5Y6/2 内-10YR6/4	体部 小片	RL
658	110-05	甌文	深鉢	SK116				外-甌文 内-ナデ	やや 粗	中 良	外-10YR6/3 内-7.5YR6/4	体部 小片	LR
659	113-08	甌文	深鉢	SK116				外-甌文 内-ナデ	やや 粗	中 良	7.5YR8/3 2.5YR5/1	体部 小片	LR
660	095-05	甌文	深鉢	SK118				外-甌文 内-ナデ	密	良	7.5YR5/2・4/2 10YR7/2	体部 小片	LR
661	100-02	甌文	深鉢	SK116				外-甌文 内-ナデ	やや 粗	差	外-10YR7/4 内-10YR7/3	体部 小片	
662	096-03	甌文	深鉢	SK118				外-平行化粧 内-ナデ	やや 粗	良	10YR6/3・10YR7/2 黒N4/0	体部 小片	
663	103-02	甌文	深鉢	SK117				外-平行化粧 内-ナデ・オサエ	やや 粗	差	10YR7/4	体部 小片	
664	102-06	甌文	深鉢	SK116				外-ナデ・条線 内-ナデ	粗	差	10YR6/3	体部 小片	
665	113-02	甌文	洗鉢 F1	SK120				外-化粧・甌文 内-ナデ	やや 密	良	5YR5/3 7.5YR4/2	体部 小片	
666	103-01	甌文	洗鉢 F2	SK117				外-漆部・刻み 内-ナデ	やや 密	差	5YR4/3	底部 小片	
667	103-05	甌文	T3	SK117	9.6			外-ナデ・オサエ 内-ナデ・オサエ	密	差	外-7.5YR5/4・5YR6/6 内-10YR7/3	底部 小片	
668	113-01	甌文	T3	SK120	8.4			外-ナデ 内-ナデ	やや 密	良	7.5YR6/4 10YR5/2	底部 小片	
669	104-03	甌文	深鉢	SK13				外-化粧・刺突列 内-ヨコナデ	密	差	外-7.5YR6/6・2.5YR5/8 内-5YR6/6	体部 小片	
670	142-02	甌文	洗鉢 F2	SD38				外-ナデ 内-ナデ	やや 密	中 良	10YR5/2・7/4	体部 小片	
671	142-03	甌文	深鉢	SD40				外-ナデ 内-ナデ	やや 密	中 良	外-10YR7/3 内-2.5Y6/2	体部 小片	外面赤彩
672	143-02	甌文	深鉢 A2	SD46				外-漆部・刻み・甌文 内-ナデ	やや 密	中 良	10YR7/3 7.5YR5/1	口縁 小片	
673	145-08	甌文	深鉢 A2	SD46				外-漆部・刻み・甌文 内-ナデ	やや 密	差	10R4/3・8/3	口縁 小片	外面赤彩
674	149-07	甌文	深鉢 A2	SD46				外-漆部・刻み・甌文 内-ナデ	やや 密	中 良	10YR7/4・4/4	口縁 小片	内外面赤彩 内面炭化物
675	152-04	甌文	深鉢	SD46				外-漆部・刻み 内-ナデ・オサエ	やや 密	差	10YR4/3	体部 小片	
676	145-02	甌文	深鉢 A1	SD46				外-ナデ・漆部・甌文 内-ナデ・オサエ	やや 密	差	7.5YR6/4	口縁 小片	RL
677	151-04	甌文	深鉢 A1	SD46				外-漆部・刻み・甌文 内-ナデ・オサエ	粗	差	外-10YR8/2 内-7.5YR5/4	口縁 小片	LR
678	146-03	甌文	深鉢 A1	SD46				外-ナデ・漆部 内-ナデ	やや 密	差	外-7.5YR6/4・10YR6/3 内-10YR6/3・5YR5/2	口縁 小片	RL
679	149-05	甌文	深鉢 A1	SD46				外-漆部・甌文 内-甌文・ナデ	やや 粗	中 良	10YR4/2	口縁 小片	RL

第21表 出土土製品観察表⑨

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査 技法	粘土	焼成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
680	146-01	甕文	深鉢 A3	SD46				外-染帯・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外:7.5YR5/3 内:2.5YR5/3・4/2	口縁 小片	
681	151-07	甕文	深鉢 B1	SD46				外-辻縷・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:7.5YR4/1 内:7.5YR6/3	口縁 小片	
682	151-02	甕文	深鉢 D1	SD46				外-甕文 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:10YR3/2 内:7.5YR5/2	口縁 小片	LR
683	143-01	甕文	深鉢 D1	SD46				外-刷み・甕文 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外:7.5YR3/1 内:10YR8/4	口縁 小片	LR
684	144-06	甕文	深鉢	SD46				外-甕文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 粗	外:7.5YR4/2 内:7.5YR6/4	底部 小片	LR
685	151-05	甕文	深鉢	SD46				外-甕文 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:10YR6/2 内:10YR5/1	底部 小片	上LR, FRL
686	151-01	甕文	深鉢	SD46				外-甕文 内:ナデ	粗	差	10YR6/2	底部 小片	LR
687	146-04	甕文	深鉢	SD46				外-甕文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外:7.5YR6/3・6/4 内:7.5YR4/3・7.5YR3/1	底部 小片	RL
688	144-05	甕文	深鉢 CS	SD46				外-辻縷(山形)・甕文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 粗	外:10YR7/2・内:7.5YR6/4 黒N3/0	底部 小片	上LR, FRL
689	147-02	甕文	深鉢 C4	SD46				外:ナデ・平行辻縷文(半縦竹管) 内:ナデ	やや 粗	差	外:10YR8/4・5YR6/6 内:5YR6/6	口縁 小片	
690	149-06	甕文	深鉢 C4	SD46				外-刷み・辻縷 内:ヨコナデ	やや 粗	やや 粗	10YR7/3・6/3	口縁 小片	
691	144-03	甕文	深鉢 C4	SD46				外-辻縷・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 粗	外:10YR8/4・内:7.5YR6/4 黒N4/0	口縁 小片	
692	145-04	甕文	深鉢 C4	SD46				外:ナデ・辻縷 内:ナデ	やや 粗	差	外:10YR5/3・4/2 内:10YR5/3	口縁 小片	
693	159-07	甕文	深鉢 C4	SD46				外-辻縷 内:ナデ	やや 密	差	7.5YR7/6	底部 小片	外面赤帯
694	147-05	甕文	深鉢	SD46				外:ナデ・平行辻縷 内:ナデ	やや 密	差	外:7.5YR4/1 内:10YR5/2	底部 小片	
695	147-08	甕文	深鉢	SD46				外:ナデ・平行辻縷 内:ナデ	粗	差	外:10YR6/4 内:2.5YR6/1	底部 小片	外面赤帯
696	147-01	甕文	深鉢 C7	SD46				外-染帯・刷み・平行辻縷 内:ナデ	やや 粗	差	5YR5/4	口縁 小片	
697	151-06	甕文	深鉢 C7	SD46				外-染帯・甕文? 内:ナデ	やや 粗	差	10YR6/2	口縁 小片	
698	145-07	甕文	浅鉢 E1	SD46				外-刷実列・甕文 内:ナデ	やや 粗	差	10YR4/1	口縁 小片	
699	147-07	甕文	浅鉢 E2	SD46				外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR6/3・7.5YR4/1 内:10YR6/3	口縁 小片	
700	147-04	甕文	深鉢 E2	SD46				外-刷み・ナデ 内:甕文・ナデ	やや 粗	差	外:7.5YR6/6 内:7.5YR6/4・6/6	口縁 小片	
701	148-02	甕文	T3	SD46	12.0			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	やや 粗	粗	5YR5/6 2.5Y6/1	底部 3/12	
702	146-06	甕文	T3	SD46	11.5			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	やや 粗	差	外:7.5YR6/4・10YR5/1 内:10YR7/3・7.5YR7/4	底部 5/12	
703	146-05	甕文	T3	SD46	8.7			外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:10YR5/3・7.5YR5/4 内:5YR6/4	底部 11/12	
704	144-04	甕文	T3	SD46	9.2			外-甕文・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 粗	粗	7.5YR7/4 10YR5/1	底部 3/12	
705	147-06	甕文	T3	SD46	12.0			外-甕文・ナデ 内:ナデ	やや 粗	差	外:7.5YR6/4・5/3 内:7.5YR4/2	底部 小片	
706	143-08	甕文	深鉢 A5 トレン チ	SD47				外-刷み・染帯・甕文 内:甕文・ナデ	やや 粗	やや 粗	7.5YR3/2	口縁 小片	
707	149-01	甕文	深鉢 C2	SD47				外:ナデ・刷実列(C字状) 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外:2.5YR6/4 内:7.5YR7/4	口縁 小片	外面赤帯
708	149-04	甕文	深鉢	SD47				外-染帯・刷み・刷実列 内:ナデ	やや 粗	粗	10YR5/2	底部 小片	
709	182-04	甕文	深鉢	SD47				外:ナデ・平行辻縷・刷実列(C字状) 内:ナデ	粗	不具	10YR7/2	底部 小片	外面赤帯
710	149-03	甕文	深鉢	SD47				外-辻縷 内:ナデ	やや 密	粗	10YR6/3	底部 小片	
711	149-08	甕文	深鉢	SD47				外-染帯・刷み 内:ナデ	粗	やや 粗	10YR6/3・8/4	底部 小片	外面赤帯
712	149-02	甕文	深鉢	SD47				外-染帯 内:ナデ	やや 粗	粗	外:10YR8/1 内:10YR7/6	底部 小片	
713	150-03	甕文	深鉢 A11	SD48				外-刷実列・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 粗	粗	10YR6/2	口縁 小片	
714	150-04	甕文	深鉢 A11	SD48				外-刷実列・甕文? 内:ヨコナデ	やや 粗	粗	外:7.5YR5/1 内:10YR5/2	口縁 小片	
715	155-06	甕文	深鉢	SD48				外-染帯・刷み・刷実列(C字状) 内:ナデ	やや 密	差	外:10YR5/2 内:10YR5/1・4/1	底部 小片	

第22表 出土土製品観察表②

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
716	150-05	甗文	深鉢	SD48				外:刺突列 内:ナデ	やや粗	やや良	外:10YR5/3 内:10YR8/3	鉢部 小片	
717	156-07	甗文	深鉢	SD48				外:平行沈線・刺突列・甗文 内:ナデ	やや粗	差	外:10YR8/3 内:10YR8/2	鉢部 小片	赤彩
718	156-06	甗文	深鉢	SD48				外:甗文・平行沈線 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR6/4 内:10YR8/3	鉢部 小片	
719	154-03	甗文	深鉢	SD48				外:甗文 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR6/4・5YR4/4 内:7.5YR6/4	鉢部 小片	上LR,中RL,FLR
720	150-02	甗文	浅鉢	SD48				外:刺突列(C字状) 内:ナデ	やや粗	やや良	外:10YR5/2・4/2 内:7.5YR7/4	鉢部 小片	
721	150-06	甗文	深鉢 A1	SD60				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	やや粗	やや良	7.5YR6/4 5YR5/4	口縁 小片	LR
722	155-05	甗文	深鉢 C3	SD60				外:刻み・平行沈線 内:ナデ	粗	差	5YR6/4	口縁 小片	
723	154-04	甗文	深鉢 D3	SD60				外:ナデ・甗文 内:ナデ	やや粗	差	7.5YR5/3	口縁 小片	LR
724	148-01	甗文	T3	SD60	11.0			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	粗	やや良	外:10YR7/4 内:7.5YR6/4	底部 6/12	
725	145-06	甗文	深鉢 D3	SD62				外:甗文 内:ナデ	やや粗	差	外:7.5YR6/6 内:7.5YR7/6	口縁 小片	
726	145-05	甗文	深鉢	SD62				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	やや粗	差	外:10YR6/3・5/2 内:10YR7/3	鉢部 小片	RL
727	150-01	甗文	深鉢	SD62				外:ナデ・沈線 内:ナデ	やや粗	やや良	外:7.5YR7/6・2.5YR6/2 内:5YR6/6・6/8	鉢部 小片	
728	121-02	甗文	深鉢 A1	下包				外:隆帯・甗文 内:ナデ	やや粗	差	10YR5/1・5/2	口縁 小片	RL
729	121-01	甗文	深鉢 A1	下包				外:隆帯・甗文・刻み 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:7.5YR6/4・7/4・5YR6/4 内:7.5YR2/4	口縁 小片	
730	119-05	甗文	深鉢 A1	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	粗	差	外:7.5YR5/4 内:10YR6/3	口縁 小片	LR
731	126-04	甗文	深鉢 A1	下包				外:ナデ・隆帯・甗文 内:ナデ	やや粗	やや良	外:7.5YR6/6 内:10YR5/3	口縁 小片	LR
732	117-06	甗文	深鉢 A1	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ・オサエ	やや粗	差	外:2.5Y4/1・10YR7/4 内:10YR7/3	口縁 小片	RL
733	128-05	甗文	深鉢 A1	下包				外:隆帯・甗文 内:ナデ	やや粗	やや良	2.5YR/1 10YR6/2	口縁 小片	RL
734	127-02	甗文	深鉢 A2	下包				外:隆帯・甗文・ナデ 内:甗文・ナデ	やや粗	やや良	10YR7/3・8/3	口縁 小片	RL
735	128-02	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み 内:ナデ	やや粗	やや良	7.5YR7/6	口縁 小片	RL
736	117-03	甗文	深鉢 A3	下包				外:刻み・隆帯・甗文 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:10YR4/2 内:10YR5/4	口縁 小片	上LR,FR,FLR
737	128-01	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・ナデ 内:ナデ	やや粗	やや良	7.5YR6/3	口縁 小片	
738	125-05	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや粗	良	5YR5/1・10YR5/3 7.5YR6/4	口縁 小片	
739	117-05	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・ナデ 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:10YR6/3 内:10YR6/4	口縁 小片	
740	124-01	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや粗	良	10YR6/2・4/2・7/2	口縁 小片	
741	121-03	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:10YR4/2 内:10YR7/3	鉢部 小片	
742	122-01	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み 内:ナデ・オサエ	やや粗	差	外:7.5YR5/3・5/2 内:10YR7/3	鉢部 小片	
743	125-01	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	粗	良	10YR7/4 7.5YR7/6	口縁 小片	
744	118-01	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み 内:ナデ・オサエ	粗	差	外:10YR4/2 内:10YR6/3	口縁 小片	
745	125-07	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	やや粗	良	7.5YR7/6 10YR7/4	鉢部 小片	
746	123-08	甗文	深鉢 A3	下包				外:刻み・隆帯 内:沈線・ナデ	やや粗	良	7.5YR7/4・6/4	口縁 小片	
747	127-03	甗文	深鉢	下包				外:隆帯・刻み・ナデ 内:ナデ	やや粗	やや良	5YR6/6 10YR6/3	口縁 小片	
748	120-05	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・ナデ 内:ナデ	やや粗	差	7.5YR7/3 7.5YR6/1	口縁 小片	
749	122-02	甗文	深鉢 A3	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	やや粗	差	外:10YR5/2 内:10YR7/3	口縁 小片	RL
750	122-05	甗文	深鉢	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	やや粗	差	10YR4/1	口縁 小片	
751	125-02	甗文	深鉢 A7	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ・オサエ	やや粗	良	7.5YR4/2・10YR6/3 5YR6/6・2/1	口縁 小片	LR
752	123-02	甗文	深鉢	下包				外:隆帯・刻み・甗文 内:ナデ	粗	良	7.5YR5/4・4/2	鉢部 小片	

第23表 出土土製品観察表②

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色 調	残存	備考
					口径	底径	器高						
753	128-03	甌文	深鉢 A7	下包			外-染帯・ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外-7.5YR4/1 内:10YR7/3		口縁 小片	
754	122-03	甌文	深鉢	下包			外-甌文・染帯 内:ナデ	粗	差	外-7.5YR4/2 内:10YR6/3		口縁 小片	
755	125-03	甌文	深鉢 A8	下包			外-染帯・刷み 内:ナデ	やや 粗	粗	10YR4/1・2.5YR5/4		口縁 小片	
756	119-02	甌文	深鉢 C2	下包			外-染帯・刷実列(C字状)・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	5YR6/8		口縁 小片	
757	122-04	甌文	深鉢	下包			外:ナデ・刷実列 内:ナデ	やや 粗	差	外-10YR5/1・5/2 内:7.5YR6/4		口縁 小片	
758	125-04	甌文	深鉢	下包			外-辻縷 内:ナデ	やや 粗	粗	2.5YR7/6 7.5YR7/4		体部 小片	
759	118-07	甌文	深鉢 A12	下包			外-刷実列 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外-10YR3/1 内:10YR6/4		口縁 小片	
760	128-07	甌文	洗鉢 F1	下包			外-辻縷・刷み 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	5YR6/4・6/6		体部 小片	
761	117-02	甌文	洗鉢 F1	下包			外-染帯・甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外-10YR7/3 内:2.5YR7/3		体部 小片	
762	127-01	甌文	洗鉢 F1	下包			外-辻縷・刷み 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 粗	7.5YR7/4・10YR7/3 2.5YR6/6、黒:2.5YR4/6		体部 小片	
763	124-04	甌文	深鉢 A4	下包			外-染帯・甌文 内:ナデ	やや 粗	粗	7.5YR4/2・7/4		口縁 小片	LR
764	128-04	甌文	深鉢 A4	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外-7.5YR6/4 内:10YR6/3・7.5YR4/2		口縁 小片	
765	125-06	甌文	深鉢 D1	下包			外-刷み・甌文 内:ナデ・オサエ	粗	粗	7.5YR6/6・10YR6/3・8/2		口縁 小片	LR
766	122-06	甌文	深鉢 D3	下包			外-染帯・ナデ 内:ナデ	粗	差	7.5YR7/4・6/4		口縁 小片	RL
767	119-06	甌文	深鉢 D3	下包			外-放射口縁・甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外-10YR4/2 内:2.5Y5/3・10YR6/4		口縁 小片	RL
768	127-05	甌文	深鉢	下包			外:ナデ・甌文 内:ナデ	やや 粗	粗	7.5YR8/4		体部 小片	RL
769	124-02	甌文	深鉢	下包			外-刷実列・甌文 内:ナデ	粗	粗	7.5YR4/2・5/4		体部 小片	L,LR,F,RL
770	121-04	甌文	深鉢	下包			外-平行辻縷・甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	粗	10YR6/2		体部 小片	L,LR,中,RL,F,LR
771	123-01	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	粗	7.5YR7/3・7/4・7/6		体部 小片	L,RL,F,LR
772	119-07	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ・オサエ	粗	差	外-5YR6/6 内:10YR7/4		体部 小片	
773	118-03	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	粗	差	外-10YR6/4 内:10YR6/3		体部 小片	
774	124-03	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	粗	粗	7.5YR7/4 10YR6/3・5/2		体部 小片	L,RL,中,LR,F,RL
775	121-05	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外-10YR7/2・5/1・4/1 内:10YR7/3		体部 小片	L,RL,中,LR,F,RL
776	123-06	甌文	深鉢	下包			外-甌文・ナデ 内:ナデ	やや 粗	粗	7.5YR7/4 10YR7/3		体部 小片	L,RL,F,LR
777	120-07	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	差	外-7.5YR5/3・5/2 内:5YR6/6		体部 小片	L,RL,F,LR
778	119-01	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	差	外-10YR6/4 内:2.5Y5/1		体部 小片	L,RL,F,LR
779	117-04	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	粗	外-10YR3/2 内:10YR7/4		体部 小片	L,RL,中,LR,F,RL
780	117-01	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ・オサエ	粗	差	外-10YR6/4 内:10YR4/2		体部 小片	L,LR,F,RL
781	128-06	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	7.5YR6/6・4/1		体部 小片	LR
782	119-08	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	外-10YR5/4 内:10YR7/4		体部 小片	LR
783	122-07	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	5YR5/3・4/2		体部 小片	LR
784	123-07	甌文	深鉢	下包			外-甌文・ナデ 内:ナデ	やや 粗	粗	5YR7/6 7.5YR7/4		体部 小片	RL
785	126-05	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 粗	7.5YR5/2・6/2		体部 小片	RL
786	121-06	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	粗	差	外-10YR5/2・4/2 内:10YR7/3		体部 小片	RL
787	124-06	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	粗	10YR6/3・7/2・7/3		体部 小片	LR
788	127-04	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	やや 粗	やや 粗	7.5YR5/2・10YR7/2 黒:3/3		体部 小片	LR
789	120-06	甌文	深鉢	下包			外-甌文 内:ナデ	粗	差	外-5YR5/4 内:7.5YR6/4		体部 小片	LR

第24表 出土土製品観察表②

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	出土	構成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
790	123-05	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ・オサエ	やや粗	黄	7.5YR7/4・5/2 10YR7/2	底部小片	LR
791	124-07	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	やや粗	黄	5YR5/6・5/4 10YR7/1	底部小片	LR
792	124-05	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	やや粗	黄	7.5YR6/2・5/1・8/3	底部小片	RL
793	126-03	縄文	深鉢E2	下包				外:ヨコナデ・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや粗	やや黄	外:10YR6/3 内:10YR7/3	口縁小片	内面黒染?
794	118-06	縄文	深鉢E2	下包				外:ナデ 内:ナデ	密	やや黄	外:2.5YR7/3 内:10YR5/2	口縁小片	内外面赤彩
795	119-03	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ・オサエ	やや粗	やや黄	外:5YR6/1 内:10YR6/3	底部小片	
796	120-04	縄文	73	下包				外:縄文 内:ナデ	粗	黄	外:7.5YR5/3 内:10YR5/2・4/2	底部小片	LR
797	126-02	縄文	73	下包	13.0			外:工具痕・ナデ 内:ナデ	やや粗	やや黄	5YR4/4 内面一部7.5YR3/1	底部小片	
798	118-08	縄文	73	下包	11.0			外:磨耗・副産のため不明 内:ナデ・オサエ	やや密	やや黄	外:10YR8/3 内:10YR8/4	底部小片	
799	120-03	縄文	73	下包	11.0			外:ナデ・オサエ 内:オサエ	粗	黄	7.5YR7/4	底部3/12	
800	120-01	縄文	73	下包	11.9			外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	やや粗	黄	10YR5/2・5/3	底部完存	
801	119-04	縄文	73	下包	19.0			外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	密	黄	外:10YR5/2 内:5YR5/1	底部小片	外面赤彩
802	123-03	縄文	73	下包	10.7			外:ナデ 内:ナデ	やや粗	黄	10YR6/3・5/2 2.5YR7/1	底部3/12	
803	126-01	縄文	73	下包	17.4			外:ナデ 内:ナデ	やや粗	やや黄	10YR7/3 赤彩:2.5YR6/8	底部小片	外面赤彩
804	120-02	縄文	73	下包	10.8			外:ナデ・オサエ 内:ナデ	粗	黄	外:10YR5/2 内:10YR6/1	底部小片	
805	129-05	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ	やや粗	黄	外:7.5YR7/3 内:7.5YR7/6	口縁小片	RL
806	140-05	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ	密	黄	外:10YR5/3 内:7.5YR7/6	口縁小片	RL
807	160-01	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ	粗	黄	外:10YR7/3 内:10YR4/2	口縁小片	
808	139-03	縄文	深鉢A3	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ・オサエ	やや密	黄	外:7.5YR5/3・4/1 内:7.5YR3/1	口縁小片	LR
809	159-06	縄文	深鉢A3	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ・オサエ	やや粗	黄	外:10YR8/3 内:10YR3/1	口縁小片	LR
810	138-01	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ	粗	黄	10YR5/3	口縁小片	LR
811	154-06	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:刷み・ナデ	やや密	黄	外:10YR5/3・5/2 内:7.5YR4/2	口縁小片	LR
812	130-02	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・縄文 内:ナデ	粗	黄	外:7.5YR4/2 内:10YR5/2	口縁小片	LR
813	137-08	縄文	深鉢A1	下包				外:ヨコナデ・染帯・縄文・ヨコナデ 内:ヨコナデ	やや粗	黄	7.5YR5/3/0	口縁小片	
814	161-03	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・縄文・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや密	黄	外:10YR5/2 内:7.5YR5/3	口縁小片	
815	163-03	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・縄文 内:ナデ・オサエ	やや密	黄	10YR6/3・6/4・6/2 紫:2/0	口縁小片	RL
816	133-07	縄文	深鉢A3	下包				外:染帯(仲伏)・刷み 内:ナデ	粗	不黄	外:10YR8/4 内:7.5YR7/6	口縁小片	
817	133-09	縄文	深鉢A2	下包				外:染帯・刷み・ナデ 内:ナデ	やや密	やや不黄	10YR6/2	口縁小片	赤彩
818	136-01	縄文	深鉢A2	下包				外:刷み・染帯 内:ナデ	やや密	やや不黄	10YR6/1・7/3	口縁小片	赤彩
819	140-06	縄文	深鉢A2	下包				外:刷み・染帯 内:ナデ	密	やや不黄	5YR7/8	口縁小片	
820	137-09	縄文	深鉢A2	下包				外:染帯・刷み 内:ナデ	密	黄	10YR6/3	口縁小片	
821	155-07	縄文	深鉢	下包				外:染帯・縄文 内:ナデ	やや密	黄	外:5YR5/4 内:7.5YR5/1・4/1	底部小片	上RL,下LR
822	134-08	縄文	深鉢	下包				外:染帯・刷み・縄文 内:ナデ	やや粗	やや黄	外:10YR6/2・5/2 内:10YR5/3	底部小片	RL
823	135-07	縄文	深鉢	下包				外:染帯・縄文 内:ナデ	やや粗	やや黄	10YR7/4・6/3	底部小片	RL
824	156-05	縄文	深鉢	下包				外:染帯・刷み・ナデ・縄文 内:ナデ	やや粗	黄	10YR6/3	底部小片	RL
825	152-03	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み 内:ナデ	やや密	黄	10YR6/2	口縁小片	
826	159-05	縄文	深鉢A1	下包				外:染帯・刷み 内:ナデ	密	黄	外:2.5Y4/1 内:2.5Y5/1	口縁小片	

第25表 出土土製品観察表⑬

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	焼成	色調	残存	備考
					口径	底径	器高						
827	131-01	甗文	深鉢 A1	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	密	差	10R5/6 7.5YR8/4	口縁小片	
828	139-01	甗文	深鉢 A1	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	やや粗	差	外-7.5YR6/1 内-7.5YR7/4	口縁小片	
829	130-05	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	やや粗	差	7.5YR5/4	口縁小片	
830	118-02	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ・オサエ	やや粗	差	7.5YR6/6	口縁小片	
831	136-08	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	やや粗	やや粗	7.5YR6/4	口縁小片	
832	158-02	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	密	やや粗	外-10YR8/3 内-10YR7/4	口縁小片	
833	155-02	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み・ナデ内-ナデ	やや粗	差	外-7.5YR6/4・5/2 内-7.5YR5/3・7.5YR4/1	口縁小片	
834	158-03	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み・甗文内-ナデ・オサエ	密	差	外-10YR6/3 内-10YR7/3	口縁小片	
835	162-08	甗文	深鉢 A3	下包				外-鋸み・隆帯内-ナデ・オサエ	粗	不具	10YR6/3	口縁小片	
836	137-05	甗文	深鉢 A3	下包				外-鋸み・隆帯内-鋸み・ナデ	やや粗	差	10YR6/2・5/2	口縁小片	
837	157-02	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・甗文内-ナデ・オサエ	やや粗	差	10YR7/4	口縁小片	
838	130-01	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	やや粗	差	外-10YR4/2 内-2.5YR1/1	体部小片	
839	140-03	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・甗文・鋸み内-ナデ・オサエ	密	差	外-10YR5/2 内-2.5Y7/3	体部小片	
840	138-03	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・甗文内-ナデ・オサエ	やや粗	差	外-7.5YR5/3 内-7.5YR6/2	体部小片	
841	138-02	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・甗文・ナデ内-ナデ	やや粗	差	10YR5/3	体部小片	
842	164-06	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ・オサエ	密	良	7.5YR8/4 断-2.5Y6/1	口縁小片	
843	141-02	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	密	良	外-10YR7/4・5YR7/6 内-10YR8/4	口縁小片	
844	159-04	甗文	深鉢 A3	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	密	良	外-10YR3/2 内-10YR6/4	体部小片	
845	138-04	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・鋸み・甗文内-ナデ・オサエ	粗	差	外-10YR3/1 内-10YR5/2	体部小片	
846	140-04	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・鋸み内-鋸み・ナデか?	やや粗	差	外-10YR6/4 内-10YR6/4・5YR7/8	体部小片	
847	156-02	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・鋸み内-ナデ	やや粗	差	10YR7/3	体部小片	
848	157-05	甗文	深鉢	下包				外-隆帯・鋸み・甗文内-ナデ	密	差	外-10YR5/3 内-10YR7/4	体部小片	
849	137-06	甗文	深鉢 A1	下包				外-隆帯・鋸み・甗文内-ナデ	やや粗	差	7.5YR5/2	口縁小片	
850	162-06	甗文	深鉢 A12	下包				外-鋸み・甗文・平行沈線内-ナデ・オサエ	やや粗	良	外-10YR3/2 内-10YR6/3	口縁小片	RL
851	140-07	甗文	深鉢 A5	下包				外-甗文・隆帯・刺突列内-ナデ	密	良	10YR5/2	口縁小片	
852	131-05	甗文	深鉢	下包				外-平行沈線・隆帯・刺突列内-ナデ・オサエ	やや粗	差	10YR5/3	体部小片	
853	135-01	甗文	深鉢 A3	下包				外-刺突列・隆帯・鋸み内-ナデ	やや粗	やや粗	外-10Y7/2・4/1 内-10YR4/1	口縁小片	LR
854	157-07	甗文	深鉢 A5	下包				外-刺突列(C字状)内-ナデ	密	やや粗	外-7.5YR4/2 内-5YR6/3	口縁小片	
855	137-07	甗文	深鉢 C2	下包				外-平行沈線・刺突列内-ナデ	密	差	7.5YR8/4 5YR6/4	口縁小片	赤影
856	131-08	甗文	深鉢 C2	下包				外-鋸み内-ナデ	粗	差	10R4/4	口縁小片	赤影
857	157-01	甗文	深鉢 C2	下包				外-刺突列(C字状)内-ナデ	密	差	10YR7/4	口縁小片	内外面赤影か
858	162-01	甗文	深鉢 C2	下包				外-刺突列(C字状)内-ナデ	やや粗	良	10YR2/1	口縁小片	
859	156-01	甗文	深鉢 C2	下包				外-刺突列内-ナデ	やや粗	差	10YR8/4・5/2	口縁小片	
860	135-04	甗文	深鉢 C2	下包				外-刺突列(C字状)内-ナデ	やや粗	やや粗	10YR7/3・10R5/6	口縁小片	赤影
861	153-04	甗文	深鉢 C2	下包				外-刺突列(C字状)・貫孔内-ナデ	やや粗	差	外-2.5YR5/8 内-10YR7/3	口縁小片	外面全面赤影
862	162-03	甗文	深鉢 C2	下包				外-鋸み・刺突列(C字状)内-ナデ	やや粗	良	外-10YR5/2 内-7.5YR5/4	口縁小片	
863	157-04	甗文	深鉢 C2	下包				外-鋸み・刺突列(C字状)・隆帯内-ナデ	密	良	外-10YR6/4 内-10YR5/3	口縁小片	

第26表 出土土製品観察表24

報告番号	実測番号	種類	器種	出土位置	法量 (cm)			調査技法	粘土	織成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
864	136-05	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状) 内:ロコナデ	やや粗	やや粗	外:5YR4/1 内:10YR5/3	体部 小片	
865	140-08	縄文	深鉢	下包				外・隆帯・刺突列(C字状) 内:ナデ	粗	やや粗	外:2.5Y2/3 内:2.5Y7/2	体部 小片	外面赤彩
866	156-03	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状)・ナデ 内:ナデ	粗	並	7.5YR7/4	体部 小片	外面赤彩
867	152-05	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状) 内:ナデ・オサエ	やや粗	並	外:10YR5/4 内:10YR6/4	体部 小片	外面赤彩
868	135-03	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状) 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:10YR5/6 内:10YR3/2	体部 小片	赤彩
869	136-04	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状) 内:ナデ	やや粗	やや粗	外:10YR5/6 内:10YR7/2	体部 小片	赤彩
870	132-10	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状) 内:ナデ	粗	並	10YR6/3	体部 小片	外面赤彩
871	160-03	縄文	深鉢	下包				外・刺突列(C字状)・縄文 内:ナデ	粗	並	外:5YR7/4 内:7.5YR7/4	体部 小片	
872	129-03	縄文	深鉢	下包				外:ナデ・刺突列(C字状) 内:ナデ	やや粗	並	外:10YR5/6 内:10YR7/1	体部 小片	赤彩
873	156-04	縄文	深鉢	下包				外・刺突列 内:不明	やや粗	並	10YR6/3	体部 小片	外面赤彩
874	131-04	縄文	深鉢 B1	下包				外・沈線・縄文 内:ナデ	粗	並	外:7.5YR4/3 内:7YR6/6	口縁 小片	LR
875	137-04	縄文	深鉢 CS	下包				外・平行沈線 内:ロコナデ	やや粗	並	7.5YR7/4	口縁 小片	
876	131-07	縄文	深鉢 C4	下包				外・沈線 内:ナデ	やや粗	並	10YR7/2	口縁 小片	
877	163-05	縄文	深鉢 CS	下包				外:ナデ・沈線 内:ナデ	粗	並	7.5YR6/3 内:3N5/9	体部 小片	
878	162-02	縄文	深鉢 CS	下包				外・刻み・縄文・平行沈線 内:ナデ	粗	並	10YR4/2	口縁 小片	RL
879	133-08	縄文	深鉢 CS	下包				外:ナデ・縄文 内:ナデ	粗	並	外:10YR3/2 内:10YR4/4	体部 小片	LR
880	131-02	縄文	深鉢 CS	下包				外・縄文 内:ナデ	やや粗	並	外:2.5Y6/2 内:2.5Y7/2	体部 小片	RL
881	135-02	縄文	深鉢 A11	下包				外・縄文 内:ナデ・オサエ	やや粗	並	外:7.5YR6/4 内:10YR6/3	体部 小片	LR
882	164-04	縄文	深鉢 CS	下包				外・縄文・沈線 内:ナデ	やや粗	並	10YR7/3・5/2・6/3	体部 小片	
883	162-07	縄文	深鉢 C4	下包				外・平行沈線 内:ナデ・オサエ	やや粗	不良	7.5YR7/4	口縁 小片	
884	146-02	縄文	深鉢 C4	下包				外・沈線 内:ナデ・オサエ	粗	並	外:10YR7/4・7.5YR5/2 内:7.5YR7/4	口縁 小片	
885	135-08	縄文	深鉢 C4	下包				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ	やや粗	やや粗	10YR6/3 7.5YR4/6	口縁 小片	赤彩
886	141-01	縄文	深鉢 C4	下包				外・刺突・平行沈線 内:ナデ・オサエ	やや粗	並	外:10YR5/2 内:2.5YR5/2	口縁 小片	
887	136-07	縄文	深鉢	下包				外・沈線・隆帯・刻み 内:ナデ・オサエ	粗	並	10YR5/1・4/1	体部 小片	
888	161-02	縄文	深鉢	下包				外・平行沈線 内:ナデ	やや粗	並	外:10YR4/2 内:10YR7/4	体部 小片	
889	155-04	縄文	深鉢	下包				外:ナデ・沈線 内:ナデ	粗	並	外:7.5YR6/3 内:5YR6/4	体部 小片	
890	160-08	縄文	深鉢	下包				外:平行沈線・ナデ 内:ナデ	やや粗	並	外:10YR4/2 内:2.5Y4/1	体部 小片	
891	132-04	縄文	深鉢	下包				外:ナデ・平行沈線 内:ナデ・オサエ	粗	並	外:7.5YR6/6 内:10YR7/4	体部 小片	
892	140-02	縄文	深鉢	下包				外・沈線 内:オサエ	やや粗	並	外:10YR5/4 内:7.5YR7/6	体部 小片	内外面赤彩
893	140-01	縄文	深鉢	下包				外・沈線 内:ナデ	粗	並	外:10YR4/2 内:10YR8/3	体部 小片	
894	139-04	縄文	深鉢	下包				外・沈線 内:ロコナデ	やや粗	並	10YR6/2・5/2	体部 小片	
895	133-06	縄文	深鉢 A4	下包				外・縄文・ナデ 内:ナデ	やや粗	並	外:7.5YR6/4 内:5YR6/6	口縁 小片	RL
896	164-01	縄文	深鉢 A4	下包				外・縄文 内:ナデ	やや粗	並	7.5YR6/4・5YR7/4・6/6	口縁 小片	RL
897	161-05	縄文	深鉢 A4	下包				外・線状浮文・刻み・縄文 内:ナデ	やや粗	並	10YR3/2	口縁 小片	LR
898	153-02	縄文	深鉢 A4	下包				外・刻み・隆帯・縄文 内:ナデ	粗	並	10YR6/3	口縁 小片	RL
899	132-09	縄文	深鉢 D3	下包				外:ナデ・縄文 内:ナデ	やや粗	並	2.5YR/2	口縁 小片	RL
900	130-04	縄文	深鉢 D3	下包				外・縄文 内:ナデ	粗	並	外:10YR5/2 内:7.5YR6/3	口縁 小片	RL

第27表 出土土製品観察表巻

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査 技法	出土 状況	構成	色 調	残存	備 考
					口径	底径	器高						
901	155 -01	縄文	深鉢 D1	下包				外:黒み・縄文 内:ナデ	やや 密	黒	10YR4/2 7.5YR4/2	口縁 小片	LR
902	136 -06	縄文	深鉢 D1	下包				外:ナデ・黒み・条痕・縄文 内:ナデ	やや 密	やや 黒	外:10YR6/2 内:7.5YR7/3	口縁 小片	LR
903	134 -07	縄文	深鉢 D1	下包				外:黒み・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 黒	外:10YR6/2 内:7.5YR7/4	口縁 小片	LR
904	161 -01	縄文	深鉢 D1	下包				外:縄文 内:ナデ	粗	黒	外:10YR7/4 内:5YR7/6	口縁 小片	LR
905	157 -06	縄文	深鉢 D1	下包				外:縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	密	外:7.5YR6/6・2.5YR6/6 内:7.5YR6/6	口縁 小片	LR
906	131 -03	縄文	深鉢 D3	下包				外:ナデ・縄文 内:ナデ	やや 粗	密	外:10YR5/3 内:10YR6/3	口縁 小片	
907	137 -01	縄文	深鉢 D3	下包				外:ナデ・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	密	外:7.5YR7/4 内:10YR6/3	口縁 小片	
908	158 -01	縄文	深鉢 D3	下包				外:縄文 内:ナデ	密	密	外:5YR7/6 内:7.5YR6/6	口縁 小片	
909	130 -03	縄文	深鉢 D3	下包				外:ナデ・縄文 内:ナデ	やや 粗	密	外:10YR5/2 内:10YR6/2	口縁 小片	
910	137 -03	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	やや 密	密	外:10YR6/4 内:2.5Y7/2	体部 小片	上LR, FRL
911	157 -06	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	やや 密	密	外:7.5YR4/2 内:7.5YR7/6	体部 小片	上LR, FRL
912	158 -04	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ・オサエ	密	密	外:5YR6/6・10YR5/2 内:7.5YR6/6	体部 小片	RL
913	141 -03	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ・オサエ	やや 密	密	外:10YR5/2 内:10YR7/3	体部 小片	RL
914	139 -02	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	粗	密	外:5YR5/4 内:7.5YR6/4	体部 小片	LR
915	161 -07	縄文	深鉢	下包				外:ナデ・縄文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	良	外:10YR5/2・3/2 内:7.5YR6/4	体部 小片	LR
916	132 -01	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	粗	良	外:10YR5/2 内:10YR7/3	体部 小片	RL
917	158 -05	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	密	良	外:7.5YR5/4・10YR2/1 内:10YR5/2	体部 小片	LR
918	159 -02	縄文	深鉢	下包				外:縄文 内:ナデ	やや 密	良	外:7.5YR5/4・2.5Y4/1 内:7.5YR7/6	体部 小片	RL
919	164 -05	縄文	深鉢	下包				外:刺突?・縄文 内:ナデ	やや 密	良	7.5YR4/1・5/2	体部 小片	RL
920	159 -01	縄文	深鉢 B3	下包				外:ナデ・オサエ 内:ナデ	密	良	外:10YR4/2 内:2.5Y4/1	口縁 小片	
921	139 -01	縄文	深鉢 B2	下包				外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	粗	密	外:10YR5/3 内:5YR6/6	口縁 小片	
922	152 -06	縄文	深鉢 B1	下包				外:黒み・縄文 内:縄文・ナデ・オサエ	やや 密	密	7.5YR6/4	口縁 小片	
923	136 -02	縄文	深鉢	下包				外:縄文? 内:ナデ	やや 密	やや 良	外:10YR4/4 内:10YR6/2	口縁 小片	赤影
924	161 -06	縄文	洗鉢 F1	下包				外:ナデ・平行波線・刺突列 内:ナデ	やや 粗	良	外:2.5YR5/6 内:7.5YR4/2	体部 小片	
925	133 -03	縄文	洗鉢 F1	下包				外:波線・ナデ 内:ナデ	粗	良	外:2.5Y4/1 内:5YR5/4	体部 小片	
926	162 -05	縄文	洗鉢 F1	下包				外:刺突列(C字状)・ナデ 内:ナデ・オサエ	密	良	2.5Y5/2	体部 小片	
927	157 -03	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ミガキ・貫孔 内:ナデ・オサエ	密	良	外:7.5YR5/4 内:5YR5/4	口縁 小片	
928	132 -06	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや 粗	良	7.5YR4/4	口縁 小片	
929	132 -05	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ナデ・貫孔・波線 内:ナデ	やや 粗	良	外:10YR5/2 内:5YR5/6	口縁 小片	
930	147 -03	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや 密	密	5YR5/4	口縁 小片	
931	163 -01	縄文	洗鉢 F3	下包	20.0			外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや 密	良	7.5YR7/4・8/4	口縁 小片	
932	130 -06	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ナデ 内:ナデ	粗	密	7.5YR5/2	口縁 小片	
933	129 -02	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ナデ 内:ナデ	粗	密	5YR4/4	口縁 小片	
934	152 -01	縄文	洗鉢 F2	下包	40.0			外:ミガキ・貫孔 内:ミガキ	やや 粗	密	2.5YR4/4	口縁 小片	
935	132 -07	縄文	洗鉢 F2	下包				外:ナデ・貫孔 内:ナデ	やや 粗	良	5YR5/6	口縁 小片	
936	161 -04	縄文	洗鉢 F3	下包				外:ナデ・ミガキ 内:ナデ	粗	良	5YR4/6	口縁 小片	
937	141 -07	縄文	洗鉢 F1	下包				外:ナデ・波線 内:ナデ	やや 密	良	5YR5/6	体部 小片	

第28表 出土土製品観察表⑥

報告 番号	実測 番号	種類	器種	出土 位置	法量 (cm)			調査技法	出土 構成	色調	残存	備考	
					口径	底径	器高						
938	150 -03	縄文	罎鉢 C7	下包				外:縄文・平行沈線 内:ナデ	やや 密	良	外:7.5YR5/3 内:7.5YR4/3	口縁 小片	RL
939	154 -02	縄文	罎鉢 C7	下包				外:縄文・平行沈線 内:ナデ	やや 粗	良	10YR4/1・4/2 7.5YR5/4	底部 小片	RL
940	123 -04	縄文	T2	下包		9.7		外:沈線・ナデ 内:ナデ・オサエ	粗	良	10YR7/3・6/2・5/2	底部 6/12	
941	163 -02	縄文	T1	下包	10.2			外:縄文・ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	良	10YR5/1・7/2・6/2	底部 3/12	
942	134 -06	縄文	T1	下包				外:ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 粗	やや 良	外:7.5YR6/4 内:10YR5/2	底部 小片	
943	138 -06	縄文	T3	下包	8.0			外:ナデ 内:ナデ・オサエ	やや 密	差	外:10YR7/3 内:7.5YR6/4	底部 3/12	
944	130 -07	縄文	T3	下包				外:縄文 内:ナデ・オサエ	やや 粗	差	外:7.5YR5/2 内:7.5YR6/4	底部 3/12	RL
945	129 -04	縄文	T3	下包	6.8	4.3		外:ナデ 内:ナデ	粗	差	外:10YR5/1 内:10YR6/2	口縁 2/12	
946	133 -03	縄文	T3	下包				外:ナデ 内:ナデ	やや 粗	良	2.5Y5/2	底部 10/12	
947	134 -01	縄文	T3	下包	15.0			外:ナデ・未調査 内:ナデ	やや 密	やや 良	外:10YR7/3・2.5YR5/2 内:2.5Y4/1	底部 小片	
948	134 -03	縄文	T3	下包	15.0			外:縄文 内:ナデ	やや 密	やや 良	外:10YR5/3 内:10YR6/4	底部 小片	LR
949	133 -02	縄文	T3	下包	9.4			外:縄文・ナデ 内:ナデ	やや 粗	やや 不良	外:7.5YR7/3 内:10YR7/3	底部 小片	
950	134 -02	縄文	T3	下包	12.0			外:縄文・ナデ 内:ナデ	やや 密	やや 良	10YR6/2・5/2	底部 小片	
951	158 -06	縄文	T3	下包	11.0			外:ナデ・オサエ 内:ナデ・オサエ	やや 密	やや 良	外:2.5YR4/2 内:2.5YR6/2	底部 9/12	
952	138 -05	縄文	T3	下包	20.0			外:ナデ 内:ナデ	やや 密	差	外:2.5YR5/4 内:7.5YR6/4・5/3 底:7.5YR5/2・5/1	底部 小片	

第29表 出土土製品観察表②

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
953	329-05	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	左脚欠	28.5	18.0	3.0	0.78	
954	333-07	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	右側部欠	29.5	18.0	4.0	1.19	
955	317-02	石盤	d4	SH101 ④	サヌカイト	完形	21.5	15.5	2.0	0.28	
956	329-02	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	左脚欠	21.0	16.0	2.0	0.42	
957	323-02	石盤	d4	SH101 ②	サヌカイト	先端・左脚欠	20.0	17.5	2.5	0.39	
958	317-04	石盤	d4	SH101 ④	サヌカイト	基部欠	27.5	17.5	3.5	0.85	
959	310-04	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端・左脚欠	25.5	12.5	3.5	0.69	
960	312-07	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	21.5	15.5	3.0	0.49	
961	308-04	石盤	c4	SH102 ③	サヌカイト	先端欠	22.5	18.5	3.0	0.81	
962	326-07	石盤	d3	SH101 ③	チャート	完形	14.0	15.5	4.0	0.47	左脚部が短し、右側縁わずかにガシリ。
963	326-04	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	完形	14.0	12.5	2.0	0.18	
964	308-05	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	右脚欠	33.5	16.5	2.5	0.80	
965	329-07	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	24.5	12.0	3.0	0.51	
966	328-08	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	完形	18.0	16.0	2.5	0.42	
967	318-02	石盤	d3	SH102 ①→②あせ	サヌカイト	左脚欠	22.5	16.0	2.5	0.44	
968	315-05	石盤	d4	SH101 ③	サヌカイト	左脚欠	25.0	17.5	3.0	0.61	
969	316-07	石盤	c4	SH101 ③	チャート	先端・右脚欠	21.5	16.5	3.5	0.70	
970	316-07	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端欠	19.5	21.5	4.0	1.23	
971	328-03	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	完形	26.5	18.0	3.0	0.70	
972	309-05	石盤	d4	SH101 ③	サヌカイト	完形	24.0	13.5	2.5	0.60	
973	326-01	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	両脚欠	22.5	13.0	2.5	0.39	
974	323-05	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端・基部欠	16.5	13.5	4.0	0.43	
975	315-08	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	12.5	13.5	2.0	0.16	
976	323-04	石盤	c3	SH101 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	16.5	10.5	3.0	0.26	
977	323-01	石盤	d3	SH101 ③	サヌカイト	両脚欠	25.0	17.0	2.5	0.63	裏面に素材面を残す。
978	324-01	石盤	d3	SH101 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	18.0	11.0	3.0	0.38	ガシリ。
979	314-03	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	8.5	7.5	2.0	0.08	
980	315-07	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端・右脚欠	10.5	8.5	2.0	0.09	
981	304-05	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端・右脚欠	11.0	7.0	1.5	0.10	
982	314-01	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端・右脚欠	11.5	9.0	2.0	0.12	
983	323-05	石盤	d4	SH101 ③	チャート	片脚部断片	13.5	11.0	2.0	0.19	
984	305-08	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	12.0	8.0	2.0	0.15	
985	321-03	石盤	c3	SH101 ③	サヌカイト	片脚部断片	11.5	10.5	2.0	0.15	
986	310-07	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	先端・右脚欠	13.0	8.5	2.0	0.22	
987	309-05	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	完形	13.0	10.5	2.5	0.20	
988	309-07	石盤	d3	SH101 ①→②あせ	サヌカイト	右脚欠	17.5	13.5	2.5	0.27	
989	309-01	石盤	d3	SH101 ①→③あせ	チャート	左脚欠	17.5	18.0	4.0	0.53	
990	311-01	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	13.5	10.5	3.0	0.31	
991	321-08	石盤	d4	SH101 ③→④あせ	サヌカイト	先端欠	12.0	12.5	2.5	0.25	
992	316-05	石盤	d4	SH101 ①→②あせ	サヌカイト	先端欠	12.5	14.0	3.0	0.29	
993	308-08	石盤	d3	SH102 ③	サヌカイト	完形	15.0	13.5	4.0	0.53	
994	328-02	石盤	c4	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	21.5	18.0	2.5	0.72	
995	330-07	石盤	c3	SH101 ①	珪質頁岩	右側部欠	25.5	12.5	5.0	1.20	

第30表 出土石製品観察表①

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
996	318-01	石盤	d3	SH101 ①~③あみせ	サヌカイト	両脚欠	15.5	11.5	3.0	0.29	
997	307-08	石盤	d4	SH101 ②~③あみせ	チャート	先端欠	19.5	18.5	4.0	0.98	
998	308-05	石盤	d3	SH102 ①	チャート	先端欠	15.5	15.5	5.5	0.89	
999	312-05	石盤	d3	SH101 ①	チャート	右基部欠	15.3	14.3	3.0	0.63	
1000	302-05	石盤	c3	SH101 ①~③	サヌカイト	完形	27.5	18.5	5.5	2.17	
1001	328-04	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	完形	31.0	16.5	6.0	2.55	左側面に自然面を残す。 左脚面わずかにガシリ。
1002	311-08	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	24.5	16.5	3.0	0.91	
1003	310-05	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端・左脚欠	16.5	15.5	4.5	0.81	
1004	318-03	石盤	d3	SK105 ①~③あみせ	サヌカイト	右脚欠	12.5	9.0	2.5	0.17	
1005	331-05	石盤	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端・脚欠	16.0	18.5	4.5	1.60	
1006	311-05	石盤	d4	SH101 ③	サヌカイト	完形	14.5	13.0	2.5	0.33	
1007	329-04	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	21.5	13.5	3.5	0.77	左側面にガシリ。
1008	332-07	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	両脚欠	20.0	15.0	3.0	0.69	表面に素材面を残す。
1009	311-07	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	両脚欠	19.0	13.0	3.0	0.54	ガシリ。
1010	335-08	石盤	c3	SH101 ③	サヌカイト	両脚欠	17.5	13.5	2.5	0.44	
1011	312-04	石盤	c4	SH101 ③	チャート	両脚欠	20.5	15.5	3.5	0.80	
1012	336-05	石盤	d3	SH101 ③	サヌカイト	先端・両脚欠	18.5	14.5	2.5	0.46	
1013	311-04	石盤	d4	SH101 ①	サヌカイト	先端・両脚欠	13.5	10.5	2.0	0.25	
1014	329-01	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	両脚欠	16.0	13.0	2.0	0.27	
1015	330-02	石盤	d3	SH101 ②	チャート	先端部断片	15.0	12.5	2.5	0.29	
1016	323-08	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	右脚欠	12.5	9.5	1.5	0.10	
1017	353-04	石盤	d4	SH101 ④	サヌカイト	両脚欠	15.0	12.5	2.5	0.28	
1018	309-08	石盤	d4	SH101 ①~③あみせ	サヌカイト	両脚欠	15.5	13.5	2.5	0.34	
1019	335-07	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	両脚欠	15.5	14.0	2.0	0.28	
1020	330-04	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	先端部断片	10.0	10.0	1.5	0.11	
1021	330-08	石盤	d4	SH101 ①~③あみせ	サヌカイト	先端部断片	9.5	9.0	2.0	0.13	
1022	322-07	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	左基部欠	19.5	14.0	2.5	0.33	
1023	329-06	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部断片	12.0	11.5	2.5	0.28	
1024	322-06	石盤	d3	SH101 ③	サヌカイト	先端・両脚欠	10.5	13.5	2.5	0.22	ガシリ。
1025	316-03	石盤	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端・両脚欠	9.0	12.0	2.0	0.23	
1026	330-05	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	先端・両脚欠	14.5	15.5	3.0	0.63	
1027	306-07	石盤	d3	SH101 ③	サヌカイト	先端・両脚欠	7.5	11.0	2.0	0.20	
1028	324-02	石盤	d3	SH101 ③	サヌカイト	先端・両脚欠	12.5	13.5	2.5	0.34	
1029	336-06	石盤	c3	SH101 ③	チャート	先端・両脚欠	16.5	15.5	3.0	0.53	
1030	338-01	石盤	d3	SH101 ①	サヌカイト	完形	18.0	17.0	2.5	0.44	
1031	336-08	石盤	c4	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	13.5	16.0	2.5	0.29	裏面に素材面を残す。
1032	308-02	石盤	d3	SH101 ②	サヌカイト	完形	14.0	13.5	2.5	0.27	
1033	308-03	石盤	c4	SH102 ③	サヌカイト	右脚欠	17.0	15.0	2.0	0.32	
1034	316-04	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端欠	15.5	18.0	3.0	0.82	
1035	310-03	石盤	c4	SH101 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	19.0	17.5	2.0	0.47	
1036	312-01	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	右脚欠	20.5	16.5	2.5	0.54	
1037	307-05	石盤	c3	SH101 ①	サヌカイト	完形	17.0	16.5	2.0	0.41	

第31表 出土石製品観察表(2)

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1008	311-05	石鏝	c3	SH101 ①	サヌカイト	先端・右側欠	19.5	19.5	3.0	0.69	
1009	316-05	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	右側欠	15.5	15.5	2.5	0.32	
1040	312-02	石鏝	d3	SH101 ①	チャート	右側欠	14.5	17.5	3.0	0.45	
1041	322-01	石鏝	d3	SH101 ③-③あせ	サヌカイト	先端・右側欠	15.5	15.5	2.5	0.40	
1042	323-06	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端・右側欠	14.0	8.0	2.5	0.23	
1043	310-06	石鏝	c3	SH101 ①	サヌカイト	先端・右側欠	15.5	17.5	2.5	0.36	
1044	321-06	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	右側欠	16.5	10.0	2.5	0.36	
1045	324-04	石鏝	d4	SH101 ①-②あせ	サヌカイト	先端・左側欠	17.0	16.0	2.5	0.34	
1046	317-07	石鏝	d3	SH101 ①	チャート	先端	18.5	13.5	2.5	0.35	ガシリ。
1047	307-01	石鏝	d3	SH101 ①	チャート	先端	13.5	15.5	3.0	0.52	
1048	329-07	石鏝	d3	SH101 ①	チャート	先端	14.5	19.5	3.5	0.65	
1049	330-01	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端欠	10.0	15.0	2.0	0.20	
1050	310-01	石鏝	d3	SH101 ①	チャート	右側欠	11.0	12.0	3.0	0.21	
1051	312-08	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	左側欠	13.0	10.5	2.5	0.20	
1052	307-02	石鏝	d4	SH101 ①-②あせ	チャート	先端欠	13.5	17.0	2.5	0.27	
1053	318-04	石鏝	d3	SH101 ①-③	サヌカイト	左側欠	10.0	10.0	2.0	0.15	
1054	321-05	石鏝	d4	SH101 ④	サヌカイト	先端	12.0	11.0	1.5	0.13	
1055	333-08	石鏝	d4	SH101 ④	サヌカイト	右側欠	18.0	14.0	2.5	0.58	
1056	310-02	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端	12.5	13.5	2.5	0.23	
1057	323-01	石鏝	d4	SH101 ②	サヌカイト	先端・右側欠	15.0	11.0	3.0	0.29	
1058	316-08	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端・左側欠	10.5	12.0	2.0	0.16	
1059	330-03	石鏝	c3	SH101 ①	サヌカイト	片側部削片	15.5	12.0	2.0	0.17	
1060	317-03	石鏝	d4	SH101 ④	サヌカイト	先端・左側欠	12.0	15.0	3.0	0.33	
1061	336-02	石鏝	d4	SH101 Point	瑠璃質岩	片側部削片	10.5	8.5	2.0	0.11	
1062	320-05	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端・両側欠	18.5	16.0	2.5	0.56	
1063	317-06	石鏝	d4	SH101 ④	チャート	基部欠	20.0	20.0	5.0	1.49	
1064	308-01	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端	19.5	17.5	6.0	1.42	
1065	329-08	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端	16.0	16.0	2.5	0.41	
1066	308-07	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端・右側欠	13.0	12.0	2.0	0.26	
1067	304-08	石鏝	d4	SH101 ②	サヌカイト	先端欠	9.5	21.0	3.0	0.56	
1068	332-08	石鏝	d4	SH101 ③-③あせ	サヌカイト	先端部欠	17.5	23.5	2.5	1.13	
1069	328-05	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	19.5	25.0	2.5	1.13	
1070	321-03	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端部欠	34.0	25.0	10.0	6.81	
1071	314-05	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端	28.5	22.5	6.0	3.39	
1072	337-02	石鏝	d4	SH101 ②-③あせ	サヌカイト	先端	27.0	24.0	9.0	3.71	
1073	330-07	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	基部欠	26.0	19.0	5.0	1.76	
1074	329-03	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端欠	19.0	18.0	4.0	0.98	
1075	329-05	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端	20.0	12.5	3.5	0.80	
1076	312-06	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端欠	26.5	12.5	4.5	1.42	
1077	322-05	石鏝	c3	SH101 ①	チャート	先端	18.5	8.5	3.0	0.27	
1078	320-05	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端欠	25.5	24.5	6.0	3.55	
1079	315-01	石鏝	d4	SH101 ①-③あせ	チャート	先端	24.0	19.0	7.5	2.60	未製品。
1080	317-08	石鏝	d3	SH101 ①-②あせ	チャート	基部欠	21.5	19.0	7.0	2.31	

第32表 出土石製品観察表③

番号	資源番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1081	316-01	石鏝	d4	SH101 ③	チャート	先端欠	19.0	16.5	4.0	1.42	
1082	320-05	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端欠	24.0	23.5	8.0	3.77	
1083	316-02	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端欠	17.5	15.5	3.0	0.60	
1084	332-04	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	完形	19.5	18.0	3.0	0.79	
1085	310-08	石鏝	d4	SH101 ①	チャート	先端欠	13.5	24.5	6.5	2.36	未製品。
1086	312-03	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端欠	10.5	10.5	2.0	0.43	
1087	332-02	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端部欠	17.0	19.5	3.5	1.01	
1088	304-04	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端部欠	14.0	7.5	2.0	0.18	
1089	322-02	石鏝	d3	SH101 ③	サヌカイト	先端部欠	12.5	13.0	3.0	0.34	
1090	311-02	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	19.5	13.5	2.5	0.42	
1091	331-06	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	22.5	18.5	2.5	0.66	
1092	323-07	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	石脚欠	31.0	18.5	3.0	1.07	
1093	305-02	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	先端部欠	21.0	14.0	3.0	0.72	
1094	324-03	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	基部欠	17.5	13.5	2.0	0.37	
1095	315-03	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端欠	18.5	25.0	4.0	1.79	未製品。
1096	315-02	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	基部欠	23.5	22.0	6.0	2.15	未製品。
1097	320-08	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端欠	20.5	17.5	5.0	1.69	
1098	332-05	石鏝	d4	SH101 ③	サヌカイト	完形	30.0	16.5	4.0	1.85	裏面に新材面を欠す。
1099	314-08	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	完形	31.0	32.0	12.5	9.61	未製品。
1100	320-05	打製石片	d3	SH101 No.65	黏板岩	完形	121.0	54.5	22.0	188	表面に自然面を欠す。
1101	169-01	石皿	d3	SH101	花崗岩	1/2残存	24.0	13.5	9.7	4800	
1102	168-01	砥石	d3	SH101	流紋岩	完形	10.5	8.1	4.2	440	
1103	165-02	砥石	d3	SH101	流紋岩	完形	8.7	6.9	3.3	280	
1104	167-01	砥石	d3	SH101	流紋岩	ほぼ完形	10.7	7.5	4.8	540	
1105	168-03	砥石	d3	SH101	安山岩	1/3残存	6.0	8.9	5.6	330	
1106	167-03	砥石	d3	SH101	安山岩	2/3残存	11.4	5.3	4.9	370	
1107	171-03	砥石	d3	SH101	四稜岩	5/3残存	5.3	8.9	4.7	360	
1108	167-02	砥石	d3	SH101	凝灰岩	2/5残存	6.6	7.0	3.9	210	
1109	168-02	砥石	d3	SH101	砂岩	1/2残存	7.4	5.9	3.2	190	
1110	166-01	砥石	d3	SH101	砂岩	完形	11.5	8.3	5.4	740	
1111	166-02	砥石	d3	SH101	砂岩	完形	10.3	10.2	4.0	560	
1112	170-02	砥石	d4	SH101	砂岩	完形	8.1	7.4	3.5	315	
1113	170-01	砥石	d3	SH101	砂岩	完形	13.4	10.8	5.3	1120	
1114	165-01	砥石	d4	SH101	粘板岩片岩	完形	16.3	4.1	2.9	315	
1115	171-01	不明石製品	d4	SH101	粘板岩片岩	完形	34.0	38.0	6.0	5.71	
1116	345-02	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	完形	32.5	38.0	5.5	4.21	
1117	345-01	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	完形	16.0	20.0	3.0	0.61	
1118	343-06	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	27.0	30.0	4.5	3.31	
1119	344-02	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	29.0	35.5	6.0	2.99	
1120	344-05	石鏝	d3	SH101 ①	サヌカイト	先端部欠	46.0	37.0	5.0	7.16	
1121	343-05	石鏝	d4	SH101 No.645	チャート	完形	26.0	59.5	6.0	9.56	
1122	344-01	石鏝	d4	SH101 No.647	珪質頁岩	完形	19.0	27.0	6.0	2.34	
1123	343-04	石鏝	d3	SH101 ②	サヌカイト	先端部欠	19.0	27.0	6.0	2.34	

第33表 出土石製品観察表④

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1124	340-08	石罐	d3	SH101 ①	サヌカイト	罐部残存	15.0	6.0	2.5	0.17	
1125	340-03	石罐	d3	SH101	サヌカイト	完形	29.5	17.0	6.0	1.74	縦長薄片素材。
1126	342-05	石罐	d3	SH101 ②	サヌカイト	罐部欠損	19.0	15.5	4.0	0.86	
1127	340-02	石罐	c4	SH101 ③	サヌカイト	完形	33.0	19.0	6.0	2.43	
1128	341-03	石罐	d4	SH101 ④	サヌカイト	同席欠	30.5	10.0	6.5	1.38	つまる部無し。
1129	342-03	石罐	d4	SH101 ⑤	サヌカイト	同席欠	25.0	9.0	4.0	0.79	罐部残存。
1130	342-01	石罐	d3	SH101 ②	サヌカイト	罐部欠損	29.5	20.0	7.0	3.99	
1131	341-08	石罐	d3	SH101 ②	サヌカイト	罐部欠損?	22.5	18.0	5.5	2.41	
1132	342-02	石罐	c4	SH101 ③	サヌカイト	完形	30.0	17.0	8.0	3.67	
1133	340-01	石罐	d3	SH101 ③	サヌカイト	完形	24.0	15.0	4.0	1.23	
1134	347-02	甗器	d4	SH101 No348	チャート	完形	40.0	47.0	12.0	19.20	
1135	347-05	甗器	d4	SH101	珪質頁岩	完形	35.5	29.0	17.0	14.33	
1136	349-02	甗器	d3	SH101 ①	サヌカイト	完形	37.0	29.5	10.5	9.20	左側縁ガサリ。
1137	346-03	甗器	d4	SH101	チャート	完形	72.0	44.5	17.5	53.56	
1138	347-04	甗器	d3	SH101 ①	チャート	完形	30.0	27.5	14.5	10.39	
1139	348-01	甗器	d3	SH101 ③	チャート	左側縁欠	27.5	26.5	8.0	4.05	
1140	359-04	甗器石器	d3	SH101 ①	サヌカイト	断片	25.5	13.0	6.5	1.89	
1141	358-05	甗器石器	c4	SH101 ②	サヌカイト	断片	31.0	14.0	8.0	1.73	
1142	358-02	甗器石器	c3	SH101 ②	サヌカイト	下部々左半身欠	30.5	15.5	6.0	1.67	下部欠はガサリ。
1143	360-01	甗器石器	d4	SH101 ③	サヌカイト	左半身欠	26.0	21.5	13.0	6.22	
1144	358-01	甗器石器	c4	SH101 ③	サヌカイト	完形	21.0	30.0	6.5	4.06	
1145	359-02	甗器石器	d3	SH101 ①	サヌカイト	右側縁欠	32.5	22.5	10.5	9.66	裏面に素材面を挟す。
1146	359-06	甗器石器	d3	SH101 ①No36	サヌカイト	完形	44.5	33.5	9.5	14.09	頭部わずかにガサリ。
1147	359-03	甗器石器	d3	SH101 No07	チャート	完形	35.5	33.5	13.5	16.42	裏面に自然面を挟す。
1148	353-06	甗器石器	d4	SH101 No32	四稜岩	刃部断片	57.0	65.0	30.0	143.00	
1149	353-03	甗器石器	c3	SH101 ①No35	砂岩	頭部断片	51.5	34.5	11.0	17.09	
1150	354-06	石椀	d3	SH101 ③	チャート	完形	15.0	27.0	12.0	4.51	
1151	354-05	石椀	d3	SH101	チャート	完形	37.5	55.0	17.5	32.32	
1152	356-01	珠状石皿	d3	SH101 ③	粘板岩	右半身欠	37.0	21.0	5.0	3.64	欠損部に修復孔あり。
1153	357-01	垂筒	c3	SH101 ①	粘板岩	頭部欠	56.5	24.0	10.0	20.87	小形磨製石器との兼用あるいは転用。
1154	334-05	石罐	d4	SH102 ①	サヌカイト	左側欠	15.5	14.5	2.0	0.26	
1155	334-02	石罐	d4	SH102 ①~②あせ	サヌカイト	左側欠	21.0	13.5	2.5	0.33	
1156	331-07	石罐	d4	SH102 ②~③あせ	サヌカイト	左側欠	17.0	11.5	2.0	0.22	
1157	334-08	石罐	d4	SH102 ②	サヌカイト	完形	22.0	19.0	2.5	0.71	両側面にガサリ。
1158	334-06	石罐	b4	SH102 ①	チャート	右側欠	21.5	13.5	2.0	0.31	
1159	337-01	石罐	d4	SH102 ②~③あせ	サヌカイト	頭部欠	19.0	12.5	2.5	0.31	基部にガサリ。
1160	335-01	石罐	d4	SH102 ②	サヌカイト	完形	29.0	14.0	3.0	0.75	裏面に素材面を挟す。
1161	334-07	石罐	d4	SH102 ①	サヌカイト	完形	14.0	10.5	2.0	0.18	裏面に素材面を挟す。
1162	313-05	石罐	d4	SH102 ②	サヌカイト	右側縁欠	14.0	10.5	2.5	0.33	
1163	335-04	石罐	c4	SH102 ②	サヌカイト	完形	20.5	13.5	3.0	0.76	
1164	313-06	石罐	d4	SH102 ②	サヌカイト	先端欠	12.5	26.0	2.5	0.74	ガサリ。
1165	313-08	石罐	d4	SH102 ②	サヌカイト	先端・右側縁欠	13.5	17.5	3.0	0.63	
1166	334-04	石罐	c2	SH102 ②	サヌカイト	右側欠	29.5	17.5	2.5	0.91	

第34表 出土石製品観察表⑤

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1167	335-05	石鏝	d4	SH102 ②	サヌカイト	右脚欠	23.0	15.0	3.0	0.61	
1168	307-04	石鏝	d4	SH102 ②	チャート	完形	33.5	18.0	6.0	2.51	
1169	324-01	石鏝	d4	SH102 ②~③あぜ	サヌカイト	完形	15.0	14.0	4.0	0.69	裏面に素材面を残す。左側縁わずかにガジリ。
1170	335-03	石鏝	d4	SH102 ②	サヌカイト	完形	16.0	17.5	3.0	0.57	裏面に素材面を残す。
1171	313-03	石鏝	d4	SH102 ①	サヌカイト	先端欠	10.5	18.5	2.5	0.40	
1172	355-06	石鏝	d4	SH102 ①	チャート	両脚欠	16.5	13.0	2.0	0.27	
1173	306-01	石鏝	d5	SH102 ①~②	サヌカイト	両脚欠	20.0	21.5	4.0	1.08	
1174	309-03	石鏝	d5	SH102 ②	サヌカイト	先端欠	25.5	15.5	3.0	0.88	
1175	335-02	石鏝	d4	SH102 ②	サヌカイト	両脚欠	22.5	14.0	2.5	0.45	両側縁内凹。
1176	304-02	石鏝	e4	SH102 端	サヌカイト	先端・左脚欠	13.5	8.0	2.0	0.21	
1177	313-01	石鏝	d4	SH102 端	サヌカイト	先端・左脚欠	13.5	8.0	2.5	0.23	
1178	334-03	石鏝	d4	SH102 端	チャート	先端・両脚欠	12.5	13.0	3.0	0.35	
1179	304-03	石鏝	d4	SH102 ②~③	サヌカイト	先端・右脚欠	12.5	8.5	2.0	0.15	
1180	341-02	石鏝	d4	SH102 ②	サヌカイト	完形	23.0	12.0	3.5	0.81	表面片断ずつ交互の加工。
1181	348-04	削器	d4	SH102 端	サヌカイト	完形	30.0	25.0	5.5	3.77	左側縁ガジリ。
1182	356-02	珧状耳飾	d4	SH102 ①	粘板岩	左半身欠	34.0	17.0	3.0	2.38	欠損部に修復孔あり。
1183	170-04	石鏝	d4	SH102	粘板岩	小片	6.6	6.7	1.6	70	
1184	175-03	台石	d4	SH102	安山岩		7.7	7.9	2.9	305	
1185	175-01	磨石	d4	SH102	凝灰岩	2/3残存	10.4	8.0	4.9	530	
1186	173-03	不明	d4	SH102	砂岩	1/2残存	3.5	5.5	3.1	390	
1187	173-02	磨石	d4	SH102	凝灰岩	完形	9.8	7.2	3.3	335	
1188	173-01	磨石	d4	SH102	凝灰岩	1/2残存	10.8	8.2	3.8	480	
1189	353-02	磨製石片	d4	SH102 ②	砂岩	刃部欠	105.5	45.0	24.0	177	網目と紐打による調整有り。
1190	301-07	石鏝	e2	SH113 ①~③あぜ	サヌカイト	先端・左脚欠	24.0	10.0	3.0	0.51	
1191	301-06	石鏝	e2	SH113 ③	サヌカイト	先端・右脚欠	16.5	15.5	2.0	0.41	
1192	339-05	石鏝	e2	SH113 ②	サヌカイト	先端・左脚欠	15.0	10.5	2.0	0.20	
1193	301-01	石鏝	e3	SH113 ④	サヌカイト	完形	17.5	16.5	45.0	0.61	
1194	339-06	石鏝	e2	SH113 ③	サヌカイト	両脚欠	14.5	14.5	2.5	0.36	
1195	301-05	石鏝	e2	SH113 ③	サヌカイト	両脚欠	15.5	10.5	2.0	0.29	
1196	339-07	石鏝	e2	SH113 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	13.5	11.5	2.5	0.29	左側縁ガジリ。
1197	309-02	石鏝	e2	SH113 ③~④あぜ	サヌカイト	右基部欠	23.5	12.0	3.0	0.67	
1198	339-08	石鏝	e2	SH113 ③	チャート	先端部断片	14.0	8.5	3.0	0.29	断部断片の可能性あり。
1199	301-04	石鏝	e2	SH113 ①~③あぜ	サヌカイト	先端欠	12.0	13.0	3.0	0.65	
1200	318-05	石鏝	e2	SH113 ①	サヌカイト	右基部欠	38.0	52.5	17.0	113.39	ガジリ。
1201	350-03	打製石片	e2	SH113 ④No.1	砂岩	完形	88.0	52.5	17.0	113.39	橋長部片素材。表面に自然面を大きく残す。
1202	170-05	石鏝	e2	SH113	ホルンフェルス	完形	7.1	4.0	1.3	50	
1203	174-02	磨石	e2	SH113	凝灰質砂岩	4/5残存	7.6	8.4	3.8	380	
1204	174-03	不明	e2	SH113	花崗岩	完形	7.6	7.5	3.4	280	
1205	337-03	石鏝	d5	SH103	サヌカイト	右脚欠	19.5	14.5	2.5	0.32	
1206	337-05	石鏝	d5	SH103	サヌカイト	右脚欠	16.0	13.5	3.5	0.42	左側縁無し。左右非対称。右側縁ガジリ。
1207	337-04	石鏝	d5	SH103	チャート	両脚欠	13.5	12.0	2.0	0.30	
1208	305-06	石鏝	d5	SH103	サヌカイト	先端・左脚欠	8.0	9.0	2.0	0.15	
1209	172-03	磨石	d5	SH103	花崗岩	1/2残存	8.0	6.8	3.8	245	

第35表 出土石製品観察表(6)

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1210	338-05	石鏝	43	SK105 ①～②あぜ	サヌカイト	右脚欠	25.0	19.0	3.5	0.65	
1211	338-03	石鏝	43	SK105 ②	粘質頁岩	先端欠	11.0	16.5	2.5	0.38	先端部に先端方向からの割傷痕有り。
1212	338-04	石鏝	43	SK105	チャート	先端欠	17.5	15.5	3.0	0.59	左側縁にガタリ。
1213	337-06	石鏝	43	SK105 ①	サヌカイト	右脚欠	14.0	12.3	2.3	0.23	
1214	338-01	石鏝	43	SK105 ②	サヌカイト	先端・左脚欠	20.0	13.0	4.0	0.36	
1215	338-02	石鏝	43	SK105 ②	サヌカイト	先端欠	21.0	16.5	3.0	0.76	
1216	337-06	石鏝	43	SK105 ①	サヌカイト	先端部欠	15.5	16.0	3.0	0.46	両側縁内湾。
1217	337-07	石鏝	43	SK105 ①	サヌカイト	先端部欠	15.0	17.5	2.5	0.58	基部彫形時に先端欠損。裏面に素材面を残す。
1218	314-07	石鏝	43	SK105 ②	サヌカイト	基部欠	24.0	27.0	6.5	3.45	裏面に素材面を残す。
1219	305-03	石鏝	43	SK105 ②	サヌカイト	先端・右脚欠	18.5	13.5	3.0	0.70	
1220	305-09	石鏝	43	SK120 ②～③あぜ	サヌカイト	先端・左脚欠	12.0	6.5	2.0	0.13	
1221	354-03	石鏝	43	SK105 ②	粘質頁岩	完形	25.5	36.5	12.0	10.26	
1222	346-01	石鏝	43	SK105 ②	サヌカイト	完形	34.5	22.0	9.5	5.72	
1223	359-05	彫形石器	43	SK105 ②	サヌカイト	完形	23.0	23.0	7.0	3.46	裏面下湾わずかにガタリ。
1224	171-02	磨石	43	SK105	花崗岩	完形	10.6	9.1	5.6	800	
1225	170-03	石鏝	43	SK105	凝灰岩	ほぼ完形	4.9	3.9	1.2	35	
1226	338-06	石鏝	46	SK108	サヌカイト	両脚欠	19.0	12.0	3.5	0.66	基部にガタリ。
1227	338-07	石鏝	46	SK108	サヌカイト	先端部断片	14.0	14.0	2.0	0.25	
1228	338-08	石鏝	46	SK108	粘質頁岩	先端部欠	15.0	21.0	5.5	1.82	
1229	339-01	石鏝	46	SK108	チャート	片断部断片	15.5	9.0	2.3	0.29	
1230	354-01	石鏝	46	SK108	粘質頁岩	完形?	36.5	36.5	13.3	17.47	左側縁ガタリ?
1231	359-02	石鏝	46	SK110 ②	サヌカイト	完形	24.5	22.5	8.0	3.28	
1232	359-03	石鏝	46	SK110 ②	サヌカイト	左脚欠	21.5	17.0	3.0	1.01	
1233	352-01	磨石	42	下包 No.231	凝灰岩	完形	245.0	80.0	20.0	749	網籠と紐打による調整有り。
1234	301-03	石鏝	42	SK115	サヌカイト	先端・右脚欠	12.5	14.0	2.5	0.30	
1235	301-08	石鏝	42	SK115 ①	サヌカイト	右脚欠	19.0	16.0	3.0	0.77	ガタリ。
1236	347-01	石鏝	42	SK115 ①	チャート	完形	115.0	67.5	15.5	128.50	
1237	342-07	石鏝	42	SK119	サヌカイト	完形	41.5	23.5	8.0	3.91	右側面に自然面を残す。
1238	342-06	石鏝	42	SK119	サヌカイト	完形	41.0	15.0	7.0	3.31	
1239	349-01	磨石	42	SK119	サヌカイト	打面欠	25.5	26.5	6.5	3.11	
1240	358-06	彫形石器	42	SK119	サヌカイト	断片	25.0	16.0	9.5	2.99	
1241	326-04	石鏝	43	SK122	サヌカイト	右脚欠	22.0	16.0	3.0	0.49	右側縁にガタリ。
1242	326-06	石鏝	43	SK122	サヌカイト	完形	30.0	11.5	3.0	0.52	表面の中央部に素材面をわずかに残す。
1243	326-05	石鏝	43	SK122	サヌカイト	完形	16.5	17.5	3.0	0.53	
1244	326-03	石鏝	43	SK122	サヌカイト	先端・両脚欠	11.0	11.5	2.0	0.20	裏面の一部に素材面を残す。
1245	303-07	石鏝	43	SK117 ①	サヌカイト	完形	14.5	14.5	2.0	0.27	
1246	303-02	石鏝	43	SK117 ②	サヌカイト	完形	11.5	11.0	1.3	0.11	
1247	353-02	石鏝	43	SK120 ①～③あぜ	サヌカイト	完形	16.0	14.0	2.0	0.31	
1248	303-04	石鏝	43	SK117 ①	サヌカイト	両脚欠	19.5	13.5	25.0	0.66	ガタリ。
1249	307-06	石鏝	43	SK120	サヌカイト	先端欠	22.0	18.0	3.0	0.83	
1250	305-04	石鏝	43	SK120 ②～③あぜ	サヌカイト	左脚欠	25.5	17.5	5.0	1.33	
1251	302-06	石鏝	43	SK120 ②	チャート	右脚欠	20.0	13.5	2.0	0.31	

第36表 出土石製品観察表(7)

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1252	303-06	石鏝	03	SK116 ①	サヌカイト	左脚欠	14.5	14.0	2.5	0.26	
1253	307-03	石鏝	03	SK117 ①	サヌカイト	先端・基部欠	20.5	24.5	7.0	4.29	
1254	303-05	石鏝	02	SK118 ②	サヌカイト	基部欠	22.0	21.0	5.0	2.08	
1255	303-03	石鏝	03	SK120	サヌカイト	先端欠	15.5	24.0	4.0	1.86	
1256	303-08	石鏝	03	SK116 ①	サヌカイト	左脚欠	13.5	12.0	3.0	0.29	
1257	304-06	石鏝	03	SK117 ②	サヌカイト	先端・右基部欠	11.0	8.5	1.5	0.12	
1258	303-01	石鏝	03	SK117 ①	サヌカイト	基部欠	17.5	11.5	2.0	0.33	
1259	302-03	石鏝	03	SK120	サヌカイト	両脚欠	13.0	9.5	2.0	0.21	
1260	325-02	石鏝	03	SK120	サヌカイト	先端部断片	8.0	9.0	2.0	0.08	
1261	302-02	石鏝	03	SK120	サヌカイト	先端部断片	8.0	9.0	2.0	0.08	
1262	325-01	石鏝	03	SK120	サヌカイト	先端・左脚欠	16.5	15.0	3.0	0.48	
1263	306-05	石鏝	03	SK120	サヌカイト	先端・右脚欠	17.0	14.0	3.0	0.43	
1264	302-07	石鏝	03	SK120 ①~③みせ	サヌカイト	先端・両脚欠	13.5	14.0	3.0	0.57	
1265	306-03	石鏝	02	SK120 ③	サヌカイト	先端・右脚欠	16.0	10.0	2.5	0.33	ガジリ。
1266	302-08	石鏝	03	SK120 ③	サヌカイト	先端・左脚欠	11.5	8.5	2.0	0.32	
1267	302-04	石鏝	03	SK120 ②~③みせ	チャート	左脚欠	17.0	9.0	3.0	0.48	302-07と組合。
1268	301-02	石鏝	03	SK116 ①	チャート	先端・左脚欠	13.5	14.0	3.0	0.44	ガジリ。
1269	340-07	磨石	03	SK117 ①	サヌカイト	完形	34.5	17.0	8.5	4.76	
1270	179-01	磨石	03	SK120	凝灰岩	ほぼ完形	9.3	9.0	4.2	4.65	
1271	176-03	磨石	03	SK120	凝灰岩	完形	8.5	7.6	3.4	2.80	
1272	176-02	磨石	03	SK120	凝灰岩	完形	15.3	7.0	4.9	8.00	
1273	179-02	磨石	03	SK120	花崗岩	完形	14.9	8.9	5.3	9.80	
1274	174-01	磨石	03	SK117	砂岩	2/3残存	12.3	7.0	4.3	5.10	
1275	177-03	磨石	03	SK120	砂岩	2/5残存	6.4	10.6	4.9	4.45	
1276	325-08	石鏝	03	SK121	サヌカイト	先端欠	15.0	15.0	2.5	0.32	
1277	325-04	石鏝	03	SK121 №54	サヌカイト	先端欠	13.5	15.0	2.5	0.29	
1278	333-03	石鏝	03	SK121	サヌカイト	完形	20.5	17.0	4.0	1.41	表面に素材の主要納溝面を残す。
1279	326-01	石鏝	03	SK121	チャート	完形	19.0	18.0	5.5	1.22	
1280	325-05	石鏝	03	SK121	サヌカイト	先端・左脚欠	23.5	18.0	3.0	0.84	
1281	325-06	石鏝	03	SK121	サヌカイト	両脚欠	18.0	13.0	2.0	0.33	
1282	325-03	石鏝	03	SK121	サヌカイト	先端部断片	12.5	9.0	2.0	0.17	
1283	332-06	石鏝	03	SK121	サヌカイト	先端部断片	10.0	7.0	2.0	0.08	
1284	326-02	石鏝	03	SK121	サヌカイト	先端部断片	11.0	7.0	2.5	0.12	脚部破片の可能性あり。
1285	331-01	石鏝	03	SK121	サヌカイト	片脚部断片	15.0	8.0	2.0	0.15	
1286	332-01	石鏝	03	SK121	サヌカイト	片脚部断片	13.5	14.5	2.0	0.23	
1287	325-07	石鏝	03	SK121	粘質頁岩	片脚部断片	11.0	7.5	2.0	0.12	
1288	350-02	打製石片	03	SK121 №1	砂岩	左部欠	128.5	53.0	26.0	265	未製品。
1289	351-03	打製石片	03	SK121 №20	凝灰岩	完形	91.0	42.0	21.0	114	
1290	347-03	磨石	03	SK121 №16	チャート	完形	50.0	34.5	12.5	23.61	
1291	340-04	石鏝	03	SK121	粘質頁岩	基部欠	16.5	15.5	7.0	1.19	
1292	205-02	磨石	03	SK121 №44	両脚欠	1/3残存	10.6	10.2	6.1	8.94	
1293	177-02	磨石	03	SK121	凝灰岩	完形	10.9	8.1	2.7	3.15	
1294	178-03	磨石	03	SK121	凝灰岩	完形	11.7	7.5	4.5	5.40	

第37表 出土石製品観察表⑧

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1295	178-02	磨石	c3	SK121	凝灰岩	完形	13.5	7.8	3.1	475	
1296	339-04	石鏝	c4	SD111	サヌカイト	両脚欠	27.0	14.5	2.5	0.78	
1297	307-01	石鏝	b5	SD38	火山岩	2/3残存	15.5	10.7	6.1	1890	
1298	350-04	打製石片	b5	SD40	砂岩	片断欠	130.3	46.5	17.0	131	裏面に自然面を残す。
1299	210-03	磨石	b6	SD40	砂岩	完形	7.7	6.5	4.2	298	
1300	214-04	磨石	b6	SD40	凝灰岩	1/2残存	6.2	9.1	4.6	325	
1301	343-03	石磨	c3	SD46	サヌカイト	完形	36.0	48.0	5.0	7.54	
1302	344-03	石磨	c3	SD46	サヌカイト	片断正欠	37.5	38.5	8.0	8.66	加熱を受けている可能性あり。
1303	344-04	石磨	c4	SD46	サヌカイト	両脚欠	40.5	38.5	6.5	6.62	両面に自然面を残す。
1304	350-06	打製石片	d2	SD46	凝灰岩	完形	107.5	56.5	11.0	94.29	裏面に自然面を残す。
1305	359-01	磨石	c2	SD46	珪質頁岩	完形	31.5	26.0	12.0	8.89	
1306	360-05	磨石	c3	SD46	サヌカイト	下端欠	32.0	27.0	11.0	7.83	
1307	348-05	磨石	d2	SD46	チャート	1/5残存	37.0	57.0	16.0	30.27	下端・右側縁にガシリ。
1308	211-01	台石	e1	SD46	ホルンフェルス	完形	19.0	14.8	4.0	1535	
1309	210-01	磨石	c3	SD46	凝灰岩	完形	12.8	10.6	4.1	775	
1310	209-03	磨石	c3	SD46	花崗岩	完形	10.0	9.8	5.0	680	
1311	212-01	磨石	c3	SD46	凝灰岩	完形	9.5	8.2	4.9	465	
1312	212-04	磨石	c3	SD46	砂岩	2/3残存	131.6	83.1	4.1	700	
1313	216-03	磨石	c3	SD46	砂岩	2/3残存	8.7	6.5	4.3	320	
1314	212-02	磨石	c3	SD46	凝灰岩	完形	11.6	9.1	4.2	615	
1315	346-06	磨石	c3	SD48	チャート	完形	33.0	47.0	11.0	12.89	
1316	342-04	石鏝	e2	SD48	サヌカイト	完形	30.5	25.5	9.0	4.73	
1317	214-02	磨石	e2	SD48	凝灰岩	2/5残存	5.9	8.5	4.1	290	
1318	211-02	磨石	e3	SD48	砂岩	完形	9.5	7.3	4.3	520	
1319	217-01	磨石	e3	SD47	凝灰岩	完形	11.0	9.1	4.8	740	
1320	213-01	台石	e3	SD47	砂岩	完形	16.3	11.9	4.0	1150	裏面に自然面を残す。
1321	360-03	磨石	d4	pit3	サヌカイト	完形	36.0	18.0	10.5	6.29	
1322	348-02	磨石	f2	pit1	チャート	両脚欠	23.0	31.5	7.0	4.77	
1323	307-07	石鏝	b1	包	サヌカイト	片断欠	20.5	18.5	5.0	1.34	
1324	309-04	石鏝	e4	包③	サヌカイト	完形	34.0	19.0	6.0	3.60	
1325	344-06	石磨	b2	包	チャート	片断から面欠	33.0	34.0	7.0	6.67	
1326	353-04	磨石	d4	包	砂岩	完形	132.0	45.5	24.0	300.50	両脚と磨打による調整有り。
1327	209-01	磨石	d4	包	砂岩	完形	9.4	8.6	5.1	580	
1328	213-02	磨石	d5	包	凝灰岩	完形	12.3	10.0	4.4	745	
1329	215-04	磨石	d4	包	珪質頁岩	2/5残存	10.8	4.0	3.6	190	
1330	212-03	磨石	d5	包	砂岩	2/5残存	6.9	10.3	4.1	355	
1331	172-01	磨石	e2	pit101	凝灰岩	1/2残存	12.3	10.8	6.8	1070	
1332	319-01	石鏝	c4	地点3	サヌカイト	先端・右脚欠	15.3	14.0	2.3	0.34	
1333	319-03	石鏝	c3	—	サヌカイト	先端欠	14.5	15.0	2.5	0.34	
1334	319-06	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	左脚欠	22.0	15.5	3.0	0.67	
1335	319-08	石鏝	d4	黒色土	サヌカイト	片断欠	15.5	18.5	3.0	0.61	
1336	320-03	石鏝	e4	黒色土	サヌカイト	完形	12.5	11.0	3.0	0.24	
1337	319-02	石鏝	e4	地点2	サヌカイト	両脚欠	11.5	14.5	2.0	0.27	風化深い。

第38表 出土石製品観察表⑧

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1338	313-07	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	基部欠	16.5	13.5	3.0	0.62	
1339	319-05	石鏝	c4	黒色土	チャート	左基形欠	14.5	15.5	4.0	0.76	
1340	320-02	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	先端・右基部欠	24.5	8.5	3.0	0.28	
1341	313-02	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	両脚欠	14.5	14.0	3.0	0.45	
1342	331-04	石鏝	c4	黒色土	サヌカイト	先端部面片	15.0	13.5	3.0	0.68	
1343	313-04	石鏝	c4	黒色土	サヌカイト	先端・右脚欠	14.5	8.5	2.5	0.25	
1344	331-08	石鏝	b3	黒色土	チャート	先端部面片	12.5	12.0	5.0	0.66	脚部断片の可能性あり。
1345	304-01	石鏝	c4	黒色土	サヌカイト	先端・右脚欠	10.5	9.0	2.5	0.23	
1346	314-04	石鏝	c4	黒色土	サヌカイト	先端・右基部欠	14.0	10.5	2.5	0.25	
1347	315-04	石鏝	c4	黒色土	サヌカイト	基部欠	25.5	20.0	4.0	1.50	未製品。
1348	333-06	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	先端部欠	14.5	18.5	3.5	0.79	裏面に素材面を残す。
1349	332-03	石鏝	d4	黒色土	サヌカイト	片脚部断片	13.0	12.5	2.5	0.25	
1350	320-04	石鏝	d4	黒色土	サヌカイト	左脚欠	11.5	9.5	2.0	0.13	
1351	206-03	磨石	c3	地点2	凝灰岩	4/5残存	13.1	10.7	4.6	9.25	
1352	206-01	磨石	c3	地点1	砂岩	完形	11.7	10.3	5.8	10.35	
1353	209-02	磨石	c3	地点3	凝灰岩	完形	10.8	9.4	3.5	4.75	
1354	208-01	石皿	d3	地点2	砂岩	2/5残存	17.7	32.5	6.3	6.920	
1355	341-04	石鏝	c2	黒色土	サヌカイト	両端欠	13.5	6.0	3.5	0.23	脚部残存。
1356	360-04	磨石石器	c2	SS6.6	チャート	完形	31.5	30.0	12.0	12.55	表面に自然面を残す。
1357	327-08	石鏝	c3	下包③	サヌカイト	左脚欠	17.0	14.5	3.0	0.41	
1358	318-07	石鏝	c3	下包③	サヌカイト	左脚欠	14.5	12.0	2.0	0.20	
1359	327-07	石鏝	b6	下包③	サヌカイト	完形	13.0	12.5	2.5	0.26	
1360	326-08	石鏝	c3	下包②	チャート	完形	16.5	17.0	3.0	0.39	
1361	327-06	石鏝	c3	下包③	サヌカイト	先端欠	13.5	15.5	2.0	0.32	
1362	318-06	石鏝	c3	下包③	サヌカイト	両脚欠	13.0	15.5	2.0	0.30	先端部に先端方向からの割傷痕有り。
1363	327-04	石鏝	e2	下包③	サヌカイト	右脚欠	16.5	15.0	2.0	0.31	
1364	318-08	石鏝	e2	下包③	サヌカイト	左脚欠	19.0	14.0	3.5	0.56	
1365	327-05	石鏝	c3	下包③	サヌカイト	完形	12.5	15.5	2.5	0.33	
1366	306-04	石鏝	c3	下包③	チャート	基部欠	21.5	17.5	5.0	1.30	
1367	320-01	石鏝	d2	下包②	サヌカイト	先端欠	27.0	24.0	8.0	4.21	総垢。
1368	305-07	石鏝	b2	下包②	サヌカイト	左基部欠	21.0	22.0	5.0	1.79	
1369	321-02	石鏝	d4	下包②	チャート	両脚欠	30.5	18.5	4.5	1.57	
1370	327-03	石鏝	c3	下包②	サヌカイト	両脚欠	28.0	14.5	3.0	1.02	
1371	326-07	石鏝	e4	下包②	サヌカイト	両脚欠	21.0	19.0	2.5	0.55	
1372	318-00	石鏝	e2	下包②	サヌカイト	左脚欠	21.5	20.0	3.0	0.57	
1373	319-07	石鏝	b4	下包②	サヌカイト	右脚欠	20.5	10.0	2.5	0.27	黒色土・トレンチ
1374	327-01	石鏝	d3	下包②	サヌカイト	両脚欠	24.5	16.5	3.0	0.67	
1375	321-04	石鏝	e4	下包②	サヌカイト	左脚欠	19.5	14.5	3.5	0.60	擦土。
1376	327-02	石鏝	e4	下包②	サヌカイト	左脚欠	19.0	15.0	3.0	0.30	
1377	305-01	石鏝	e2	下包②	サヌカイト	基部欠	19.5	15.5	3.0	0.37	
1378	321-01	石鏝	e2	下包②	サヌカイト	先端・左基部欠	25.0	11.0	5.0	1.36	擦土。
1379	305-05	石鏝	b7	下包②	チャート	先端・左基部欠	35.5	21.0	5.0	3.38	南北トレンチ
1380	306-08	石鏝	e2	下包②	チャート	先端・左基部欠	24.5	19.5	5.0	1.69	擦土。

第39表 出土石製品観察表⑧

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1381	319-04	石鏝	c7	④ 下包	サヌカイト	先端・右側欠	15.5	17.5	2.0	0.34	
1382	306-05	石鏝	d3	下包	サヌカイト	先端・両側欠	13.0	7.5	2.0	0.30	
1383	306-02	石鏝	b6	下包	サヌカイト	先端・右側欠	12.5	9.5	2.0	0.15	
1384	188-03	石鏝	c3	下包	砂岩	ほぼ完形	6.1	4.7	1.0	40	
1385	182-03	石鏝	d4	下包	流紋岩	完形	6.5	3.3	1.8	90	
1386	215-05	石鏝	d4	下包	緑色片岩	4/5残存	8.5	3.7	0.6	25	
1387	351-02	打製石斧	d4	№80 下包	砂質片岩	刃部・前部欠	141.0	90.5	29.0	442.00	表面に素材面を残す。
1388	350-01	打製石斧	e3	下包	流紋岩	完形	94.5	54.0	13.0	81.09	表面の一部に磨れ状の痕跡あり。
1389	224-01	台石	f2	下包	花崗岩	1/8程度残存	16.5	7.1	7.1	1030	磨土
1390	190-03	台石	f2	下包	凝灰質砂岩	1/3残存	11.8	6.6	4.9	460	
1391	186-01	台石	f2	下包	四稜岩	3/4残存	15.3	11.7	8.2	2350	
1392	203-01	台石	e2	pt101 下包	四稜岩	完形	25.9	16.9	9.5	5700	
1393	217-02	石皿	b4	下包	流紋岩	1/4残存	16.0	12.7	5.7	1400	トレンチ
1394	187-01	石皿	d3	下包	花崗岩	2/3残存	34.0	20.3	11.0	10800	
1395	205-01	石皿	e3	下包	黒レイ石	1/5残存	17.6	17.3	7.2	3640	
1396	201-01	石皿	e3	下包	粘結片岩	1/5残存	25.3	14.0	5.4	3050	
1397	200-01	石皿	d6	下包	粘結片岩	1/4残存	24.9	23.2	3.5	1600	
1398	216-01	磨石	c7	下包	凝灰岩	完形	8.6	7.3	4.5	400	
1399	190-01	磨石	c7	下包	砂岩	完形	9.0	8.6	3.8	430	
1400	214-01	磨石	c7	下包	緑色片岩	完形	9.8	8.3	4.4	530	
1401	210-02	磨石	f2	下包	花崗岩	完形	12.4	10.5	5.8	1050	磨土
1402	180-01	磨石	f2	下包	流紋岩	ほぼ完形	9.8	8.6	5.5	630	
1403	188-04	磨石	e2	下包	凝灰質砂岩	2/5残存	6.3	8.3	3.7	210	
1404	219-02	磨石	e3	下包	流紋岩	2/5残存	4.8	7.4	4.3	200	磨土
1405	193-02	磨石	e3	下包	花崗岩	2/3残存	7.0	6.5	4.1	223	
1406	197-01	磨石	f3	下包	流紋岩	ほぼ完形	11.3	11.2	6.3	1100	
1407	193-03	磨石	f3	下包	凝灰質砂岩	完形	8.6	5.1	3.5	290	
1408	206-02	磨石	e2	下包	流紋岩	完形	9.9	7.4	6.6	700	
1409	185-01	磨石	e2	下包	砂岩	完形	13.9	8.7	4.7	910	
1410	182-01	磨石	e2	下包	凝灰岩	2/3残存	10.6	10.6	5.4	830	
1411	219-01	磨石	e3	下包	凝灰質砂岩	2/3残存	13.7	8.9	4.8	750	磨土
1412	188-02	磨石	e3	下包	四稜岩	完形	11.7	7.7	3.6	560	
1413	191-02	磨石	e3	下包	流紋岩	1/3残存	13.1	6.0	5.2	430	
1414	181-01	磨石	d4	下包	黒レイ石	4/5残存	16.5	9.7	3.9	1110	
1415	196-01	磨石	c7	下包	砂岩	完形	12.2	11.0	5.3	990	
1416	192-01	磨石	c7	下包	凝灰岩	完形	11.5	11.1	4.5	830	
1417	214-03	磨石	e4	下包	流紋岩	完形	9.8	8.8	4.8	530	
1418	196-02	磨石	e4	下包	砂岩	完形	9.0	9.4	6.9	830	
1419	223-02	磨石	f2	下包	四稜岩	ほぼ完形	10.3	9.0	4.2	610	磨土
1420	195-02	磨石	f2	下包	凝灰質砂岩	4/5残存	7.7	8.4	3.4	308	
1421	184-04	磨石	e3	下包	流紋岩	完形	8.5	7.7	5.2	430	
1422	207-02	磨石	e3	下包	流紋岩	2/5残存	11.4	9.4	6.1	810	
1423	219-03	磨石	e3	下包	凝灰質砂岩	1/2残存	11.4	5.9	5.0	460	磨土

第40表 出土石製品観察表①

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1424	216-04	磨石	d3	下包	砂岩	1/3残存	5.9	9.5	6.1	440	
1425	215-02	磨石	d5	下包	凝灰質砂岩	小片	7.7	11.9	3.9	345	
1426	220-02	磨石		下包	凝灰質砂岩	1/2残存	5.3	10.1	5.1	450	積土
1427	213-03	磨石	d4	下包	安山岩	2/5残存	6.1	10.1	4.1	325	積土
1428	192-03	磨石		下包	花崗岩	1/2残存	7.3	9.2	5.7	452	
1429	221-02	磨石		下包	凝灰質砂岩	1/3残存	4.2	7.1	5.3	203	積土
1430	221-01	磨石		下包	砂岩	2/3残存	6.2	5.9	4.8	305	積土
1431	193-04	磨石	e3	下包	花崗岩	1/2残存	8.3	9.3	5.9	575	
1432	195-03	磨石	e2	下包	凝灰質砂岩	1/3残存	5.3	7.6	4.8	200	
1433	184-02	磨石	f2	下包	砂岩	1/2残存	5.7	6.8	4.5	240	
1435	222-02	磨石	f2	下包	砂岩	1/2残存	5.9	7.4	4.8	213	
1436	181-02	磨石	d4	下包	凝灰岩	不明	9.5	7.6	4.2	430	
1437	198-01	磨石	d4	下包	砂岩	完形	12.7	10.5	7.1	1410	
1438	221-03	磨石	e2	下包	砂岩	完形	13.0	6.8	7.2	938	積土
1439	204-01	磨石	e2	下包	花崗岩	完形	11.9	9.8	7.5	1153	
1440	215-01	磨石	e3	下包	凝灰質砂岩	完形	9.9	7.4	3.8	390	
1441	204-02	磨石	e7	下包	凝灰質砂岩	完形	10.4	13.3	5.7	1159	
1442	218-02	磨石	d4	下包	凝灰岩	完形	12.6	7.1	4.1	510	積土
1443	190-01	磨石	e3	下包	花崗岩	完形	9.7	7.5	5.5	630	
1444	184-01	磨石	d4	下包	黒レイ岩	完形	10.4	8.0	3.8	550	
1445	180-03	磨石	d4	下包	砂岩	完形	8.4	7.2	3.3	300	
1446	199-02	磨石	f3	下包	花崗岩	1/2残存	8.7	9.7	6.4	590	
1447	197-02	磨石	f3	下包	凝灰岩	4/5残存	10.9	9.9	4.8	665	
1448	198-02	磨石	e3	下包	砂岩	1/5残存	14.0	6.2	5.7	1210	
1449	199-01	磨石	f2	下包	凝灰岩	1/2残存	9.2	9.9	6.1	685	
1450	195-01	磨石	f2	下包	凝灰岩	2/3残存	10.8	7.8	4.3	400	
1451	190-02	磨石	e2	下包	砂岩	小片	12.3	10.3	4.2	430	
1452	182-02	磨石	f2	下包	凝灰岩	1/2残存	12.3	7.0	4.8	535	
1453	180-03	磨石	e6	下包	凝灰岩	2/5残存	10.2	4.8	3.9	260	
1454	183-02	磨石	d4	下包	花崗岩	2/5残存	10.4	4.4	5.0	310	
1455	193-01	磨石	e3	下包	凝灰岩	2/5残存	11.3	5.6	4.6	260	
1456	189-02	磨石	f3	下包	凝灰岩	2/5残存	8.1	8.9	4.1	330	
1457	182-04	磨石	b6	下包	砂岩	2/5残存	5.3	4.4	4.4	175	
1458	192-02	磨石	e2	下包	砂岩	2/3残存	5.7	5.0	3.3	110	
1459	343-02	石籠	e3	下包 No.229	ササカイト	完形	30.5	34.5	5.0	4.22	
1460	343-01	石籠	d4	下包	ササカイト	完形	30.0	41.5	5.0	5.62	
1461	345-03	石籠	e2	下包 ②	ササカイト	完形	31.0	12.5	4.0	1.16	
1462	348-03	甬器	e3	下包	チャート	石削欠	26.0	21.5	6.3	3.45	
1463	346-02	甬器	e3	下包 ②	ササカイト	完形	34.5	26.5	8.5	4.69	
1464	346-04	甬器	e4	下包 ③	チャート	完形?	35.0	30.0	6.0	8.04	左側縁ガタリ?
1465	346-05	甬器	d4	下包	ササカイト	完形	24.0	28.5	9.5	6.90	
1466	340-05	石籠	e2	下包 ②	ササカイト	甬部欠	25.5	11.5	7.0	1.29	

第41表 出土石製品観察表②

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
1467	340-05	石鏝	e2	下包 ②	サヌカイト	頭部欠	25.5	15.0	5.0	1.87	
1468	341-07	石鏝	e3	下包 ②	サヌカイト	欠形	30.0	14.5	10.0	4.30	表面に自然面を大きく残す。
1469	341-05	石鏝	e4	下包 ④	サヌカイト	欠形	20.0	13.5	7.0	1.24	表面片断ずつ互反の加工。
1470	341-06	石鏝	e2	下包 ③	サヌカイト	欠形	24.0	17.5	5.0	1.96	肩部先端からのフレンチ状の割縁有り。
1471	341-01	石鏝	f2	下包	サヌカイト	欠形	27.5	29.5	11.5	5.78	
1472	361-02	硯形石器	f4	下包 ②	サヌカイト	欠形	44.5	19.0	11.0	6.36	磨上。
1473	360-02	硯形石器	e3	下包 ②	サヌカイト	石半身欠	35.0	25.0	8.5	6.37	
1474	358-03	硯形石器	e2	下包 No.223	サヌカイト	欠形	16.5	22.5	5.0	1.49	石鏝断片の可能性あり。
1475	358-04	硯形石器	f2	下包 ②	サヌカイト	欠形	27.0	24.0	8.5	3.51	表面に自然面を残す。
1476	360-06	硯形石器	e2	下包 No.223	サヌカイト	石半身欠	30.5	28.5	11.0	8.48	表面に自然面を残す。
1477	361-01	硯形石器	e2	下包 No.230	四稜岩	割下半欠	91.0	86.0	52.0	500.00	表面に自然面を残す。
1478	353-05	磨製石斧	b6	下包	砂岩	欠形	83.0	48.0	31.0	169.00	表面に自然面を残す。
1479	352-02	磨製石斧	e2	下包	ホルンフェルス	欠形	162.0	44.0	33.0	351.00	割縁と磨打による調整有り。
1480	353-01	磨製石斧	e2	下包	砂岩	割下半欠	110.5	71.0	45.0	445.50	
1481	352-03	磨製石斧	e4	下包 ②	砂岩	割下半欠	70.0	41.0	20.0	85.40	扁平片状濃茶材の可能性あり。
1482	351-01	磨製石斧	e3	下包 No.125	凝灰岩	欠形	205.0	77.0	28.0	730	扁平片状濃茶材、木製品、 縁辺部に磨打による調整。
1483	354-04	石鏝	f3	下包 ②	チャート	欠形	42.5	44.5	13.0	24.27	
1484	354-02	石鏝	e3	下包 ②	チャート	欠形?	25.5	36.5	24.0	21.87	
1485	355-02	石鏝	e4	下包	サヌカイト	欠形	51.5	30.0	38.5	90.64	磨上。
1486	355-01	石鏝	e4	下包	チャート	欠形	67.5	98.0	4.9	386	
1487	218-01	砥石	e3	下包	緑色片岩	1/2残存	17.0	14.1	1.8	615	磨上。
1472-02	不明石製品	d3	SK105	流紋岩	欠形	8.4	6.5	3.5	255		
175-02	不明石製品	d3	SK105	砂岩	小片	4.2	8.8	5.0	230		
176-01	不明石製品	e3	SK121	砂岩	2/3残存	10.6	12.3	5.3	915		
177-01	不明石製品	f3	SK120	砂岩	欠形	11.2	6.0	3.4	340		
178-01	不明石製品	e3	SK121	砂岩	小片	6.8	9.1	5.6	380		
180-02	不明石製品	e2	下包	片麻岩	欠形	15.2	3.0	1.7	140		
180-04	不明石製品	e3	下包	四稜岩	2/3残存	10.5	5.7	5.4	605		
181-03	不明石製品	e2	下包	砂岩	3/4残存	8.1	6.8	2.4	185		
183-01	不明石製品	e2	下包	四稜岩	欠形	10.4	9.2	5.6	825		
183-03	不明石製品	e5	下包	砂岩	小片	10.8	4.9	2.3	120		
184-03	不明石製品	e4	下包	流紋岩	欠形	10.5	7.5	3.2	390		
185-02	不明石製品	e3	下包	砂岩	欠形	9.4	5.0	2.8	200		
188-01	不明石製品	e3	下包	花崗岩	欠形	14.6	10.9	4.7	1080		
189-04	不明石製品	e4	下包	花崗岩	欠形	8.6	6.0	3.3	220		
191-01	不明石製品	f2	下包	流紋岩	ほぼ定形	11.5	8.0	3.8	500		
194-01	不明石製品	e2	下包	砂岩	4/5残存	11.1	8.5	3.8	512		
194-02	不明石製品	e2	下包	砂岩	欠形	11.1	8.1	4.8	525		
202-01	不明石製品	e2	下包 No.1	花崗岩	4/5残存	24.3	18.6	16.1	10200		
203-02	磨石	e3	SK121 No.12	流紋岩	1/2残存	5.7	7.5	3.6	159	被熱。	
216-02	磨石	e4	SK14	真レイ岩	小片	7.4	4.4	3.9	125		
220-01	不明石製品	e4	下包	流紋岩	欠形	20.3	13.9	5.2	2000	磨上。	

第42表 出土石製品観察表③

番号	実測番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
222-01	不明石製品			下包	花崗岩	3/4残存	15.0	13.7	5.9	1910	埴土
223-01	不明石製品			下包	花崗岩	完整	17.9	15.4	6.3	2350	埴土
304-01	石鏡	d4	SH101	①～⑤あぜ	サヌカイト	左部欠	12.5	9.0	2.0	0.14	
311-03	石鏡	e4	SH101	③	サヌカイト	先端・左部欠	16.0	14.5	3.0	0.61	
314-02	石鏡	d3	SH101	②	サヌカイト	先端・右部欠	11.5	9.5	3.0	0.29	
314-05	石鏡	d3	SH101	②	サヌカイト	先端・右部欠	11.0	12.5	2.0	0.22	風化著しい。
317-01	石鏡	d4	SH101	③	サヌカイト	先端・両部欠	9.5	10.0	2.0	0.09	
317-05	石鏡	d4	SH101	④	サヌカイト	右部欠	18.0	10.5	2.5	0.16	
321-07	石鏡	d3	SH101	④	サヌカイト	先端・両部欠	19.5	10.5	2.5	0.25	
322-03	石鏡	d3	SH101	④	サヌカイト	先端欠	21.5	16.0	2.5	0.54	SH103調あぜ
322-08	石鏡	d4	SH101	④	サヌカイト	両部欠	18.0	10.5	3.0	0.39	SH106調あぜ
323-03	石鏡	d3	SH101	③	サヌカイト	両部欠	14.0	14.5	2.5	0.35	SH106調あぜ
326-03	石鏡	d4	SH101	②	黒曜石	先端部断片	7.5	6.5	2.5	0.05	
H001	石皿	e3	SK120	№28	四稜岩	1/8程度残存	112.5	63.5	84.0	525	
H002	磨石	e3	SK120	№7	凝灰岩	1/10程度残存	79.0	54.5	31.0	154.23	
H003	磨器	e3	SK120	№70	砂岩	1/10程度残存	75.5	49.0	17.5	100.83	
H004	磨石	e3	SK120	№29	凝灰質砂岩	1/10程度残存	55.0	47.5	41.0	98.45	
H005	RF	e3	SK120	①	凝灰質砂岩		73.5	46.5	10.0	44.42	
H006	RF	f3	SK120	④	サヌカイト		23.5	13.0	3.0	0.81	
H007	RF	f3	SK120	№50	サヌカイト		35.0	15.0	5.5	2.84	
H008	石皿	e3	SK121	№18	四稜岩	1/10程度残存	67.0	84.0	61.5	340	
H009	磨石	e3	SK121	№2	凝灰岩	1/10程度残存	68.0	57.5	54.5	285	
H010	磨器	e3	SK121	№3	四稜岩		97.5	57.0	36.0	245	
H011	磨石	e3	SK121	№3	砂岩	1/8程度残存	55.5	52.0	51.5	167.47	
H012	RF	f3	SK117	②	チャート		57.5	29.5	13.5	18.78	
H013	RF	e3	SK116	①	チャート		28.5	24.5	5.0	3.33	
H014	RF	f3	SK117		サヌカイト		37.5	23.5	7.0	4.84	
H015	UF	d2	SK119		サヌカイト		36.2	16.3	13.0	5.77	
H016	RF	d2	SK119		サヌカイト		27.5	15.0	6.5	2.71	
H017	石皿	e2	Ph101	⑤	砂岩	1/8程度残存	139.0	97.0	71.0	560	
H018	磨器	b2	SD48		粘板質砂岩		128.0	95.0	36.0	700	
H019	UF	e3	SD46		チャート		74.0	52.2	11.5	36.47	
H020	UF	e3	SD46		チャート		35.0	23.8	7.2	3.93	
H021	RF	e3	SD46		サヌカイト		30.0	17.5	10.3	5.30	
H022	UF	e3	SD46		サヌカイト		25.7	21.5	3.0	1.86	
H023	UF	e2	SD46		サヌカイト		36.0	24.5	7.3	3.17	
H024	RF	e2	SD46		サヌカイト		36.3	13.8	5.5	3.11	
H025	RF	e3	SD46		チャート		23.7	25.0	8.0	3.22	
H026	UF	e3	UF	下包	サヌカイト		30.6	24.3	5.1	3.26	
H027	UF	d3	下包	下包	サヌカイト		29.3	28.0	11.0	7.51	

第43表 出土石製品観察表④

番号	実測番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
H028	H028	石鏝	d3	包	サヌカイト	小片	34.7	22.8	6.6	4.93	未製品。
H029	H029	RF	e2	包	チャート	小片	42.5	21.0	9.2	7.55	
H030	H030	分選石材	b5	包	チャート		51.0	25.5	20.0	39.51	
H031	H031	RF	b5	黒色土	サヌカイト	小片	19.4	20.0	3.8	1.78	
H032	H032	UF	b4	黒色土 トレンチ	サヌカイト	小片	30.0	21.5	8.0	4.38	
H033	H033	UF	f3	下包	サヌカイト	小片	30.4	15.8	3.8	2.08	
H034	H034	UF	f3	下包	サヌカイト	小片	35.0	15.0	3.8	1.49	
H035	H035	石鏝	b3	黒色土	サヌカイト	小片	14.2	6.5	3.0	0.23	
H036	H036	石鏝	b3	黒色土	サヌカイト	小片	9.0	6.5	1.8	0.13	
H037	H037	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	小片	13.8	5.7	1.8	0.13	
H038	H038	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	小片	10.7	7.4	1.1	0.10	
H039	H039	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	小片	13.0	5.0	1.8	0.13	
H040	H040	石鏝	c3	黒色土	サヌカイト	小片	9.0	8.2	1.7	0.15	
H041	H041	石鏝	d4	黒色土	サヌカイト	小片	10.0	7.8	2.0	0.18	
H042	H042	石鏝	d4	黒色土	サヌカイト	小片	8.5	5.8	2.1	0.12	
H043	H043	石鏝	d4	黒色土	サヌカイト	小片	13.2	6.2	2.6	0.20	
H044	H044	巖石	d4	SH102 礫	凝灰質砂岩	1/3残存	73.3	78.0	41.2	345	
H045	H045	UF	d4	SH102 ②	サヌカイト		30.5	19.5	5.1	2.70	
H046	H046	UF	d4	SH102 ②	サヌカイト		34.0	21.8	5.7	2.96	
H047	H047	RF	d4	SH102 ②	サヌカイト		30.8	24.3	10.4	9.79	
H048	H048	UF	d3	SK122	チャート		20.2	16.3	4.3	1.56	
H049	H049	UF	d6	SD47 トレンチ	チャート		30.1	22.0	4.3	2.18	
H050	H050	分選石材	b4	黒色土 トレンチ	チャート		30.4	11.5	2.9	0.82	
H051	H051	UF	c2	SD48 最下層	チャート		30.0	28.0	15.2	12.43	
H052	H052	UF	c2	SD48 最下層	チャート		32.6	17.0	8.1	4.93	
H053	H053	UF	e2	SK115 ②	サヌカイト		22.5	17.0	4.0	1.65	
H054	H054	UF	e2	SK115 ④	サヌカイト		48.2	22.1	7.4	8.36	
H055	H055	UF	e2	SK115 ④	サヌカイト		31.5	11.1	3.4	0.99	
H056	H056	石鏝	e2	SK113 ②	サヌカイト	小片	15.5	9.1	2.8	0.43	
H057	H057	UF	e2	SK113 ③	サヌカイト		27.0	22.2	10.1	5.06	
H058	H058	石鏝	e2	SK113 ③	サヌカイト		22.1	18.0	3.1	1.12	未製品。
H059	H059	磨石	e2	SK112 ②	凝灰質砂岩	1/1000程度残存	68.2	62.8	19.8	109.85	
H060	H060	磨石	e2	SK112 ②	砂岩	1/1000程度残存	96.5	72.5	43.0	500	
H061	H061	磨石	f2	SK115 ①	凝灰岩	1/1000程度残存	74.5	33.1	26.4	77.62	
H062	H062	磨石	e2	SK113 ②	凝灰岩	1/1000程度残存	77.2	36.5	37.0	115.22	
H063	H063	磨製石斧	e5	SK110	緑色片岩	3/4残存	113.8	48.0	18.5	189.15	
H064	H064	磨石	e3	SK113 ③	閃緑岩	1/800程度残存	113.1	61.9	35.2	306	
H066	H066	石皿	d3	SH101 ②No.103	花崗岩	1/1000程度残存	145.0	123.0	84.0	1400	
H067	H067	磨石	d3	SH101 ①	砂岩	1/1000程度残存	35.2	29.5	13.1	22.45	
H068	H068	石皿	d3	SH101 ③	凝灰質砂岩	1/1000程度残存	85.5	77.3	42.5	530	
H069	H069	磨石	d3	SH101 ②	凝灰岩	1/1000程度残存	91.3	49.8	27.0	137.75	
H072	H072	巖石	d3	SK121 No.27	砂岩	1/2残存	85.0	46.0	25.0	157.75	
H073	H073	石皿	d3	SH101 ②No.273	凝灰岩	1/800程度残存	126.0	110.0	57.5	830	

第44表 出土石製品観察表⑤

番号	資源番号	器種	地区	遺構・部位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
H074	石皿	d3	SH101 ②No.81	緑色片岩	1/100程度残存	177.0	68.1	37.3	306		
H075	石杖	e4	SH101 ③No.146	チャート		81.0	65.0	42.7	300		
H076	磨石	e3	SH101 ③No.137	砂岩	1/100程度残存	69.0	38.3	28.0	104.76		
H078	石皿	e6	SN108	緑色片岩	1/100程度残存	138.0	118.0	30.3	840		
H079	石皿	e5	SN108	湖灰質砂岩	1/100程度残存	85.3	46.5	40.0	211.25		
H080	磨石	d5	SN103	湖灰質砂岩	1/100程度残存	39.2	41.0	46.9	182.74		
H081	磨石	e6	SN108	湖灰質砂岩	小片	55.0	39.4	22.0	49.32		
H084	UF	e6	SN108	サメカイト		47.1	29.0	10.2	12.71		
H085	台石	e3	下包 No.001	片麻岩	ほぼ完全	235.0	140.0	95.0	5200		
H086	砥石	e3	下包 No.02	湖灰質砂岩	ほぼ完全	200.0	90.0	44.0	1500		
H087	磨石	e7	下包	花崗岩	1/3残存	90.0	55.0	52.0	450		
H089	石杖	e2	下包	チャート		135.0	115.0	34.0	570		
H090	砥石	e2	下包	砂岩	完全	95.0	55.0	29.0	129.88		
H091	砥石	e2	下包	砂岩	1/2残存	56.5	43.4	32.6	109.29		
H092	石皿	b6	下包 No.9	ホルンフェルス	1/100程度残存	119.6	43.3	22.0	177.65		
H093	砥石	d3	下包	花崗岩	完全	140.0	90.0	64.0	1370		
H094	磨石	e2	下包 No.224	チャート		130.0	75.0	39.6	550		
H095	磨器	e2	下包	砂岩	完全	85.3	76.3	60.8	540		鏽土
H096	石皿	e2	下包	砂岩	1/100程度残存	95.0	75.0	37.2	338		
H097	磨石	d4	下包 No.298	灰山岩	1/100程度残存	81.0	56.0	28.7	165.22		
H098	磨石	d4	下包 No.77	湖灰岩	1/100程度残存	75.0	59.0	28.8	108.65		
H099	石杖	e3	下包 ③	湖灰岩	1/100程度残存	78.0	52.4	41.4	210.88		
H100	磨石	d4	下包 ③	チャート		57.0	52.0	30.5	123.84		
H101	磨石	e3	下包 ③	湖灰岩	1/100程度残存	96.3	47.8	31.3	163.32		
H106	台石	e7	下包 No.148	砂岩	完全	85.9	49.4	28.3	99.94		
H107	磨器	e3	下包	片麻岩		143.0	95.0	68.0	1600		
H108	石杖	f3	下包 No.269	チャート		170.0	68.0	23.0	410		
H109	磨器	d1	下包	砂岩	1/2残存	135.0	90.0	61.2	910		
H110	磨石	d4	地点 ③	湖灰岩		110.0	68.0	37.0	475		
H111	砥石	e3	下包 ③	砂岩		94.0	45.0	39.0	26.65		
H112	磨器	e7	下包	湖灰岩	1/100程度残存	100.0	64.0	28.8	155.74		
H113	磨器	e3	下包 ③	湖灰質砂岩	4/5残存	112.0	58.0	16.5	156.15		
H114	石皿	e3	下包 No.128	ホルンフェルス		76.0	34.8	12.3	53.37		
H115	磨石	e3	下包 ③	湖灰岩	1/100程度残存	72.0	67.3	25.3	207.50		
H117	UF	e6	下包	サメカイト		36.2	34.8	8.8	8.30		
H118	UF	b6	下包 ④	チャート		36.5	21.3	10.9	8.87		
H119	UF	d5	下包	サメカイト		25.0	30.3	10.5	26.43		
H120	RF	e7	下包	サメカイト		41.5	23.5	7.1	8.37		
H121	UF	e7	下包	チャート		35.0	22.9	7.2	6.41		
H122	UF	b2	下包	サメカイト		40.2	32.1	7.2	9.19		
H123	UF	b2	下包	サメカイト		66.4	56.6	13.0	49.32		
H125	RF	d2	下包	チャート		26.1	16.8	4.2	2.18		

第45表 出土石製品観察表⑤

番号	資源番号	器種	地区	遺構・副位	石材	残存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
H126	RF		F2	下包	サヌカイト		40.2	19.2	10.0	9.45	
H127	RF		F4	下包 ②	チャート		35.1	29.3	6.2	7.26	
H155	UF		F4	下包 ②	チャート		46.7	29.5	9.8	12.51	
H157	RF		F6	下包 ②	サヌカイト		36.3	24.2	8.3	6.35	
H158	石盤		F3	下包 ②	チャート		37.3	33.6	11.2	16.50	未製品。
H159	石材		F3	SH101	チャート		102.7	64.6	52.5	396	
H160	石材		F3	SH101	チャート	完形	59.6	30.1	14.5	32.55	
H141	円盤		F4	SH101 ①	細灰質砂岩		63.1	56.7	10.4	64.45	
H142	RF		F4	SH101 ①	チャート		22.2	19.5	7.4	4.29	
H143	RF		F4	SH101 ①	チャート		88.4	52.0	15.6	75.69	
H144	石盤		F3	SH101 ①	サヌカイト		29.3	18.5	3.1	2.96	未製品。
H145	UF		F4	SH101 ③	チャート		40.6	23.3	9.7	12.49	
H146	UF		F4	SH101 ③	チャート		37.1	26.7	8.2	7.50	
H147	UF		F3	SH101 ①~③みぜ	チャート		26.9	17.4	3.7	2.62	
H148	石盤		F3	SH101 ③	サヌカイト		23.6	20.8	6.0	2.60	未製品。
H169	UF		F4	SH101 ④	サヌカイト		30.4	26.3	4.8	3.60	
H150	UF		F4	SH101 ④	サヌカイト		32.7	19.5	6.0	3.61	
H151	UF		F4	SH101 ④	チャート		37.9	27.4	10.4	8.86	
H152	RF		F4	SH101 ③	チャート		25.9	13.4	7.3	2.85	
H153	UF		F3	SH101 ①	チャート		46.1	28.3	8.7	11.77	
H154	UF		F4	SH101 Pit付穴	サヌカイト		46.1	22.6	10.1	8.20	
H155	UF		F3	SH101 ②	チャート		49.8	35.4	10.7	16.70	
H156	UF		F3	SH101 ①	チャート		21.9	20.7	6.4	2.70	
H157	UF		F3	SH101 No.415	チャート		36.5	27.5	9.2	12.32	
H158	RF		F3	SH101 ①~③みぜ	サヌカイト		35.2	18.8	5.6	3.55	
H159	RF		F3	SH101 ①	チャート		31.1	16.8	8.5	4.35	
H160	RF		F3	SH101 ①No.23	チャート		39.0	34.1	7.4	13.05	
H161	RF		F4	SH101 ②~③みぜ	サヌカイト		17.5	11.0	4.3	1.05	
H162	UF		F3	SH101 ②	サヌカイト		38.5	15.5	4.5	3.49	
H163	石盤		F3	SH101 ②	サヌカイト		26.6	17.0	8.4	3.59	未製品。
H164	RF		F3	SH101 ②	チャート		36.3	21.6	7.8	5.13	
H165	UF		F3	SH101 ①	チャート		47.7	27.7	7.6	10.66	
H166	RF		F3	SH101 ①	サヌカイト		32.7	21.4	8.2	5.51	
H167	RF		F3	SH101 ①	チャート		32.6	26.2	7.8	10.19	
H168	RF		F3	SH101 ②No.65	サヌカイト		23.6	20.1	4.7	1.58	
H169	UF		F4	SH101 ④	チャート		34.4	29.2	8.6	5.11	
H170	RF		F3	SH101 ①	緑色片岩		66.1	64.7	7.5	58.13	
H171	RF		F3	SH101 ①	緑色片岩		94.6	64.8	8.0	39.78	
H172	RF		F3	SH101 ①	緑色片岩		35.6	45.7	10.0	33.35	
H173	円盤		F4	SH101 ④	ホルンフェルス		99.8	45.8	32.0	166.83	
H174	RF		F3	SH101 ②No.303	片麻岩		94.1	55.8	17.2	102.33	

第46表 出土石製品観察表①

V 自然科学分析

平成15年度より彦崎貝塚の発掘調査が行われている。調査により出土した土器群のうち、第四章において報告した210の土器と文様構成が酷似したものが出土していることが判明した。岡山市の協力要請を受けて土器を供出した。彦崎貝塚出土土器群については、岡山市を含む瀬戸内地域の標識土器である彦崎ZⅠ式及び縄文施文がなされたものや無文の土器が出土している。これらの中には、文様や形態的特徴から他の地域から搬入されたと想定できる土器群がみられる。そこで、胎土分析により彦崎周辺（在地産）で生産された土器であるのかどうかを、搬入された土器（彦崎貝塚及び山添遺跡）との胎土との比較分析を行った。なお、分析については岡山理科大学白石純氏によるものである。以下の文章・図・表については、白石氏の成果を転載し加筆したものである。

蛍光X線分析にあたり、便宜上土器群を6つに分類した。以下のとおりである。なお、彦崎貝塚の出土資料についてはA類からE類に属する。

A類：彦崎ZⅠ式在地産（4層）と考えられるもの。

B類：彦崎ZⅠ式非在地産（4層）と考えられるもの。

C類：彦崎ZⅠ式在地産（10層）と考えられるもの。

D類：彦崎ZⅠ式非在地産（10層）と考えられるもの。

E類：無文・縄文の非在地産（4層）と考えられるもの。

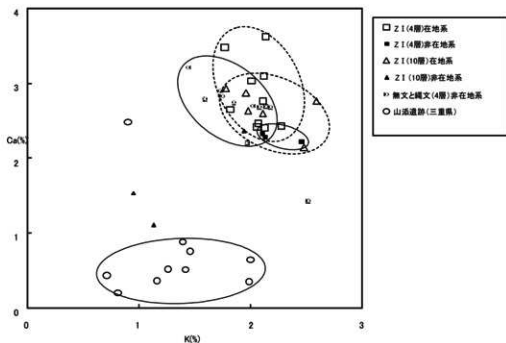
F類：山添遺跡出土土器群。

測定した成分は、Si、Ti、Al、Fe、Mn、Mg、Ca、Na、K、P、Rb、Sr、Zrの13元素である。このうちSi、Ti、Al、Fe、Ca、Kの6元素については顕著な差がみられた。第81図では、AからE類はCa量2～3%で、ほぼ1つにまとまり、F類はCa量が3%以下でほぼまとまるようである。第82図では、AからD類がほぼ1つにまとまる傾向がみられる。E類とF類については各々でまとまるようである。第83図では、AからE類とF類の2つに大きく分かれる。そして、AからE類はそれぞれでまとまった分布を示している。

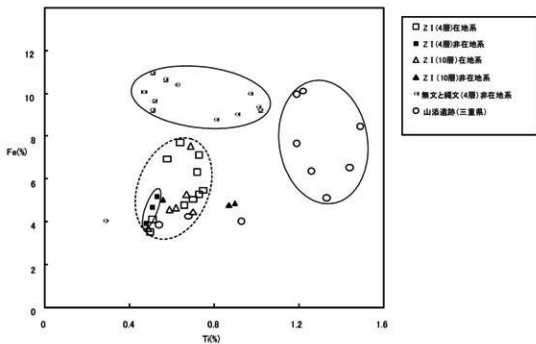
実体顕微鏡により土器の表面を倍率10～30倍で観

資料番号	遺跡名	時期	出土地点	Si	Ti	Al	Fe	Mn	Mg	Ca	Na	K	P	Pb	Sr	Zr
37	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SH101	50.91	1.44	25.36	6.52	0.08	2.53	0.88	3.40	1.39	6.95	131	218	564
38	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SH102	55.39	0.54	25.10	3.85	0.02	2.58	0.35	4.34	1.99	5.38	200	148	307
39	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK103	57.88	1.19	23.12	7.66	0.07	2.10	0.43	2.02	0.71	4.59	100	140	347
40	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK105	55.45	1.33	27.11	5.12	0.05	2.32	0.52	2.78	1.26	3.69	177	145	259
41	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK107	60.31	0.68	20.86	4.25	0.05	2.21	0.64	3.68	2.00	4.84	232	138	281
42	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK108	50.33	1.49	27.11	8.45	0.10	2.44	0.75	2.60	1.46	4.73	202	187	596
43	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK113	60.84	0.93	21.75	4.03	0.04	2.34	0.36	2.67	1.16	5.69	143	105	326
44	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK115	57.68	1.19	18.60	9.95	0.14	2.23	2.48	2.72	0.90	3.87	99	195	324
45	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK116	55.24	1.22	25.50	10.11	0.11	2.06	0.20	2.41	0.81	2.22	101	45	316
46	山添遺跡（4次）	北白川下層Ⅱb～c	SK120	53.48	1.26	25.37	6.37	0.07	2.23	0.51	2.74	1.42	6.27	145	167	382

第47表 胎土分析結果一覧



第81図 彦崎貝塚出土土器の在産地と搬入品の比較 (K-Ca)



第82図 彦崎貝塚出土土器の在産地と搬入品の比較 (Ti-Fe)

察し、胎土を5つに分類した。

1類：3mm以下の石英（非常に多い）と長石（多い）を含み、1mm以下の黒雲母と火山ガラスを少し含んでいる。まれに、花崗岩の岩片を含むもの。

2類：3mm以下の石英（非常に多い）と長石（多い）を含み、3mm以下の片岩を少し含んでいるもの。

3類：4mm以下の石英（非常に多い）と長石（多い）を含み、1mm以下の黒雲母（少し）と4mm以下の赤色物を多く含んでいるもの。

4類：3mm以下の石英と0.5mm以下の黒雲母を多く含んでいるもの。

5類：4mm以下の石英と1mm以下の黒雲母、白雲母を少し含んでいるもの。

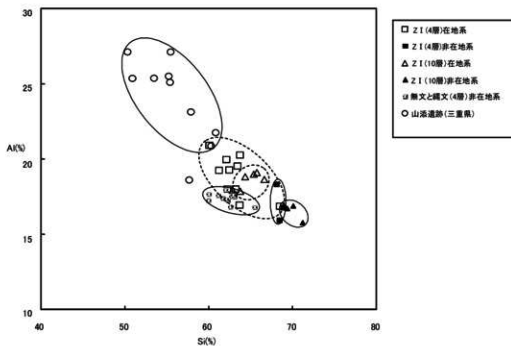
この分類結果より、1類には先述のA・B・C類が、2類にはD類、3類にはE類が、4類と5類に

はF類が各々属することが判明した。

この2つの分析を踏まえ以下のことが判明した。

1類には花崗岩岩片が含まれ、彦崎貝塚の南側基盤層が花崗岩で形成されていることから、A・C類は貝塚周辺で製作されていた可能性がある。なお、B類についてもA・C類と胎土が類似しているため、貝塚周辺で製作されていた可能性がある。D・E類はA・C類と胎土が違って、各々の地域からの搬入品の可能性がある。特に、D類は片岩を含有し、胎土の違いが明確である。このことから、D・E類は別の生産地から搬入されたものと推定できよう。また、文様や形態などの類似から、F類の分析を行い、非在地系土器（B・D・E類）と比較したがいずれの胎土とも違っていったことが判明した。この結果から、山添遺跡から彦崎貝塚へ（逆の場合もあり）の土器搬入の可能性は低いものと思われる。

（小濱 学）



第83図 彦崎貝塚出土土器の在地産と搬入品の比較 (Si-Al)

VI 結 語

1 軒丸瓦の特徴

山添遺跡第4次調査では、野中垣内廃寺（大雷寺）の軒丸瓦と同文様のものが出土している。また、山添遺跡第3次調査でも出土している。

野中垣内廃寺は、松阪市柳田町の柳田川左岸に所在する古代寺院で、山添遺跡の下流約2kmに位置する。古瓦の出土により寺院と推定されているもので、発掘調査は行われていない。かつて砂利採取の際には、トラック1台分の瓦が出土したらしい。寺域は明確でないが、柳田神社あたりであろうか。出土瓦は4型式に分類されており、山添遺跡出土のものは、ともに1類にあたる⁸。

ここでは、これらの山添遺跡第3・4次調査出土瓦と野中垣内廃寺出土瓦とを比較してみよう⁹（第84図）。まず瓦当文様であるが、外区に見られる複線鋸歯文の施文手法に注目してみたい。複線鋸歯文は左下がり・右下がりを交互に施すことで構成されているが、これらには切り合いが認められる。山添遺跡第4次調査出土瓦（第84図1）では、A点を境に右まわりへと左まわりへが施されている。野中垣内廃寺出土瓦（第84図3）ではB点を境に同様だが、C点付近では切り合いの順に乱れを確認できる。A・B点は共に複弁の右側花弁の位置にある。したがってこの2点は、同范の可能性がある。なお、山添遺跡第3次調査出土瓦（第84図2）では、右まわりからと左まわりからと施されてくる複線鋸歯文がD点を境に変わるものであるが、C点のように乱れの点である可能性がある⁸。

次に、瓦と瓦当との接合方法であるが、野中垣内廃寺出土瓦は、瓦当の裏側に丸瓦をはめこみ、外縁部の裏側に粘土を追加成形している。野中垣内廃寺出土のものは、いずれもこの技法によるもので、瓦当文様の異なるものにおいても、この技法により接合・成形している（第84図3～5）。

一方、山添遺跡第4次調査出土瓦は、外縁部を形成する部分（丸瓦？）に瓦当をはめこむものである。ただし、瓦当裏面には刻み目が見られるため、丸瓦

が外れ、追加した粘土が残っている可能性があるが、瓦当をはめこむ形式のものは野中垣内廃寺には見られない。参考であるが、近隣の丹生寺廃寺（松阪市丹生寺町）出土瓦（第84図6）では、瓦当の接合方法は野中垣内廃寺のものに共通している⁸。

このように見てくると、山添遺跡第4次調査出土瓦と野中垣内廃寺出土瓦とは、瓦当文様こそ同じであれ、その製作技法はまったく異なるものである。なお、山添遺跡第3次調査出土瓦は瓦当下部のみの残存のため、瓦との接合方法は不明であった。このような技法は非常に珍しく、他にない。使用部位の差かもしれないが、このような問題点が存在することは指摘しておきたい。

2 古墳時代の集落の状況

山添遺跡第4次調査では、明確な古墳時代の遺構は見つかっていないが、5世紀代を中心とする比較的良好的な遺物が出土している。これらの遺物は、摩滅はあまりなく、スズ等の残りも良いため、調査区周辺に古墳時代の集落跡が存在するものと思われる。山添遺跡第3次調査では古墳時代の遺構が、調査区付近には伝車塚跡もあり、地形の傾斜等を考慮に入れると、第4次調査区の西方あたりに集落跡を想定できよう。

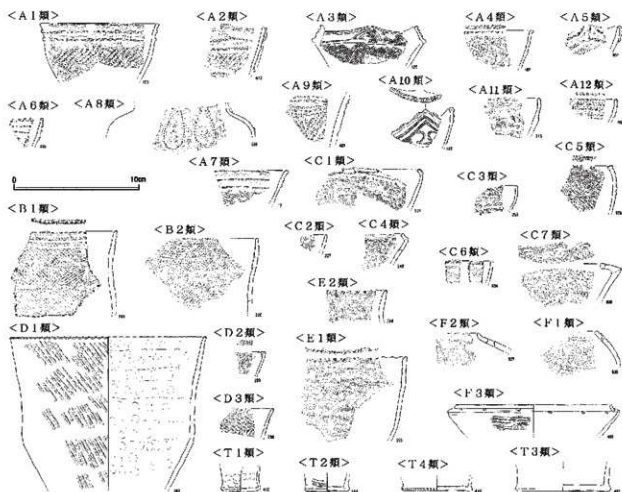
（小林俊之）

3 縄文時代前期集落の傾向と特長

縄文時代については、草創期・早期・前期・中期・後期・晩期と時期区分することが多い¹⁰。ここではその区分に沿うことにしたい。山添遺跡第4次調査の中心となる時期は、縄文時代前期である。この時期は、前半期が後水期のなかでも最温暖な時期にあたり、海進がピークとなる。日本列島各地の沿岸では、魚貝類の生息に適した漁場が数多く形成され、活発な漁撈活動が展開されていたと思われる。また、温暖な気候条件により、植物性食料にも恵まれてい



1 山添遺跡第4次 2 山添遺跡第3次 3~5 野中垣内廃寺 6 丹生寺廃寺
第84図 山添遺跡と野中垣内廃寺の出土瓦 (1:8)



第85図 器種分類 (案) (1:6)



第86図 縄文時代前期土器型式の併行関係模式図 (縮尺不同)

たであろう。これらのことから、安定した食料資源を背景に、前期以降においては集落の定住性の度合いが高くなる条件が整ったといえる。

次に、三重県における縄文時代前期の集落について考えてみたい。各時期において、堅穴住居跡を検出した遺跡が確認されている。これらは、規模の大小はあるが集落を形成していた可能性があるものとして、稿を進めたいと思う。県下では、延べ49遺跡にのぼる。先に述べた時期区分で概観すると、草創期は1遺跡(2.0%)、早期は7遺跡(14.3%)、前期は3遺跡(6.1%)、中期は17遺跡(34.7%)、後期は16遺跡(32.7%)、晩期は5遺跡(10.2%)である。前期については、前後の時期である早期や中期と比較して多くはない傾向が認められる(第87図参照)。三重県の近隣地域、近畿や東海地方においても同様の傾向であることがこれまでの研究成果から判明している。

4 縄文時代前期土器群の分析

(1) 研究小史

当該期の土器型式については、北白川下層式等があげられる。北白川下層式については、1934年に調査された京都府北白川小倉町遺跡での小林行雄の試論や山内清男、鎌木義昌の研究により土器編年が構築された。その後、福井県鳥浜貝塚の調査成果から岡田茂弘が型式の細分を試み、網谷克彦が型式の内容整理を行っている⁷⁾。山添遺跡(第4次調査)の出土土器群の中心時期である前期中半期の土器型式については、羽鳥下層Ⅱ式から、北白川下層Ⅰa式、北白川下層Ⅰb式、北白川下層Ⅱa式、北白川下層Ⅱb式、北白川下層Ⅱc式、北白川下層Ⅲ式、大蔵山式という変遷が示されている。この土器群の広がりとしては、近畿地方を中心に九州地方を除く一帯に展開しているものである⁸⁾。また、諸磯式についても、東日本の広範囲に分布する状況を呈している。特に、緑孔土器と称される土器群については、当地方への流入が認められる。

(2) 出土土器群の分類

出土土器群の分類について述べたいと思う。器種

については、深鉢、鉢、浅鉢とした。深鉢等の定義は、以下のように考えている。

深鉢…口径と器高の数値が、器高の方が大きくなるもの。

鉢…口径と器高の数値が、両方ともほぼ同数値前後となるもの。

浅鉢…口径と器高の数値が、口径の方が大きくなるもの。

上記のような概念により、当遺跡の出土土器群を観察すると、器種については深鉢及び浅鉢を確認することができた。

土器の分類については、文様構成等を踏まえ、深鉢をA・B・C・D・E類、浅鉢をF類とした。深鉢A類は12に、深鉢B類は2に、深鉢C類は6に、深鉢D類は3に、深鉢E類は2に、浅鉢F類は4に、底部は4に細分した。分類(案)の詳細については、以下のとおりである(第85図参照)。

[深鉢A類]

A1類…口径部に複数の横位隆帯による文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。口径部の形態としては、内湾が強いもの、内湾が弱いもの、直線的なものもみられ、隆帯上には縄文、刻み、施文がみられないものがある。これらの要素も踏まえて分類も可能であるが、ここでは一括して考えている。A2類以下も同様である。

A2類…口径部に複数の横位隆帯による文様帯とそれを区画する縦位の隆帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。

A3類…大きく内折する口径部に複数の隆帯による文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。

A4類…口径部に1本の横位隆帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。

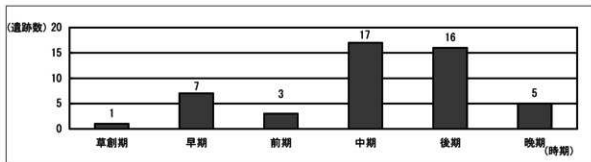
A5類…口径部に複数の横位隆帯による複雑な文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。

A6類…口径部に細い隆帯による複雑な文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。

A7類…口径部に細い横位隆帯による文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。

A8類…口径部に複数の隆帯と隆帯の上から隆帯と同幅の半截竹管による文様帯が施されたもの。

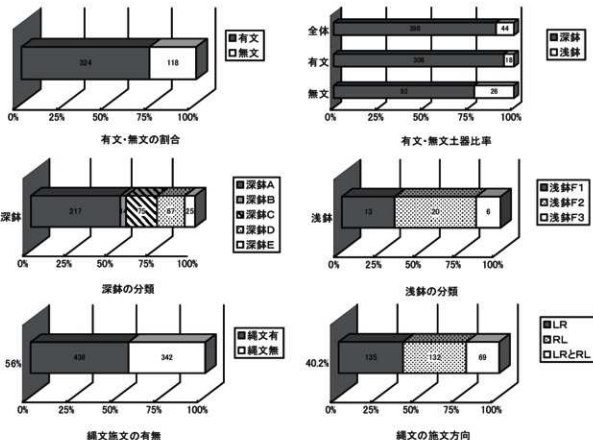
A9類…多条の刻みが施された隆帯による文様帯



第87図 三重県における縄文集落遺跡数の変遷

瀬戸内・山陰	近畿	東海西部	関東
羽鳥下層Ⅱ	(鳥浜)	上ノ山Ⅱ	花積下層
羽鳥下層Ⅲ	北白川下層Ⅰa	石塚下層	關山Ⅰ
磯ノ森(磯ノ森下層)	北白川下層Ⅰb	清水ノ上Ⅰ	關山Ⅱ
	北白川下層Ⅱa	清水ノ上Ⅱ	黒浜(古)
	北白川下層Ⅱb	上広賢	黒浜(新)
	北白川下層Ⅱc	(鉢ノ木Ⅰ)	踏磯a
彦崎ⅡⅠ	北白川下層Ⅲ	(鉢ノ木Ⅱa)	踏磯b
彦崎ⅡⅡ	大蔵山	(鉢ノ木Ⅱb)	
田井		小御所	
		清水ノ上Ⅲ	
		大麦田Ⅰ	
		大麦田Ⅱ	
		大麦田Ⅲa・b	踏磯c
		(+)	十三菩提

第88図 縄文時代前期土器の併行関係



第89図 縄文前期土器群の傾向

がみられるもの。

A10類…多条の刻みが施され隆帯による複雑な文様帯がみられるもの。

A11類…口縁部に複数の半截竹管による刺突列が横位に施されたもの。

A12類…口縁部等に複数の刻みが施された多条隆帯がみられるもの。

[深鉢B類]

B1類…口縁部に複数の横位沈線による文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。口縁部の形態としては、内湾が強いもの、内湾が弱いもの、直線的なものがみられ、隆帯上には縄文、刻み、施文がみられないものがある。これらの要素も踏まえて分類も可能であるが、ここでは一括して考えている。B2類も同様である。

B2類…口縁部に複数の横位沈線による文様帯がみられ、その下に施文がみられないもの。

[深鉢C類]

C1類…口縁部に隆帯及び半截竹管による文様帯がみられ、その下に縄文が施されたもの。口縁部の形態としては、内湾が強いもの、内湾が弱いもの、直線的なものがみられ、隆帯上には縄文、刻み、施文がみられないものが認められる。これらの要素も踏まえた細分も可能であるが、ここでは一括することとした。C2類以下も同様である。

C2類…口縁部に隆帯及び半截竹管による文様帯がみられ、その下には施文がなされないと考えられるもの。

C3類…口縁部等に半截竹管と縄文の文様が施されたもの。

C4類…口縁部等に半截竹管による直線と弧状の文様帯がみられるもの。

C5類…口縁部等に半截竹管による幾何学的な文様帯が施されたもの。

C6類…口縁部等に半截竹管による連続する刺突文が施されたもの。

C7類…口縁部が大きく内折し、半截竹管による複雑な文様帯が施されるもの。

[深鉢D類]

D1類…口縁端部に刺突あるいは刻みがみられ、縄文が器面全体に施されたもの。口縁部の形態と

しては、内湾が強いもの、内湾が弱いもの、直線的なものがみられる。これらの要素も踏まえて分類も可能であるが、ここでは一括して考えている。D2類以下も同様である。

D2類…口縁端部に縄文がみられ、縄文が器面全体に施されたもの。

D3類…縄文が器面全体に施されたもの。

[深鉢E類]

E1類…口縁端部に刺突あるいは刻みがみられ、器面に施文が施されないもの。口縁部の形態としては、内湾が強いもの、内湾が弱いもの、直線的なものがみられる。これらの要素も踏まえて分類も可能であるが、ここでは一括して考えている。

E2類も同様である。

E2類…器面に施文が施されないもの。

[浅鉢F類]

F1類…口縁部が屈曲し、体部が大きく内湾する緑孔土器で、円孔以外の加飾がみられないもの。

F2類…体部が大きく内湾する緑孔土器で、隆帯あるいは半截竹管による幾何学的な文様帯が施されるもの。

F3類…口縁部が屈曲し、体部が大きく内折する緑孔土器で、円孔以外の加飾がみられないもの。

[底部]

T1類…底部から直線的に上方に立ち上がるもの。

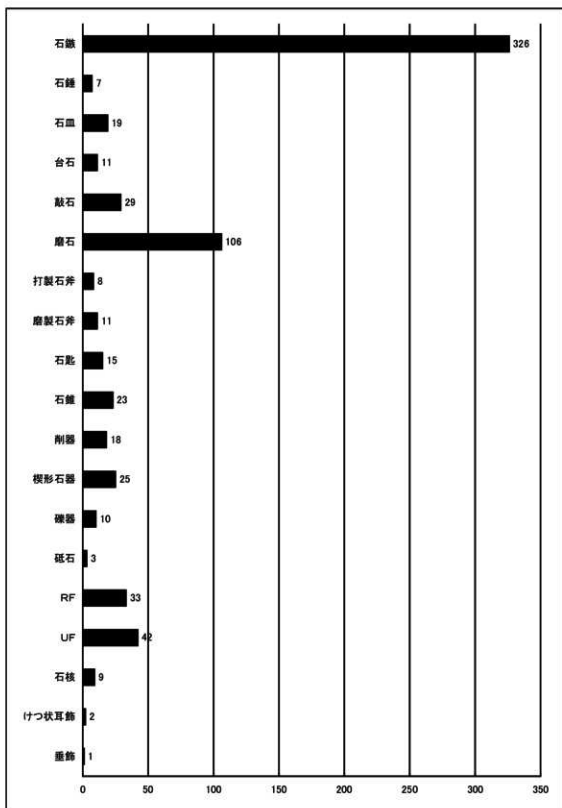
T2類…底部から直線的に上方に立ち上がり、外面に若干の加飾がみられるもの。

T3類…底部接地面が外に張り出し、上方に立ち上がるもの。

T4類…底部接地面が外に張り出し、上方に立ち上がるもの。

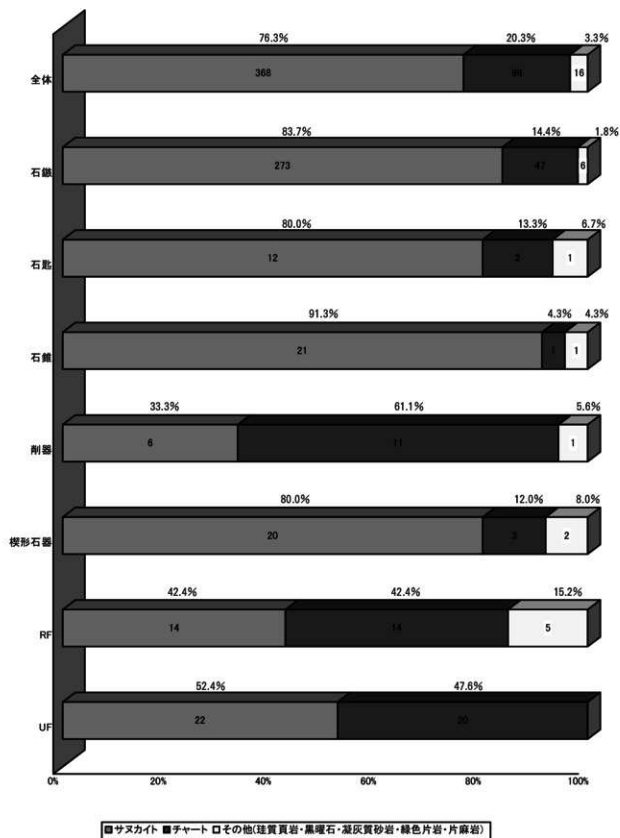
T5類…底部接地面が外に張り出し、平底ではないもの。

A～E類は深鉢、F類は浅鉢である。A～C・F類については有文土器、D・E類は無文系土器と考えている。土器型式への対応としては、A1～A7類、B1・2類、C1～C6類は北白川下層Ⅱ式に、A8類は北白川下層Ⅲ式に、A9類は十三菩提式に、A10類、C7・F1～3類は諸磯B式に、A11類は彦崎Z1式に、A12類は大蔵山式に併行するものと考えられる。

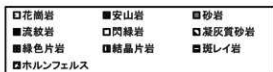
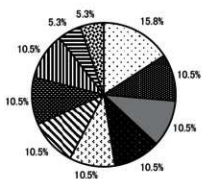


石鏃	石鏃	石皿	台石	敲石	磨石	打製石斧	磨製石斧	石匙	石鏟	削器	楔形石器	礫器	砥石	RF	UF	石核	けつ状	垂飾
326	7	19	11	29	106	8	11	15	23	18	25	10	3	33	42	9	2	1

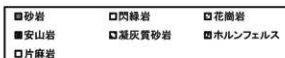
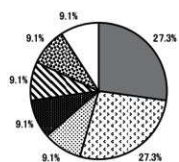
第90図 器種別出土数量



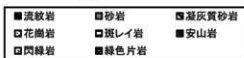
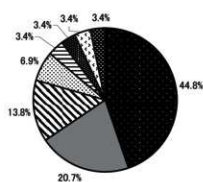
第91図 剥片石器の器種別使用石材



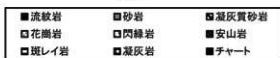
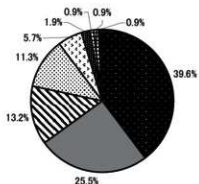
石皿の使用石材



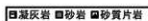
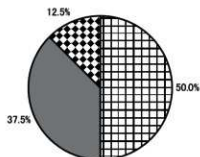
台石の使用石材



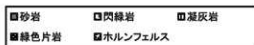
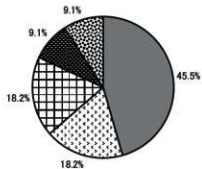
台石の使用石材



台石の使用石材

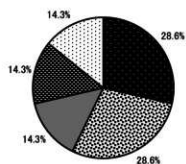


台石の使用石材

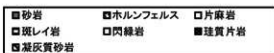
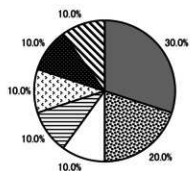


台石の使用石材

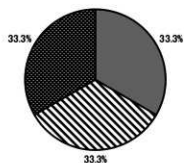
第92図 礫石器の器種別使用石材①



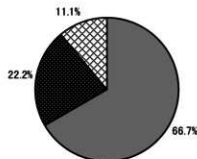
石鍾の使用石材



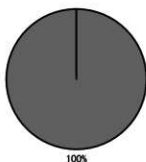
石鐘の使用石材



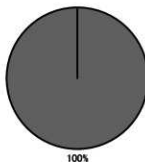
石鍾の使用石材



石鍾の使用石材



けつ状耳飾の使用石材



垂飾の使用石材

第93図 礫石の器種別使用石材②

(3) 出土土器群の統計結果と分析

前項で分類を行った。これを基にした統計結果について述べる(第89図参照)。

有文と無文の割合については、有文が73.3% (324点)、無文が26.7% (118点)という統計結果であった。有文土器がかなりの割合を占めることが読み取れる。

器種の比率については、全体で、深鉢が91.2% (403点)、浅鉢が8.8% (39点)である。深鉢がかなりの割合を占めることが読み取れる。次に、有文と無文土器の中での比率に目を向けたい。有文土器では、深鉢が96.0% (311点)、浅鉢が4.0% (13点)である。深鉢がかなりの割合を占めることが読み取れる。無文土器では、深鉢が78.0% (92点)、浅鉢は22.0% (26点)で、深鉢が優勢であることが傾向から読み取れる。

深鉢の分類比率は、A類が53.8% (217点)、B類が3.5% (14点)、C類が19.9% (80点)、D類が16.6% (67点)、E類が6.2% (25点)である。A類が全体の半数を占めることが読み取れる。

浅鉢の分類比率は、F 1類が33.3% (13点)、F 2類が51.3% (20点)、F 3類が15.4% (6点)である。F 2類がほぼ過半を占めていることが読み取れる。

縄文施文の有無については、施文が有るものが56.0% (436点)、施文が無いものが44.0% (342点)である。縄文施文が有るものが過半を占めていることが読み取れる。

縄文施文の方向については、LRが40.2% (135点)、RLが39.3% (132点)、LRとRLの組み合わせが20.5% (69点)である。LRとRLの比率がほぼ拮抗していることがわかる。

(4) 土器型式の併行関係

山添遺跡(第4次調査)において出土した土器群を概観すると、北白川下層Ⅱc式や東日本地域に展開する諸磯式系の土器群を多く確認することができた。これらのなかでも、SH101の出土資料は、一括性の高いものと考えたい。先にも述べたように、北白川下層Ⅱc式や諸磯b式系が併行することが確認できた。また、岡山県彦崎貝塚から出土土器には山添遺跡出土資料210と酷似した土器の出土が確認さ

れている。このことから、北白川下層Ⅱc式と彦崎Ⅱ1式が併行することが判明した。これまでは、型式学的な論点から型式の併行関係が述べられていたが、実際の土器資料をえることができたことは、縄文時代前期土器群の広域編年や併行関係を考える上で大きな成果である。これらのことを踏まえると、北白川下層Ⅱc式、彦崎Ⅱ1式と諸磯b式中段階の共時性が指摘できよう(第86・88図参照)。

(5) 自然科学分析からのアプローチ

文様構成が酷似している土器群の比較検討の方法として、科学的な手法を今回は試してみた。方法としては、蛍光X線分析、肉眼による顕微鏡観察である。彦崎貝塚出土資料34点と山添遺跡出土資料10点を対象としたものである。

分析の結果としては、山添遺跡出土資料は彦崎貝塚出土資料の胎土と異なっていて、山添遺跡から彦崎貝塚への土器搬入の可能性は低いことが判明した。文様構成が酷似しているにも関わらず胎土の相違が明確であった。このことは、当該期の広域的な北白川下層式土器型式圏の中で人の移動や、土器型式圏内の各小地域で土器製作がそれぞれ行われていたことを示唆している。想像を逞くすれば、先述の土器型式圏内で、小地域のそれぞれに地方特有の土器型式が存在するのかもしれない。

5 土偶の可能性のある土製品

縄文時代の早期・前期については、かつては「古拙土偶」⁹⁾と称されていたとおり、一見素材かつ小形のものが多いといわれている。しかし、これらのものも当時の人々が、意識を持ち造形がなされていることが認められる。三重県においてもいわゆる初現期の土偶については、草創期の松阪市粥見井尻遺跡、早期の亀山市大鼻遺跡の出土例があげられる。先述のような造形のものが当該期の土偶の特長であり、本報告掲載している600については異質な感を受ける。600は、棒状で先端が若干の曲線的な形状である。土偶とするならば、手の部分であることが想定できよう。山添遺跡が含まれる伊勢湾岸地域においては、当該期である北白川下層式期には「大曲

輪タイプ』⁹と称される土偶の出現が確認されている。それと、比較しても、600はより人体を具現化した感を受けるものである。

6 縄文時代前期石器群の分析

(1) 出土石製品の概要

今回の調査で出土した石製品及び剥片類の一部については、調査時に石製品等と考えられるものは須らく取り上げている。それらは、洗浄の後に選別し698点を確認した。内訳は、石鏃(326点)・打欠石鏃(4点)・切目石鏃(3点)・石皿(19点)・台石(11点)・敲石(29点)・磨石(106点)・打製石斧(8点)・磨製石斧(11点)・石匙(15点)・石錐(23点)・削器(18点)・楔形石器(25点)・礮器(10点)・砥石(3点)・RF(33点)・UF(42点)・石核(8点)・塊状耳飾(2点)・垂飾(1点)を確認することができた(第90図参照)。剥片類については、カウントを行うことができなかった。数万点はあるかと思う。

出土数と比率は以下のとおりである。石鏃が46.7%(326点)、打欠石鏃が0.6%(4点)、切目石鏃が0.4%(3点)、石匙が2.1%(15点)、石錐が3.3%(23点)、石皿が2.7%(19点)、台石が1.6%(11点)、磨石が15.2%(106点)、敲石が4.2%(29点)、削器が2.6%(18点)、楔形石器が3.6%(25点)、磨製石斧が1.6%(11点)、打製石斧が1.1%(8点)、礮器が1.4%(10点)、砥石が0.4%(3点)、RFが4.7%(33点)、UFが6.0%(42点)、石核が1.3%(9点)、塊状耳飾が0.3%(2点)、垂飾が0.1%(1点)である。石鏃が326点というように、石製品全体からみれば出土数は、他の器種と比較しても群を抜いている。遺構埋土の水洗及び篩かけを行った結果が、このような差を生み出したのであろうか。先述の作業の有効性を認めざるをえないであろう。

(2) 出土石製品の使用石材

ここでは、出土石製品の石材の使用状況について概観したいと思う(第91~93図参照)。

石鏃 サヌカイト使用の比率が83.7%(273点)、チャート使用の比率が14.4%(47点)、その他の石材使用

の比率が1.8%(6点)を占める。

石匙 サヌカイト使用の比率が80.0%(12点)、チャート使用の比率が13.3%(2点)、その他の石材使用の比率が6.7%(1点)である。

石錐 サヌカイト使用の比率が91.4%(21点)、チャート使用の比率が4.3%(1点)、その他の石材使用の比率が4.3%(1点)を占める。

削器 サヌカイト使用の比率が33.3%(6点)、チャート使用の比率が61.1%(11点)、その他の石材使用の比率が5.6%(1点)である。

楔形石器 サヌカイト使用の比率が80.0%(20点)、チャート使用の比率が12.0%(3点)、その他の石材使用の比率が8.0%(1点)を占める。

RF サヌカイト使用の比率が42.4%(14点)、チャート使用の比率が42.4%(14点)、その他の石材使用の比率が15.2%(5点)である。

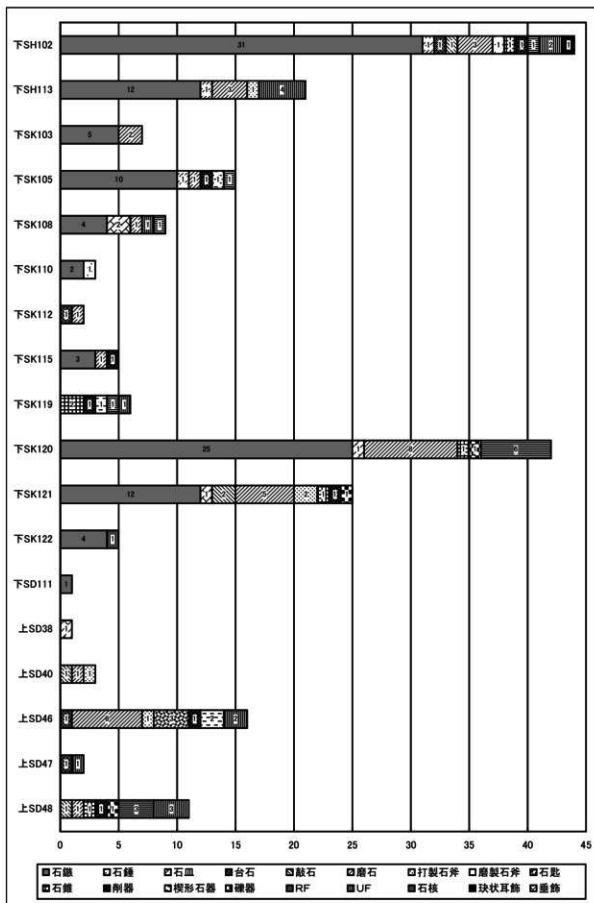
UF サヌカイト使用の比率が52.4%(22点)、チャート使用の比率が47.6%(20点)を占める。

石皿 花崗岩使用の比率が15.8%(3点)、安山岩使用の比率が10.5%(2点)、砂岩使用の比率が10.5%(2点)、流紋岩使用の比率が10.5%(2点)、閃緑岩使用の比率が10.5%(2点)、凝灰質砂岩使用の比率が10.5%(2点)、緑色片岩使用の比率が10.5%(2点)、結晶片岩使用の比率が10.5%(2点)、斑レイ岩使用の比率が5.3%(1点)、ホルンフェルス使用の比率が5.3%(1点)である。

台石 花崗岩使用の比率が9.1%(1点)、安山岩使用の比率が9.1%(1点)、砂岩使用の比率が27.3%(3点)、閃緑岩使用の比率が27.3%(3点)、凝灰質砂岩使用の比率が9.1%(1点)、片麻岩使用の比率が9.1%(1点)、ホルンフェルス使用の比率が9.1%(1点)である。

敲石 花崗岩使用の比率が6.9%(2点)、安山岩使用の比率が3.4%(1点)、砂岩使用の比率が20.7%(6点)、流紋岩使用の比率が44.8%(13点)、閃緑岩使用の比率が3.4%(1点)、凝灰質砂岩使用の比率が13.8%(4点)、緑色片岩使用の比率が3.4%(1点)、斑レイ岩使用の比率が3.4%(1点)である。

磨石 花崗岩使用の比率が11.3%(12点)、安山岩使用の比率が1.9%(2点)、砂岩使用の比率が25.5%(27点)、流紋岩使用の比率が39.6%(42点)、閃



第94図 遺構別出土石器

緑岩使用の比率が5.7%（6点）、凝灰質砂岩使用の比率が13.2%（14点）、凝灰岩使用の比率が0.9%（1点）、斑レイ岩使用の比率が0.9%（1点）、チャート使用の比率が0.9%（1点）である。

打製石斧 砂岩使用の比率が37.5%（3点）、凝灰岩使用の比率が50.0%（4点）、砂質片岩使用の比率が12.5%（1点）を占める。

磨製石斧 砂岩使用の比率が45.5%（5点）、閃緑岩使用の比率が18.2%（2点）、凝灰岩使用の比率が18.2%（2点）、緑色片岩使用の比率が9.1%（1点）、ホルンフェルス使用の比率が9.1%（1点）である。

石錘 砂岩使用の比率が14.3%（1点）、流紋岩使用の比率が28.6%（2点）、泥岩使用の比率が14.3%（1点）、緑色片岩使用の比率が14.3%（1点）、ホルンフェルス使用の比率が28.6%（2点）である。

礫器 砂岩使用の比率が30.0%（3点）、閃緑岩使用の比率が10.0%（1点）、凝灰質砂岩使用の比率が10.0%（1点）、片麻岩使用の比率が10.0%（1点）、珪質片岩使用の比率が10.0%（1点）、斑レイ岩使用の比率が10.0%（1点）、ホルンフェルス使用の比率が20.0%（2点）を占める。

砥石 砂岩使用の比率が33.3%（1点）、凝灰質砂岩使用の比率が33.3%（1点）、緑色片岩使用の比率が33.3%（1点）である。

石核 チャートが66.7%（6点）、サヌカイト使用の比率が11.1%（1点）、珪質頁岩使用の比率が22.2%（2点）である。

珠状耳飾 粘板岩使用の比率が100.0%（3点）、つまり全点である。

垂飾 蛇紋岩使用の比率が100.0%（1点）である。

いわゆる、剥片石器群における使用石材の傾向は、全体を概観すると、サヌカイト使用の比率が76.3%

（368点）、チャート使用の比率が20.3%（98点）、その他の石材使用の比率が2.3%（16点）というように、サヌカイトの使用がかなり優勢であることがわかる。器種別にみると、サヌカイトが優勢であることに変わりはないが、RF・UFはチャートの使用がサヌカイトの使用とほぼ拮抗しているし、削器についてはチャート使用がサヌカイト使用のものよりやや優勢となっている。次に、礫石器群に目を向けると、使用した石材の状況が多様であることがわかる。石皿、台石、石錘、礫器、砥石については、石材の多様な使用状況が傾向からみてとれる。敲石、磨石、打製石斧や磨製石斧は器種ごとではあるが、加工及び使用の利便性等から石材の選択が行われていた可能性がある傾向を示している。珠状耳飾や垂飾といった装身具と考えられるものについては、出土点数は少ないものの、石材の選択が行われたことが傾向から読み取れるのではないだろうか。

(3) 出土石器の遺構別の状況

石器と認定したものの遺構別の状況としては、SH101が248点と群を抜いている。全体からみても、35.5%を占めている。その後は、SH102が44点、SK120が42点、SK121が25点、SH113が21点と続く（第94・95図参照）。SH101は土製品についても、同じ様相を示している。

(4) 縄文時代前期と石器群の特長

石器あるいは石製品については、縄文時代に限定するならば、草創期から晩期に至るまで、何かは各遺跡から出土している。縄文期の石製品類が出土した遺跡は、県下では全時期にわたってはのべ109遺跡を数える。これらを、時期別にみると、草創期は



第95図 SH101出土石器

11道跡で全体の12.4%、早期は13道跡で全体の14.6%、前期は7道跡で全体の7.9%、中期は9道跡で全体の10.1%、後期は28道跡で全体の31.5%、晩期は21道跡で全体の23.6%である。後期以降の道跡は、全体の50%を超え、道跡数が多く分布の密度が濃い状況であることがいえる。反面、当該期である前期の状況は、もっとも道跡数が少ないという結果であった。縄文時代前期の道跡は、いなべ市北野道跡で三重県でも数少ない堅穴住居跡が確認されているし、松阪市井之上・新田町・池田、多気町緑通庵・アカリ道跡と当該期も含め7道跡が当該期に属すると思われる。これらの道跡群の分布状況は、三重県の中勢あるいは南勢と呼称される地域に集中している。これは、橿田川や宮川といった大河川が存在する地域であるためであろう。当報告の山添道跡も橿田川流域に立地している。

三重県における縄文時代前期石器群の様相としては、石鎌、尖頭器類、石錐、石匙、スクレイパー類、楔形石器、RF、UF、剥片・砕片、石核、磨石、蔽石・凹石、石皿・台石、打製石斧、磨製石斧、打欠石錘、切目石錘、祭祀具、装身具が先述の7道跡で確認されている。その中でも、当報告の山添道跡は群を抜いた存在である。器種別にみれば、石鎌は7道跡、石錐は5道跡、石匙は6道跡、スクレイパー類は6道跡、楔形石器は5道跡、RFは5道跡、UFは5道跡、磨製石斧は5道跡で確認されている。これら以外の器種については確認された道跡数が1～7である。これらのことから、石鎌・石錐・石匙・スクレイパー類・楔形石器・RF・UF・磨製石斧が前期においては、普遍的な存在であることがわかる。剥片類についても抽出した全道跡で確認され、装身具である袂状耳飾がみられるようになる。また、尖頭器類については確認された道跡が1道跡あり、早期に引き続き減少傾向を呈している。

7 総括

山添道跡第4次調査からえられた情報から、現時点で考えられることを以下に列記し総括としたい。

- ① 山添道跡全体としては、縄文時代から中世にわたる複合道跡であること。

- ② 古代～中世、古墳、縄文時代の遺構検出面が存在したこと。
- ③ 出土した軒丸瓦の製作技法は珍しく、使用部位の差の可能性があること。
- ④ 古墳、縄文時代前期の集落は調査地点の周辺に広がること。
- ⑤ 近畿、東海地方でも検出例が少ない縄文時代前期の隅丸方形堅穴住居跡が確認できたこと。
- ⑥ 縄文土器群の分析検討から、東日本、西日本の当該期土器型式の広域土器編年研究に寄与できること。
- ⑦ 縄文土器の胎土分析により、彦崎貝塚の出土土器群と明確な差違が確認でき、北白川下層式及び諸磯式土器型式圏での各地域における独自の地方型式が存在する可能性があること。
- ⑧ 縄文時代石製品分析検討から、当該期の石器の構成や組成を考える上で、貴重な情報をえることができたこと。
- ⑨ この報文では触れることができなかったが、植物遺存体や動物遺存体等を分析することで、縄文時代前期の環境、生業を復元することが可能であること。(小瀧 学)

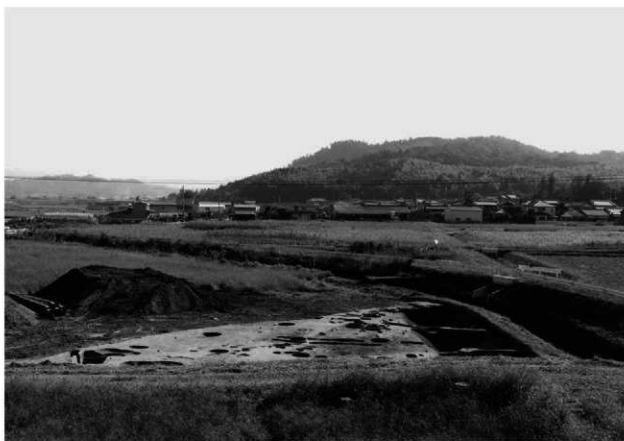
[註]

- ① 野中垣内庵寺については「松阪市史 第2巻 資料編考古」(松阪市、1978年)を参照した。
- ② 野中垣内庵寺の瓦の実見には、福田哲也氏にご配慮いただいた。
- ③ 柴山圭子・小瀧学『山添道跡(第3次)発掘調査報告』(三重県埋蔵文化財センター、2002年)。
- ④ 前掲①文献。
- ⑤ 山内清男・佐藤達夫「縄紋土器文化のはじまる頃」(『上代文化』第30集、1960年)において、五期区分から六期区分になることを述べている。
- ⑥ 船橋「縄文時代前期の土器編年～山添道跡・彦崎貝塚・鳥浜貝塚からみえるもの～」(『斎宮歴史博物館 研究紀要十五』斎宮歴史博物館、2006年)に詳細を述べている。
- ⑦ ⑤に詳しい。
- ⑧ 網谷克彦「北白川下層式土器様式」(『縄文土器大観』1、1989年)や谷口康浩「諸磯式土器様式」(『縄文土器大観』1、1989年)をはじめ、様々な研究がなされている。
- ⑨ 永峯光一「呪的現象としての土偶」(『日本原始美術体系3 土偶・装身具』、1977年)
- ⑩ 原田昌幸「発生・出現期の土偶総論」(『土偶研究の地平』、1987年)

*本来ならば、参考文献として掲載すべき、調査報告書等については、割愛させていただいた。御寛恕願いたい。



調査前風景（北から）



中世調査区全景（北から）

写真図版 2



SK 3 遺物出土状況（北から）



SK 3 完掘状況（北から）



SK 2・31・45 (南から)



古墳時代～古代調査区全景 (南から)

写真図版 4



SD46土器 1 出土状況 (東から)



SD46土器 2 出土状況 (東から)



SD47土器 1 出土状況 (南から)



SD47土器 2 出土状況 (南から)

写真図版 6



SD47土器 3 出土状況 (西から)



SD47土器 4 出土状況 (北から)



SD47土器 5 出土状況（北から）



SD48土器出土状況（東から）

写真図版 8



下層調査区全景（南から）



SH101完掘状況（北から）



SH101完掘状況（東から）



SH101出土状況（北から）

写真図版10



SH101作業風景（北から）



SH101作業風景（南から）



SH102完掘状況（東から）



SK113完掘状況（北から）



SK113・SK120・SK121完掘状況（北から）



SK112完掘状況（北から）

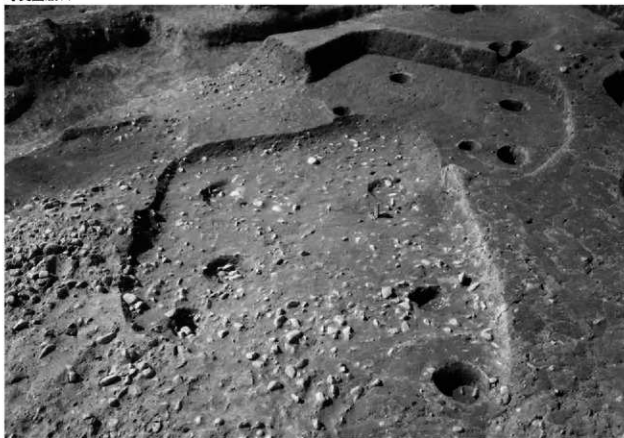


SK112石斧出土状況（北から）

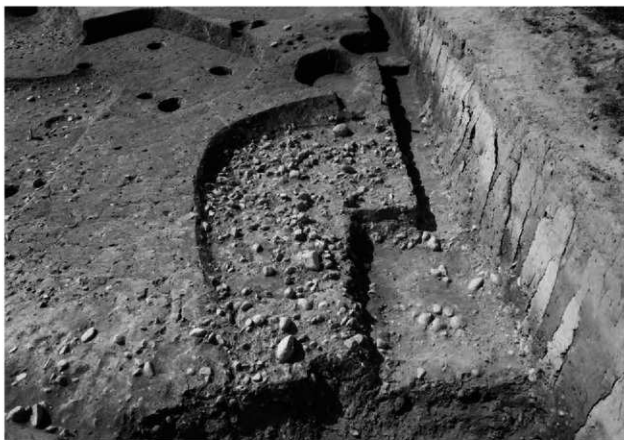


SK120完掘状況（北から）

写真図版14



SK120完掘状況（東から）



SK115完掘状況（東から）



SK121完掘状況（東から）



SK109・SK110・SK116完掘状況（東から）

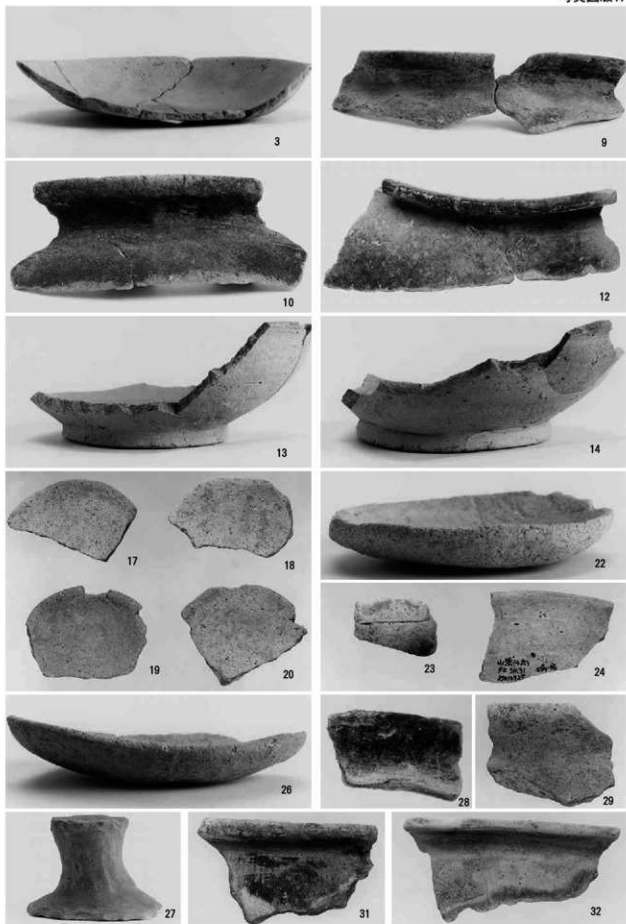
写真図版16



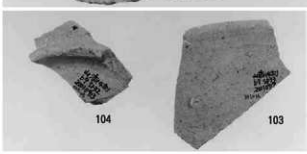
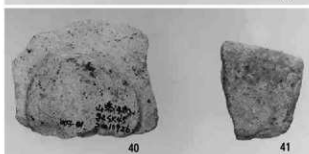
e3 地区遺物出土状況（東から）



石斧出土状況（東から）



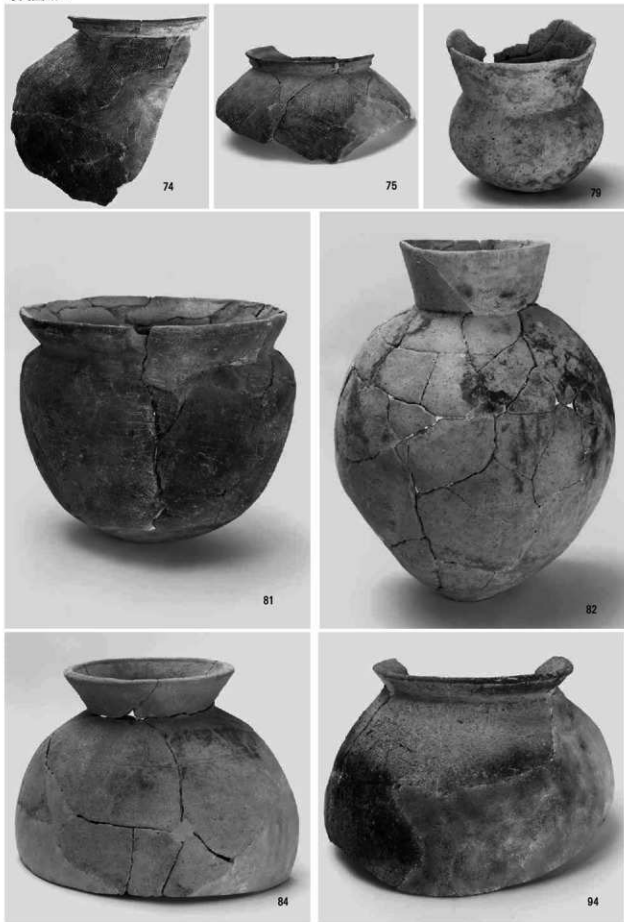
出土遺物写真①



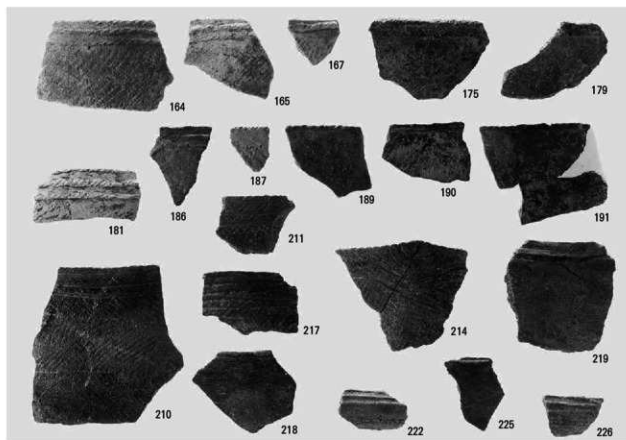
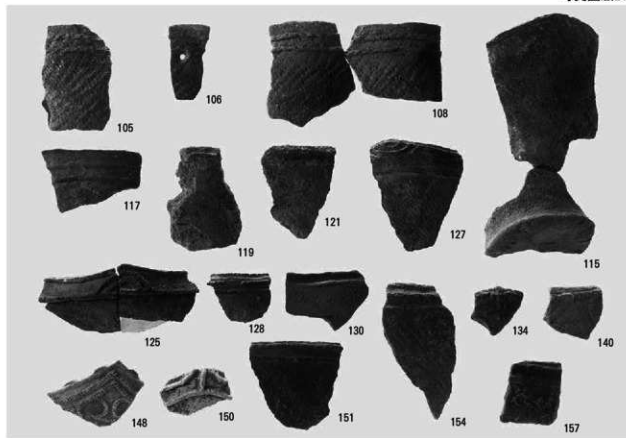
出土遺物写真②



出土遺物写真③

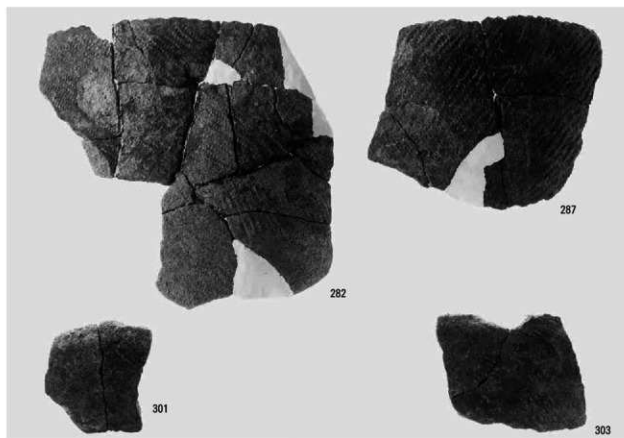
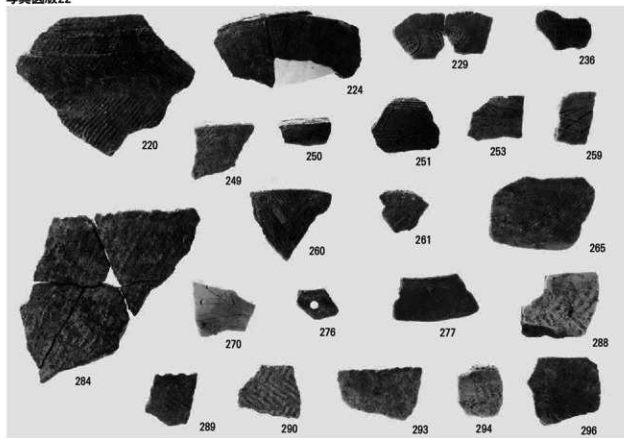


出土遺物写真④

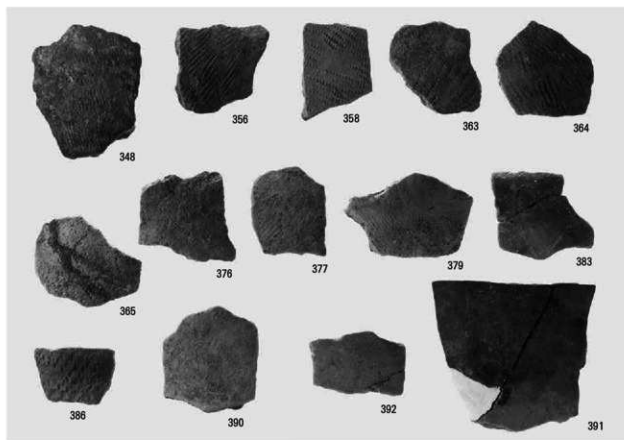
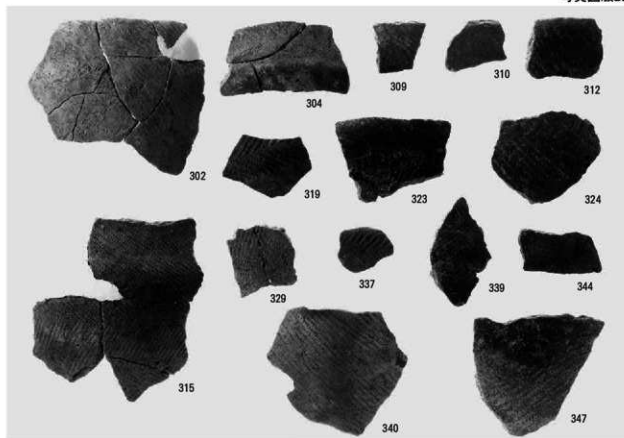


出土遺物写真⑤

写真図版22

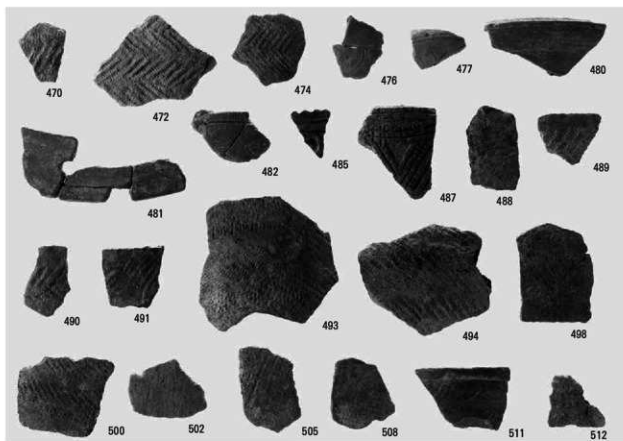
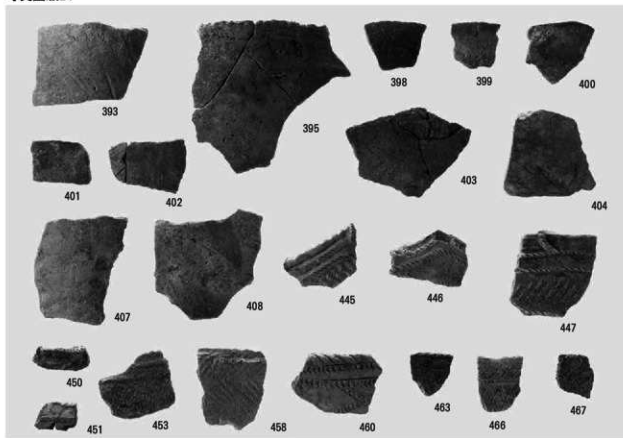


出土遺物写真⑥

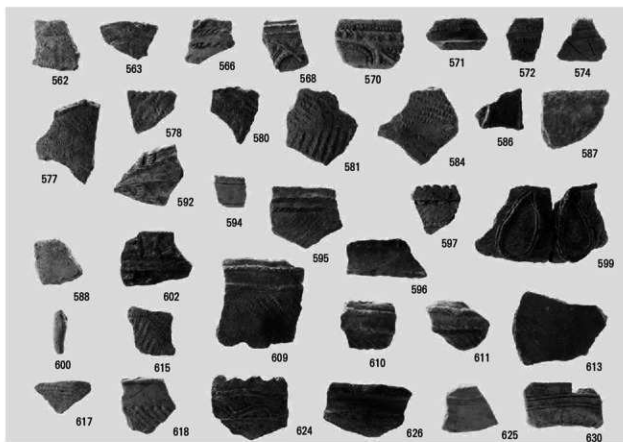
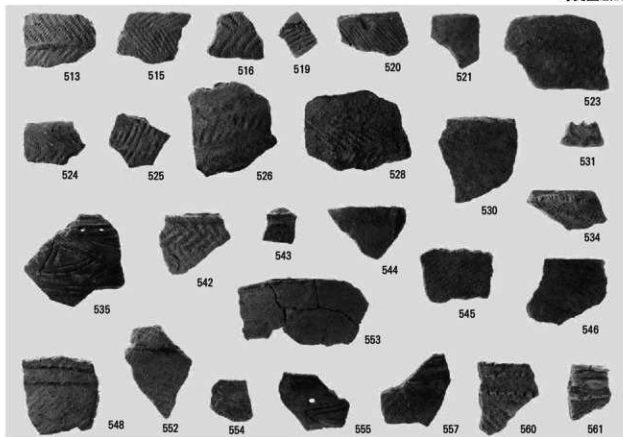


出土遺物写真⑦

写真図版24

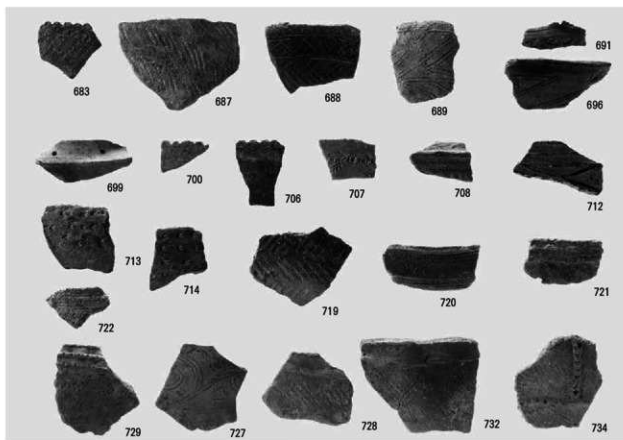
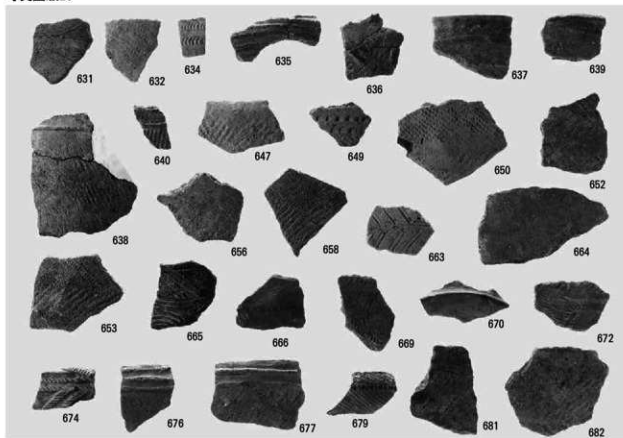


出土遺物写真⑧

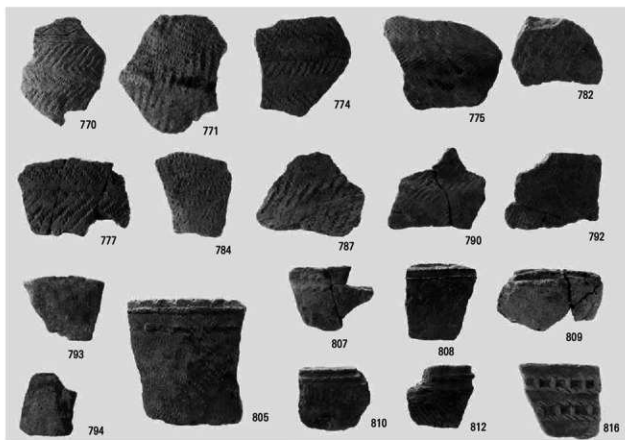
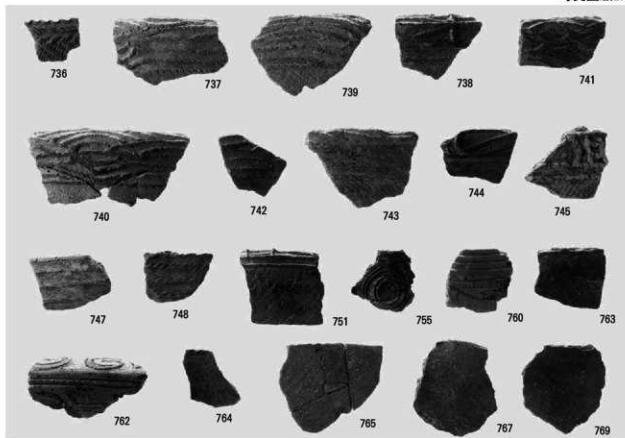


出土遺物写真⑨

写真図版26

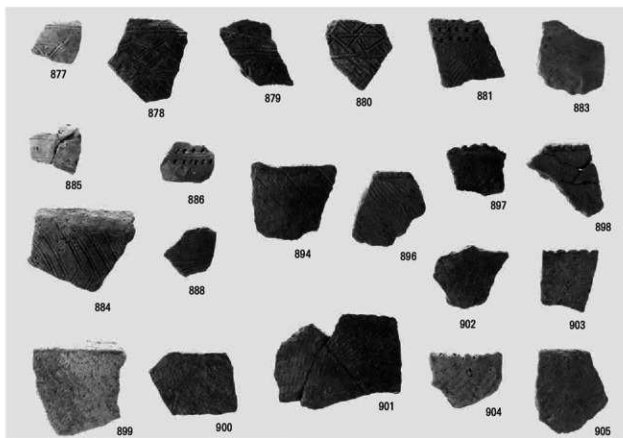
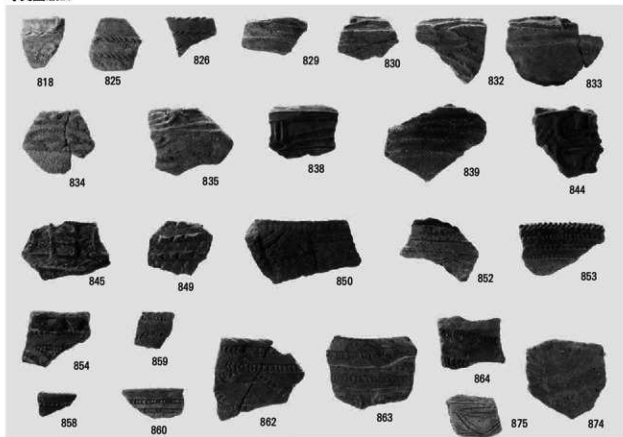


出土遺物写真⑩

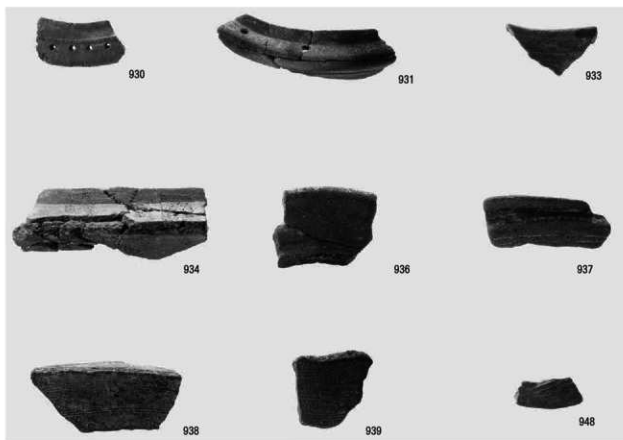
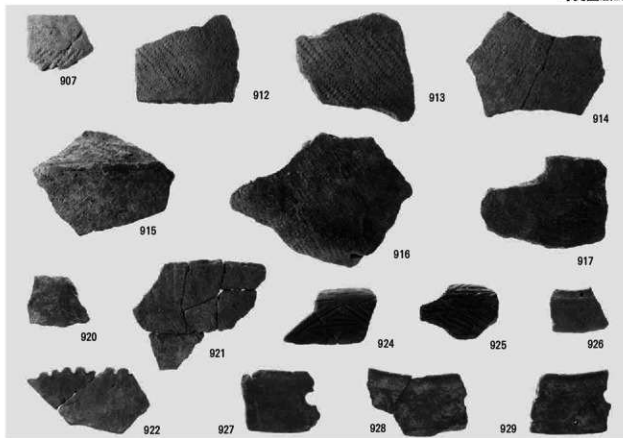


出土遺物写真①

写真図版28

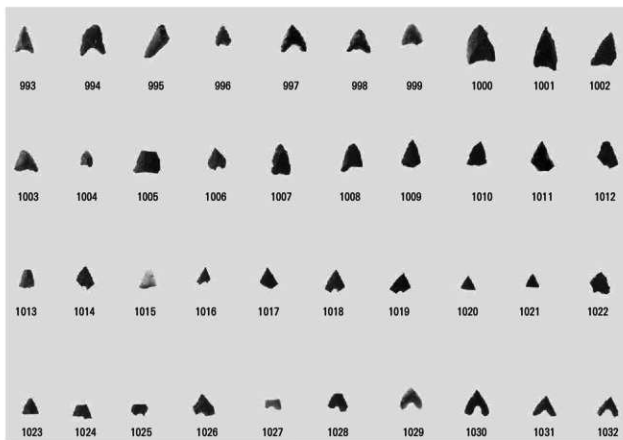
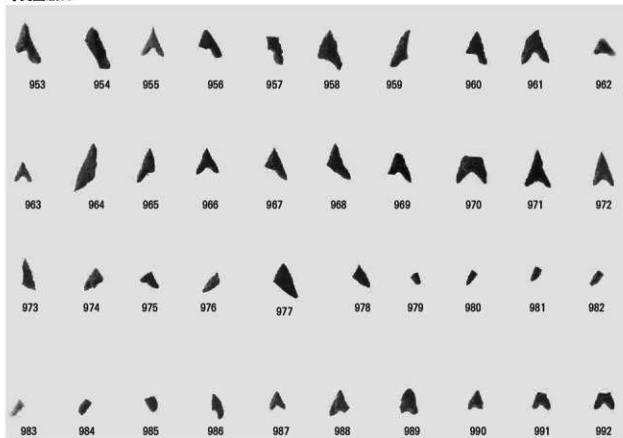


出土遺物写真②

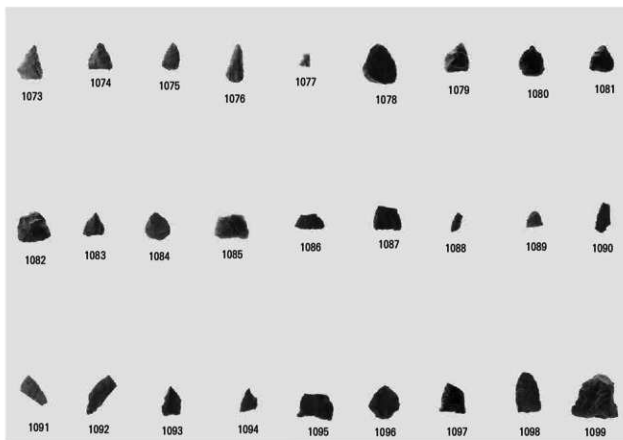
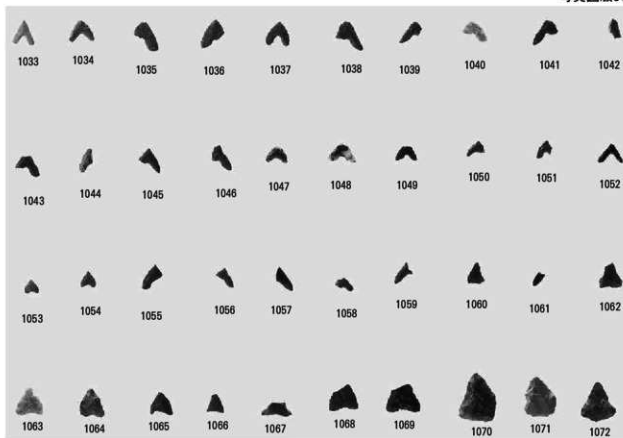


出土遺物写真⑬

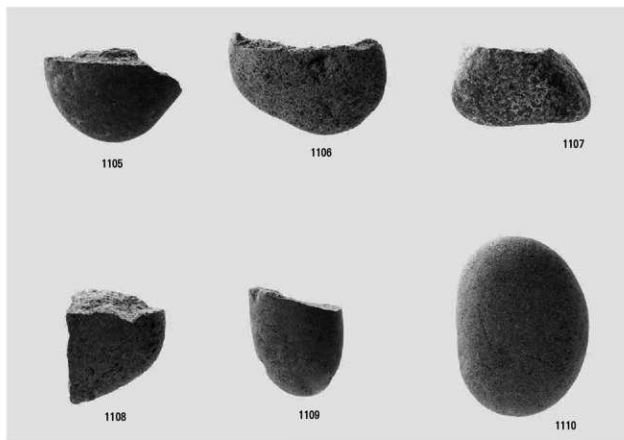
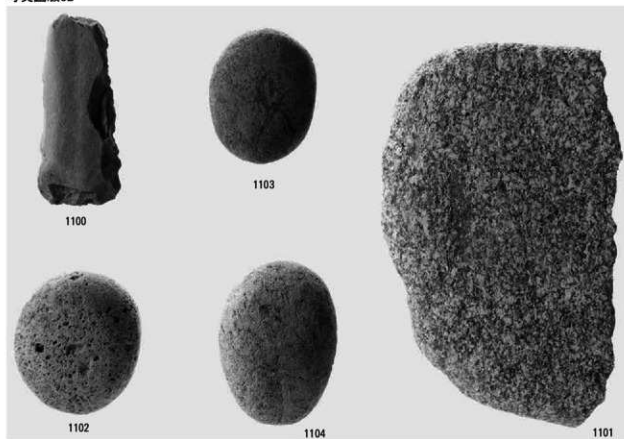
写真図版30

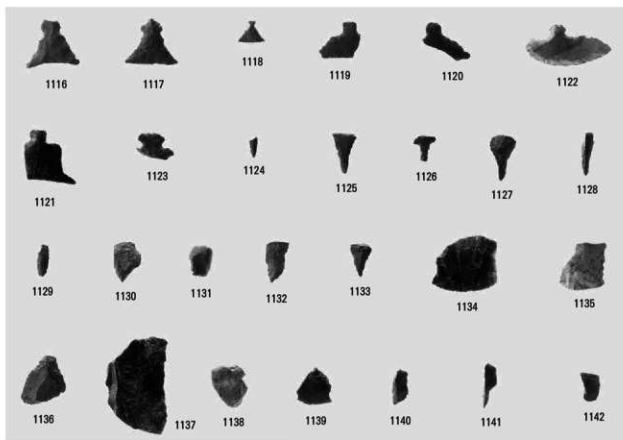
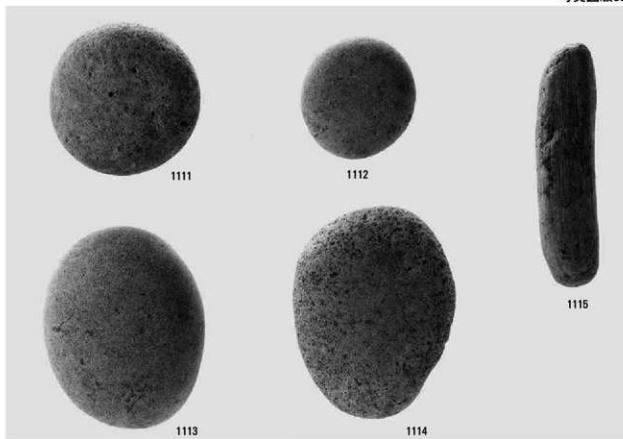


出土遺物写真⑬



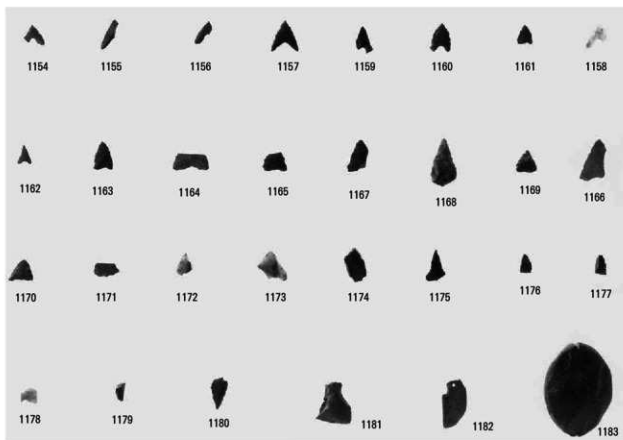
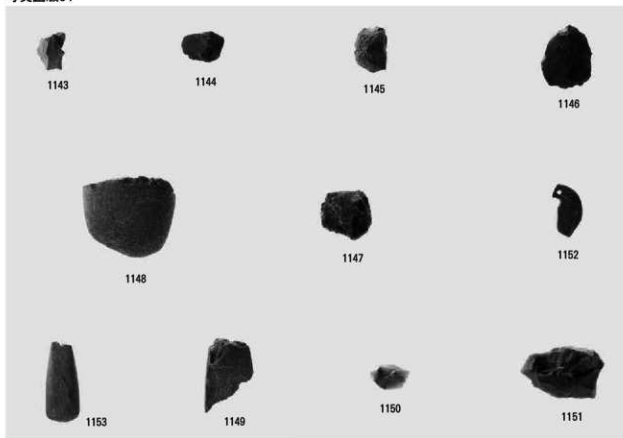
出土遺物写真⑬



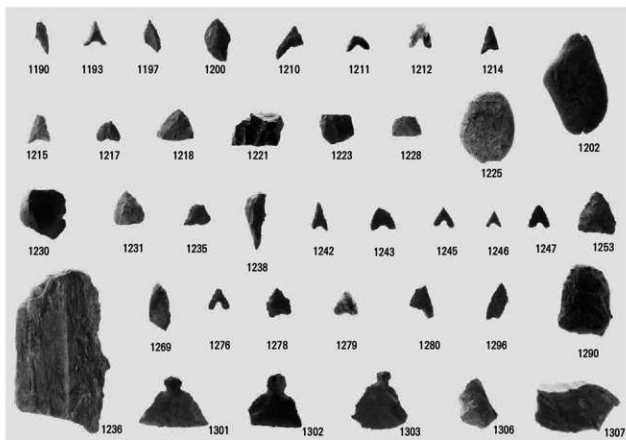


出土遺物写真①

写真図版34

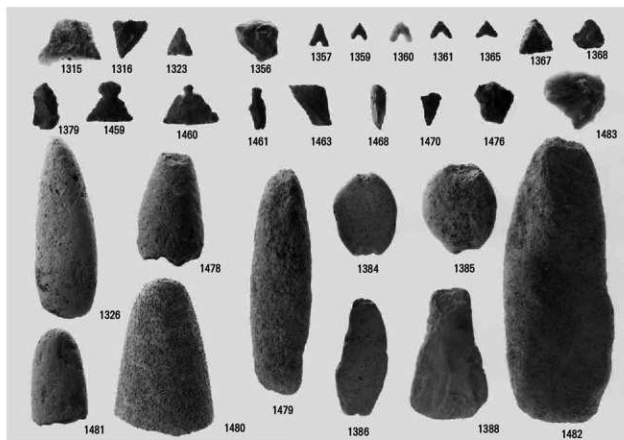
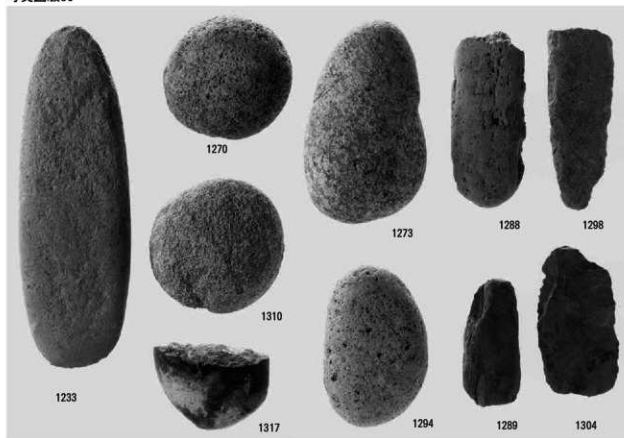


出土遺物写真⑬

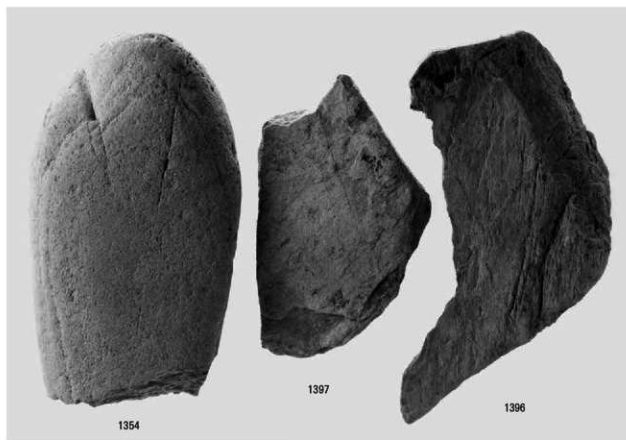
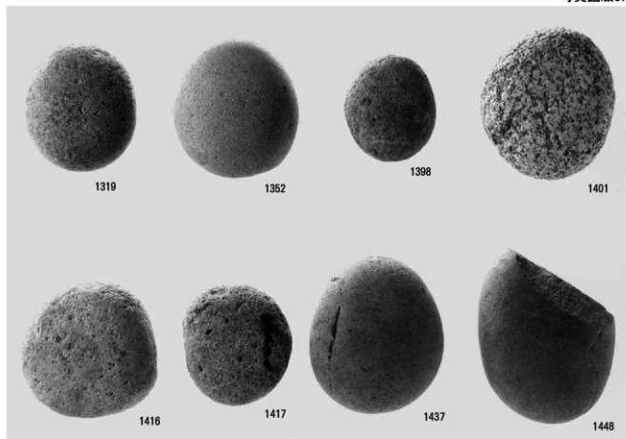


出土遺物写真⑩

写真図版36

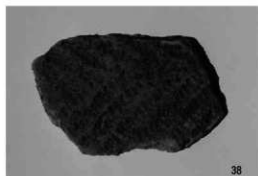
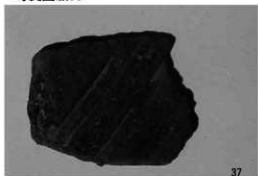


出土遺物写真②



出土遺物写真②

写真図版38



胎土分析試料

報 告 書 抄 録

ふりがな		やまぞえいせき(だい4じ)はくつちようさほうこく						
書名		山添遺跡(第4次)発掘調査報告						
副書名								
巻次								
シリーズ名		三重県埋蔵文化財調査報告						
シリーズ番号		280						
編著者名		小濱 学・小林 俊之・山岡奈美恵・伊藤 文彦・野島美沙子						
編集機関		三重県埋蔵文化財センター						
所在地		〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL 0596-52-1732						
発行年月日		西暦2007年3月23日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○°○′ ○″	東経 ○°○′ ○″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
やまぞえいせき 山添遺跡	まつさかし 松阪市 あんらくちょう 安楽町 あびみなみで 字南出	204	a 352	34° 31′ 57″	136° 34′ 32″	2001.08.23～ 2001.10.26 2002.02.14～ 2002.03.08	560	平成13年度県営 ほ場整備事業 (柳田上地区)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
山添遺跡	集落跡	縄文時代前期 古墳時代～古代 中世		竪穴住居・土坑 溝 土坑・溝・柱穴 など		縄文土器・石器の器種 全て		
要 約	古墳・中世(上層)、縄文時代前期(下層)の遺構検出面を確認した。上層は、古墳時代から古代の溝や、中世前期の土坑を確認した。下層については、近畿・東海地方でも稀な縄文時代前期の集落跡で、竪穴住居・土坑等の遺構を検出した。土器については、北白川下層Ⅱc式、諸磯式系、彦崎Ⅱ式系と考えられるものも確認できた。土器とともに多量の石器・石製品・剥片類も出土した。							

三重県埋蔵文化財調査報告280

山添遺跡（第4次）発掘調査報告

2007年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 伊藤印刷株式会社
